

# 第4回 全国バス学習研究集会

---

## 発 表 要 項

---

期 日 昭和47年8月2日・3日

会 場 広島県豊浜中学校

主 催 全国バス学習研究会  
広島県豊浜中学校

後 援 広島県教育委員会  
広島県豊浜町教育委員会

## 第4回バズ学習研究集会

自己実現をめざすバズ学習

### 「バズ学習のてびき」の作成とその実践

愛知県春日井市立東部中学校

#### I はじめに

バズ学習にとりくんで7年目をむかえた本校の実践の歩みを焦点的に整理してみると

- ①バズの形態を「短学活」にとり入れ、バズの訓練と定着をはかった時期。
- ②バズを授業にとり入れ、話し合いの方法や技術を問題にした時期。
- ③バズを効果的にするために、班の編成や学級づくりの指導が必要であることを問題にした時期。
- ④課題の意味、役割、妥当性はどうかを問題にした時期。
- ⑤効果的な課題をとり出すには、教材を構造的にみきわめてかかる必要があることを問題にした時期。
- ⑥課題のねうちを教材の構造面からみるだけでなく、いきなものとして授業のひとつまに位置づけ、バズを組織化していくにはどうしたらいいのかを問題にした時期。
- ⑦「認知と態度の同時達成」という場合の「態度」とはなにか。態度的目標を認知的過程を通して達成していくにはどんなてだてが有効かを問題にした時期。

の7段階にまとめられよう。

その間、全教師が同じ基盤にたつて研究がすすめられるよう、「小集団による学習……指導資料 Ⅷ1, 2, (昭和44年4月)「小集団による学習

……指導のてびき」(昭和45年3月)、「バズ学習のために」(昭和46年4月)等の資料をつくってきた。

ところが、「態度的目標を授業のなかで追求する」実践をしているうちに、いろいろな問題点が指摘されるようになった。

- ・意識的な面や技術的な面で、教師の期待と生徒のバズ活動の間にずれがあるのではないか。
  - ・学年を追って積み上げられているはずのバズ活動の技術や意識が、必ずしもそうでないこともある。
  - ・バズが日常の生活場面にまで深化・拡大されていない。これは生活場面におけるとりくみの不十分さによるのではないか。
  - ・教師と生徒でつくりあげようとするバズ学習へのとりくみがおろそかになり、形式を踏襲しがちの傾向がありはしないか。
  - ・態度的目標の達成も、教師と生徒がバズ学習の基本にたちもどることを忘れては、かけ声だけに終わってしまうのではないか。
- などが、そのおもなものであった。

一方、毎年、新しく本校へ赴任してくる教師が十数名あるところから、今までにつくってきた資料だけでは、「どうも自信をもってバズ学習というものを指導できない。どうとり組ませていったらいいのか」という声もさかんにきかれるようになった。

こうした現状を打解するためには、過去の実践

をふりかえり、それらを集大成することを通して生徒用のてびき書をつくることも一つの方法ではないか。このことによって、今までひとりの教師ひとりの生徒の実践にすぎなかったものが、全教師、全生徒の今後の実践へつながっていくのではないか。と考えた。

この考えにたって作成されたのが「バズ学習のてびき」である。

そして、本年度は

(1)「てびき」の実践化をはかり、それを記録し、評価し、蓄積し、みんなの財産を豊かにしていく。

(2)学級を集団性をもった組織にし、ひとりひとりの生徒を成長させていく。

(3)生活のなかへのバズ活動の応用と発展をはかる。を方針として研究をすすめることにした。

このような研究方針のうらには、「自分がどう成長すべきかを真剣に考え、目標を達成してこうとする意欲ある姿勢」を養いたいというわたしたちの願いがこめられている。

わたしたち教師も、研究体制をよりしっかりしたものとし、共同研究のなかで、あすの指導に生かせるものをつかんでいこうと申しあわせた。

## ■ 「てびき」の作成について

「てびき」の作成には、全教師が直接、執筆作業をすることを最重要視した。

というのは、今までにも数名の委員によって指導資料が作成されたことはあった。しかし、一部の者のしごととしては、時間的にも、能力的にもおのずから限界があり、全校の生徒や教師にいきわたるものとして浸透するほど充実したものとはなり得なかったからである。また、前に述べたような現実へのもどかしさや、着任者のとまどいを解消するという意味あいからいっても、全員のとりくみを必要としたのである。

「てびき」にもりこむ内容の柱立てをし、各パートに分かれて実際に執筆にかかったのは2月～3月にかけてのなにかにつけ多忙な時期であった。

にもかかわらず、各パートにおいて持ちよったたくさんの実践の資料についての討議がしばしばなされた。それが、全体会の場に提供され、検討

が加えられた。たとえば

- ・バズ学習にかけるわれわれの願いや、バズ学習のめざす教育的意義をもっと明確にすべきである。（「バズ学習をはじめるとあたって」の項と関連して）

- ・話し合うということの本質的な意味について記述したらどうか。（「話し合いについて」の項と関連して）

- ・短学活は自分たちの時間であるという性格を強調し、短学活の意義を考えさせたい。（「短学活」の項と関連して）

などと問題提起がなされ、その内容についていろいろな角度から意見が出し合われた。

わたしたちは、各パートでの討議、全体会における検討、そのこと自体が、みのある研究であったと自負している。また、各パートの資料集め、記述を終わったとき、一つのことをなしたとげた満足感を味わわないものはひとりとしてなかったといえる。

それぞれのパートが全力をつくして書きあげた原稿は貴重なものであった。しかし、このまま印刷して生徒に持たせることには不安が残った。そこで、各パートの代表により編集委員会を構成して、それぞれの執筆者の精神を生かし、文体などの表記上のこと、内容的な重複や編集技術上の問題について調整した。この委員会のしごとをすすめるうちにも、新たな問題点が発掘されたが、原稿のメ切期日が追っていたこともあって、それらについては実践を通して検討し、改訂の際に生かすことにした。

## ■ 「てびき」の内容について

(1)「てびき」の作成にあたって配慮したこと。

- ・「てびき」は、8つの項目と資料からできているが、この項目の順序に従ってやっていくという意図ではなく、必要に応じてどこからでも使うことができるようにした。

- ・「てびき」の内容やその説明が新入生にも理解でき、入学時のガイダンスとしても役立つように、具体的な事例の引用をした。

- ・事例の引用には、生徒の作文や班日記および授業中の話し合いの記録など過去の体験にもとづ

いて問題を具体的にとりあげた。

- ・「てびき」のあらめる場面で、「すべての人が学習に参加でき、友だちどうしが励まし合いながら、ひとりひとりが伸びていく」ということを考えさせるように配慮した。
- ・内容や方法についても「こうしなさい」というのではなく、「例えば〇〇のような例があります」とか「〇〇をすると～になるでしょう」というように、生徒や教師の今後のくふうのたいせつさを強調しようとした。
- ・「リーダーをもちたてよう」とか「他の班にも働きかけよう」あるいは「きびしきをもとう」などのように、呼びかけのこぼを多くし、自分たちの力を合わせて、よりよいものを作りあげていこうとする気持ちを育てようとした。
- ・「班編成」「話し合い」「短学活」「班日記」などについては、目的、方法、形式など一応の説明をするが、「そうすることがなぜよいのか」あるいは「どんな点で不都合なのか」を考えたり、話し合わせることに重点をおいた。
- ・余白の部分を作って、簡単なメモや反省を書き加えることができるようにした。

#### (2)「てびき」の具体的な内容

「てびき」のはじめには、「てびき」にこめられている願い、および、活用する心構えについて〈先生も生徒もいっしょになって、学校生活の中味を充実させていこう〉と呼びかけた。

つぎに、新しい学級の出発にあたって、生徒がまず第一に考えることは、自分たちの学級をよりよい学級にしたいということであろう。このときに「すばらしい仲間」「自慢したいわたしの学級」というある先輩の作文によって、問題提起を試みた。

以後の「てびき」の具体的な内容について、問題提起の形で書き直してみると

#### 〈バズ学習のねらいや内容について〉

- ・バズ学習は、どんな形の学習をいうのか
- ・バズ学習は、一斉学習とどこがちがうか、またどんな利点があるのか

#### 〈班編成について〉

- ・なぜ班をつくるのか
- ・「よい班、わるい班」とは、どんな班をいうのか
- ・班編成にはどんな方法があるか、また、それぞれ

どんな特徴があるか

- ・班長の選び方および班長の役割は何か
  - ・班の人数や期間はどのくらいが適当か
- 〈バズの効果をあげるための心構えについて〉
- ・チームワークづくりには何がたいせつか
  - ・自分や相手にきびしくとは、どのようなことか
  - ・よい習慣とは何か、また、それらはどうすれば身につけることができるのか
- 〈話し合いについて〉
- ・話し合うとは、どういうことか
  - ・話し合いには、どんな場面や形があるか
  - ・話し合いを深めるには、どうすればよいか
  - ・みんなが話し合いに参加するためには、どうすればよいか
  - ・司会者になったら、どうすればよいか
  - ・班の意見を全体に発表するとき、どんなことに注意したらよいか
  - ・話し合いを効果的にすすめるために、どんな約束をしたらよいか

#### 〈短学活・班日記について〉

- ・短学活は、どのような時間か
- ・短学活を生かすには、どうすればよいか
- ・班日記には、どんなことを書けばよいか
- ・班日記をどう生かしたらよいか

「てびき」のおわりには、2つの資料をのせた。

〈バズ学習における参加度調査〉では、「先輩の調査の統計を参考にして、よい面はいっそう伸ばし、よくない面についてはあらためていこう」と呼びかけた。

〈バズを生かそう〉では、バズ活動を「学校給食」「清掃」「クラブ活動」の場面に積極的に拡大しようと呼びかけた。(しかし、この項については、今までバズ活動を意図的に位置づけた実践が浅かったので一つの素材として提供し、今後の実践に期待している。)

## Ⅳ 「てびき」による指導の実際

バズ学習について、「てびき」を利用して指導をはじめてみたが、さまざまな問題にぶつかった。学年の話し合いにおいても「てびきはどうも使いにくい」という声がかかれた。一方には、「実りある実践ができたと思う」という報告もなされた。

いずれにしても、そのような声をそのまま埋めさせるのではなく、今後の発展のための共有財産としなければならない。

- そこで (1)「てびき」を使いたくなった状況
- (2)「てびき」をどのように使ったか
- (3)生徒はどのような意識をもったか
- (4)「てびき」をどう改めたらよいか

という内容の用紙をつくり、実践記録を全員で書き合った。この方法では、個々の教師が実践の直後に記録でき、記録することによって問題がはっきり把握できるという意味において役立った。その記録をもとにした学年部会の討議は、今までになく具体的な実践の出し合いによって学び合うことが多かった。

そうしたなかで、「てびき」の指導に関する共通理解を深めながら、さまざまな問題を浮きぼりにしてきた。

以下は、「てびき」による指導の実践の一例である。

#### 1 「バズ学習」入門期における指導の実践

新一年生も、小学校でSTや反省会の場で、一日の生活の反省や係・教師からの連絡という内容はしてきている。しかし、本校で実施している短学活とは、内容的にも、そこにこめられている願いにおいても異なっている。したがって「てびき」によって、本校が意図している短学活の目的、内容、方法などについてわかりやすく説明する必要があった。

ひとりひとりが「てびき」を手にとって読み、疑問点や意見を出し合い理解させていった。つまり、短学活は自分たちの力で学級を向上させていくためのいろいろな話し合いをもつこと、授業に対する予習や復習について自分たちで計画し、自分たちで活用していく時間であるということなどを、生徒ひとりひとりになげかけ、意識化の契機にしようとした。

その結果、生徒たちは、例えば「帰りの短学活」について

- ・友だち同志で清掃や生活上の諸問題について気軽に話し合うことができ、おたがいの気持ちがよくわかる。
- ・授業でわからなかったことを聞き合ったり、確かめ合ったりして楽しく学習できる。

・疑問点がはっきりし、家に帰って勉強する内容がはっきりする。

などのすばらしさを感じとった。そうした生徒たちは、積極的に短学活を運営しようと努力しはじめた。

入学時における一年生の短学活は「てびき」によるところが大きく、早期に軌道にのせることができた点では効果的であった。

しかし、入学以来2ヶ月が経過し、バズ活動にも慣れて、だれとも気軽に話し合える好ましい雰囲気を作られてきた反面、ただなんとなく、学習のポイントを話し合ったり、一日の反省をしているという傾向が目につきはじめた。また、生徒のなかからも

- ・むだ口が多くなった
- ・自分勝手なことをする人が多くなった
- ・協力しない人や無関心な人がいる。
- ・わからないところを聞いても教えてくれないなどの短学活に対する不満もきかれるようになった。

ここで、教師は、生徒たちに自分たちをとりまいている問題状況に気づかせ、「てびき」の〈短学活はどのような時間か〉を読ませ、短学活の基本的な意義について確認させた。

そして、現在おこなっている短学活でくふうするところはないかを話し合わせ

- ・ポイントの記入(背面黒板にある)は、今まで書記がひとりで書いていたが、多くの人が参加するために教科ごとに分担して書く。
- ・ポイントを各自が口でいうだけでなく、短学活ノートに書くようにする。
- ・これまで一斉に時間を決めて進行していたが班によって進み方がちがうので班ごとにおこなってみる。

などが出された。

「てびき」を読んで、短学活のすばらしさを感じつつも、いつのまにか活動内容が形式的、画一的にながれ、自分たちに与えられ、義務づけられたものと受身的にとらえるようになってしまっていた。しかし、「てびき」は問題の提供であって「短学活は自分たちで計画し、活用していく時間なのだ」ということを改めて確認して、学級や班のくふうでどのようにでもやっていけるのだということがわかり、取り組み方も変ってきた。

2 教師が問題を把握させ考えさせていく実践

〔その1〕

バズ学習になれた2年生あたりの段階では情性的に毎日同じ活動がくり返され、本来のねらいや意味が失われてしまう場合がある。そんなとき問題がどこにひそんでいるかを教師がよく見きわめ「ゆさぶり」をかけ目ざめさせることが大切である。

◎問題になった場面（朝の短学活の時間）

朝の職員打合せ中、どうも各教室がさわがしい。どうみても短学活にとり組んでいるような状態ではないように思われた。巡視したらつぎのようであった。

- ・トイレへ行って友人と話しこんでいる
- ・用があるからといって職員室の廊下をうろろしている。
- ・席を立てて大声で話している
- ・他人のことにかまわず、自分だけで自習をしている
- ・班長としてまとめようと努力していない

どうしてこんな状況が生まれて来るのであろうか。それは活動のねらいや意味を生徒たちがつかんでいないのではないか。このようなことは短学活にかぎらず全ての場にこのようなことが反映されてくるだろう。そうした意味で徹底した指導の必要を感じ「てびき」を使うことにした。

◎ゆさぶり

教師の発問	生徒の反応
①君たちにとって短学活は役立っているか	・役立っている……2名 ・役立っていない…38名
②じゃやめてしまおうか	・やめよう ……0名 ・やめないほうがよい ……25名
③役立っていないのにどうしてやめてしまおうとしないのか	・A…やり方によっては効果があると思う ・B…短学活は決められているからやめることはできない ・C…他のクラスがやっ

④それではどうしたらいいのだろうか	ているからおくれてしまう ・ガヤ、ガヤと各グループが話し合う
-------------------	-----------------------------------

◎まとめ

このような「ゆさぶり」を通して問題をつかみかけたようである。そこで「てびき」(短学活を生かそう・すばらしい仲間・P7の班日記)を読むことによって整理させようとしたのである。

- ・いつもより一生けんめいやったら短学活も早く終わったような気がしてたのしかった。
- ・教科班長制にしたら責任感ができてチームワークができたようだ。
- ・自分もさわぐことがあるので注意しなかったが、これからは気のついたことは言うつもりだ ……班日記から……

これは問題提起……ゆさぶり……まとめ、という展開で実践したものであるが、その過程において「てびき」で簡単にまとめてしまうときれいごとにとってしまう危険が多分にある。

わたしたちの「てびき」に対する読みが不十分だと中味のうすい形式の指導に終わってしまうのである。また「てびき」はバズ活動の場面ごとに編集されていて問題に応じて展開するという配慮がなされていない。教師はそのつど組みかえをくふうして生徒にぶつけていかなければならない。

生徒が意識し実行していく姿勢をもつように何回も観察と指導をくり返していかなければならないのである。

〔その2〕

国語の時間だが、いつも静かである。どうしたら意見や発表が活発になるだろう。やはり自分から進んでやるべきだ……。

このような内容の班日記が毎日のように書かれる。みんなが同じように考えているなら、学級は活発になってもよさそうなものだが、依然として

静かなままである。学級の問題が、自分には関係のない他人事のようにしか考えられていないのである。

学級担任は、こうしたムードがひとりひとりの責任の問題であると考え、学級の全員を共犯者としてきびしく追求することにした。その方法として「てびき」を読ませることから始めた。

きびしさのある班、きびしさのある学級にするための方法を2つばかりあげてみましょう。これ以外にもいろいろな方法があると思います。みんなで考えてみましょう。

(1) お互いの活動を評価しよう

- ・ きょうの司会者のよかった点、悪かった点
- ・ きょうの班活動でプラスになったのはだれで、マイナスになったのは…。

(2) 班の約束をつくろう。

(以下略) 「てびき」P19

生徒たちにしてみれば、「きびしさ」が必要なることをわかっているつもりであった。いや、そんなことは当然だと思っていたのだ。しかし、実際問題として、どのような場面で、どのようなきびしさを要求し合っていたのか、具体的にはなにもしていなかったことに気づいて、かれらは驚いた。「てびき」を読むことによって問題提起がなされたのである。ある班の日記には次のように書かれている。

わたしたちの班では、今日の道徳の時間に約束ごとについて話し合いました。班の目標である「一時間一発言」を一日一日確実にしていこうということになりました、やはり、はじめのうちは少しためらうような気がしましたが、わたしの班は勇気を出してサッと手をあげました。

しかし、それでも班の中に手をあげない人がいる。班でせつかく意見を出し合ったのに、他の班の人にどうして発表できないのだろう。

翌日、この班日記をもとにして簡単な話し合

がなされた。

昨日の日記に書いてあるように、ぼくもそれと同じ疑問をもっている。先生の指示で班の話し合いがはじまる。意見をもっている人が話しかける。するとほかの人が自分の意見とたたかわせたり、聞いたりする。さて、そのあとはいよいよ発表するときがくる。みんなで話し合い、一応この班としての意見をまとめているので全員が発表できるはずだ。しかし全員の手があがっていないのである。おかしい。ここが問題だと思う。話し合いのときはみんな真剣に参加しているのに発表できないはずはないのだ。

学級全体に対して発言できない生徒をきびしくつきあげている姿がここにある。しかし、ではどうするのかということにはふれられていない。教師は、それを問題として残しておきながら、ふたたび「てびき」を読ませた。

月曜日にきめた「一時間一発言」が、この2日間、あまり徹底することができませんでした。そこで、これではいけないと思って、木曜日からは表をつかって一時間に1回以上発表したり質問した人だけを○をつけることにしました。だから、その日の社会の時間など、わたしたちの班の人は話し合いが終ってから6人がサット手をあげることができました。どの班の人たちより早く手をあげることができました。このように、その後、順調にいらっています。しかし……

(以下略)

と、学級全体に眼が向けられることになる。

「てびき」→班日記→全体の前で読み合う→班日記→全体 という学級の動きの一例である。そして、「てびき」は、問題提起としての重要な役割を担っている。

この例は、比較的うまくいきかけた班のようすであるが、「てびき」を読んで約束ごとをきめてそのままという班もある。「てびき」の内容と自

分たちの現実とを、つねに対比させながら活動していくことの重要性が強調されねばならない。そうした意味においては、「てびき」そのものが実際の活動についての点検ができるように、(たとえば、「約束ごとは守れていますか。どんなことが障害になっていますか。今の約束ごとだけでじゅうぶんですか」)編集されるべきだったかもしれない。

### 〔その3〕

新3年生の学級が編成されて、担任は「個々の生徒はバズ学習の体験を通して多くのものをつかんできていることは確かだが、それが学級集団の基盤となるまで熟していない」と痛感した。そして、生徒の側から問題として提起されるのを期待し、ひそかにその機会をうかがっていた。

生徒の一部にも、学級のムードに疑問をいだき不満そうようすがみられた。しかし、それは声として全体の前にうちだされるほど強力なものではなかった。

五月の中旬になって、班替えの希望がクラス全体からだされたとき、担任は、これを「学級を集団性をもった組織として成長させていく」ための絶好のチャンスにしようとりくんだ。

しかし、生徒たちの班替え希望の理由のなかには、班替えの意義を認識しているものもあったが、「そろそろ替えてもいいじゃないか」という程度の考え方が数多くみられた。学級のなにごとにつけ適当にすましておけばいい、という考え方がクラスのムードを支配していたのである。

「君たちは班をどのように考えているのか」の問に対して

- ・簡単なことでも質問できる。
- ・発言しやすいから……
- ・友だちに教えることによって、自分がさらによく理解できる。

など、一応もってもらいたい答えがかえってきた。

事実、だれしも過去2年間の経験によって班で活動することのよさは認めている。しかし、なんとなく、バズにのっかってここまで来たことに対する不満もないではない。

- ・バズ学習では、甘えが出てきて、他人によりかかってしまうからだめだ。
- ・班で話し合っただけで学習しているが、表面的で中

味がない。班を解体して一斉学習にしてはどうか。

など、真向からバズ学習を否定するかの様な意見まででてきた。

これらの発言は、従来からバズ学習に熱心にとりくんできた生徒のものであった。その裏には、バズ学習におけるきびしさの必要性を主張しているものであった。

そこで、「バズ学習とは何であったのか。バズ活動の効果をあげるためにはどうしたらよいか」を考えながら「てびき」を読むように指示した。

『バズ学習から、きびしさをとり去ったら、バズ活動は成り立たない』といっても、言いすぎではありません。

それほど「きびしさ」は、バズ活動にとって欠くことのできないたいせつなことなのです。

(以下略) 「てびき」P19

「てびき」を読み終えた生徒たちは、バズをはじめた。そして、

- ・自分たちのしてきたのは、ほんとうのバズ学習ではないのではないか。
- ・ほんとうのバズ学習をやっていないのに、バズ学習をやめて一斉にした方がよいというのはおかしいのではないか。

ということが、全体に対してなげかけられてきた。

「なぜ、ほんとうのバズ学習をしてこなかったといえるのか」の問い返しに対して

- ・人にたよりすぎて、自分であまり考えようとしていなかった。
- ・バズ学習に対して、楽しさしか期待していなかった。
- ・知らぬうちに勉強のことだけが中心になり、お互いに理解し合ったり、助け合ったりすることを忘れていた。
- ・お互いにきびしさを要求し合わなかった。

など、「きびしさ」の問題に焦点がしぼられてきた。

教師は「バズ学習に必要なきびしさとは一体何であるか。今まで、自分たちが考えてきたきびしさとはどんなことであったか」について論議を展開しようとしたのであるが、論議は混乱し、「何

がほんとうのきびしさであるか」についての共通的な考え方を明確にすることはできなかった。しかし、今後の毎日の学校生活のなかで、お互いの活動を通して「きびしさ」を追求していき、ほんとうの自分の学級をつくりあげようと申し合やすことができた。このことに、この一時間の実践の意義を見出せるのではないか。

「てびき」には、きびしさの中味まではふれられていない。これは「てびき」のもつ弱点であるともいえようが、このような結果をもたらした実践は、「てびき」の性格や活用のしかたに一つの示唆を与えたものであろう。

## V 今後の実践のための問題

今大会に向けての発表原稿をまとめながら痛感したことは、昨年度までの場合と比べて、原稿のなかみが書き易かったことである。これは一体なぜだろうか。わたしたちが思い当たったことは、今年は具体的に各自の実践を記録し、蓄積していく努力を一斉に始めたことと、その実践の手掛りとなった「てびき」が存在していることの二つが、有効なはたらきをしているということである。

具体的な実践を大事にし、具体的な事実を直視し、そのなかから問題を見出し、多くの体験を集めて整理しながら、理論化していく実践的研究の正しさを改めて認識しているのである。

牛歩の如く遅々として目立つことの少ないわたしたちの研究であるが、今日までをふりかえってみれば、やはり前を向いて進んでいるのである。この実践の成果に評価を与えることに、わたしたちは躊躇していない。しかし、わたしたちの実践や理論は、まだまだ未熟なものをいっぱいもっている。

今後わたしたちが実践的にのりこえていかねばならぬ問題はたくさんあるだろうが、かなめとなる大事なことは、どこに存在しているのかを明らかにしておきたい。

1 「てびき」を作り、「てびき」を使って話をしていけば、うまく指導できるに違いないと思っていた見通しの甘さが、わたしたちにあったのではないか。

「てびき」を使って指導するとは、「てびき」の文章を読んで、そのなかみを教えるのではなく、ひとりの生徒自身が、自分たちの班が、自分たちの学級が、直面している具体的な問題状況に対して、「てびき」の精神を応用し、自己を変革する意欲ある姿勢をつくりだし、持続した努力をしていくようにすることであると考える。

これは根気のいることであり、教育それ自体であるといつてよい。

このことを忘れると、教条主義、技術主義に墮することになる。

よりよい「てびき」の生かし方をくふうし、実践を創造していきたい。

2 「てびき」はあくまでもわたしたちが、バズ学習の指導実践を進める上での一助に過ぎぬ。

「てびき」の実践化が、わたしたちのバズ学習指導にこめられたねかいに合致していくためには「てびき」だけを見ているのではいけない。

「授業構造でのバズの組織化」や「授業のなかでの態度的目標の追求のあり方」などの過去何年来、蓄積されてきた実践と理論の総合的把握が、バズ学習を推進していく実践の根底にあることの大事さを強調したい。

3 「てびき」の内容をさらに改善し、豊かにしていく作業を進めねばならない。

そのために、わたしたちはすでにすべての教師たちの、どんなささいな実践をも大事にとりあげ、蓄積し、共有財産として学びあっていく具体的方法を確立しようとしている。

それをさらにおし進めて、これからもっと多彩な方法を教師集団の力で生みだしていきたい。

4 「てびき」ができたことは、確かにわたしたちの実践の成果であると認めたい。

しかし、「てびき」のあることによって、実践上のルールが敷かれたかのように考える傾向がないとはいえない。「てびき」は大事だが、「てびき」によりかかる安易さは自戒せねばならぬ。

わたしたちがバズ学習の指導にとりくんだ初期の、誰もが、手探りで、がむしゃらに求めあっていた「熱っぽさ」を、いつまでも絶やすことなく、日々新たに実践を続けていきたい。

## 第4回バズ学習全国研究集会

### 望ましい人間関係を育てるバズ学習の実践

兵庫県飾磨郡夢前町立鹿谷中学校

小林 昌義

#### 1. 全領域を通じてバズ学習をとり入れた理由

○学習意欲は低調で、能力差大きく、発表や自主的行動が不活発で、全生徒が心から学習に参加していないことを確信し、ひとりひとりの学習意欲を高めるために、集団づくりに努力した。

……（昭43）

○学習と生活を統一した集団づくりにより陶冶と訓育の二側面からの指導を進め、民主的集団の中で、ひとりひとりを伸ばそうとした。

……（昭44）

○民主的集団の中で競争、分裂を打破し、個を伸ばして行くためには、人間尊重教育の根幹に位置する同和学習こそすべての教育の根底であるとして、焦点化して取りくむ。……（昭45）

○上記の反省にたち、今後の課題として仲間意識を強め、何でも話しあえる人間関係が第一であることを確認し、バズ学習の本質と指導形態の研究に取りくんできた。……（昭46）

特設の道徳同和授業と各教科の授業、学校行事、クラブ活動等を人間関係と言う一つの太い線で結び、学力を向上させつつ真の人間教育達成に、実践的研究とあいまって、理論と統合していき効果を上げる発想で、取りくんできた。結果は個人の完成であっても、その過程の中に、教師を含めた学級集団の成員と相互作用・交流から集団そのものの発達過程なくしては、真の成果は上らない。この集団指導に自主的な話し合を基礎に、手をとって前進する、バズ学習こそ人間関係を深め、質を向上させつつ目標に向って成果を上げる効果的授業形態である、と考えこの研究にとりくんた。

#### ○昭46.9以降の歩み

##### (1) 実践法の研究

毎月2名づつ校内研究授業。反省し意見交換。

毎週水曜日バズ学習の理論研究、討議反省会をもつ。

##### (2) 先進校の参観

##### (3) 評価法の研究

バズ学習の効果をあげるための評価法はいかにあるべきか。

##### (4) 校内研究組織

○理論部

○学習部

○生活指導部

○父母対策部

全教師がいずれかに属して研究し、全領域の中へバズ学習をとり入れる。

以上低調であるが大体の校内組織はできたが、昭和46年の反省として、他校の模倣や理論の究明に明けくれし、実践的な面が非常に弱かったことを、反省して本年度の方針をきめた。

#### 反省点と本年の努力点

- ① ひとりひとりを伸ばすための仲間意識を強化する。
- ② バズ学習実施で個人がどれだけ伸びたかの追跡調査に重点をおく。
- ③ そのために何でも言える学級づくりは、どうして作るかの研究、実践に重点をおく。
- ④ おちこぼれる子のない学級経営  
(仲間はずれを作らないことこそ同和の心である。)



Ⅰ A 学級リーダーとして信用のある人				Ⅲ A 友人として話しやすい人							
点	%	評	番号	氏名(男子25名)	評	男子 得点	女子 得点	合計	%	備考	班長
257	47	◎	1		◎	71	21	92	51	友達が多い 明朗	○
209	39	◎	2		○	53	21	74	41	温厚 誠実	○
92	17		3		×	43	6	49	27	気が小さい 不平多い	
63	12		4			48	20	68	38	言葉が荒い	
50	9		5		××	32	9	41	23	楽天的 無責任	
92	17		6		×	41	6	47	26	自分勝手	
84	16		7			50	9	59	33	気むら	
68	13		8		×	39	10	49	27	無責任	
76	14		9		◎	58	21	79	44	すなお	
77	14		10		××	39	6	45	25	利己的	
127	24	○	11			55	8	63	25	茶目気 不まじめ	○
64	12		12			41	9	50	28	気が弱い	
74	14		13			51	9	60	33	無口	
397	74	◎	14		◎	77	15	92	51	責任感強い 明朗	○
40	7	××	15			44	8	52	29	身体的 精神的欠かん	
70	13		16			50	7	52	32	明朗なれど短気	
83	16		17			52	14	66	37	やや無責任	
53	10	××	18		××	34	6	40	22	陰気である	
64	12		19			45	18	63	35	無邪気 幼稚	
53	10	××	20			43	10	53	29	気力にかける	
67	12		21			45	20	65	36	楽天的 まじめ	
72	13		22		◎	64	13	77	43	まじめ 温和	
77	14		23			50	10	60	33	まじめ	
240	45	◎	24			47	16	63	35	責任感強い	○
78	14		25		○	60	16	76	42	明るい 話しすぎ	
(女子)略											女子 4名

すぐやめる。

- ⑦ 私語をしない。
- ⑧ ぜひと思うときは発言のあとすぐ手を上げる。
- ⑨ 提案事項は整理して、はっきりと言う。
- ⑩ みんなが平等に発言するように考える。

自分たちが困ったこと  
自分たちがみつけた問題 — (討議) — 解決へ

生徒にやらせる  
失敗させる — (思考を深める  
約束ごとを作る) — 向上へ  
討議する

この方法がまわり道の如くで近道だ。

(5) 指導上の反省と問題点

- 班活動を押し進めるための基礎訓練は、1つのしつけであるから、習慣化であるから教師が生徒に守らせると言う態度がいかに能率の悪い指導法かを確認した。
- 生徒の態度から  
相互のつきあい、責任の押しつけあい、  
自分勝手な行動などが非常に班活動を阻害していることを、生徒自身に問題としてとらえさせることが、第一である。

(6) 班会議の結果を班長会へ → 学級会で

今までの班活動を総反省して新しく始まった朝の短学活を有意義に運営するための、討議を行った。

結果

- ① さわがない。
- ② 自分勝手なことを言わない。
- ③ 自分勝手なことをしない。
- ④ みんな同じ問題について考えること。
- ⑤ 毎日の反省は必ず班ノートにかく。

番号	項目	はい	どちらとも	いいえ	傾向
1	こまったとき相談する友達がありますか	33	9	3	○
2	友達から相談されたことがありますか	26	13	4	×
3	友達と一緒に勉強したり遊んだりする方ですか	24	16	5	×
4	一人でいるより友達と一緒にいる方が好きですか	40	2	1	○
5	友達とよくけんかをしますか	10	21	12	
6	友達のよい意見をすなおにみとめますか	25	19	1	
7	友達の世話を進んでしますか	17	26	1	×
8	学級で誰とでも話をするができますか	28	15	3	
9	すきでない友達とでも一緒に班でやりますか	24	17	4	
10	教えてもなったり教えたりして仲よくなることがありますか	34	9	2	○
11	男子(女子)と気楽に話しあえますか	25	19	2	×

- ⑥ 各係の当番をきめ1週間交代とする  
 ⑦ 各係の仕事、点検、伝達は協力してはやく終るようにする。  
 ⑧ 班学習は教科をきめて答合せ、教えあい家庭学習の発表を行う。  
 以上具体的なことを約束した。

(7) 仲間意識の調査

人間関係を深め共に学習する、バズ学習においては、仲間意識の変化発達がなければならない。6月現在の仲間意識を〔バズ学習実践の研究〕より項目をえらび調査した。

〔考察〕

- ① 困ったとき相談する友達や友達と一緒にの方がすきである。又教えたり教えられたりすることにより、仲のよい友達が増加していくよい傾向が表われている。  
 ② 進んで参加し、信頼されて相談をうけ、友達の世話もでき、男女を問わず本当の正しい人間関係にあって、友達を作っていく積極性をバズ学習の中でもっともっと伸ばして行きたい。(2.3.7.11)

〔班会議学級会での討議〕

○ 議題

班学習を活発にし、みんながよく学習できるためにはどんな点に気をつけたらよいか、考えよう。

○ 結編

- ① 自分かってなことかせずバズ学習10ルールをよく守ろう。  
 ② みんなが班長や係に協力する雰囲気を作ら

なくてはうまくゆかない。

- ③ ひやかしたり、笑ったりすると発言がへるから困る。  
 ④ 自分だけ先へ進まない。  
 ⑤ 班長は発言の少ない人に発表させてあげるように、気を使うこと。  
 ⑥ 班員は家で予習復習を、しっかりしてきてだれもが自分の考えを言うようにする。  
 ○ 以上の結論を得た。これで班ごとの約束ごとを徹底的に各自理解できたと思う。  
 ○ 6項目の意見がかなり多く出てきたことは始めてで、自主的な学習態度が芽ばえてきたと思われる。

(8) 話しあいすることについての調査

バズ学習はひとりひとりが学習活動に積極的に参加するため、相互のコミュニケーションを促進し、擬集性やモラルを変容させると考えて、調査した。

番号	項目	はい	不明	いいえ	傾向
1	わからない所を気楽に人にきけますか。	29	11	1	○
2	前とくらべて皆んなよく発言できるようになりましたか。	19	18	3	○
3	発言することに気おくれしないうようになりましたか。	14	23	2	×
4	人にきかれたら親切に教えられますか。	28	9	3	◎
5	人に聞いて得をしたことがありますか。	26	11	3	◎

6	人に聞かれて得をしたことがありますか	24	13	3	
7	人がやってくれるから、よいと思ったことがありますか。	11	13	16	
8	バズ学習は無駄口が多くて学習のじやまになりますか。	4	18	19	
9	自分の考えや行動をじやまされたことがあるか。	9	13	17	
10	先生の話をききもらしたときバズと一斉とどちらが聞きやすいか。	34	5	0	◎
11	みんなでやったからできたんだと思ったことがありますか。	31	8	0	◎
12	これからも班で学習をつづけた方がよいと思いますか。	37	2	1	◎
13	友の忠告をすなおに聞くようになったと思いますか。	23	17	0	○

〔考察〕

① バズ学習が態度を通じて定着しだしたと考えられるので、今後は質的向上をはかりたい。  
(5. 10. 11. 12)

② 問題を見つけて討議し解決へと基礎的訓練をつづけて行きたい。(7. 8. 9)

③ バズ学習にとりくむ傾向が強くなりつづると考えられる。(13. 1)

班会議、学級会での討議

バズ学習はなぜよいのか。班学習でバズ方式をとり入れた目的について討議し整理して全員に理解させることを試みた。

1つの調査のあと必ず問題意識をもたせ、定着させるための討議を行い、今後の方向を考えさせる。

〔議題〕

バズ学習はどんなときに役立つか

〔結論〕

① 親切に教えてもらえる。班でわからない所をさく方がよい。

② 先生の話聞きもらしたとき、すぐ班でできる。

③ 班でなら言いにくいことでも、よく言えるし、意見も出しやすい。

④ 人に教えるとよく身につく。

⑤ 自分の考えに不安があるとき班の意見でたしかめられる。

話しあいのときに困ることは

○ 自分勝手なことをする人がいるとき

○ 一人がわからず、みんなが先へ進むとき

(9) 生活ノートよりの声

A—教えあいをした方がわかりやすく、わかっていても、もう一度口に出して教えたならよく身につくのでためになる。

B—先生の話がよくわからなかったときに質問して聞きにくいけれど、バズ学習だと人数が少ないので、聞きやすく、よくわかるのでよい。

C—私は班長だけれど、よく忘れものをして、班長らしくありません。でも私は私なりに頑張つて、こうゆう班にしたいと思っているのに、班長のくせにとか何とかいいます。でもみんながえらんでくれたのだから、うれしいけれど、失敗があっても、みんな協力して皆んなのためのよい班になるように心がけてほしいと思います。

(10) 人間関係の調査

望ましい人間関係を発展させるには、集団の中で、生徒自身がどのような行動する人を志向しているであろうかを調べることも、又教師の志向する人間像とのずれはないだろうかを調べる必要がある。人間性豊かな指導がどの程度定着しているか、教師自身が適切な観点と方法で指導するにあたり、教師との意識は共通しているか等、この問題点を追求して、今後の指導に萬全を期す目的で36項目について行った。

〔方法〕

りっぱな中学生とは、どんな人だと思いますか。その理想の項目を5～8選んで○印をつけなさい。

以下昨年3年生とくらべて変化がみとめられたと思われるものを抽出してみた。

番号	項目(1年1組 45名)	昨年3月	現在1年
15	物ごとに寛大な人	2	19
17	常に進んで行動する人	9	14
19	友達に親切な人	3	11
23	人に悪い所を注意してやれる人	6	18
25	どんな時でも正しく行動する人	7	20
28	他人のよい点を見習って自分をよりよくしようと努力する人	3	10
31	他人の立場でもの事を考える人	4	10
34	親しみやすく何でも話せる人	4	15

〔考察〕

- ① 昨年9月より始めたバズ学習研究は理論の究明と他人の模倣に汲々として、その具体的指導の手だてが弱かった。その結果、個人に対する人間関係の意識は低調であり、集団意識はあまり表われなかった。
- ② 上記反省に立って本年度は、初歩的にも実践に、着手してきた。バズ学習の成果を上げるためにも今後共追跡調査の必要があると思う。
- ③ 調査項目の整理、自主的生活態度、仲間意識、基礎的学習態度等に大別して調査する方がよい。

3. バズをとり入れた教科指導実践

学習指導の場はきわめて複雑で、1つの要因で割り切れるものではない。バズ方式も、ある1つの要因に着目して、これを浮きぼりにした形態概念である。そのため学習の要因を全体的、包活的に表現した方法原理はない。

〔基本型〕

I 問題をつかむ	
	何が問題か    どこに問題があるか
① 具体的事実を提示する	導入として強い関心を、やる気をおこさせる
② 問題を発見させる	興味、疑問、矛盾から問題意識をもたせる
II 仮説を立てる	
	こうではなかろうか。それはどうしたらわかるだろうか
③ 予想を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学者の研究コースに準じて発見までの段階を重視する。</li> <li>・生徒の勘や憶則を大いに発表させる</li> </ul>
④ 仮説を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互に仮説を確認しあい、次の検証のための計画を話しあわせる</li> </ul>
III 検証する	
	どんな方法で結論をみちびこうか(解決への相談)
⑤ 資料を集める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の集収、調査、視聴覚教材等で各種活動が活発に展開</li> </ul>
⑥ 結編へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集められた事実、情報からの逐次結論へ分析作用</li> <li>・総合作用</li> </ul>
IV 適用する	
	これでたしかだろうか
⑦ 練習する 吟味する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きた能力転化を図る方向へ</li> <li>・結論の妥当性、限界をたしかめる</li> </ul>
新しい問題点の発見や発展(次時へ)	

学習要因

- ① 学習自体としての要因  
学習者の教材に対する対し方のちがいとして主体的学習の如く、学習自体の、行動様式が重視される。
- ② 人間関係としての要因  
学習者の人間関係からのちがいから、教師を含めた学習者相互の人間関係が、強調される。(バズ学習)

(1) バズをとり入れた教科指導のねらい。

個人の思考を深め、創造的能力の開発を目標に将来生きてはたらく学力を、学習指導展開の中で導き出し、学習の仕方を主体的に学びとらせる。そのために、  
個人思考 → 集団思考 → 個人の考え確立の過程をとる。

ねらい

- ① 個人の思考を深める。
- ② 積極的な授業への参加を高める。
- ③ 組織の中で生きる人間を育成する。

(2) 教科指導の具体例

数学1年1組

〔教科書〕 啓林館 数学I

6月28日

指導者 小林昌義

主題 文字式 (1) 数量を表わす式

段階	教師の活動と学習内容	生徒の活動と留意点
① 問題をつかむ	<p>どんなことを考えたらよいか</p> <p>三角形の面積の公式の簡単なかき方</p> <p>文字は一般的な表わし方</p>	<p>記号, アルファベットの文字</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な文字を考える</li> </ul> <p>但し・約束が必要</p>
② 仮説を立てる	<p>この方法でたしかめてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉で表わした式を文字式に……方法ほ正しいか</li> </ul> <p>(1) 平均速度</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p> <p>(4) 10進法の表わし方</p>	<p>例1~例4</p> <p>友達に説明してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の式と文字の関係が説明できるか</li> </ul>
③ 検証する	<p>問題①を実際にやってみよう。</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p> <p>(4)</p>	<p>(1) 自分で</p> <p>(2) 友達と意見の交換</p> <p>(3) 自分の考えの適否をたしかめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の考え方の適否に気付かせる</li> <li>・手順をはっきりとおさえながら進む</li> <li>・言葉と文字を結びつけながら進む</li> <li>・どこでまちがったか自己評価さす</li> </ul>
分析総合	<p>これでたしかだろうか</p>	
④ 適用へ	<p>例5 単位をそろえる</p> <p>もっと簡単な方法は、ないだろうか</p>	<p>文字式をかくときの約束しらべ</p> <p>よく次時までにしらべよう</p>
問題発見へ		

授業の反省

6月28日 1の1 45名

項	目	+	○	-	傾向
1	今の授業はたのしくできたか	31	8	6	◎
2	この授業は一生けんめいやれたか	29	13	0	○
3	今の授業はうちとけた気持でやれたか	28	10	9	○
4	よく学習できて満足だったか	26	11	8	○
5	今の授業はよくわかったか	30	8	7	◎
6	今の授業はためになったと思うか	30	12	3	◎
7	仲間は親切だったか	34	5	6	◎
8	先生のことのでいやなことはなかったか	32	7	6	
9	先生は親切だったか	39	5	1	
10	仲間のことのでいやなことはなかったか	20	9	5	×
11	予習は充分であったか	14	16	15	××
12	自分としてはよく発表できたか	17	15	13	×
13	友だちに教えたか	23	7	15	
14	友だちに教えられたか	24	6	14	

A子の場合……意見

+	○	-	分らなかった所
		○	(2)
○			I
		○	(1)
		○	(2)
	○		(3)
	○		(4)
	○		
	○		
	○		
	○		
	○		
	○		
	○		
	○		
	○		

発表はしやすいから  
班学習はよい

3. [考察と今後の留意点]

- (1) 表面的には授業はたのしくよくわかったことになるが、A子の場合の指導を忘れてはならない。ともすれば学級、班全体の指導や表面的な傾向にとらわれて個人の指導がうすれがちになる。本校では毎週月曜日を個人面接日として数人ずつの指導にあたっているが、バズ学習の中での指導方法も考えねばならない。
- (2) 家庭学習の不足が考えられる。今後短学活で家庭学習の計画、方法、目的などを十分に理解させて放課後の短学活実施復習バズの研究の必要性がみとめられる。
- (3) 班員が異種編成のため特に数学では能力差による思考を深める限界の個人差が大きい。  
(声)一人がわからずみんなが先へ進むときに困る。  
一人だけ先へ進まないでほしい、
- (4) 教師は話しあいの時間に巡回し、班員の参加度をしらべ、特に遅進児生徒の参加への追い込み指導の必要がある。

- (5) 班員の違反者、怠け者への忠告と遅進児への協力、援助の態度の指導が必要である。出来、不出来の評価から、ともすれば責任追求のみの面に走り、努力している生徒を不愉快にする。
- (6) 班日誌、生活ノートへの指導から仲間作り協力態度を伸ばしていきたい。班日誌やノートの指導は毎日の教師の努力の積みかさねが大切だ。

おわりに

バズ学習を進めて1年たらずの初歩的な実践のあゆみではあるが、生徒ひとりひとりの学習への参加は、少しづつではあるが高まりつつある。自分の思ったことを何でも言える方向へ進みつつあることは事実である。本年度の努力点として、望ましい集団づくりや、ひとりひとりがどれだけ集団の中で伸びたか評価の追跡を中心に学習方法を研究し、改善していきたい。そうして将来生きて働く学力を学びとり集団の中でりっぱに生きていけるすなわち自主性、協調性、創造性のある人作りに邁進していくつもりである。

# 英語科におけるバズの実践的研究

姫路市立高丘中学校

伊勢田 耕 一

## 1 はじめに

従来、英語科においてはwhat to teach (言語材料)、how to teach (学習活動)の両面が学習指導の支配的地位を占め、「学習の場のメカニズム」については関心がうすく、等閑視されてきたきらいがあるように思われる。教科の性質上認知的目標ないし手段的側面を追求するあまり、態度的目標ないし自己実現的側面をある程度犠牲にしてきた場合が多いのは事実である。私自身、本校に着任するまで、過去二十数年の英語教育歴の殆どが手段的側面のみから授業の効率をねらっていたことを反省している。また、それまでは、英語学習とバズ学習とは、相容れないものだという偏見さえもっていた。

教師は常に発音を磨き、研修に努め、ユーモアを身につけることが魅力ある授業への道と考え、更に効率ある授業にはmachine-gun的drillにより万遍なく、できるだけ多くの生徒を動かすことが私のモットーでもあった。

しかし、本校就任以来バズ学習に身をもって接することができ、ここに私自身の教師としての内的“変身”が始まったと考えている。

まだ一年数カ月にしかならないが、学校の大経営方針のもと、先輩諸先生の指導と生徒たちの協力を得て、試行錯誤しつつも何とか私なりのバズ学習体系ができてきたように思う。以下はいわゆる一斉学習と対比しつつ、その具体的実践例のいくつかを提示してみようとするものである。

## 2 学習集団の形態とその意義

一斉学習においては、自然学級にしる、能力別学級にしる、学習の場の集団形態は常に全体が一つの単体であり、個々の生徒の散在的集合体と考える。したがって、クラス→個人の学習活動が多く、二人以上の組を作るにしても全く恣意的で、やや固定したものとしては、せいぜい、

イ 男子グループ↔女子グループ

ロ、列(row)ごと

の練習ぐらいであろう。

「手段的側面を重視する授業は進度中心の授業であり、所定の時間内にかかして予定の進度まで到達させるかということが目標となり、生徒たちに対する指名や発問のしかたも、その観点からなされる。」(河野重男「生涯教育と学校教育」)

こうした一方通行的学習のみによっても、指導の工夫と熱意によってそれなりの効果をあげることとはできる。

しかし、系統学習から自主性創造性を育てる教育へと視点の移りつつある現在、どうしても自己実現的側面からのアプローチの必要になることは否めない。これは参加中心の授業であり、自主協同の学習であるから、学習のしかたを学習することが前提条件となる。

「同内容での一斉注入教育は、教師の側から見てたとえすぐれたものであったとしても、生徒側から見た場合、個々の生徒にとって果してよい授業といえるのであろうか。」(千田一彦)「自主協同学習を中心とする学校経営」)

生徒たちは隣の生徒と話し合う時間がほしいのである。“対話”と“主体性”——ここにこそバズを取入れる意義があり、小集団を形成する必要の決定的要因がある。

## 3 グループ編成と英語科

グループ編成上の問題点の一つは人員構成であるが、このことは教師の指導性とのかねあいで、案外重要な鍵をにぎっている。第3回バズ学習研究会発表要項の中で、熊本市立三和中学校の坂梨昭吾先生は、

「集団思考の深まりからいえば6人～7人位が理想的だと言えるが、ひとりひとりの学習への参加度や意欲を考えると4人～5人が最適である。」とっておられる。

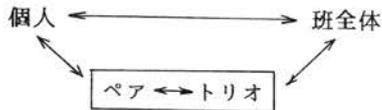
本校においても、まだ4人制グループの支持者

はかなり多いのであるが、学習バズはもちろんのこと、生活バズ、復習バズ、集会など学校生活全般を通じ、バズ精神がかなり滲透し、その方法にも一貫性が出てきたので、昨年来4人制を6人制にきりかえている。これを主として英語科にあてはめて考察してみると、4人制に比べ、次のようないくつかの長所があげられる。

- (1) 学習の場におけるリーダーの指導性の点から各班の活動能力がほぼ均質となる。
- (2) 活動能力が均質であるため、情報交換のバズや助け合いが大差なく実施できる。
- (3) 班の数が多過ぎることはなく、班毎の練習での回転率が高い。

group 1 ↔ group 7

- (4) 班毎の練習では声量が大きくなるため、遅れがちな生徒も自信をもって参加できるので、かえって4人制よりまとまりがよくなる。
- (5) グループ内の単位人数の拡大、縮小に変化をつけることができる。



ペア3、トリオ2 を組むことができる。  
私はこれを4人制グループの発展的段階として取扱ってきたい。

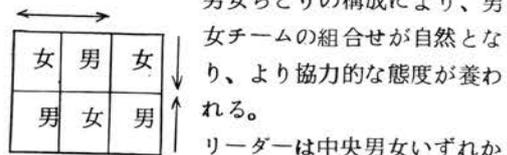
#### 4 6人制グループの活動サイクル

およそ語学の習得には、理論面もさることながら、skill (技能) の面を見逃すわけにはいかない。skill と練習量との間には、きわめて密接な相関関係がみられるが、一般に一斉授業のクラス集団より小集団の方がはるかに活動サイクルを高めることができる。

グループ ↔ 個人の活動サイクルの外に、ペア、トリオを中心としたバズ学習形態を示すことにしよう。

※ 枠内の ↔、→ は班メンバーの活動対応関係を、枠外の ↔、→ は班内活動の流れを示す。

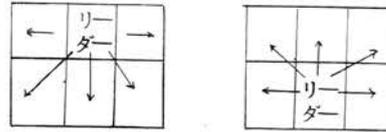
##### (1) グループメンバー構成とリーダーの位置



男女ちどりの構成により、男女チームの組合せが自然となり、より協力的な態度が養われる。

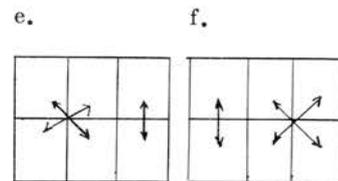
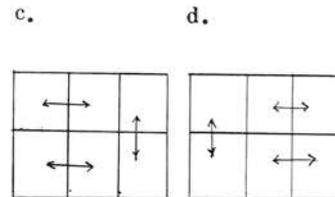
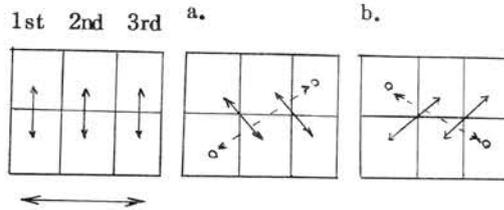
リーダーは中央男女いずれかの位置を占めることにより、どのグループメンバーとも隣接することになり、速やかに直接的な指示を与えることができる。

- イ、班全体活動
- ロ、ペアによる活動
- ハ、トリオによる活動
- ニ、個人活動 (左廻り、右廻り、任意)



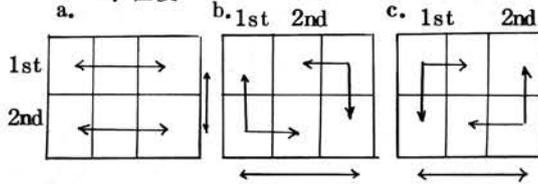
##### (2) ペアサイクル

- イ、往復
- ロ、任意



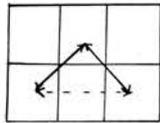
### (3) トリオサイクル

#### イ、往復

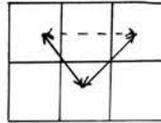


#### ロ、任意

##### 男チーム



##### 女チーム



トリオ（3人チーム）システムをとり入れてみると、より自主共同作業的となり、かなり効果があると思う。

その実践例のいくつかを示すと、

イ、問題 → 答 → 訳

（英語）（英語）（日本語）

ロ、英語 → { 訳  
訂正 } → 英語のくり返し

ハ、基本文 → { key  
cue } → { 置換文  
応用文 }

ニ、三人対話

ホ、（トリオ対トリオ）による練習

ヘ、ペア+ヘルパー（助力者）

等工夫によりいろいろ考えられる。

また各自が自発的に役割を分担することにより、言語活動が活発となり、新指導要領の精神が生かされることにもなる。このような理由から、私は6人制グループは4人制グループの発展的段階と考え、バズ学習指導の実践を試みてきた。

## 5 英語科のバズ学習

言語としての英語教育を効果的にするために、バズをいつ、どこで、どのようにとり入れたらよいか問題となるが、以下私の実践例のいくつかを紹介しよう。

### (1) 宿題合わせバズ

生徒たちが学力を高めるためには適切で十分な家庭学習の背景がなければ効果を期待できないのは衆知のとおりである。

「自宅学習は学校の授業との関係においてなされるものではあるが、本来、自発的・自主的になされるものであり、自由が与えられ時間的に強制されるものではない。能動的、総合的、実際の活動である。（瀬津義範「自宅学習指導の試み」）

したがって、すべての生徒に画一的に強制されるものではないが、新指導要領で英語科の標準時数が削減した今日では、家庭学習に毎日の継続的努力が特に要求される。継続して努力する基本的態度・習慣を形成していくためには、また班学習の場にもちこむ予備の手だてとして、ある程度の指示・方向づけが必要であろう。

そのためには、宿題に一貫性をもたせ、家庭学習の習慣化、リズム化をはかりたい。学校では音声面を、家庭では書写面を中心とした指導をしてはどうだろうか。もちろんこの両者は「車の両輪」ではあるが、家庭学習の一部に宿題としての writing を課すのである。

一見単純なありきたりの方法のようであるが、これを続けさせること事態がむつかしいことに気づかなければならない。

私はまず、下級学年では学校での復習内容（主として教科書）を、上級学年に進むにつれて、復習内容→予習内容（主として教科書と辞書の活用）を書写させることとし、次時の班学習バズの最初の材料としてみた。

#### イ、バズの順序と方法

- ① ペアによるノート交換  
（ペアをリーダーが指示する。）
- ② 指定箇所の点検
- ③ あやまりや不足のところがあれば訂正  
又は記入  
（赤鉛筆又は赤ペン使用）
- ④ ノート返還
- ⑤ 班別反省と学習内容の確認

#### ロ、生徒たちの反応

- ① だれもが参加でき、目的意識がはっきりする。
- ② 宿題を忘れる者がほとんどなくなり、家庭学習に工夫がみられ、積極的になっ

てきた。

- ③ 授業のスタートから生徒どうしの自主的活動が始まる。
- ④ 学習内容が速やかに確認できる。
- ⑤ 問題点の意識度が高くなる。
- ⑥ 相互理解が意欲をもち上げる。

## (2) Reading バズ

教師やテープの範読を聞くことや、繰り返し練習の後バズ練習させるわけであるが、リーダーの指示に変化をもたせて習熟度を高めるようにする。(新語の練習もこれに準じて行う。)

- ① 班全体で読む。
- ② ペアで読む。
  - a. 二人ずつ一緒に読む。
  - b. ペア対ペアで読み進む。
  - c. 一文毎に交替して読む。
  - d. 対話文では役割をきめて読む。
- ③ トリオで読む。
  - a. 三人ずつ一緒に読む。
  - b. トリオ対トリオで読む。
  - c. 対話文と地の文の場合、役割をきめて読む。
  - d. 三人会話文の場合、役割をきめて読む。
- ④ 一人ずつ読む。
  - a. 左廻り
  - b. 右廻り
  - c. 四人以上の会話文では役割をきめて読む。
  - d. 班代表の読み手を選ぶ。
    - イ. 一人で全部を読む場合
    - ロ. 分担して読む場合

## (3) 内容把握バズ

内容を把握するためのバズとしては、主として次のものをとりあげる。

- イ. 英語 ↔ 日本語
- ロ. 大意をつかむ。
- ハ. 文型の比較検討
- ニ. 文法事項のまとめ

これらについて調べ、考え、まとめ、発表するわけであるが、他の練習を主としたバズに比べ、一般的なバズ思考過程をふむことができる。



それだけに、教師の suggestion 資料(辞書、参考書、プリントなど)の利用、教科書自体の参照事項の活用といった面への配慮が必要となるだろう。

## (4) 応用練習バズ

教科書の基本文、本文を sample として応用練習する言語活動である。

- ① 身近なことを英語で表現する。  
(個人→班内発表→全体発表)
- ② Question-answer  
(ペア→全体発表)
- ③ 応用対話

(班内バズ → { ペア / トリオ } → 全体発表)

これにはもちろん situation 設定が必要となるが、日頃の小集団バズの積み重ねで自然な雰囲気がかもし出される。

一斉学習では、せいぜい教師→生徒の一方通行の段階止まりの場合が多いのであるが、バズ過程では、生徒 ↔ 生徒の言語活動が容易となり、さらに、生徒 ↔ 教師の段階への高まりもみられる。

## (5) 練習問題バズ (chart drill を含む。)

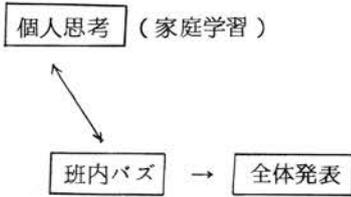
一斉学習では クラス→グループ→個人 の順序をふむとしても、できるだけ多くの生徒にできるだけ多くのサイクル活動を目途にするあまり、直ちに教師→生徒の機械的 drill に入る傾向がある。それは次のような考えにもとづいているようであった。

- ① バズをするのは限られた授業時間の中ではむだである。
- ② 聞く態度をも重視し、数場は常に静粛でなくてはならぬ。
- ③ 生徒の個人発表は、個人の努力により完全にすべきであり、他の生徒が口出しすることはタブーである。

これに対して、バズ時間をおくことは決してむ

だけでなく、むしろこれを足がかりとして、発表段階での効果が飛躍的に増大する。

イ. バズの順序と方法



全体発表の形式は次の a~d の中から、問題の種類により、一つないし二つを選択する。

- a. 個人 (答え、訂正、繰り返し)
  - b. ペア (問題 → 答え、答え → 訳)
  - c. トリオ { 問題 → 答え → 訳  
          問題 → 答え1 → 答え2 }
  - d. 班全体又は班対班  
(答えのコーラス練習)
- ロ. バズの効果
- ① 発表できない者がほとんどなくなり、ドリルの進行がよどみなく進む。
  - ② ドリルの形式に変化があり、学習が平板に流れない。
  - ③ 助け合いの態度が浸透する。
  - ④ 生徒たちが積極的に参加する。
  - ⑤ 定着度が高い。

(6) 暗唱バズ

内容を理解した英文を繰り返し音読し、暗唱し、暗記し、暗唱することをバズ学習の一環として行うのである。

そもそも暗唱そのものは昔から外国語研究の諸大家の推奨するところであり、言語学習にはきわめて利益の多いものであるにもかかわらず、現実の中学校では、全員に実施することはなかなか困難なようである。

「多くの中、高英語教室で reading の固めであり、writing の基礎となる暗唱が毎日の procedures の一つになっていないのは残念である。英語学習に、もしも Royal Road があるとすれば、それは模範とすべき文の暗唱という、およそ原始的な方法であろう。ところが現代っ子はこつこつ暗記することをいやがる傾向があ

り、先生もこれに負けてしまう。毎年秋ごろになると各地に中学英語暗唱大会がはなばなしく行われるが、その暗唱が教室で地道に行われていないのは不思議なくらいである。

50分の授業の中で Teaget sentences の structure drill にいたずらに時間を費しすぎて、reading の指導はさしみのつまみ程度では、『このところを暗唱しておけ』と命じておいても、効果はない。

………(中略)………

暗記の素材となる英文は one sentence の短文でなく、まとまったパラグラフ全体がよい。前後の context、文章全体の背後に流れる思想、感情を中学時代から読みとらせる訓練をしたいものである。」(佐藤秀志「教室における暗唱の方法」)

中学生の英語の暗唱を教室で取り扱うとすれば、基本文の短文を暗記することに終始することが多いようであるが、私はむしろ教科書の本文を全文暗唱させることにしている。(中学校の英語教科書を暗記する効用は、NHK英会話講師松本享先生はじめ、最近でも多くの人たちが実証している)(松本享「英語と私」を参照)

これには授業時以外にも、生徒たちに暗唱しようとする意識をもたせるのがよい。その意識を育てるのが授業中での暗唱バズであり、そしてその意識の高まりが暗唱バズを活発にし、実りあるものにするのである。



イ. バズ方法と順序

班内バズ → 全体発表

- a. クラス全体 (不完全な者も含む)
- b. 班全体
- c. ペアまたはトリオ (役割をきめる)
- d. 個人

ロ. 生徒たちの反応

最初は、個人または2~3人で全文暗唱することにはかなり抵抗があるが、暗唱意識さえあれば可能なことであり、一たん暗唱の一番手が出ると、あとは芋づる式に暗唱希望者が出てくるものである。そして最も学習に遅れがちな生徒までも、班メンバーのささえによって、こうした音声面の

production がかなりできるようになる。こうして個人の暗唱が刺激となり、班に及び、やがてクラス全員が教科書を見ずに、教科書の本文を暗唱しようとする雰囲気につつまれるようになる。

バズによる全文暗唱は可能であり、この過程を経て英語の genius (精神) が身につく、単なる、無味乾燥な pattern practice ではとても届かぬ応用力、ひいては創造性が養われるものと信じる。

(7) バズテスト (dictation を含む。)

英語科では、評価の一つとして、各課ごとに小テストを実施する機会が多いが、これをバズ形式でやってみると、案外予想以上の効果のあることがわかる。教師が労をいとわなければ常に生徒の学習能率が上がるというものではない。過去の篤農家的教師像は、もはや通用しなくなっている。学習効果を生徒たちの中で確かめあうことの方がより学習効果を高めることになる。生徒自身が評価を通じて向上していくのであり、これが動機づけ、積極性につながるのである。事実、教師の採点より生徒の採点の方が成績がよくなったという結果が各方面で実証されている。(兵庫県教育研修所での研修より)

イ. テストバズの方法与順序

- ① 問題用紙配布 (教師)
- ② 各自問題に取り組む (個人)
- ③ タイマーの合図によりテストを止める。
- ④ 答案交換 (ペア)  
(採点者は名前を赤で得点らんの下に書く。)
- ⑤ 解答用紙配付 (教師)
- ⑥ 答合わせと採点
  - a. (各生徒がパートナー分を行う。)
  - b. (間違いや記入もれがあれば、赤で訂正又は記入)
- ⑦ 答案をパートナーに返す。
- ⑧ 各自採点結果を確認の後、答案を教師に提出する。

ロ. 生徒たちの反応

- ① 自主的、積極的に評価に取り組む姿勢がみられる。
- ② 疑問点について教師に積極的に質問するようになる。
- ③ 生徒たちに評価の観点が芽ばえる。
- ④ 生徒どうしがたがいに向上心をもり上げる。
- ⑤ 成績が向上する。

6 おわりに

以上私なりの試案を実践してみたの結果から、現場で役立ちそうなバズ学習方法の具体例のいくつかを述べてみた。こうしたことをすべて、つねに学習過程の中にとり入れるというのではなく、授業計画にもとづいて、適時、適当な組合せによる配分を行うのである。

またいつも成功するとは限らないし、自然学級の中にはどうしても遅れがちな能力の低い生徒もいる。しかしこうした方法により、態度的目標はもちろんのこと、学習効果の一般的レベルアップはあったと思う。

教師像の変遷が

- ① 篤農家的 (過去) ↓
- ② 工場長的 (現在) ↓
- ③ 経営者的 (未来) ↓

の方向にあるのを考え合わせると、バズ方式による学習が、

- a. 学習方法の学習
- b. 自主共同
- c. 創造性
- d. チーム・スピリット
- e. 学習の個別化 ↔ 集団化

といった教育の現代化にふさわしい学習形態だと考える。そしてさらに、バズ方式による教育の科学化、システム化が望まれるのであるが、今後の私たち教師の課題であろう。

さいごにこの拙文を終えるにあたって、私の思い違いや、考え不足、思わぬ勇み足が出ているかもしれないことをおそれています。

大方のご叱正ご教示のほど、よろしく願いいたします。

## 第4回バズ学習研究集会

### 学習過程における評価のこころみ

春日井市立藤山台中学校

右高氏

#### 1. はじめに

単に知識や技能のきりうりだけでは、とても満足な授業はなりたないと、多くの教師が思うような時代になった。学習指導上のことは、その現代化をめざす中で、内容的にも方法的にも、新しい理論や実践をふまえながら、全国各地で、意図的な営みを通して着々とその成果が積みあげられている。こうした流れの中であって、私たちも学校体制の確立をはかり、あるべき教育の姿を求めながら、さきやかな試みを行っているが、「教育は性急であってはならない」ことも知っていながら、行きつもどりつ、ままならぬ遠い旅路にある思いもするのである。

高蔵寺ニュータウンの中にできた最初の中学校、あれから3年目、生徒も3倍以上になって340名、来年度は500名前後が予想される。あいもかわらず生徒の転出入ははげしい。

団地の特質の多くをそのまま学校の問題点に置き換え、バズ学習を基盤にしながら学校づくりにいそしんできたことはいつかもふれた。うよ曲折もちろん現在といえどもその道程にあるのだが、いま私たちは、「学習過程における評価」の試みを当面の窓口にしながら教育実践を続けている。次元はまだまだ低い。

#### 2. 構えのなかで

##### (1) 指導と評価

毎日の授業を充実させたいというのは誰にも共通した願いなのだが、どうかすると私たちは、指導内容とか指導方法とか指導技術とよばれる領域に意識が走りすぎてしまう。たしかに誰の授業でも、その過程でしらすらすらの間にも、評価とよんでもよさそうなことを行なっているものの、決して意図的だとはいえ、あるいは知っていながら、意識から洩れてしまうことがある。

指導したことが生徒に理解されたかどうか、考えてみれば、これこそ授業のすべてであり、教育方法を研究する原点でもある。だから、やっぱりそれをだいにするのは、授業研究を進める者の通例であろう。指導しっぱなしということはあり得べくもないが、私たちは生徒の理解や定着をたしかめながら、指導を繰り返しているはずである。私たちは、この「たしかめ」という評価活動の営みが、授業の中で不可欠のものというより「指導とうらはらの関係」にあるものだということを再認識したかったのである。しかしこの「指導」と「評価」は、単に「うらはらの関係」というより、指導過程におけるサイクルなのだから「評価」もまた「指導そのもの」だということにすぐ気づいていく。両

者を別々にとらえ、二つを組み合わせる授業がなりたつという発想はすでにおかしいということである。

一口に評価といっても、その角度や内容や形やねらいはまことに複雑多岐で、簡単に説明のしようがない。たとえば指導要録や通知票記入のための五段階評定もそのひとつだし、中間テストや期末テストの処理もまたそのひとつにちがいない。ところが、これらの評価のすべてだと思っている向きがないでもない。「評価がたいへんだ」ということの意味することが、テストの採点であったりすることがあるからである。それはそれとして意味のあることだし、たいせつなことなのだが、評価とよばれるあらゆる営みは「即時評価」からはじまり、それが基盤でなくてはならないことに思い及びたいのである。

私たちがいまとりあげようとしているのはこの即時評価であるが、前にもふれたように、学習の過程も同時にとりあげていかなければ実践の進めようがない。私たちはひとつの評価活動を話し合う時、いろいろな授業の要素がからまって出てくることを身をもって知ることになった。そして評価の試みが、授業のもろもろの要素に気づかせ、それらをいくらかでも同時に高めていくということを互いに認め合えるようになった。当然すぎるほどのことだが尊いことであった。

なお私たちはここで、バズ学習の形態が、評価活動をいっそう容易にし、バズ学習のすぐれた機能がここでも発揮されることを付言しておきたいと思う。

## (2) 即時評価

「わからぬことを明日に残すな」ということばがいくつかの教室にかかげられている。今学習していることは今理解されねばならぬ。教師も生徒もそのためにそれぞれの立ち場で努力しなければならぬ。ところが、今学習していることがわかっているのか、わかっているのか、学習者がそれを明確にとらえなければ、次へ進む手はずの考えられようのないことは明白である。

1時間の学習内容は、普通いくつかの区分に

わけることができる。私たちはその区分ごとに、生徒の理解をおさえ、たしかめて進むことを知っている。わからなければ、わかるようにして進まなければ教師のつとめは果たされたことにはならない。これを怠っておいて、もし、たとえば中間テストや期末テストに的確な解答を期待するとしたら、まことにおかしいことではないか。わかったかわからないかを、何か月か後になって評価し、評価されることより、今その場で自分に確かめることの方がどれだけ切実なことであるか。わからなければわかるまで、対教師、対仲間とのフィードバックや相互評価の作用が繰り返されるだろう。テストをただで、そのことについての指導がないという評価は、いったいどういう意味をもつだろう。評価は、より確かな学習を進めるための指導の手がかりとして生かされねばならぬ。

即時評価……つまり、学習過程における評価を重要なものと認識し、その研究をおし進めようとした理由がここにある。だからといって、中間テストや期末テストを否定するものでないことも再度述べておこう。なぜなら、それらは、既習事項の定着をみたり、学力の診断的役割を果たすという大きな意味を備えているからである。

## (3) 授業へ及ぼす仮説

評価の研究のみが私たちの歩みのすべてではない。多角的な視野の中でこれをとらえ、総合的、統括的なものへの口火にしていることは前にもふれたが、私たちはこの試みがおそらくいろいろな面に好影響をもたらすであろうということを期待した。

- 仮説 1. 教師も生徒も指導内容や学習内容をいっそう明確に把握することができるであろう。
- 仮説 2. したがって教師は教材研究や指導方法を、生徒は予習や復習をよりの確に進め得るであろう。
- 仮説 3. 生徒は学習を自分のものとしてよりいっそうとらえることができるであろう。

仮説 4. 理解を確かめることによって、興味や関心が高まり、授業が生き生きしてくるであろう。

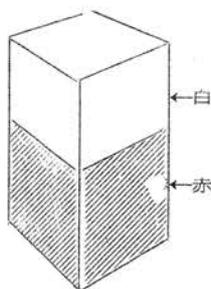
仮説 5. 個人思考と協同思考のけじめがはっきりし、相互活動がいっそう活発化してくるであろう。

### 3. 教室での実際

評価に関する活動は、有形無形じつにいろいろあって、端的にそれらを列挙することはむずかしい。臨機応変、教師のちょっとした心づかいからでるひとことやふたことがまことに当を得た評価活動になることもある。即時評価とは、本来そういう要素を多分にもっているかもしれない。しかし、たとえそうであっても私たちは、偶発や思いつきだけをもってこれを充たしてはならないであろう。やはり意図的でありたいと願う。以下は私たちの試みの中のいくらかだが、これ以外のことの中に、もっと大切な何かがあるように思えてならないのである。

#### (1) 学習反応器

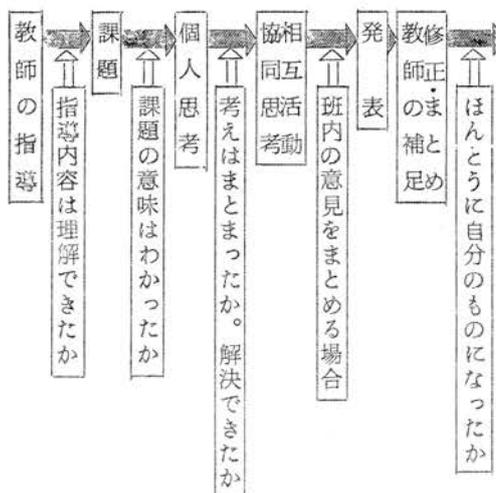
これは、私たちの学校が発案したというものではない。こうした試みにふれながら私たちは私たちに考えてこしえ、その活用をはかっているのだが、評価活動を進めるうえに、かなり役立っていると思っている。



6cm×6cm×20cmの木片で、上下が赤と白に分けて塗ってある。机から落下したぐらいで、破損するといったたぐいのものではない。たる木を20cmごとに切断したものといった方はやくご理解いただけるだろう。

けるだろう。

次図のような一般的な流れのなかで、たとえば例示のように活用することができる。



もちろん、いつもそのことごとくに活用するという意味であげたわけではない。

もうすこしほりさげてしるそう。教師は白から赤になる状況をみながら学級全体の思考の進行の度合いや、一応理解できた生徒とそうでない生徒を判別することができる。生徒にしてみれば、自分がわかったか、わからないかを白から赤へ移行するという動作によって、より確かに意識することができるし、全員が赤になるか、おおかたが赤になる時点で話し合いをはじめることができる。あるいはわからない者がわかる者に聞くこともより可能になるであろう。とにかくフィードバックのけじめがはっきりする。

白から赤に……たったこれだけの所作がもつ意味と価値を、私たちは学習過程での評価活動と深く結びつけて考えていきたい。

<生徒のアンケートから>

① 学習の効果や能率に役立っているか。

	+2	+1	0	-1	-2
1 年	17	44	36	2	1
2 年	8	54	33	4	1
3 年	6	58	28	6	2

② 個人思考と話し合う時の区分が明確になったか。

	+2	+1	0	-1	-2
1 年	11	46	32	7	4
2 年	5	52	32	7	4
3 年	6	60	28	2	4

③ その他の意見

- ・学習の意欲がわく
- ・できたことが先生にってもらえる。
- ・反応器の利点は反応器がもつものではなく、我々が持たせるものだ。
- ・裏返すときにやかましいことがある。

## (2) 評価ノート

○ 保体科の場合

体育活動日誌を、生徒に輪番制で記録させている。活動内容を中心に、記録者の授業についての感想、記録者及び参加者の反省評価等を記入する。記録者は、一時の活動状況や参加態度等を考慮して総合的にとらえ5段階評定している。たとえば「4」全員が教師の指示に従い、積極的に参加していた。

「3」授業の前半はよかったが、後半になってややふまじめだった。

「2」グループごとの集合がわるく、また暑いせいからだらけていた。

たしかにこれを試みるようになってからは、活動も自主性を増してきたし、意欲もうかがえるようになったが、ひとりひとりを評価するために作ったものでもないのだから、きめのこまかさは欠いている。改良を加えていくか、生徒のひとりひとりが自己評価できるような何かを別に考えねばならないだろうと思っている。

○ 美術科の場合

美術科においては、各自がノートを用意し、それぞれの項目に従って評価している。

美術ノートの実際

①「学習」……単元に入り第一時は学習の時間をとり学習事項をまとめる。

②「意図」……学習を主体的にとらえさせる。

③「先生から」……制作中に教師が机間巡視をし、指導したことをノートさせる。

④「反省」……制作後に自分の作品を反省させる。……自己評価

⑤「友だちから」……制作が完了したら、グループ内で相互鑑賞させる。……相互批正

⑥「総合」……クラス内での総合鑑賞、教師のおさえ。

教師も生徒も、この評価ノートの意味と効果をかかなり高く評価しているが、これを記録するのにやや多くの時間を費さねばならないことに意をとめていきたい。

<生徒のアンケートから>

① 作品における自分の長所や短所がはっきりわかるようになったか。

	+2	+1	0	-1	-2
1 年	53	32	15	0	0
2 年	40	46	8	6	0
3 年	26	44	24	2	4

(数字は%を示す以下同じ)

② 友だちとの相互鑑賞や批正に役立っているか。

る。

以上の目標を達成すべく、本年度は、数と計算部門を92項目1588問題として1回を10題から30題位までに段階別にならべた。

数学(数と計算)学力診断カード

項目	月日	誤答数 問題数	プロフィール EDCBA	復習 問題例	確認
15. 最小公倍数	9/20			$2^2 \times 3 \cdot 3^2$ のLCM	
16. 位取り記数法	18/30			十進数→二進数	○
17. n進数の計算	12/20			$34_5 + 20_5$	○
18. 正の数負の数	5/21				
19. 正負の数加法	8/25				
20. 正負の数減法	11/24				

- **プロフィール** ABCDEはそれぞれ問題数の20%の割合で決定し、折れ線グラフによってあらわせるようにした。
- **復習問題例** 自己の誤まった問題例を記入し帰りの短学活で、家庭学習にこの種類の問題をやってくることを約束させたり、授業後の個人質問の手がかりにさせている。
- **確認** 教師または生徒が、家庭で学習してきたことを確認し、それに類する問題を1-2題提出し、正解を得た場合○印をつける欄として進めている。教師が直接指導や助言を与えるのは、プロフィールのC以下のものにかぎっている。

<生徒のアンケートから>

- 「自分でも気がつかなかった欠かんが見つかりよかったですと思っています。」
- 「質問する手がかりもできていいと思う。」
- 「私自身がうまく使いたい。」

### (5) 相互批評

作文指導をする場合に、相互批評をさせることがある。個々の作品の上に、半紙半折をとじて、読んだ者に互いに感想や指摘したいことを書かせるのだが、作品は班内を一巡すると、すくなくとも5名の者の批評を受けることになる。時間のある場合や、多くの作品に接し、多くの批評をさせるという意図のある場合には、班と

班の作品を交換させればよい。つぎつぎに書かれていく。ちっとも抵抗がなさそうに見える。楽しそうにさえ見える。もちろん、漠然と批評させるのではなく、書くときの目的やねらいがその視点となることはいうまでもない。

自分の作品に対してみんながどんなことを指摘し、どんな感想をもらしてくれるだろうか、誰の顔にも期待と関心がみなぎっている。自分の評価と、仲間の評価とのあいだに大きな開きのあることがわかる。どれを読んでもかなりの確かな批評がなされている。書かれたことに対する対話もある。「作文が楽しくなった」ともらす生徒が多くなった。たとえ同じテーマで書いても、こんな考え方やとりあげ方があるのかと、互いに吸収し合うことも多い。ものの方見方や考え方が多様化し、深化するのに役立つ。

ぜひ学級全体でとりあげたいような作品も、相互批評の営みのあとだけに、容易に推せんできる。個から班、班から全体へと、学習の拡大もスムーズである。

このような活動は、特別に作文という時間でもなくても、ノートを交換し合わせて、他の考えにふれさせるような学習をする場合にも有効である。

評価活動が学習を生き生きさせる一つのよい例ではないかと思う。

### (6) 態度評価

態度評価はどうあるべきかをここでふれるつもりはない。態度に関心をもたせ、態度を評価させるような配慮をすることが授業を進めるうえでたいせつだということが言いたいだけである。

認知目標なくして態度目標は設定されようもないが、態度目標なくして認知への到達が充分であろうはずもない。所詮、学習過程における評価の中には、この態度への要素が盛られなければならないであろう。しかし、認知への評価の中には、すでに態度も含まれているという考え方もうなずけないわけではない。ただ、期待したい態度を具体的にとり出し、それを意識化させた方が生徒たちは活動しやすいということである。もちろん認知目標に迫るための態度目

標でなければならぬ。それを学習過程の中で適宜意識させ、評価させるわけである。たとえば次のようにもなろう。

例①

単元 夢を語る (作文教材) 3年

1. 投げかけられた作品や課題について、あなたはよく考えましたか。

真く	よく	時には	あな	まみ
剣考	く考	は考	な	な
にえ	考え	えな	ま	な
よた	えた	か	か	な
		つ	つ	か
		た	考	つ
		た	え	た
			た	え
			え	た

2. 自分の感じたことをあなたは班や学級全体の場で話せましたか。

よた	だは	話るた	あな	ほみ
くつ	い話	しした	な	な
話も	たし	こさ	ま	な
しり	いた	もあ	か	な
		あ	り	か
		あ	つ	つ
		つ	話	話
		さ	さ	し
		た	た	て

例②。協力して実験にたずさわったか。

- ・安全に気をつけて作業をおこなったか。
- ・自信をもって話せたか。
- ・勇気を出して跳ぶことができたか。

これらは、たとえば先にあげた(8)自己評価表の中の項目として当然吸収されるべきである。

(7) 観察評価

これは、生徒相互でも可能な場合はあるが、(たとえば実技を伴うような活動に対して互いに観察評価し合うこと。)教室での授業の多くでは、教師が生徒に対して行なうことが多い。1時間の学習活動に対して観点をしほり記録していくとか、幾人かの生徒を観察の対象にし、

気づいたことを記録するとかである。これまたしかに即時評価なのだし、たいせつなことなのだが、これまであげてきた生徒の評価活動はいくらか質を異にするのでこれ以上はふれない。

(8) 学習指導案での位置づけ

評価活動や、評価への観点・留意点を指導過程欄にもりこむようにした。教師がまず意識しなければならないからである。言うまでもなく、授業研究をする場合の授業者の意図をより確かに示したかったからでもある。

題材 論理と構成 <(2)機械との共存>

指導過程 (3年)

指導内容	留意点・評価の観点
1. 全文を通読し、文章全体の要旨をとらえさせる。	
文章全体の要旨をなるべく短いことばでノートにまとめよ。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を</li> <li>・前時の学習をふまえて簡潔に要点をおさえて自分のことばで書かせる。</li> <li>・全文のおおよそを知って以下部分読みに入らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あくまでも第1次仮説としてとらえさせる。従って班やクラスでの話しあい略。詳しく読んで得た要旨と比較検討する第4時の資料とする。(自己評価をさせる)</li> </ul>
2. (1)の文章の全容を読みとり、構成をとらえさせる。	
(1)の文章の構成を次の手順でとらえよ。	
(1)の文章の形式段階4つについて各々要旨をとらえてノートせよ。	

- 概括的な文と、それを詳しく説明している文とを区別させる。
- できるだけ自分のことばでとらえさせる。
- その結果を指名して板書させる。
- 班で話し合わせる。
- クラスで補正させる。

- 机間巡視をする。
- 積極的な態度で参加しているか(観察)
- 姿勢はよいか(〃)
- 要旨からはずれているような解例があったら指名して書かせる。
- 論拠をおさえながら話し合っているか。(観察・相互評価)
- クラス段階で確認をしっかりとる。

- 中心語句を確認する。

4つの形式段落が互いにどう結びつき、どう展開しているかを6つの型にあてはめて考え図式化せよ。

- 指示語・接続語に注目させる。
- それがない場合は特に意味上のつながりから追求させる。
- いく通りもの図が予想されるので、班内で話し合わせる。
- その結果を班ごとに板書させる。
- クラスで討議させ、できるだけしぼらせる。

- 文と文とのつながりに準じて考えさせる。
- 机間巡視をする。(観察視点は同上記)
- いく通りもの図が予想されるが、あせらず十分討議させるのをしぼっていく。
- だいたいのがしぼれてきたら教師が説明し、納得させる。
- しぼりきれないときはむり

にしぼらず次  
時へ持ちこす。

- 8. 図式化された構成をふまえて、(1)の文についての第1次仮説としての要旨とみだし(前時にかいたもの)を補正させる。

前時の要旨とみだしを再検討し、補正せよ。

- 要旨について補正した結果を発表させる。
- みだしについて補正した結果を発表させる。みだしについてはできるだけ多くの例を発表させ、
  - 要点をおさえられているか。
  - 読み手の注意をひくような配慮があるか。
 などという観点からいくつか整理させる。
- 確認させる。

- 図式化がうまくいかない場合も予想できるのでその場合はこれを次時に持ちこす。
- 各自のことばでとらえたものを尊重し、中心語句などで確認する。

### 次 時 予 告

学習過程における評価ということで、つたない試みのいくらかをあげてきたが、それらのいずれもは、形式が整っていきえすればいいというものではない。だいいち、評価活動がまじめに、意欲的に、しかも学習は自分のものだという前提でなされなければ問題にならない。学習のしつけや、学習集団としてのモラルの成熟を期す努力の過程のうえに、この試みは開花していくだろう。

それらを支えるものとして、学習訓、たとえば、「白なら聞くな、赤で聞け」「なぜそうなのか言ってみよ」等や、学級や班が設定する“今日のめあて”たとえば「班長の身になろう」「〇〇さんに発言させよう」等、よりきめのこまかいものがあげられる。班日記の果たす役割も大きい。班日

記は、単に生活一般のことにとどまらず、学習中のことが多く指摘され、学習についての反省や相互評価の場にもなっている。

ともあれ、さまざまな要素の中で、それが自己評価であろうと相互評価であろうと、その活動の基盤は、やはり「個人とペア」なのだろう。フィードバック作用を促すために、「わからなかったら聞いてみよ」「わかったら説明してみよ」と、私たちがいつも言い続けてきたそのことが、じつはすべての形式に優先する評価の条件ではないだろうかとつくづく思うのである。

#### 4. もたらされた授業の変化

2の(3)で仮説をあげた。そのひとつひとつについて、ここでくわしくふれることが順序であることは知っているが、科学的分析的にそれを考察する段階でもないし、資料にも乏しい。前項8の中で、その個々を通してそのおおまかなものをいくらあげておいたが、一応の傾向が判断できるにすぎない。

ただ、漠としたことばだが、この試みをするようになってから、教師や生徒の、授業に対する構えがかわってきたことは確かだし、それぞれの仮説を充たす方向に動きだしたともいえる。いずれかの機会に、ぜひこの変化をとらえ、実践の結果を考察してみたいと思っている。

#### 5. おこりそうな問題

研究ということになると、どうしても焦点化されたテーマを重視しすぎ、他がおろそかにされたり、教師や生徒に無理が生じやすいという結果を招きやすい。私たちは、そのことを心にとめているつもりではある。

評価活動は、学習のどこにもとり入れることができるだけに、それを意識しすぎ、あるいはそのさせ方が好ましくないと、生徒が学習の中でつまらぬことにこだわったり、萎縮に似た現象をおこしてくるかもしれない。どんな時に、どんな形でという配慮はいっそう必要であろう。また、評価の内容や形式を考えないと、そのために多くの時間や負担を、教師も生徒も共に負わなければならないであろう。深く究めるために幾度かは必要な

場合ものつうか、ひとつかふたつの単元を試みて後、挫折してしまうようでは本物とはいえない。常時の学習活動の中で継続でき、教師にも生徒にも負担にならないようなものを考えていかなければならないと思っている。

もちろん、評価即指導という立場をとれば、このようなとらえ方は論理的に矛盾しているが、評価活動への留意点をはっきりさせたいために敢えて述べた。

#### 6. 相対評価との問題

学習過程における評価は、そのほとんどが絶対評価である。効率をあげ、学習を充実させようとする教師ほどこれに力を入れるだろう。しかし全員が、いくらかも学習目標に近づくような努力がはらわれても、学期末には五段階評定という相対評価が待っている。通知表云々の論議はされてもこの二つの関係がはらむ問題は、本質的に解決されてはいない。それに、中学校の現実はその簡単ではない。

みんなが学習目標に近ずき、あるいは到達できたとしても、ペーパーテストをすれば必然点数による序列はできる。そのわずかな差をもって、頭から五段階に分けられていく。学習過程をだいにし、即時評価や絶対評価を重視する教師にとって、その努力がいっそう矛盾を深めていくというのは、まことにやりきれぬ問題である。相対評価のもつ意味もわかるけれど、入試における調査書重視の方向の中で、いま私たちはこれを口にしてはいけなだろうか。

#### 7. おわりに

私たちの試みは、これまでもしばしば述べてきたように、まだまだ浅薄で、とても批判に堪え得るものではないが、みんながいっしょうけんめいになっていることは本当である。「毎日が充実している」ともらず教師もいるが、みんながひとつのテーマを柱とし、それに向かって努力を惜しまぬ姿は尊い。

だが私たちは、歩みの中であって、実践の裏には理論がなければならないことを強く思う。理論に支えられながら、学習過程と評価活動の一体化

をめざし、評価基準や評価方法などに目を向けて  
進みたいと思っている。ご指導が頂けるよう心か  
ら期待するものである。

個人見解をどう同じくか  
有意味なものの判別

# 第4回バズ学習全国集会

## バズ学習への取りくみ

広島県豊田郡安浦中学校

武本忠義

### 1. 転動して

過去数年間のバズ学習の実践校から、今年度は新しい学校に転動した。新しい学校にかわってみて、今さらのようにバズ学習のすばらしさと、それを創りあげた教師集団の力の偉大さが感じられる。

私の学校では、ほとんどが一斉学習の形態なので、どうしても、やりにくくしょうがなかった。一体、生徒たちは分っているのかどうか、反応がない。しきりに肯いて聞いているから安心していると、全然理解していなかったり、生徒達とのつながりもなく、一時間、一時間の授業が不安の連続だった。

一部の生徒だけを相手にし、大部分の生徒が無関心なのではないかという不安にいつもつきまといわれた。

### 2. バズ学習へのとりくみ

以上のような状態では、どうも納得がいかず、バズ学習を取りいれようと決意したのは、一ヶ月もたった五月の初めだった。

五月上旬まず小集団の形態でおこなった。小集団の班は、クラス担任が分けていたので授業でもその班をそのまま使った。

授業の流れとして、以下の様に実践して

いる。

- (1) 本時の学習すべき目標を確認させる。
- (2) 教科書・資料集から準備課題を出し、歴史の流れをつかむ。(予習課題を毎時間だしているので、予習から流れはつかむことができる。)
- (3) 中心課題のなかで、重要点をバズする。
- (4) 初期の段階なので、簡単な調べの事項、年代、語句などについてみんなで話し合うことから始める。
- (5) 各班で発表させる。(だれでも発表できるよう考慮しているが、現在、きまった生徒が発表するが多い。)
- (6) 発表したことについて、疑問や質問をさせせる。(ほとんどでない。)
- (7) 教師が板書し、まとめる。
- (8) 学習目標の確認。

以上の要領で、約二ヶ月間やってきたが生徒達の反応はまだまちまちである。七月十日に、三十八名のアンケートをとってみた。その結果、小集団でやる授業のほうがわかり易く、楽しいという意見が二十名、おもしろくなくむだ話も多くて、話し合いにならないという意見が十八名、約半数の生徒は反対であった。

賛成の生徒の中には、班で学習するとひ

とりでするよりも、みんなで話し合えるのでよい。ひとりだとわからないことも、班で教えあうとよくわかる。

反対の意見を詳しくみると、むだ口、むだ話し、それに話しの進め方をどのようにしてよいかわからないという意見が多くみられた。

バズ学習に対して、あるひとりの生徒は『以前の班は、男女の仲があまりよくなかったので、話し合いもめったによくいくことがなかった。社会の時間がくるたびどうなるだろうと、不安だった。しかし、話し合いをすると少しは意見がでる。自分の思っていたことと、ちがう点がよくわかり、勉強するのに、家で調べてみようかという気持ちがわいてくる。人の前で自分の意見をいうことは、勇気がいるしちがっていたらはずかしいと思う気持ちからそうだった。今ごろは、試験だったので、その勉強を中断しているが、これからもやっていきたい。』（原文のまま）

このように、バズ学習の目指すものを、ある程度前向きに受けとめている点に注目したい。

### 3. 同和教育とバズ学習

私の学校では、過去数年来同和教育に真剣にとりくんでいて、私も、目下勉強中で、相互点検などにより、自己変革をはかっているが、ここで同和教育とバズ学習について考えてみたいと思う。

まず、私たちは『集団』を、可能性を最大限に開発する条件であるとともに、差別と分裂支配にたちむかう絶対条件ととらえ

要求によって結ばれ達成すべき目標を自覚することによって成長するような『集団づくり』に苦しんでいる。

授業についていえば、すべての子どもが授業をきちんとうけたい、わかりたい、能力を豊かに伸ばしたい、という要求を出しあう。さらにそれをたしかめあい、実現しようとする集団を創りたいと思っている。

より具体的に、バズ学習を含めた小集団のグループ学習の必要性を考えてみよう。

- (1) なんでも言える学級………言いにくいものをもった子（貧しい子、恵まれない子、学習の遅れた子など）がいちばん言いにくいことがいえる学級。そのためには、グループや教師の支えは無論のことグループ学習により、何らかの発言をさせることが必要である。
- (2) 日常の授業の中で、遅れた子を出さない。遅れた子が追いつけるようにするために、仲間の力で遅れたものの学力をあげてゆくことが大切である。
- (3) 一学級あたりの生徒数が多い。運動・勤務条件の改善。差別と選別と競争の教育を改める闘いを進めるとともに、学級全体が活躍するようグループ学習をおしすすめる必要がある。

以上、数例をあげたにすぎないが、同和教育をすすめるには、授業の改革、すなわち、グループ学習を取り入れることが大切であることを痛感させられる。

以上のよきな視点から、私はバズ学習の推進者になろうと思うのである。

（参考文献 同和教育入門、部落問題入門、同和教育と授業）

# 第4回バス学習研究集会

## —小集団を生かした 学習指導について—

日野中学校

川島氏

### はじめに

本年度は学力の充実に重点をおき学級づくり研究部と密接な関連をもちながら生徒の自主性、主体性を伸ばす学級づくりの基盤の上で小集団を生かした学習指導はどうあるべきかということにとりこんできた。

#### 1 小集団を生かした学習指導のねらい

生徒が主体性を発揮してひとりひとりが自主的に生き生きとした学習をやりとげていく姿こそ真の学習である。このような学習は生徒の充実した相互作用を通して生まれてくるであろうし、また学力を伸ばす指導と人間関係を高める指導の統合をねらう小集団活動を通じた学習の中から生まれるものと信じて次の点をねらうものである。

- すべての生徒を学習活動へ積極的に参加させたい。
- 話し合うことによって個人の思考の促進と拡大をはかりたい。
- 相互作用によって望ましい社会態度や価値観を育てたい。

以上の中から望ましい人間関係をたかめ学力の

向上をねらっている。

#### 2 小集団を生かす学習指導の手だて

小集団を生かした学習指導では特に認知的目標と態度的目標を相互促進の関係において同時に達成をねらう方法を組み立てなければ成果はのぞめない。そこで小集団活動を通して効果的学習をねらうために次の点を基本的にとらえて実践研究にふみ出した。

##### (1) 態度づくり

本校における態度づくりとは学習にとりくむための意欲的な態度の訓練と、生徒の相互作用を通してより効果的にするための学習のし方の二面を統合して態度づくりといっている。

望ましい知的理解に達するためには、望ましい自己成長への主体的で意欲的な態度が土台になければならないし、そのような態度はまさに望ましい知的理解に達する過程で育っていくものである。そこで

- (1) すべての生徒を意欲的に学習に取りくませるために、生徒ひとりひとりが学習することの意味や価値をつねに意識させるようにつとめる。

(ロ) 学校での学習における態度づくりは家庭にまで延長拡大されるように指導する。

基本的態度 みんなが学習にとりくもうとする心構や学習への意欲化

発展的態度 一つの問題解決を足がかりとして次の課題を発見しその問題点を追求していこうとする態度

## (2) 話し合いのルール

学習の場における話し合いの目的は、思考を深め理解を確かなものにするのが主なるねらいである。しかしその基盤となるものは個人の思考であってそれが充分におさえられた上で小集団の思考にはいるべきである。話し合いの具体的な方法として次の点が考えられる。

(イ) よりよい思考ができ、よりよい解決が得られるためにみんなが話しやすい雰囲気づくりを設定しなくてはならない。

(ロ) それぞれの発言する立場における基本的ルールとして

○ 個人発言の聞く話す態度

- ・最後まで聞く
- ・自分の考えとくらべてきく
- ・わかりやすくまとめる
- ・理由や根拠をはっきり
- ・結論をさきに
- ・相手の意見を誘い出すように
- ・創造的な発言を大切に

○ 代表発言について

- ・立場をはっきり・・・「私たちのグループでは・・・」
- ・グループとしての意見・・・「私たちのグループの多くは・・・」
- ・少数意見も大切に

## (3) 小集団の使い方

授業の流れの中で小集団を使うには次の二通りが考えられる。

- 授業計画において教師がはじめから意図的にとり入れる。
- 授業の流れに応じて教師の判断により臨機にとり入れる。

どちらの場合でも、ここは小集団の話し合いをさせた方がより効果的であるという、教師の適正な判断と確信の上に立ってなされるべきである。それには教師の深い教材研究と授業記録の実践分析の上に立った研究が必要である。そこで、小集団の使い方として、「どんなときに」「どんな内容を」「どのように」とり入れるのが効果的であるか検討してみると、

### (イ) どんなときに

- ・まとめるとき
- ・あつめるとき
- ・たしかめあうとき
- ・記憶や練習のとき
- ・相互評価のとき
- ・もっと深く考えさせたいとき
- ・ことがらを砕いて徹底させたいとき

### (ロ) どんな学習内容のときに

- ・既習学力を使って主体的学習ができる内容
- ・思考の過程において、生徒の反応が多様化することを予想できる内容
- ・個性的な見方、考え方を伸ばすことを必要とするような内容
- ・論理的思考から最終的に明確な結論の出るような内容
- ・問題点をさがさせることによって深められる内容

### (ハ) どのように

- ・スイッチ学習
- ・スタッフ学習

## 3 話し合いの質をたかめ全員参加をめざすための授業分析

話し合いの質を高めて、相互作用による学習効果をあげることを、実践的に理解するために、授業を通して、小集団の活動状況を分析研究してみた。このため、下表のような研究授業の観点をプリントして、全職員が共通の視点にたって授業研究をおこなった。

### 1 生徒の活動(班における)について

#### ① 話し合いへの参加について

- ② 話し合いの質の高まりについて
- ③ リーダーの活動状態について
- 2 発表態度について
- 3 個人→班→全体→個人の流れの中での学習内容の定着化
- 4 教師の発問と活動(課題, 小集団のとり入れ方)

私たちは、上記の観点にたつて、1年生の1学級を対象として、5回の研究授業をもった。それぞれの班に1人の教師がついて、班の活動状況を細かく観察し、分析した。

授業分析の研究から、判明したことは

- ① 学習における援助関係は、単に上位者から下位者へといった一方的なものでなく相互援助としてなり立っている。
- ② 学習指導面と生活指導面は密接につながり、相互に作用している。
- ③ 話し合いにおける構成メンバーの役割
  - イ リーダーが下位の生徒の発言の促進、まとめ、話し合いの質を高めるなどの役割をはたしている。(逆にさまたげている面もある)
  - ロ 他のメンバーからサイドリーダーが生まれ、話し合いのつなぎ、かみ合いがなされる。(油役、創造役、資料役、はげまし役など)
- ④ 話し合いの量、質を高めるには、発言ボス(発言をひとりじめするようなもの)、学習こじき(求めるだけで、自ら考えなかったり、わかっているでも教えようとしないうようなもの)、思考の枠はめ(成績上位者の飛躍した高度の意見で、学習がその意見に枠づけられ、学級集団の思考がストップしてしまうようなこと)、個をおさえる発言などに留意し、適切な指導が必要である。
- ⑤ 個人から班の話し合いに入る時には、学習態度が消極的で、発言もすくない生徒から先に発言させ、また、できるだけ、意見を集めるように指導する必要がある。
- ⑥ 班の活動状況を、常時、できるだけ正確につかむために、班メモをもたせ、話し合いの状況

を記録させることも必要である。

- ⑦ ノート指導で、個人思考(家庭学習)、班の意見、全体のまとめが、はっきりわかるように指導することも必要である。

たとえば、班の意見はノートに⑦の記号をつけるなど。

- ⑧ 教科担任と学級担任との連けいを深める必要がある。
- ⑨ 指導面での定着化への配慮に欠けていた。(課題、復習パス、家庭学習、ノート指導などで)

- ⑩ 相互作用によって話し合いの質を高め、学力の向上、定着化をはかるには、話し合いのルールの徹底、また上記①～⑨の指導に力点をおくと同時に、生徒のひとりひとりが主体的に問題意識をもって授業にのぞまなければならないこと。すなわち、適切で、明確な課題が設定されなければならないことがはっきりしてきた。

- ⑪ 多ぜいの教師の目で班の活動、話し合いなどの分析をすることを通して、生徒、班に対する浅い認識や誤った考え方が訂正され、生徒、班への理解を深めることができ、さらに小集団活動を授業の場にとり入れることが、有効適切であることの実証を得ることができた。

#### 4 課題を中心とした授業の構造化

前節の授業分析結果から小集団の取り入れの上で、特に留意すべき問題として、次のような点について確認しあった。

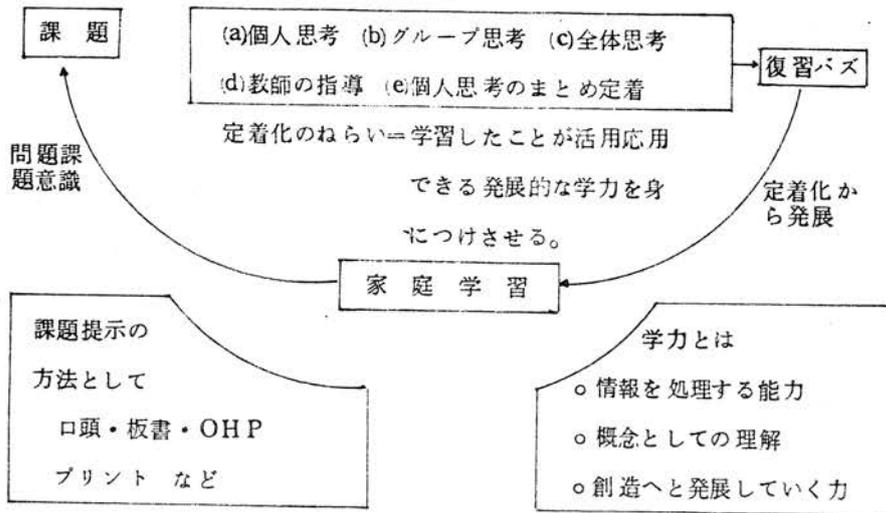
- 話し合いの質を高めるには、よい課題を与えることが必要である。
- 学習の内容や質的深さ、質的効果をあげるための小集団のとり入れ方を各教科で検討しなければならない。
- 主体的な学習態度の育成とともに、学習の定着化について十分な配慮が必要。
- 意欲的に学習に参加させるためには、全生徒が課題・問題意識を持って授業に望まなければならないこと。

以上のような反省と問題意識の上に立って、本校独自の「課題を中心とした学習への構造化」を

次のように考えている。

本校の課題による小集団学習の一般的指導過程

II



(1) 課題について

小集団において話し合いが成立するためには小集団を構成する一人一人が課題に対しての自分の意見の持てる状態になっていなければならない。教師は教科書をもとにしながらも、生徒の学習活動が容易になるようにいろいろな組みかえをすると同時に、いつ、どのような課題を与え、どんな時に、どんな学習形態をとり入れるかという事を考えねばならない。

課題は生徒から出るものにせよ、教師から出されたものにせよ、取舍選択をして多様なものから基本的要素を抽出し、構造化していくべきものである。したがって適切な課題の構成は教師の学習指導の最も重要な教材研究の一つである。

イ 適切なよい課題とは

- ① そこに含まれる情報を整理し、単純化しやすい課題であること。
- ② 新しい次の課題を生み、新しい学習へと発展性のある課題であること。
- ③ 応用のきく、機能的な知識・概念・原理

・法則が得られるような課題であること。

④ 適当な不確かさ困難さを持った課題であること。

⑤ 学習の定着化を図る課題であること。  
(記憶、練習評価)

⑥ 課題解決への所要時間が適当であること。また生徒の好奇心、探究心をそそる課題であること。しかし、これはあくまで一般的なものであって、体育や音楽等実技を主体とする教科においては、国語や社会などの教科とはおのずと課題の設定のしかたも変わってきている。例えば体育科における課題の出し方について

A. 正しい運動をするための視点を与える。

視点を与える方法は教師の師範・上手な生徒の利用・副読本・写真など。

B. 器械運動・マット運動等では要点を授業で指導し、反復練習は自由時間の課題にゆだねる。その場合期間は制限しておく。

C. 授業に入る前の課題として、準備運動

となるようなものを与えておく。

技能面だけでなく、補助しあっていたか、班員が真剣にとりくんでいたかなどの態度的な課題も与えておく。

更に、授業過程における課題設定の内容は、「何ができればよいか」「何がわかればよいか」と言うことを明示するだけでなく、テスト形式で例えば「鎌倉幕府のたおれた原因を3つあげよ」とか「三角形の外角の和は何度か、その理由も説明せよ」とした方がより生徒たちはとりつき易い。そのような課題であれば授業を終えたあとでどの生徒もきょうの授業についてのテスト問題作成までできるようにする。

ロ 授業過程にしたがって授業を分類すると



ハ 課題の設定のしかた

㉠ 教師が設定

教師が目標にしたがって大課題→中課題→小課題を設定し、その課題を生徒に明示する。もちろん小課題は中課題の、中課題は大課題の分節課題である。

㉡ 教師が大課題を、生徒が中課題・小課題を提出しその中から設定

㉢ 生徒が教師司会のもとに大課題・中課題を設定

単元全体について生徒と共同しながら全体の見通しを立て、大課題・中課題の設定を行ない、生徒たちはその課題にしたがって学習を進めていく。

㉣はいずれの教科においてもとられる一般的な方法であるが、生徒がより前向きに学習にとりくむ上からも、また生徒たちの考えている課

題意識をとらえる上からも、漸次㉠、㉡の設定方法がとられるようになってきている。しかし生徒たちの出す課題の中には後の学習に出てくるもの、直接学習に関係のないものなどが出されることがある。それらはカットしたり、またその場で解決できるものはその場で処理してしまうなど、めやすから外れないように。また、必要課題が出なかったら教師から引き出すようにすることである。そうでなければ教科の系統性が失われるおそれがある。

(2) 小集団活動を取り入れた指導過程

指導の概要として

- ① 必要な説明・教示を加えて課題を提示する。
- ② まず各自にとりくませる。
- ③ 次いで小集団で話し合い、各自に、あるいは集団としての思考・意見を出す。
- ④ 次は教師又は生徒の指示司会によって班発表と全体的な話し合いをする。
- ⑤ それについて教師の補足あるいは修正をする。
- ⑥ 最後に再び個人にもどして、課題についての確認をする。

があげられる。もちろんこれも教科・教材によって差異はある。上にもあげたように、基本は個人が生きることによって集団が生きていくのであって「話し合え」という前には必ず個人の思考がなされるべきであり、話し合いが終わると授業がおわるのではなく、もう一度個人にもどしてやる必要がある。

教師一人ではとうてい生徒個人の思考はうけとれないが、小集団による話し合いでは全部これを出して個人の思考を深めることができるのである。

(3) 学習内容の定着化をはかる

個人の定着度は、つけ加え課題などで教材内容が広がったりかなり高度化されたり、あるいは焦点がぼやけたりする面があるため学習の定着化はかなりむずかしい。しかし生徒自身が学習の主体であること。グループによる話し合い、協力、援助さらに全体による話し合いなどを通じての学習への興味、関心度の高まりは見逃せ

ない。なお定着のねらいとして、基礎的な知識技能も含まれるが学習したことを基に、更に応用発展できる学力を身につけさせる。

定着化のために留意している点

- イ 発表を明確にさせる。(自分のものにしてむずかしい言葉は、板書する)
- ロ 教師及び担当者(生徒)のまとめを通じて自分のメモを確認させる。
- ハ グループでの話し合いに、積極的にとりくませる。
- ニ 復習バズ、家庭学習で本日の学習整理をさせる。(ノートでの位置づけ)
- ホ 教師が生徒のつけ加え、まとめの焦点をしぼって、指導する。
- ヘ ノートの点検をできるだけする。
- ト ドリルを重ねる。
- チ 家庭学習として、自主的にとりくませる。
- リ 授業の中で、即時評価、相互評価を押しこんでいく。

## 5 復習バズ

本校では、第6限終了後の30分間を「復習バズ」の時間として設定し、おおよそ次に述べるような内容を実施している。

### (1) 復習バズのねらい

- ① その日に学習したことの確認とくり返し学習による知識の定着化。
- ② 校内学習から家庭学習へのパイプの場をつくる。
- ③ 話し合い学習における話し合いの技術や集団思考の訓練の場をつくる。  
(生徒指導の場 リーダーの動き 協力などの観察指導)
- ④ 自発的に学習にとりくむ態度を養う。

### (2) 復習バズの内容

- ① その日に学習した各教科の要点を話し合いによって復習するとともに、さらに、発展的な問題追求をする。
- ② 家庭学習(宿題)内容の確認

### (3) 復習バズの時間

30分を復習バズとして(3時35分から

4時5分)位置づけている。

### (4) 復習バズの方法

#### ① 話し合いのポイント

- ① わからなかったところを理解する。
- ② 抜けていたところをつけたす。
- ③ まちがって理解していたところを正しくなおす。
- ④ 明日の課題(宿題)の内容を確認する。

#### ② 話し合いの形態

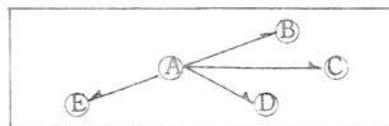
形態については、その時その時に応じていろいろ使い分けている。

##### ① ペア法

1つの班が6名のところは2名が組んで学習を進める。しかし、1つの班が5名のところは、2名と3名に分れて学習を進める。

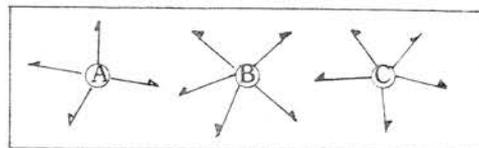
##### ② 設問法

その日の学習の要点を問題にして、お互いに出し合いながら学習を進める。



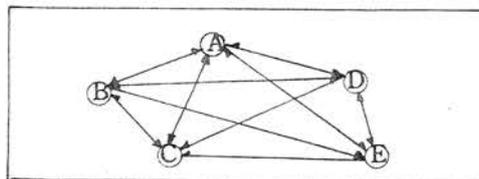
##### ③ 輪番法

班のメンバーが順番で、その日の学習の要約を発表しつつ学習を進める。



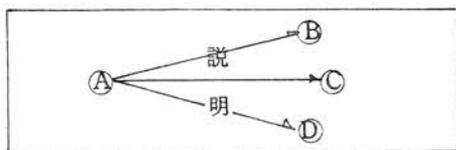
##### ④ 自由会話法

班のメンバーが自由に発言しつつ学習を進める。



#### ㊤ リーダー法

班のうち一人だけわかっている生徒が、班のメンバーにわかっていることを説明しながら学習を進める。



#### (5) 復習バズの心構え

時間は30分。そのためによほど上手に学習を進めないと、その日の全教科をこなすことは無理である。そこで、効果を高めるための心構えとして、「3S」を掲げた。その「3S」とは、

Speed(スピード) はやく、能率をあげる  
Switch(スイッチ) 教科のきりかえをする  
Scrum(スクラム) 班のメンバーが協力する  
の三つである。これを根底に置き

##### ① 生徒側

3時35分のベルとともに、話し合いをはじめ。

教科がかたよらないように、その日あった教科をする。

家庭学習の内容を確認するが処理はしない。

##### ② 教師側

担任教師はベルとともに教室へ行き、生徒の活動状況を見る。

教科担任は授業の終わりに予めきょうの復習バズの問題を指示をする。

教科担任は1学級からの要請により生徒の質問に答えたり、指導にあたる。

## 6 家庭学習

家庭学習は、生徒の主体的創造的な学習をねらう自由な場であるが、本校では、放課後の復習バスと翌日の授業——特に小集団活動を取り入れる場合——との有機的存在として、家庭学習も指導の対象として重くみている。

### (1) 家庭学習のねらい(定着・補充・探究)

きょうの授業のポイントの整理(理解すべきこと、記憶すべきこと)をする。

学習内容に関連した問題練習をする。発展的な課題発見と問題点の発見(予習)

#### (2) 家庭学習への指導

家庭での学習時間とか、家庭学習のあり方については個人差ということを考えて主として個人指導をしているが、班内での相互批判や励ましによる効果が大きい。

##### ① 家庭学習の点検

###### ① 教師による点検

生徒の毎日の家庭学習のようすや成果などについては、毎日の学習ノートの点検や班日誌を通して指導助言をするようにしている。

###### ② グループによる点検

家庭での学習時間とか、学習内容についてのグループ相互間で点検して、はげましあうことによって習慣化するようにしている。

本校では、授業→復習バス→家庭学習が常に円運動をおこして、それが一本のパイプで結びついていなければ、全体的、総合的な学習体制ではないと思っている。そのために、いつもパイプをつまらせないように、円運動が円滑にいくようにそれぞれの教師が常に留意するとともに、各学年会、各部研究会、あるいは全体研究会で話し合い、絶えず問題意識をもって研究を進めている。

## 第4回 バズ学習全国研究集会

# 父母と共に成長する地域バズ学習の実践

新潟県新潟市立曾野木中学校

( 舟 越 和 吉 )

### 一 バズ学習へのとりくみ

#### 1. 重点目標

〔主体的生活態度の確立〕

学習指導と生活指導を一元的にとらえ主体的意識の育成をめざして、曾野木の合言葉「その気(曾野木) その意気、その力」をかかげ、自己自身と他への呼びかけとする。

目標達成のための努力事項として「バズの基本を身につけさせる」ことをとりあげた。

#### 2. 実践への動機

本校の生徒は、クラブ活動には、きわめて積極的で自主性、協力性もそなわっている。この意欲と気力を学習面においてもとりくむため、「学習習慣の形成」ということを研究目標としてとりあげてきた。

そして、どうすれば学習習慣を身につけ、主体的に生活や学習をすすめることができるかの究明が求められた。それは、学校全体が望ましい学習集団として育成していく指導体制であり、これをバズ学習に求め、実践研究することになった。

#### 3. バズ学習に対する構え

##### (1) 生徒をかえる教師集団になる。

ひとりひとりがどんなにすばらしい考えをもち努力してみたところで、教師集団がばらばらだったら、到底成果は期待できない。

教師集団が一つの方向で行動することは、子どもの教育効果をあげるための手段や前提としてあるのではなく、教育そのものと深く

かかわる問題なのである。

今までに、数多くの教師の個人的実践記録に接した。それは、たしかにすばらしいものであったが、そうした実践記録が教師集団のものにまで発展した例はきわめて少ない。このようなすぐれた多くの個人プレーの実践が教師集団の共通理解のもとに、より高い次元につながらないわけはなんであろうか。私たちは、もう一度、原点にかえって、教師の姿勢について「ほんとうの教育」をするということ、みきわめなければならない。

教育の基盤は人間関係であり、その中核をなすものは教師集団である。そして、ひとりひとりの教師の主体性が発揮される方向で進まなければならない。

##### (2) 学習主体を子どもに移す

私たちのめざす教育は、子どもに主体的な意欲と行動力を、ひとりひとりにどうつちかかっていくかの追求である。

従来の一斉指導は、教師が中心になって「させる」しかたであり、子どもにとっては「させられる」立場である。おもしろみや楽しさという条件がなくなると自動的に学習意欲を喪失する。興味が真に意欲化し、結実してくるためには、それが学習者自身によって主体化されていなければならない。「〇〇のために勉強する」「やらせられるからする」といった受動的な態度が学力向上の真の要因となりうるか疑問である。

バズ学習には、子どもたち自身が、心の底から「やる気」になる原理がある。教育は授業の中で子どもが、どう活動したかということで評価されなければならない。

### (3) 地域ぐるみの教育をめざす

私たちは、バズ学習をとおして「ひとりの客もない」学習をめざしている。そして「ほんとうの教育は何か」「曾野木の子どもをどう育てるか」といった観点になって、学校・家庭・地域の三者が、それぞれの役割を明確にし、有機的なつながりの中で教育を考え、新しいものを創造する。

市公民館と提携して父母を対象に家庭教育学級を設け、子どものよりよい成長を願う父母自身の学習をとおして理解を深めることや、生徒・父母・教師の地域懇談会、PTA研修旅行、PTAバズ研修会、地域バズ学習等積極的な姿勢で教育に対処する。

## 二 地域バズ

### 1. 地域バズの発足

本校は生徒会の校外分団が9つあり、大体、農村集落ごとにまとまっている。

この校外分団の指導は、従来、毎学期のはじめと終り頃に、長期休業の有意義な過ごし方をテーマにしたもので生活指導が中心であった。

ところが昭和46年度末に一年間の反省がなされた時、ある校外分団会議で、次のような問題提起が生徒の中からだされた。

「毎年 校外分団で奉仕作業をしてきた。地域のために大人からよろこんでもらうということで、地域の神社を清掃したり、お盆の墓参りに行く道路の水まき等をして、この頃地域の人がよろこんでくれない。だから、やってもはりあいが無い。やる必要がないだろう。」というのである。そして、どこの父母も一番よろこんでくれるのは勉強することであるというのである。

そこで、姫路市の高丘中学校では、町内バズをやっているが、参考にしてほしいと説明した。

このことについて、さっそく生徒達は3年生が中心になって協議した結果、地域の公民館をつかって地域バズをやりたいとの要望がだされた。

ただちに職員会に報告し諒解を得て、PTA

地域班長に連絡し、父母の会が召集され、実施にふみきることになった。

### 2. 実施手順

生徒が自主的に、地域バズを持ちたいと言いだしたのは、昨年度末のことであった。実際に発足したのは4月から嘉木地域であった。

発足と同時に、他地域の代表が、その様子を自主的に参観にきた。そして、自分たちの地域(校外分団)の生徒を全員集めて協議し、まともと地域担当の教師に、発足手続きを要請するまでになった。

地域担当教師は、すぐにPTA地域班長に連絡し、父母の会の召集を依頼する、父母の会で賛成成立すると、具体的な計画をたて、父母の手で準備し開始された。

現在までに、5地域が やりたいと言いだして、PTA地域班長の協力で、実際に実施しているのは、4地域である。

各地域とも、週一回、2時間、地域公民館に集まり、父母の管理のもとに運営している。どの地域も全員参加で、父母が2～3名ずつ当番にあたり、生徒の校外分団長と連絡をとり学習がすすめられる。

### 3. 地域バズのねらい

(1) 家庭教育、学校教育、社会教育の統合の広場として、地域バズを発展させる。

(2) 個人学習と集団学習の統合をはかる。

(3) 自主的な活動と連帯感を養ない、健全な集団活動をとおして、郷土愛をもつ子どもに成長させる。

(4) 父母同志の相互理解と子どもたちを客観的に理解することができ、子どもとともに父母も成長する。

(5) 生徒、父母、教師の人間関係がより深く培われてくる。

(6) 生徒の学習習慣が身につく、意欲的な生活態度が養われる。

### 4. 地域バズの内容

#### (1) 地域バズの形態

- ① 日時 週一回 2時間
- ② 場所 地域公民館
- ③ 単位 校外分団
- ④ 参加 地域中学生全員
- ⑤ 班 学年毎に6人を基準

男女混成

⑥ 内容

ア 学習バズ

(ア) 二教科(90分)

(イ) 学年単位(班)

(ウ) 学習の流れ

黙想→個人学習→バズ(班単位)

→答合せ

イ 生活バズ

(ア) 同じテーマを分団長の司会ですすめる話し合い

(イ) 話し合いの内容

○学習面に関すること

○生活面に関すること

○地域のこと

○その他

(ウ) 話し合いの流れ

バズ(班単位)→全体発表→まとめ

と処置→父母の助言、感想→連絡

ウ 清掃

エ 日誌記入

(2) 父母の役割

① 地域バズの運営

② 会場の整備 管理

③ 父母の当番割当

④ 生徒の観察

⑤ 相談 助言 感想

⑥ 日誌の記録

⑦ その他

(3) 生徒の係

① 学習係

ア 教科毎に学習係をきめる。

イ 教科担任と相談して、学習課題プリントを作成する。

ウ 解答用紙を用意する。

エ 班員に学習準備の連絡をする。

② リーダー

ア 校外分団長、副分団長になる。

イ 当日の運営

ウ 生活バズの司会

エ 班編成

オ 学習係の選出

カ 清掃割当

キ 日直割当

ク 先生、父母との連絡

ケ 決定事項の交渉

③ バズ班

ア 学年単位に編成する。

イ 男女混成

ウ バズ長の選出

エ 日直、清掃分担

(4) 教師の役割

① 側面的援助者

ア 問題作成指導

イ 生徒指導

ウ 父母、生徒との相談、助言

② 軌道にのるまで直接指導にあたる。

③ 教師の指導は自主的参加

④ 要望があれば学習や生活指導にあたる。

⑤ 地域懇談会には、積極的に参加し、話し合いをおして 子どものより一層の成長を共に考える。

(5) 地域懇談会

① 父母と教師の話し合い

② 生徒と父母の話し合い

③ 生徒、父母、教師の三者会

④ 内容

ア 地域バズの反省 要望

イ 生活に関すること

ウ 学習に関すること

エ 教育相談

オ 父母の学習会

カ 地域に関すること

キ その他

5. 各地域バズの実践

(1) 嘉木地域

① 地域のようす

嘉木地域は、ほとんど純農家で、戸数54戸中非農家は5戸である。

水田は平均2haの耕作で、そのほか野菜のハウス栽培を行ない冬期間の1~2ヶ月を除けば、きわめて多忙な地域である。

地域のまとまりもよく、教育の関心も高い。

② 実施までの経過

3月18日 校外分団会議で、年度反省をおこなった際、奉仕活動のことで問題になったことは、前述した通りである。

地域バズを実施するかどうかで協議した際

最後に採決したところ、20名中3名の反対があった。反対の理由は、見たいテレビ番組と重複する。個人で学習した方がよい等の意見であった。

けれども、3年生が中心になって都合のよい曜日や、教え合い学習の必要を説いてなんとか納得させた。

### ③ 父母の会

P T A 地域班長の協力で、地域父母の会を4月2日に開くことができた。

この会では、20名中15名の父母が出席した。地域バズ実施全員賛成、積極的協力を得るにいたった。

そこで協議し確認されたことは、

- ア 公民館を使用して学習させる。
- イ 学習機がない、各家庭で、昔使用した丸飯台6ヶ借りて学習机にする。
- ウ 父母の当番は2人ずつとする。
- エ 夏になると防虫網が必要になるので、自治会に要求して予算化する。
- オ 軌道にのるまで教師に指導をお願いする。
- カ 曜日、時間については、生徒の要求を全面的にとり入れる。

### ④ 生徒の組織

- ア 学年毎に、各教科の学習係をつくる。
  - イ リーダー（校外分団長）の進行で学習をすすめる。
  - ウ 毎週土曜日、午後6.00～8.00
  - エ 国語 社会 数学 理科 英語の五教科を学習する。
  - オ 一回に二教科の学習と生活バズ合わせて2時間とする。
  - カ 日直は3年生から輪番に割り当てる。
  - キ 学習後の清掃は、1年生から行なう。
- 以上のように、生徒たちは具体的な方法について打合せる。

### ⑤ 学習バズ

五教科の中から、一回に二教科ずつ組合せて実施する。

学習係が、教科担任と相談して作成した課題プリント（学習係の自作課題もある）を、学習するのであるが、はじめのうちは慣れないためもある、色々な問題点がだ

された。

- ア 個人学習とバズの時間帯が、はっきりしない。
- イ 学習内容（課題プリント）が多かったり、少なかったりで時間調節がうまくいかない。
- ウ 個人学習の時間とバズの時間が混同し、けじめがない。
- エ 忘れものをする。
- オ 解答を学習係が、わすれてつくらない。
- カ 学習係と教科担任との連絡不十分で、課題が不適當であった。
- キ むだ話が多い。これは、何回か実施されるにしたがって、しだいに落着きをみせ、2ヶ月あたりから、きちんと学習でき、むだ話がないように変化してきた。
- ク 真剣にとりくむ姿勢ができてきた。
- ケ リーダーが注意して、きちんと学習できるようになってきた。
- コ 個人学習とバズの時間区別ができるようになってきた。
- サ 学習係が自作問題をだす傾向が多くなってきた。

### ⑥ 生活バズ

最初は、学習の反省程度のものであったが、生徒の要求も多様化してきたので、6月に入って（2ヶ月後）次のような内容の話し合いにまとめ掲示した。

#### 生 活 バ ズ

1. 今日の学習はどうであったか。
2. 学習係に注文することはないか。
3. 地域や父母にお願いすることはないか。
4. 一週間をふりかえて反省する。
5. 今日の学習について、父母の感想を聞いてみる。
6. 連絡。
7. その他。

これまでに出示された反省や要望をみると、

- ア 学習をすすめる上で、柱時計がほしい。

- イ 電灯が暗いから増設してほしい。
- ウ 数学の先生から指導してもらうことはできないか。
- エ 1年生の声が大きいので小声で話すようにしてほしい。
- オ 父母の当番は早くきて、公民館の鍵をあけてほしい。
- カ 日直は10分前にきて、準備をしてほしい。
- キ 遅刻がないように、各自注意すること。
- ク 課題は復習の内容からだしてほしい。
- ケ バズは、真剣に深まりのあるものにしたいたい。
- コ 大変よくやれた。
- サ 2年生の態度が立派であった。
- シ 父母の感想から
  - 活発な発言で大変よい。
  - もう少し、きちんとやってほしい。
  - さわがしい感じがする。
  - 皆んなが発言してよくやっている。
  - 公民館がきれいになった。これはよく掃除してくれるのと、利用する父兄たちも自覚するようになってきたことではないかと思う。
  - 真剣に学習する様子を見て、親としても大変よろこんでいる。父母のできる協力は惜しまない。

⑦ 地域バズの懇談会

父母の当番が、ひとまわりしたので、反省会をもって、これからの指針にするため、教師と父母の会を開くことが、父母の要求できめられる。

この日は、父母は全員出席であった。相当関心が高まったあらわれであると判断している。

ここで話題になったことを次にのべてみる。

ア、自分の親が当番の日は、遅刻しないようにと子どもが注意してゆくようになった。

イ、家庭では、みられない子どもの様子がわかってきたことと、他人との比較ができて、とても参考になる。

ウ、勉強の習慣がついてきた。

- エ、成績がよくなってきた。
- オ、地域の仲間意識ができてきて大変よい。
- カ、夏休み中に映写会を持って変化を持たせることもよいのではないか。
- キ、夏休みと冬休みは父母と子どもが夕食を一しょにした懇談会を持ちたい。そのために、お母さん方の協力をお願いしたい。
- ク、月に一度位は、激励のために飲物を提供したい。
- ケ、軌道に乗ってきたので教師の指導から離れて様子を見る。
- コ、部屋の敷物が汚れているので、とりかえてやる。
- サ、部活動で、遅刻する生徒がいる。学校側で検討願いたい。
- シ、地域バズが終って帰る時、夜道をこわがる。
- ス、今は意欲的であるが、これからさき、だらけたり、問題があったら学校と連絡をとって軌道にのせる。
- セ、このまま成長すれば、青少年育成会の子ども会にも協力意識がでて、そのよきリーダーになることが期待される。

⑧ 地域バズに関する調査

[対生徒調査]

1. 地域バズの勉強について

(1) 地域バズは楽しく勉強できますか。

	1年	2年	3年
楽しい	3	6	2
中くらい	3	2	2
楽しくない	1	0	1

(2) 地域バズは、あなたのためになりますか。

	1年	2年	3年
ためになる	5	5	1
中くらい	2	3	4
ためにならない	0	0	0

(3) 地域バズでの勉強はよくわかりますか。

	1年	2年	3年
わかる	4	4	0
中くらい	3	3	5
わからない	0	1	0

(4) 地域バズに 父母は賛成していますか。

	1年	2年	3年
賛成	7	8	5
どちらでもない	0	0	0
賛成しない	0	0	0

(5) 地域バズで、きみたちの要求や地域のことについて、話し合うことは必要ですか。

	1年	2年	3年
必要	5	4	2
どちらでもよい	2	3	2
必要ない	0	1	1

(6) 地域バズで、父母が参加していることは、よいことだと思いますか。

	1年	2年	3年
よい	5	4	2
どちらでもよい	3	4	3
よくない	0	0	0

(7) 地域バズをこれからも続けたいと思いますか。

	1年	2年	3年
続けたい	4	4	2
どちらでもよい	3	4	3
やめたい	0	0	0

2. 地域バズ学習と家庭学習について  
(50%以上ならバズ優位)

	1年	2年	3年	計	項目別
勤	100	100	100	100	
機	71.4	87.5	80.0	79.6	64.3

づけ	気楽にできる	142	125	60.0	289	
	やる気になる	71.4	75.0	0	48.9	
理解度	よくわかる	85.7	75.0	100	86.9	68.9
	よくおぼえる	85.7	25.0	60.0	56.9	
	よい考えがうかぶ	57.1	62.5	200	45.6	
	やり方がわかりやすい	100	75.0	80.0	85.0	

3. いままで、地域バズをやって

	1年	2年	3年
開始時間はこのままでよい	5	6	5
週一回でよい	6	7	5
一回に2時間でよい	6	7	5
曜日はこれでよい	6	8	2
五科目でよい	6	6	5

この調査で、わかるように、ほとんどの生徒が、地域バズに参加してよい面を認めている。意外なのは、日頃うるさいと注意されがちな1年生が、2年生、3年生よりも、高く評価していることである。特に 父母が、こぞって賛成しているのも、その影響も見逃がせない条件であると考えられる。

(対父母調査)

- 地域バズは、よいことだと思いますか。
  - はい \_\_\_\_\_ 18名 18名
  - いいえ \_\_\_\_\_ 1名 1名
  - 無答 \_\_\_\_\_ 1名 1名
- 地域バズのどこがよいですか。
  - 勉強するようになった \_\_\_\_\_ 5名
  - 教えたり、教えられたりして、協力して勉強するのがよい。 \_\_\_\_\_ 16名
  - 父母が、他の子どもと比較してみられてよい。 \_\_\_\_\_ 1名
  - 先生と人間関係ができてよい。 \_\_\_\_\_ 10名
  - 子どもを理解できるようになった。 \_\_\_\_\_ 5名
  - 父母同志の理解が深まった。 \_\_\_\_\_ 1名
  - 地域の仲間意識ができてよい。 \_\_\_\_\_ 8名
  - 勉強の習慣が、できてきた。 \_\_\_\_\_ 9名
  - テレビをみなくなった。 \_\_\_\_\_ 1名

- (10) 子どもとの対話が多くなった。 5名
3. 地域バズのよくないところはどこですか。
- (1) 勉強が深まっていない。 1名
- (2) 以前とかわらない。 5名
- (3) むだ話が多い。 6名
- (4) 時間のむだで意味がない。 0名
- (5) 子どもが参加したがない。 1名
- (6) 父母がみているのでいやがる。 4名
- (7) 夜遊びのくせがつく。 0名
- (8) 交通事故が心配だ。 2名
- (9) 帰りの夜道が心配だ。 4名
- (10) 道が遠くてかわいそう。 0名
- (11) 夕食がおくれ、子どもが腹をすかせ、やる気を失う。 2名
- (12) 父母が忙しくて、めいわくだ。 0名
- (13) 勉強の中味が心配だ。 1名
4. いままで、やってきた地域バズは、
- (1) 開始時間はこれでよい。 18名
- (2) いままで通り、週一回でよい。 18名
- (3) 週二回がよい。 2名
- (4) 土曜日でよい。 18名
- (5) 一回に2時間でよい。 20名
- (6) 五科目の勉強でよい。 16名
- (7) 五科目以外もやった方がよい。 1名
5. 地域バズを、どう思うか。

	はい	どちらでもない	いいえ
地域バズは賛成か	15	4	0
父母の参加はよいか	14	5	0
子どもの態度や行動がよくなったか	7	10	1
父母の参加は、仕事にさしつかえるか	0	17	3
これからも、続けていきたいと思うか	18	2	0

以上の調査結果からみて、ほとんどの父母が、地域バズの良さを認め、深い関心と期待をもっている。

しかし、地域の仲間づくり、学習習慣の形成等の深まりを認識しながらも学習の中味が、学力向上につながっていくのかどうか疑問をもっている父母が少なくない。

また、交通事故や夜道の心配もあり時間帯

のとり方も、学校の部活動との関係で、冬期間になると、問題点となることが予想される。けれども、地域バズの基本的なねらいについては、相当認識され、このバズの効果を人間形成という観点でとらえていることは、注目すべきことである。

## (2) 鍋淵地域

### ① 地域のように

全戸数56戸中純農49戸。副業として養豚2戸。他は農閑期に出稼ぎに行く地域である。

集落が細長く、公民館は中央に位置している。平均2haの耕作で、恵まれた地域といえる。

### ② 経過

地域バズについては、先進地域の嘉木のようすを参観に代表3名が、5月6日に行き、すっかり影響された。1週間後、地域生徒全員を集めて、参観報告をする。

協議の結果、全員賛成して実施を決定する。

ア、日時 土曜日 午後7～9時

イ、場所 鍋淵公民館

ウ、内容 国語 社会 数学 理科 英語の五教科

エ、その他

学習係 当番 清掃 班編成等

### ③ 父母の会

農繁期のため、子どもの申し入れから2週間おくれて、5月30日、PTA地域班長の召集で開かれる。

出席予定者19名中14名出席する。

担当教師から、生徒の自主的な決定であること。父母や教師の協力を要請してきたことであるという報告のあと協議にはいる。

ア、父母の当番は2名とし、上地区の方から全員順番を組む。

イ、防虫網をとりつける。

ウ、地域バズの運営委員を4名きめる。

エ、冬期間 荒天の時は延期する。

オ、時間帯は、子どもと相談して、希望をとり入れる。

カ、6月3日から実施する。

### ④ 実施と考察

- ア、当初は遅刻が多かった。
- イ、学習態度は、きわめて真剣である。
- ウ、学習係の事前準備がよくない。
- エ、学習の時間配分がうまくできない。
- オ、1年 2年にむだ話しが目立つ。
- カ、父母への要望

- 便所に電灯をつけてほしい。
- 防虫網をはやくとりつけてほしい。

キ、父母から

- 勉強時間を大切にしてほしい。
- 自転車の整理をきちんとする。
- 発表は遠慮するな。
- むだ話しが目立つ
- 熱心で感心した、バズに期待する。
- 遅刻しないよう気をつけてほしい。

### (3) 楚川地域

#### ① 地域の様子

地区の中心部にあり、純農と非農家の割合も半々である。非農家は、サラリーマン自営商工業が多い、また、ハウス、養豚もさかんである。地域のまとまりもよく、教育熱心である。

#### ② 経過

4月に年度はじめの校外分団会議で、担当教師から、地域バズの話聞いたが、一人も賛成者がなかった。

4月22日、嘉木の地域バズを3年生の代表4名が自主的に参観する。

大変刺激されて、5月15日に全員召集をかけ、地域バズについて、参観報告と話し合いをもち、その結果、全員実施することに決定する。

#### ③ 父母の会

ア、農繁期であったため、おくれで5月29日午後8時に開かれる。

イ、出席予定者23名中13名の父母と生徒代表3名

ウ、PTA班長あいさつ

エ、担当教師の経過報告

オ、協議

- (ア) 全面的に賛成であり協力する。
- (イ) 父母の当番は2名にする。
- (ウ) 日時は生徒の希望をとりいれ 水曜日午後7:30～9:30分とする。

- (エ) 場所は地域公民館の二階を使用する。
- (オ) 水曜日の他の会合は、さけるよう公民館長に要望する。
- (カ) 電灯を増設する。
- (キ) 父母の運営委員を8名選び、その処理にあたる。
- (ク) 6月7日より実施する。

#### ④ 実施と考察

ア、第一回の地域バズ

(ア) 発会式

父母7名参加

(イ) 電灯の増設 柱時計とりつけられる。

(ウ) 学習態度

- 3年生が立派であった。
- 学年が下るにしたがい、むだ話しが多い。
- 1年生は、男女別班構成であるので、混成に組みかえる。

イ、学習係と教科担任の課題打ち合せがよくない。

ウ、課題がむずかしい

エ、個人学習とバズの区別がつかない。

オ、父母に要望

- (ア) 防虫網か殺虫剤がほしい。
- (イ) お茶を休けい時間にほしい。

カ、父母から

- (ア) 規律がよくない。
- (イ) ただおもしろいだけでは困る。学力向上にがんばってほしい。
- (ウ) 後始末をきちんとする。
- (エ) 休けい以外は席を立たない。
- (オ) 自転車の整理をする。
- (カ) 下足の整理がよくない。
- (キ) 父母の当番連絡は、生徒からしてほしい。
- (ク) 学習態度は立派である。このまま継続するよう努力してほしい。

#### (4) 四ヶ字地域

##### ① 地域の様子。

純農地域であるが、交通の便がよく団地の入口にあり、戸数も増加しつつある。近い将来には、住宅地になる可能性が高い。以前から子ども会の育成に力を入れたこともあり、教育に対しては、熱心であり、そ

のためのまとまりもよい。

② 経過

4月28日 嘉木の地域バスを3年生の代表が見学する。

その後、3年生が中心になって、5月15日放課後自主的に校外分団会議を開き、協議の結果、実施を決定する。

③ 父母の会

ア、5月2日午後8時半

イ、出席者 27名予定のところ9名

ウ、PTA地域班長のあいさつ

子どもたちから、自主的な要求があったが、親として、どう協力態勢をもつかの提案がだされる。

エ、協議

(ア) 出席父母が少ないので、承認を得るため、欠席父母の個別訪問で協力を求める。

(イ) 開始時間を生徒の希望をとりいれて、火曜日午後6:30~8:30分の2時間にする。

(ウ) 地域バスの運営は、各地区の評議員があたる。

(エ) バスに必要な経費は、地域の特殊性から、各生徒の家庭負担として割り当てる。

(オ) 6月20日(火)から実施する。

④ 実施と考察

ア、第一回は、市の春季体育大会が雨天で延期された日であり、明日をひかえて練習があったため、遅刻者が多く、開始時間20分おくれる。

イ、欠席一名(3年)1年、2年は全員出席する。

ウ、2年生の学習係が連絡不十分で課題がなく、自習する。

エ、1年・3年は意欲的であるが、少しさわがしい。

オ、父母に要望

納戸 かとり 緑香がほしい。

カ、一年生から始業時間をはやくできないかという希望がだされる。

協議の結果 大多数がこのままを要求したので変更にはならない。

キ、発会式

(ア) 分団長あいさつ

親子の対話や復習の確認、教え合いのできる地域バスのよさを説明

(イ) 父母代表のあいさつ

(ウ) 教師の激励

ク、注意事項

(ア) 遅刻をなくそう

(イ) バンは、家庭で食べてから出席するようにしてください。

(ウ) 学習係は担当教師とよく連絡して課題を研究する。

ケ、第二回から全員出席

コ、学習のきまりが不徹底で、だらけた。

サ、2年生は、課題が簡単であったため、学習の途中からむだ話が多かった。また、席を立つものがいて注意を受けた。

シ、個人学習を20分予定していたが、もう少し延長してやった方がよい。

ス、学習係に、工夫した課題を出すようにとの要望がだされる。

セ、父母から

(ア) けじめがない。

(イ) 遅刻しないように注意する。

(5) 団地地域

① 地域のようす

市の住宅造成地区として、現在500戸入居している。さらに拡大されつつあるので、将来は、この地区の中心的役割をはたすことが予想される。職業も雑多で、自治会もまとまってきつつあるが、他地域に比較して連帯感が薄く協調的でない。

② 経過

5月18日 校外分団会を召集し3年生の提案で、嘉木の参観報告をする。そのよさとして、他クラスの仲間とお互いに教え合いの勉強ができる楽しさを強調する。

1年生に反対者5名あった。その理由として、テレビがみられないということ。そこで、3年生が説得して、火曜日であれば可能ということで、7~9時迄実施することに決定する。

③ 父母の会

生徒たちから再三の催促で、PTA正副班長が、学校に来られ協議した。そして、生徒の希望をとり入れてやりたいが、団地は、父母の協力態勢に問題があるので、時間をかけて諒解をしてもらうためすぐにはできないということであった。

6月11日の父母の会では出席者28名中11名、班長の経過報告のあと協議にはいる。

ア、やる、やらないは父母の態度にある。  
イ、出席者11名なので決定できない。  
ウ、どうするかは、後で個別に意見を聞いて、班長・副班長の相談で決定してもらう。

④ その後のようす。

父母の半数位が積極的に賛成でありながらまとまることができない。一部の父母は、賛成の父母だけで実施することを申し出ているが、今後長続きするものにしたいということで、時間をかけて協力態勢づくりをすることにした。

(6) その他の地域

地域バズにまとまらなくて実施していないところは、ほかに4地域ある。それは、次の理由によるものである。

- ① 実施しようと努力したが、個人学習を希望するものがいてまとまらなかった。
- ② 校外分団長がやる気がなくまとめようとしない。
- ③ 帰りの道が遠いことや風紀上心配な地域であること。
- ④ 人数が少なく、学年によってはバズにならない。
- ⑤ 一部の父母が、必要性を認め動きだしているが、まとまるどころまでできていない。

### 三 むすび

1. 戦後、地域社会自体連帯感が失なわれている。そして今また、その必要性がさげばれている。地域バズを通して父母同志も、生徒たちもより一層の人間関係を深め、地域づくりに貢献することができるのではないかという希望をもっている。地域社会が子どもたちの心のよりどころとなるものに成長することを期待したい。
2. 父母は教育に対して関心を持っているが、現実には学習塾、家庭教師、学校まかせてなんとかしようとしているだけである。地域バズで、父母と生徒がともに考えていく教育こそが大切であると思っている。
3. 現在の社会生活において問題となっている家庭の個別化、情報化といった点からも、健全な集団活動を育成する必要性がさげばれている。今の子どもたちが、地域バズをふまえた活動の中から自主的・主体的な姿勢で、新しい地域づくりに対処する社会人に成長するであろうことを信じている。

4. 地域バズを推進してきた学校の基本的な姿勢は、①地域（校外分団）の生徒が自主的にバズをやろうとするまとまりと意欲があること。②地域の父母に協力態勢があること。③家庭から、わざわざ公民館まできてバズ学習をなぜするのか、その意義をはっきりつかむことの三点ですすめてきた。

また、地域バズの学習態度を、学校の授業における学習ルールを基本姿勢とし学力と人間関係の統合を旨として、自己実現できる人間を育成したい。

5. 学校では、全分野にバズ学習をとりいれて学習集団を形成してきた。

地域バズ学習が、生徒の自主的な要求から組織され、教師や父母を動かして実現したことは高く評価されるべきものであると確信している。このような生徒の姿勢が学校における指導体制と父母の理解による協力によって、地域から地域へと啓発されてきたことは、私たち教師集団にとっても、大きなエネルギー源となるし、教育の方向にも自信を得ることにもなった。

しかしながら、当面解決しなければならない地域バズ実施上の問題点もいくつか指摘されている。生徒の交通安全、教師の勤務時間、父母の協力態勢、経費の問題、未組織地域の啓蒙、小学校や社会教育団体との提携等の問題がある。

一方、この地区の特長として、各地域（校外分団単位）が、みんな地域公民館をもっていることである。だから地域バズの会場で困ることはない。しかもほとんどの地域自治会が電灯料・会場の使用料は無料で提供している。

さらに、意識調査にもあったように、父母が地域バズのよさを認め、すすんで協力するようになってきている。また、親自身がバズ学習の研修を望むようになってきた。ETEA研修会もバズ方式で自ら体験し、問題点を正す姿勢をあらわしてきた。

地域バズの目指すものは、子どもをとりまく地域全体を望ましい社会集団として育成し、将来を見通した全人教育でなければならないと考える。

私たちは、地域バズを学校・家庭・地域の三者の有機的なつながりの中で発展するものと考えている。そしてこの集団活動をすすめる中で新しい地域を一步一步創りあげる地域集団に高まっていくであろうと信じている。

そういう地域にこそ真の教育と子どもの成長が期待できるものと確信している。

# 主体的学習の実現をめざして

## 香川県善通寺市立東中学校

### 1 はじめに

昭和41年、42年度に生徒指導推進校として文部省の指定をうけ、「学級担任の行なう生徒指導」をテーマに、小集団指導の育成に全職員一丸となつてとりくみ、I・S・C・G教育の研究と実践を進めてきた。それを母体として、主体的学習態度の育成により意欲的な学習活動の促進をめざして、昭和44年度よりバス学習の研究を進め、46年度には授業バスの充実、さらに本年度は、バスの充実発展をめざして、社会バス、家庭バスの研究実践にとりくんでいる。

### 2 研究の歩み

#### (1) 生徒指導推進校としての研究と実践

##### ○それまでの本校の実態

校区は、善通寺市の東半分で、5小学校の生徒900名あまりを収容し、2つの同和地区をもっている。

校区の大部分は農村地帯で占められているが、欠損家庭も多く、不適応生徒の多くは自己統制のできない。逃避的傾向の生徒で、毎日の学習に真剣にとりくめない状態になっていた。

問題生徒の数もまた多く、これらの生徒がが起す問題行動のため、教師はその事後対策にのみ狂奔させられる結果となっていた。

##### ○テーマと研究内容

こうした中で「学級担任の行なう生徒指導」をテーマとし、生徒自らが自分の足で立ち、自分の足で歩くことができるようになることをめざして、自主的集団の育成ととりくんだ。

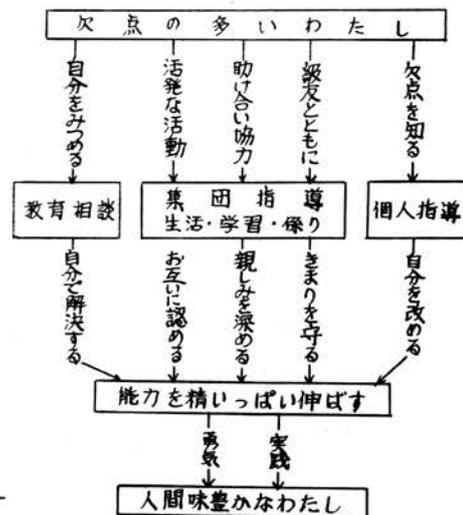
生徒の自己実現をはかるため、小集団指導をとり入れた、すなわち、生活グループ・学習グループ・係りグループがそれらで、その頭文字をとりI・S・C・G教育としてとり

くんできた。

生活グループは、入学当初や年度初めの学級意識や連帯感に乏しい成員を学級としてまとまりのあるものにするためにグループを構成し、学級生徒の相互の人間関係の調整と改善を図り、気軽に生活できる基盤として、男女混成班とし、成員の意志を尊重して班長および係員を決定する。学級は6グループ編成とし、1グループは6～7名となっている。いつでも、だれにでも、なんでも言えるふんい気を作り、成員間の切磋琢磨をさせるようにした。

学習グループは、生活グループよりも小さいグループで、よりよい話し合いができ、自分の能力に恥じない、お互いに質問し、学習しあえる人間関係の深化をめざし、学力の伸長に寄与させるようにした。

係グループは、学級内の各方面の仕事を、その生徒の興味や関心などによってグループで分担させ、そして、各メンバーは自分たちに与えられた仕事にいつも関心を持って提案し、積極的な討議のあとで、グループ全員の責任として計画し、実践をさせるようにしている。



## ○ 研究の成果

このような教育実践により達成した最大の効果は、生徒が明るく規律正しくなり、非行が激減したことと、生徒と教師の人間関係が深まり教育の成果があがってきたことである。

生徒個人理解の研究によって生徒の真の要求を究明し、具体的な対策をとったために、いままで問題生徒とされた者も、自分の活動の場が与えられ、明るい顔で登校し、意欲的に活動している。

さらに、男女わけへだてなく教え合い、疎外生徒もいれて話し合えるようになったので各種クラブ活動の成果とあいまって、東中の生徒であるという誇りと連帯感を持ち、いままで問題にならなかった友人の問題とか、学級の問題とか、次々にとりあげられ、熱心に討議を重ねるようになってきた。

### (2) L・S・C・G教育からバズ集団へ

昭和41年～43年度にかけての、各学年に応じた、L・S・C・G教育の実践によって、次のような成果と問題点がだされた。

- (ア) 生徒の自主的な活動が生まれ、落ち着いたふんいきになった。
- (イ) 集団指導の一応の形はととのつたが、対話の不足が問題とされた。
- (ウ) 生活のリズム化の指導と「つなぎ学習」の実践。

以上のような成果をふまえて、それまで部分的に実施されていた「つなぎ学習」を「バズ学習」として、全校同一歩調で全学級が実践するようになった。

- (ア) 家庭学習への意識づけ
- (イ) 主体的な学習態度の育成
- (ウ) 気がねなく楽しい人間関係

以上の3点をねらいとして研究実践に励んできたが、既成のL・S・C・Gなどの集団と異なった特徴をもっているのに気づいた。

今までの集団における話し合いには、リーダーがいてその統制のもとに行なわれた。しかし、自主的な活動を求めている「バズ学習」では、だれがリーダーであり、だれがメンバーであるとかいう区別はなく、必要に応じて相互に何のこだわりもなく実施できる話し合いが生まれ、各個人が満足感をいだいて活動している。

すなわち「バズ学習」で表われる特徴は、

- (ア) 意欲的な対話
- (イ) 無秩序の中の秩序
- (ウ) 楽しい満足感

であり、この3点は、他の集団にも転用できるとし、今までのL・S・C・Gなどのグループに「バズ学習」の特質をねらいとし、バズ方式をとり入れて「バズ集団」と名づけ、その指導にあたった。

さらに、職員会でのバズ討議の採用、教科学習へのバズ学習の応用、自習時間でのバズ学習の活用などを計画し研究・実践にとりくんだ。

### (3) バズ学習の充実をめざして

44年度は、主として復習バズを45年度は授業バズの研究と実践をしてきた。その結果、生徒相互の人間関係が深まり、学習における話し合いも活発化し、意欲的にはなったが、話し合いに深まりがなく、発表もかぎられ、質問もなく、形式化しマンネリ化してきた。

教師自身も壁にあたり進展が見られなかった。そこで、昨年度は「バズ学習の充実」を学校課題とし、その壁を打破するため、原点にかえり学年団会、教科部会・全体会を通して、バズ学習のめざす方向

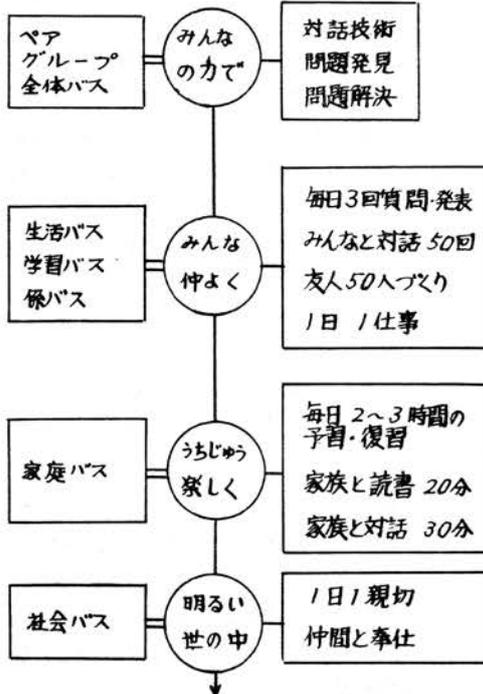
- ・学習指導と生活指導の一体化により人間性を高める「何を思ったか」「何を感じたか」から「どのようにして…」「どうして…」へ。
- ・自分たちの学習は、自分たちで。
- ・その日に習ったことは、その日に復習。
- ・知らないことはたずね、教えることで、いっそう理解を深める。
- ・助けあえない生徒をなくする。
- ・集団討議・集団思考の方法・技術を会得させる。
- ・明るい人間関係の樹立。

の再確認をし、さらに、これらバズ学習をエネルギー源として、今後、どう発展させ、深化させていくかの「到達へのスケジュール」を次のように立て、実践へ意欲的に取りくんでいる。

バズ形態は、1昨年までに一応の形はできていたが、全職員の意志統一に欠け、教師により教科によって差異が生じていた。それら一貫性のないことが、生徒の学習方法の習熟をさまたげ、さらに意欲を阻害して、いちじ

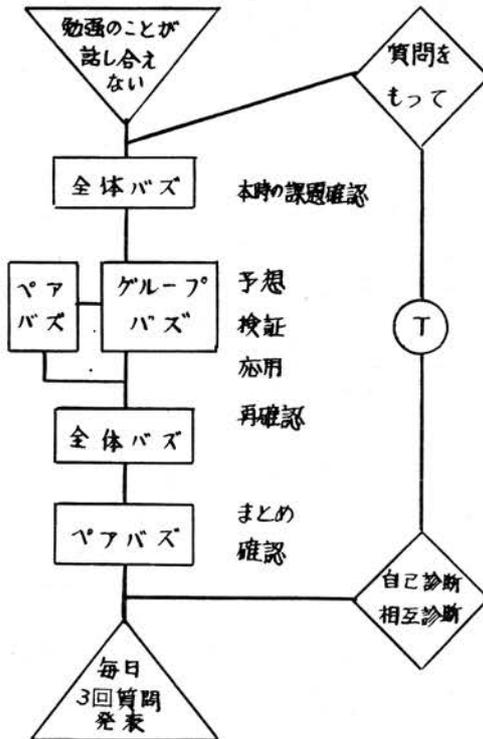
るしく学習効率を停滞させて、進展をはばんできた。

到達へのスケジュール

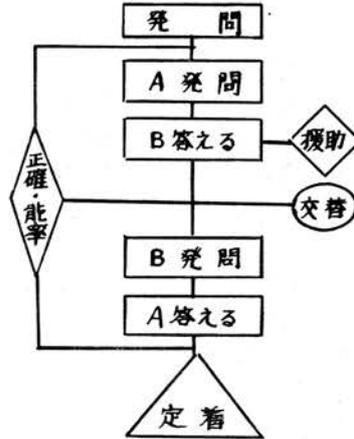


昨年度当初に、基本的な「バス学習システム」 「ペア方式」「グループ方式」の統一をはかり 全職員の意志統一のもとに実践している。

バス学習システム

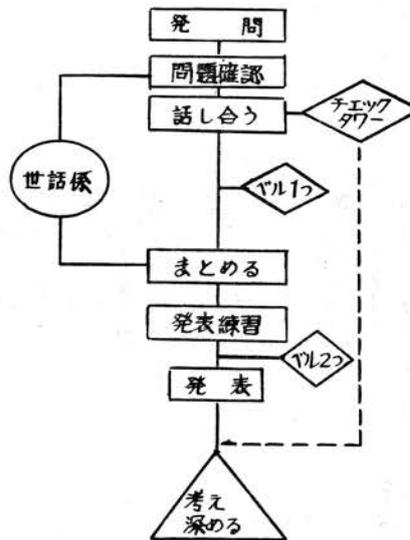


ペア方式 (ドリルのバス) 男女 異質



グループ方式 (話し合いのバス)

男女各2名 異質



以上のように基本形の統一をはかると同時に発表のさせ方・ドリルの確認の仕方など、訓練的な面も、基本線は統一し、全職員の研究授業を素材として研究・実践にとりくんだ。

その結果、従来にまして、生徒の活動が盛んになり、一段とバスが進展した。

しかし、研究授業後の反省会などで常に問題とされたのは、バスに参加しない生徒がいる、発表者も多くなったもののやはり限られている。発表内容に深まりがない、そのためもう一つ授業にもり上がりがいいなどであった。

そこで「バスを深めるための手だては一学習への全員参加を求めて」を研究テーマとして、学年研究部会・開発委員会・現職教育研究部会などで熱心に討議を重ねた。



2 つめは、資料を探し出すために長い時間をかけるより、1 目見てすぐわかる資料カードを使えば授業をスムーズに進めることができる。

私たちは、資料カードの利点を生かし、もっと積極的に能率的に、このカードを利用していきたいと思う。」

「バスをしている時、ただ次から次へと話していくよりメモ用紙に書きながら、自分でもう一度確認することができる。そして深く考え直せる。

みんなが、お互いにメモを見せ合うことにより、どこをどうすればよいか、ということがよくわかる。

発表のときも、何もみないで思い出しながら発表するよりメモを見ながら発表した方が能率も早く次のことへとつながる。

### 3 復習バスのねらいと位置づけ

「学習のしかたがわからない」「どのようにして学習してよいかわからない」という生徒が意外に多いものである。

家庭での生活も、その日その日の思いつきで生活し、宿題をするのがやっとで、予習はおろか復習さえもしない生徒が多い。それが毎日の授業に意欲を欠き、やっとなっていくという状態であった。

そこで、家庭学習をしないものために、帰りの学活の中で、一日の学習における問題点とか、宿題への意識づけのために、学習グループで話し合いをさせ、それを「つなぎ学習」と名づけて実施してきた。

きょう学習したことは、その日のうちに理解することを目標として、「復習バス」で、きょう学習した教科の柱・内容を明確にし、疑問点をだしあい、お互いに解決し、また課題の確認と、その学習方法について話しあい家庭学習へのつなぎとしている。

お互いに話し合うことによって、落伍者をなくし、励ましあって、仲間とともに向上し学習の方法を身につけ、学習効果を高めていくことをめざしている。

#### (1) ねらい

復習バスのねらいとして、次の3点があげられる。

ア 人間関係を高める。

協同学習により仲間意識を養成し、集団の成熟をはかり

望ましい社会的な態度や行動の発達をはかる。

#### イ 主体学習態度の育成

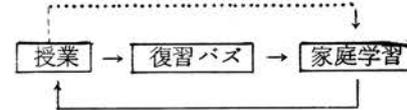
学習の方法や態度・習慣を学ばせ

家庭学習へのつなぎとする。

#### ウ 学習効果を高める。

#### (2) 位置づけ

土曜日を除く、週5日間、清掃後、短学活の前20分間を復習にあてている。



きょうの授業でのポイントをおさえ 家庭学習につないでいく。それが明日の授業に生かされる。

### 4 復習バスの経過

昭和44年度に、それまでの「つなぎ学習」を「バス学習」として実施した。

当初は、各学級によっていろいろな方法をとった。

- 学習グループで、班長が各人のむずかしかった教科をきき、教科をしぼって学習する。
- 同じ教科の復習するものが集まって、グループを作り、お互いに疑問点の解決をはかる。
- 学級全体で教科をきめて学習する。

また、週に何回かは教科を素材としないで話題になった、ニュースとか映画・講演など、また長学活の議題とならないで必要と思われることなどを素材として、グループで、感想を話しあったり、解決したりした。

これらの実践の中で、いろいろな問題点がだされた。

話し合いができない。

話し合い方法がわからない。

リーダーと個とのやりとりに終始する。

集団の人数が多すぎる。

問題をみつけることができない。

劣等感をもたせるような話し合いになる。

参加せず、参加しても意欲がない。

これらの問題点の解決のため、学年団会、現職教育部会で討議し、意志統一をし、生徒

どうしの相互訪問などにより、ひとつひとつ解決していった。

その結果、教科委員（各教科男女2名）を選出した。

教科委員の司会で、学級同一教科で進める。

その日の重要教科を教科委員の話し合いでとりあげる。

授業時の内容を「柱」「内容」に整理する。ペアで練習後、テストを行なう。

ことが提案され、全学級同一歩調で進んできた。

## 5 復習バスの充実

### (1) 授業の充実

きょう学習したことはその日のうちに理解することをめざして、復習バスでは、きょう学習した授業内容を確認し、疑問点を解消し、家庭学習につながなければならない。

授業内容を確実に把握すれば問題はないが、それは不可能なことである。各教科担任の授業が興味深く、生徒ひとりひとりによくわからせるものであることはもちろんであるが、生徒がきょうの授業の柱・内容とまとめられるようなものでなければならない。

### (2) 家庭学習へのつなぎ

今日学習した教科の学習内容の重点をおさえ疑問点を解決し、家庭で学習するわけであるが、20分間の短時間では、きょう学習した全部の教科については、とても話しあうことができない。

そこで、家庭でどんな方法で、どのようにしてまとめ、学習するのか、すなわち、きょうの家庭学習についての計画が必要になる。

20分間のうちの最後の5分間をとってきょうの家庭学習について話し合い、計画をたてるよう指導している。全員が生活のリズムノートをもって、きょうの計画を話しあいながら記入して、家庭学習への意識づけを行なう。

習朝の学活で、お互いに確認をしていくのである。

### (3) 生活リズムノート

1日の生活をどうするか、その日ばった

りの生活でなく、毎日が計画されたものであってこそ充実した生活といえる。すなわち、リズムのある生活ができなければならない。

1日の生活の中で学習を計画することがほんとうの実行につながるのではなかろうか。

このノートに記録することによって、リズムのある生活を作り、生活の向上をめざしている。

学校と家庭との連絡簿とし、毎日持参し週1回は提出させる。そして、教師と生徒との対話の一場面として活用している。

### (4) 復習バスの時間に週1回は生活バスを行なっている。

お互いに話し、聞き、いつでも、だれでも、仲よく話し合う。話し合い活動を通して、お互いの理解ができ、望ましい人間関係が育てられる。班ノート・リズムノート・コラムノート・映画・講演・演劇・ニュースなどを素材として、お互いに意見交換、感想発表をし、話し合うことによって自己の向上と人間関係の深まりをめざしている。

## 6 復習バスの実態

### (1) 1年の復習バス

1年がもつ復習バスのねらいとしては、お互いに相手を見とめ、教えられたり、教えたりし、助け合って、ひとりのお客さんもつくりださない学習面での仲間づくり、授業での意欲的な学習態度の育成、そしてふんい気づくりと、学習の方法を身につけ、家庭での自主学習が効率よくできることである。

経験の少ない1年生に始めから型を示しての指導は、かえって意欲をそぐことになる。

最初はドリル的内容のものを取りあげて機械的に、ペアバス・グループバスの訓練を積みかさね、一方教科でのバスと相まって、技術的な面の指導に力を入れている。

各グループ内で、問題をだしあい、そしてドリルをしていくのを主体として実施していく。この過程で、いろいろの問題点があげられるが、各グループでどう解決して

いるか、また、みんなでどうやればよいかを、生徒との話しあいでも解決していくことが大切である。

次の段階として、きょう学習したことをきょうのうちに理解をさせる。きょうの授業のポイントをおさえ、重要点を理解して家庭学習につなぎ、家庭での学習の方法を身につけさせることをねらって、教科委員の司会で、同一教科で、次の要領でおこなった。

柱・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科委員の話し合いで、教科決定・指示。</li> <li>グループで話し合い柱・内容をまとめ、発表・全員で確認。</li> </ul>
疑問点	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で疑問点の解決。</li> <li>グループで解決できなければ全体で解決。</li> </ul>
重要点	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要点を、グループでまとめる。</li> <li>重要点の発表・全員で確認。</li> <li>グループ・ペアで重要点のドリル。</li> </ul>
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の確認・課題解決方法の話し合い。</li> <li>家庭学習の計画。</li> <li>リズムノート記入。</li> </ul>

以上のような流れを主体とし、学級独自の方法で実施し、家庭学習の方法を身につけさせる。

学級担任の適切な指導と教科委員の養成生徒どうしの相互訪問などによって、なれあい、マンネリ化を防ぎ、実のある復習バスを実践している。

## (2) 2年の復習バス

1年生の復習バスの経験をもとに、自主学習の態度育成を大きなねらいとして、次のような要領で実施している。

グループ別・教科別の復習バスである。教科はグループごとに話し合いで決定し、きょう学習した教科の柱・内容・重要点の確認と疑問点の解決は、1年生と同じであるが、学級全体で行なわないで、短時間ではあるが、いくつかの教科について話し合

って効率をあげている。そして、家庭学習の計画にうつるのであるが、この点を最も重視して指導を加えている。この教科では「どこを、どのように学習すればよいか」「きょうは、これだけ家で学習しよう。」というように話し合いで、きょうの学習内容を申し合わせ、リズムノートに記入する。自分たちで課題をつくるわけである。そして、それが、明朝の短学活で、相互に点検される。

このようにして、自主的学習態度の育成をねらっているのである。

しかし、ともすると、うわすべり、なれあい、形式化、マンネリになりやすい。

グループごとの発表・相互訪問・アイデア交換・教師の指導などにより、励ましあいながら実践している。

## (3) 3年の復習バス

就職・進学をひかえての学年であるので家庭での自主学習と学力の向上をめざして進めている。

曜日によって教科(国・社・数・理・英)を決定し、3年間の学習のまとめのテキストを用いて、教科委員の司会で次のように実施している。

きょうの授業の内容確認と疑問点の解決	きょうの家庭学習での疑問点の解決	きょうの家庭学習内容(授業とテキスト)の申し合わせ
--------------------	------------------	---------------------------

テキストの復習バスと家庭学習の教科は

	月	火	水	木	金
復習バス	英	国	社	数	理
家庭学習	国	社	数	理	英

内容については、学年団会で系統的に学習できるように計画し、各クラスに流している。

学級担任は、リズムノートを通して、また、毎日の各グループ内での指導を通して個人指導を強化している。

## 7 ま と め

以上が私たち教師集団と生徒たちが、実践した足あとである。

自主性が見られなかった生徒たちが、自主的に、積極的に、お互いに手をとりあって、毎日の活動に真剣にとりくむようになってきた。

しかし、これらの成果の上になって、今後の実動をどう求めるか、どう壁を打破するか、いろいろの問題が山積みしている。しかし、

なんでも、だれとも話し合って、助け合って、実践しているこの教師集団、生徒たちが、

「よい学校は よい学級から」

「よい伝統は 2年生の手で」

「よい学校は みんなの力で」

をモットーに、さらにファイトをもやして、いっそうの努力を続けたいと思っている。

## 第4回バズ学習全国研究集会

### 学力向上と自主学習の定着化をめざして

—— 復習バズを通して ——

愛知県春日井市立坂下中学校

#### 1 本校のあらまし

国道19号線に縦断されている本校校区。南東に高蔵寺ニュータウンの鉄筋の偉容が見渡せる。ブルドーザーの騒音とともに住宅団地が急ピッチで造られている。北方に内津峠があり、峠のむこうは岐阜県になっている。そんな県境に近い丘陵地帯に街と田圃と畑があり、緑と澄んだ空気は今も充分である。このように国道の騒音をのぞけば市内でも最も自然環境に恵まれた地域を校区にもっているのが本校である。

全校の生徒は三百名を少しオーバーする程度の小規模校である。しかし、今まで静かであった、この地域にも都市化の波が急激におし寄せ、日ごとに新しい家が造られ生徒数の増加は目に見えている。職員数は二十名(事務職二名も含む)であるが、バズ学習に取り組んで以来、ひき続き在職している職員は、わずかに一名のみで全く新しいメンバーに切り替えられている状態である。

#### 2 復習バズの設定

日ごとに変貌しつつある本校校区の実態であるが、バズ学習に目をむけた当初は、まさにのんびりとした田舎そのものであった。そこに育った生

徒達は純真素朴でのんびりしていた。その裏をかえせば覇気がなく、すべて消極的であり男女間においても非協力的な面が多かった。また学習面においても極めて意欲が乏しく授業中における発言も少なく、活気のない一時間一時間であった。家庭での学習も全くむずかしい状態であった。こうした実態をふまえて「なんとかしなければならぬ」ということで、よりより話し合いを進め、その方策の一つとしてバズ学習方式に目を向けたのである。各教科においてはバズ学習方式を進める一方、第六時限終了後に復習バズの時間を四十分間設定した。そして話し合い、協力しようという相互活動を通して、お互いに理解しあい望ましい人間関係を育成するとともに個人の学力向上と自主的な学習態度の育成をけかるといふ大ききおれらいをもって取り組んできたのである。

#### 3 復習バズのあゆみと位置づけ

##### (1) 発足時

復習バズの最初の姿は授業後の十分間を利用し各バズ分団ごとに一日の学校生活の反省を中心に話し合うということであった。

バズ長中心に日常生活の問題は生徒自身の手でできるだけ理解させるようにし、この生活バズを

(1)

通して人間関係を高めるとともに自主性を高めることも願った。

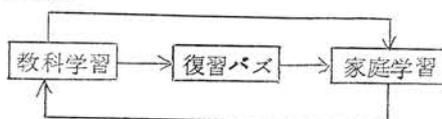
## (2)その後

40年度より土曜日を除く週5日間、第7時限目の40分間を復習バズにあてるようになった。

生活バズから話し合いの内容がかなり教科学習の範囲まで及ぶようになり、この時点で現在の復習バズの形態が整ったわけである。

- 一日の復習のしかたを全クラス統一して行なうやり方
- 国社数理英の五教科に教科委員をおき教科委員を中心に行なうやり方
- 各学年ごとに大体の型を設け、それに基づいて進めていくやり方
- 各クラスの独自性にまかせるやり方。

等々いろいろの方策が講じられ今日に至ったわけであるが終始全職員の考えの根底となっていたものとして、



上図のように教科学習から復習バズへ、復習バズから家庭学習へ、家庭学習から翌日の学習へと関連をもたせ、それぞれが順調に回転していくようにしたいという考え方である。その回転をよりスムーズにするための一種の潤滑油的存在になるのが復習バズになるわけである。また、40分の復習バズの中に必ず生活バズの時間をとり入れ、お互に一日の反省をするとともに相互の人間関係を高めるべく役割りをもたせることも忘れなかった。

## 4 復習バズへの取り組み方

復習バズは授業の発展として行なわれるもので、さらに家庭学習へ持ちこまれていくものである。

家庭学習は、あくまでも自主的な学習である。自主学習としての家庭学習がしっかりできるようになれば、明日への学習態度もでき、授業中の態

(2)

度、理解度、話し合いの深まりも一層の進歩が期待され、より高率な学習効果が得られる。生徒達がしっかりした目的をもって自己にあった計画をたて能動的に学習にたちむかう姿こそ自主的学習態度である。この態度の育成こそ最も重要であり、かつ徹底に困難な問題でもある。それだけに現職教育等に学級の実状などを持ちよって研究しあい指導し育成するように努力している。

現職教育では次の点を留意している。

- 教師集団の共通理解をつくるとともに復習バズへの意欲的な取り組み方を考える。
- 学校全体としてのミニマムをおさえて、共通な場をつくる。
- 学級の問題点の話し合いや情報交換の場とする。

これらの留意点を考えて、現職教育を行ない研修を深め、更に現職教育の場で話し合ったことを学校全体の基盤として、これをふまえた上で、あとは学級の特色あるユニークなアイデアのもとに復習バズの運営が担任によって行なわれるようになっている。また担任をもたない教師には、たえず仮定の指導案を考えて発表し、教師全体が同一歩調で進めていけるように考慮している。小規模校であるので教師集団の共通理解を深める話し合いは比較的よくできる。その利点を大いに利用して研究を進めている。

## 5 各学年の復習バズ ——実践と計画——

### ◎ 1学年の復習バズ

#### (1) 学年目標

生活バズを中心に置き、生活態度の向上をはかる中で、学習に対しても自主的に働きかける態度習慣を身につけさせる。

#### (2) 時間配分(年間計画)

年間計画

第1学期

学校生活になれ、まとまりある学級をつくる。

- バズ分団、学級、学校での約束、きまりなどを知ったり、つくりあげたりしていく過程で、集団の中の個人の存在を自覚させる。

第2学期

学校行事等にとりくむ中で、主体性をつくり、あわせて望ましいクラス意識の高揚をはかる。

- 水泳大会、体育記録会、音楽会、バレーボール大会などの行事が数多く催される機会を生かし、それらに進んで参加したり、また、よりよいものにするための話し合いを通して、主体性を養い、あわせてクラス意識の高まりを培わせる。

第3学期

自分にあった学習計画を立て実践する力を培う。

- 第1・2学期でつくられた態度的なものや習慣化されたものを礎にし、自分をよくみつめ、自己理解の認識の上で、より確かな学習計画の立案と実践する力を高め、あわせて、バズ間の相互作用を活発化させる。

時間配分(30分)

10分 — 生活学習日記(個人の反省)

↓

10分 — クラス反省(全体の反省)

↓

10分 — 復習と家庭学習の計画、確認

ここに掲げた時間の配分と項目は、一クラスの例である。バズ学習を進めるにあたっては、各クラス年間計画(学年の計画)をふまえてすることになっており、内容については、学級の独自性にまかされている。

### (3) 復習バズの内容

#### a 生活・学習日記について

毎日の学校生活で特に印象に残ったことを感想的に書いたり、学習についての記録を書くことにより、各人、一日の学校生活を反省し、明日への自分にプラスになるよう、そのあり方を考える。

(日記例)

- いつものことだが、私は朝そうじにとりかかるのがおそい。だからいつも清掃委員から注意される。そのためバズの平均点が少し下がるので、みんなにとってもすまないと思う。いつもおくれてくるわけは、朝クラブ練習をするからだ。私は1年生なので最後に着がえをしなければならない。そのために着がえが終わるのはチャイムが鳴り終わってからになってしまう。

家庭での勉強

英 先生にもらったプリントをする。

数 負の数、正の数の加減乗除法をする。

社 気候についてまとめる。

縄文、弥生文化をまとめる。

- 大変悪い日であった。理科の顕微鏡をのぞく時、特製の双子葉植物のプレパラートをわってしまったことは誠に悲しいことで、これからも顕微鏡を吾が班だけ見れないということになると班員に大変迷惑な状態になる。日比野先生にも小声でわびたが、聞こえたか聞えなかったかわからなかったので、清掃の時あらためてわびようとしたがみえなかった。担任の長谷川先生にも言わなかったのであらためてここに記す。

#### b クラス反省について

生徒の話し合いによって決められたバズ評価項目によって、バズ分団の評価をし、最優秀バズ分団をきめることにより、クラス全体の質的向上をはかるようにしている。

バズ評価カード

月	日	曜日	0	1	2	3	4	5	平均
忘れ物									0
授業中									1
清掃									2
規まり まとめ									3
									4
									5

全体の反省

.....

.....

.....

各バズ分団の評価にあたっては、評価があまりにならないように常に配慮している。

c 復習と家庭学習の計画と確認

1日の学習で不明な点について話しあい、互に理解しあうようにしている。  
家庭学習の計画のめやすをつけるようにする。

(4) 家庭学習のとらえ方

「その日に学習したことは、その日のうちに解決する」ということを念頭において、復習バズでたてためやすにしたがって、今日の学習内容をさらに拡大し、深化させる。

(5) 問題点とその方向づけ

家庭学習の評価の場をどこに見いだすかということ、評価基準をどのようにするかについては今後の研究に待つほかはないと思う。

◎ 2年生の復習バズ

(1) ねらい

1年生で生活バズをつくり、復習バズを経験した、2年生になって、教師と生徒の約束の上に立ってバズが分団をつくり上げ、学校生活の一日を、この分団を基盤に行動している。清掃当番、給食等、互いに協力し合い、人間関係を深めながら、

(4)

生活バズを確立している。学習においても、授業過程にバズが取り入れられ、全員が学習に参加し成績のふるわぬ生徒も、バズメンバーの力で引き上げるようにしている。このように、バズ学習のねらうものは、生活バズの基盤の上に成り立つわけで、バズ学習の効果をさらに深めるために復習バズがある。この復習バズの時間を明確に設定することによって、学校生活のまとめと家庭での学習のつながりができる。さらに、その日に学習した内容の要約、確認をすると共に、自主的に学習をする態度を養うためにある。

(2) 実施内容

復習バズの実施方法は、1学期に体制づくりから初まる。新しいクラス編成をした当初、互いに生徒間どうしを知るために、生活バズで、話し合いを多く取るようにし、2学期は、教科の復習を中心にしない、3学期には、学力をつける復習バズを計画している。一日のうちの復習バズの時間は30分で、最初の10分～15分を1日の反省の時間にあてる。バズ長を中心として1日の学校生活をふり返って良かった点、悪かった点を順に追って話し合う。そして、話し合った事をバズ分団の中で交代にバズノートに記録し、どのように反省点を解決していったらよいか話し合う。バズで解決できない場合、クラスの問題として話し合い、互いにバズの意見を出し合う。重要の内容の場合は時間を多く取る時もある。バズノートは、復習バズ終了後、担任に提出する。担任は、その記録にもとづいて意見を述べる。だから、バズ内の人間関係や、考え方が理解でき、指導の資料にもなり得る。

バズノート記入例

<p>今週のバズの目標</p> <p>理解できないところを積極的に聞こう。</p> <p>○月○日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そうじが協力してできたので早く終わった。</li> <li>・理科の時間、話し合いがまとまらない。答えがまちがったが、活発だった。もう一度家で調べることにした。 等</li> </ul>
---

1日の反省が終わると、今日学習したどの教科を復習するかを、各バズ分団ごとで話し合いで決め

る。バズメンバーは、同一歩調で学習するようにしている。一日で多くの教科が有る場合、重点的に時間をかけて復習する教科を決める。教科の内容で、家庭で一人でできる場合は、家庭へ回わし思考を要するもの、ポイントの確認等、互いに話し合って理解できるものを扱う。話し合いの仕方であるが次のようにしている。今日学習した事で、どんな事を理解すればよいか、そのためには、どんな内容をおさえるか、それを全員で確かめ、理解できない人を助ける。話し合った時のポイントや、自由に問題を出し合った時に書く、自由ノートも用意しているクラスも有る。

バズメンバーの活動の中で中心的になるバズ長の活動は、バズ長がすべて万能ではないから、まとめ役として位置づけし、学習する教科で得意の生徒がリードをしていくように指導している。次に、のこりの5分を明日の準備及び、家庭学習の内容や、その他の連絡事項にあてる。教科の中で問題をすべて解決したのではないので、残った問題や、教科の予習課題をどのように事前に準備して行こうか、計画を立てさせる。

### (3) 家庭学習のとらえ方

学校での授業は画一的なところがあるが、学習は個人に始まって個人に終わる。そこで、自分の特性を生かし、自分に合った独自性のある学習をすべきである。復習バズで、家庭での計画を立案させ、実行させる指導は、次の様である。

家庭学習の内容は、復習バズでできなかった事や、必要だと思った事を、再度確かめる。次に、問題集や、テキストを使用して、応用を深め、実力をつける。三つめに、明日に必要な学習の予習をする。教科によって、準備の仕方はまちまちであるが、理解できるところと、できないところを分けるだけでも、予習はなり立つ。けれど、授業での終りに、次時の予告に教師から与えられた予習課題に意欲的に取り組むと、次の授業が非常に理解しやすい。以上、生徒の自主性を重んじて、計画をされるわけだが、担任の確認も必要であるので、クラスによっては、ノートによって検閲している。けれど大切な事は、自分の実力をつけるために、強い意志をもって努力をすることと復習バズで、互いに話し合った事を実行することに意味がある。バズメンバーの話し合いに深ま

りができるのは、やはり、個人、個人が真剣に家庭での学習をしなければならない。家庭で学習して来た事を次の日の朝の短学活の時間に、生徒相互で確認をして、問題点や、どんな内容をして来たかの話し合いをしている。

### (4) 問題点とその方向

どんな方法でも、クラスで統一して行なうと、かならず、生徒の能力差が生まれる。そこで、互いの厳しさが欠けてくる。少しでも楽にやりたいと思う生徒は、バズの中でも、クラス全体にも影響を与える。

次にクラスごとで復習バズの内容が異っているので、学習委員が、生徒会の時間に、各クラスの現状を知らせ合い、発表し合って、互いに参考になる点をクラスにもち帰る。こうした生徒の自主性を大切に取り上げて、復習バズの本質を、生徒自身の手でつかんでいくようにしたい。

## ◎ 3年生の復習バズ

### (1) 3年生の復習バズのねらい

生徒自らが進んで自主的に学習するということは最も望ましいことであるが、容易には到達できない。

3年生の復習バズは、1・2年生と趣を異にし、過去2年間に悟ってきた人間関係の成熟を基盤にして、自主的学習態度育成へのアプローチとして、次の2つの柱をたてて行なっている。

#### ① 1日の生活の反省をする生活バズ

生活態度を中心に生徒が相互に話し合うことによって、自己理解を深めるとともにバズ分団や学級への連帯感を高める。

#### ② 自分にあった家庭学習の計画をたてる

前日の家庭学習の計画とその実践報告に対する情報交換を行うことによって、よりよい家庭学習の計画をたてさせ、意欲化、能率化に持続性をもたせるようにする。

### (2) 復習バズの時間配分

以上述べたように、3年生の復習バズは、生活バズと家庭学習の計画をたてることの二つからなっており、生活バズにはじめの10～15分、残りの15～20分を家庭学習の計画をたてる時間

に配分している。なお、後者については、進路指導をふまえて概ね次のような年間計画を立てている。

- ・1学期…その日の学習の復習を中心に計画
- ・1学期末～夏休み～2学期前半まで…「基学」(1年から3年までの総まとめの問題集)の1・2年の内容を中心に復習
- ・2学期後半から…「基学」(生徒に与える参考書)による弱点補強の学習をしつつ3年生の学習を進めて実力を養成する。
- ・3学期間…プリントなどを通して総仕上げをする。

但し、3年生の学習内容の復習はすべての項目に含まれている。

### (3) 復習バスの内容及び実施方法

#### ア 生活バスー(バスノート)

バス分団毎に1日の順をおって反省意見を出し合い、さらにそれを明日にどう生かすかについて話し合う。記録係(輪番制)は個人の意見ではなく、バス分団の総体的な意見をまとめてバスノートに記録し、担任教師に提出する。

6月23日(金) 記録者 M・I  
国語…坂下中学校について調べることになっていたのに、バス分団ごと取材にいった。私たち3班はてぎわよく校長室へ行って年表をみて、どのようになってきたかを調べたり、他の先生に聞いて資料集めをした。自分たちの学校について知っているつもりだったのに、知らないことが多いのに気づいた—というのがみんなの感想。

この次の時間は「わが坂下中学校について」の紹介文を書いて出さなければならぬ。

英語…今日はきのうとちがって、みんな単語、熟語のテストの勉強をよくしてきた。けれど、いい点がとれなかった。3班平均6.2。でもきのうの平均6.0よりチョッピリよかった。

原因…3人が動詞の変化の勉強をウツカリしていたため。

(6)

L6(3):めずらしく小林君がいつもより予習をしっかりとやってきたので、活発な話し合いができ、よくまとまった。家庭学習の計画がよかったのだ。

次はL7だ。プラクティスのP38の要点をみること。ショートテストL5(2)~(3)

Fight!

音楽…笛の二重奏、とてもきれいにできたが、あとが悪い—先生がピアノをひいてその音符をノートにかくことをやったがなかなかできなかった。これをどうするか?

数学…二次関数、練習問題をみんなとてもいっしょうけんめい解いた。

答が書いてあるので、答がおかしいときは教えあって解決できた。

掃除…歩道橋、階段をはくだけだからあまり掃除の必要はないみたい。雨が降ると水がたまるので、今日は水をいちばん下まで落した。

全体的にみんなよく協力し、収穫が多くつゆ空でも晴々した。

バスノートからのある1日の記録である。形式は画一化しないで自由である。

担任教師は、このようなバスノートからその日の生活のいろいろなできごと、生活の動向、問題等を知ることができる。この記録が単なる結果の報告にとどまることなく、自らが行動した結果の反省から、行動しようとする計画に発展すべく、「原因は?、理由は?、それをどうしたらよいか?、ポイントは何か?、それでよいのか?」等々の指導、助言を朱書きして翌朝返してやっている。

#### イ 家庭学習の計画—(家庭学習計画カード)

生活バス終了後、家庭学習計画カードをもとに、前日の計画と実践報告が様々な角度から話し合われる。できたところ(成功感)、できなかったところ(反省点)、その理由…等々。

(例)

家庭学習計画カード	
6月23日 金曜日	
今日の学習予定	
1	数学のテストの下調べ
2	今日の復習(社・国・理)
3	問題集 数
4	
時間配分	
反省	計画
○	午後 8:00~9:00 数学のテストの下調べ
○	9:10~10:00 今日の復習 社・国・理
○	10:10~11:00 数学の問題 P32
○	11:10~11:30 宿題(英語)
×	11:30~12:00 読書
(今日の課題)	
英語P40をよくよんでくる	
(その他)	
帰宅後、水泳着を坂下までかいていく 家庭科の準備を忘れない	
反省	

カードは表紙をつけて冊子として各自がもつ

計画はその日の復習バズで立てる

次の復習バズで記入し次の計画への足がかりとする

できたらしその場で記録

こうした中に、遂次生徒個々に応じたより効果的な学習方法、時間配分、ポイントのおき方(要領)等が見い出され、実践意欲をそそる新たな計画がうみ出されていくわけである。

#### (4) 復習バズの評価と問題点

生活バズはさておいて、学習以前の家庭学習の計画(実践)の話し合いは、家庭での個人学習を前提とした鍵であり、極めて重要である。

3年生は学習しつつ1年からの既習事項をまとめていかななくてはならないので、周到な計画と実践力を個人学習(家庭学習)に委ねられることになるわけである。

実施数ヶ月を経て得た主な評価と問題点を以下

に記しておきたい。

#### <評価>

- ・宿題、用具等の忘れ物が激減した。
- ・各教科、掃除、その他担任教師の目の届かない時、所での生徒個々の活動、バズ活動などが記録としてよくつかめる。
- ・男女に関係なく相互理解や協力が自然の形でよくできるようになった。
- ・1学期を経たが、マンネリ化の兆候もなく以前より自主性がでてきた。
- ・生徒個々の家庭での学習の進捗、量がグラフにより明確に把握できるようになった。※
- ・家庭へ帰ると時間割のなかった生徒も、最低

1時間の学習が定着しつつあること。

〔注〕※毎週金曜日に過去1週間分の家庭学習計画カードを、「基学」は随時、それぞれ担任教師に提出させ、進度を各教科毎に色分けしてねりつぶしている。

#### <問題点>

- ・能力差による進度、学習内容の質に差がある。
- ・自主的学習態度をつける要因は他に何かあるだろうか。

## 6 まとめ

それぞれの学年の実践を中心にのべてきたが、いかにも、こういった研究の積み重ねの困難さを認めざるを得ない。

生徒をとりまく環境は日に日に変動し年ごとに生徒は巣立ち新しい生徒に入れかわっていく。職員の構成メンバーも年々きりかえられていく。こういった現状をふまえ、いかにして全生徒と全職員が一つの目標にむかって進み、それをどう積み重ねていくかということ。ここ二・三年新しい年度を迎えるたびに、そういった体勢を整えるのに時間のかかりすぎるのを痛感している。

深淵と急流をおりなす一つの流れをもった体勢こそが、それを現実に結びつけてくれるにちがいないと思う。

各種の問題点をかかえ、茫然としていることは許されない。既得の知識のみにとらわれず、とにかくも前向きな姿勢で実践し続けることこそがわれわれのつとめであると心に銘じている次第である。

学校課題 「物事を意識し積極的に

実践や解決にとりくむ生徒」—を目指して

北海道岩見沢市上幌向中学校

はじめに

学校長 津田 昌治

純農村地域から都市近郊の住宅地として変容しつつある私共の校下はその内味は、まだ農村地域としての風習が根づよい。

こどもたちもその風習を受けてか、問題意識に乏しくまた協同して解決しようとする意欲も少い、このようなこどもをどのように指導したらよいのか従前も幾度か討議し、試みられたが、決定的な方法は考えられなかった。只試みとして、2～3の職員が小集団学習を始めていたが肝心の生徒が思うようにのってこないという悩みが出された、然し全体の話し合いではそのような方法がこどもたちに自ら学ぶ学習態度、自主的な生徒会学級会に発展させられるのではないかという結論になった。たまたま、昭和45年12月に市教委より「学級づくり」についての指導研究の指定を受けたのを機会に学習にも生活態度にも主体的に然も協同して生活するこどもにするためにバズ学習を取り入れることになった。45年の3学期はバズ学習についての研修が始まり幾度か討議の結果46年度より復習バズを核にしたバズ学習の実際指導を行いお互いに授業を見たり本を読んで研究したりの連続であった。

46年度にこの発表を行ったが、参観者の殆んどはバズ学習の実際を知らない方が多く、「変った研究だ」「面白い研究だ」「こどもの活動からみて変ってきているのではないか」との批判はいただいたが、私たちの期待していたような指導を得ることはできなかった

47年2月に北海道旭川市東小学校での上川管内バズ学習研究会に出席して種々教えられることが多かった

今回はからずも全国大会に出席して当校の実際を報告しご指導をいただける機会を得たことを喜ぶと共に今後の発展のために詳細にわたってご指導とご批判をいただければ幸甚である。

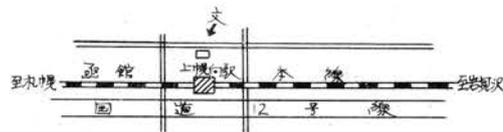
I 本校の概況

1 本校の位置

本道の中央部岩見沢市(空知支庁)にあり岩見沢駅より電車で5分バスで10分、札幌寄りの場所にある。

岩見沢市は石狩平野の東部に当たり人口73,000札幌と旭川の中央に位置し、交通の要地として発達し、現在大学3高校6を有する文教都市として極めて重要な役割りを担っている。

また近くには、三笠、美唄、夕張の各炭田を控えている上幌向は岩見沢市の衛星在在的存在にあり、穀倉地帯であると共にベツトタウンとしての発展が期待される。



## 2 通学区域について

- (1) 交通の激しい国道・踏切りを通らなければならない生徒は5割強で交通安全については特に指導を要する。
- (2) 通学距離の平均は約3,2キロで2キロ～5キロの生徒は約4割である。

## 3 職業について

- (1) 農家戸数6割弱、給料生活者（公務員、国鉄職員、会社員等）は3割強である。
- (2) 開校当時は純農村地域であったが、近年宅地造成が進み郊外住宅区域化と共に給料生活者が年々増加している。
- (3) 閉鎖的な考えが残り刺激の少ない文化性に乏しい地域だが生活程度は中位の家庭が多い。

### 保護者の主な職業

農 業 6 3 戸	国鉄職員 9 戸	公務員 1 0 戸
会社員 1 7 戸	商 業 3 戸	その他 1 3 戸

計 1 1 5 戸

## 4 父母の教育に対する関心について

昭和22年豊中学の分教場として発足してから今日の独立校舎落成に至るまで、校地の整地、植樹、施設拡充の奉仕作業等父母の熱意と努力は絶大なものがあり、年1回定例の父母による奉仕作業は毎年継続され、学校の施設の充実に大いに貢献している。したがって教育に関心も高く、学校に対して非常に協力的である。

## 5 学級編成及職員数

学 年 目	1 年	2 年	3 年	職 員 数	
学 級 数	1	1	2	校 長	1
生 徒 数	男	1 7	2 4	教 諭	7
	女	1 6	1 8	公 務 補	1
	計	3 3	4 2		
合 計	1 2 7			合 計	9

# II 研究実践

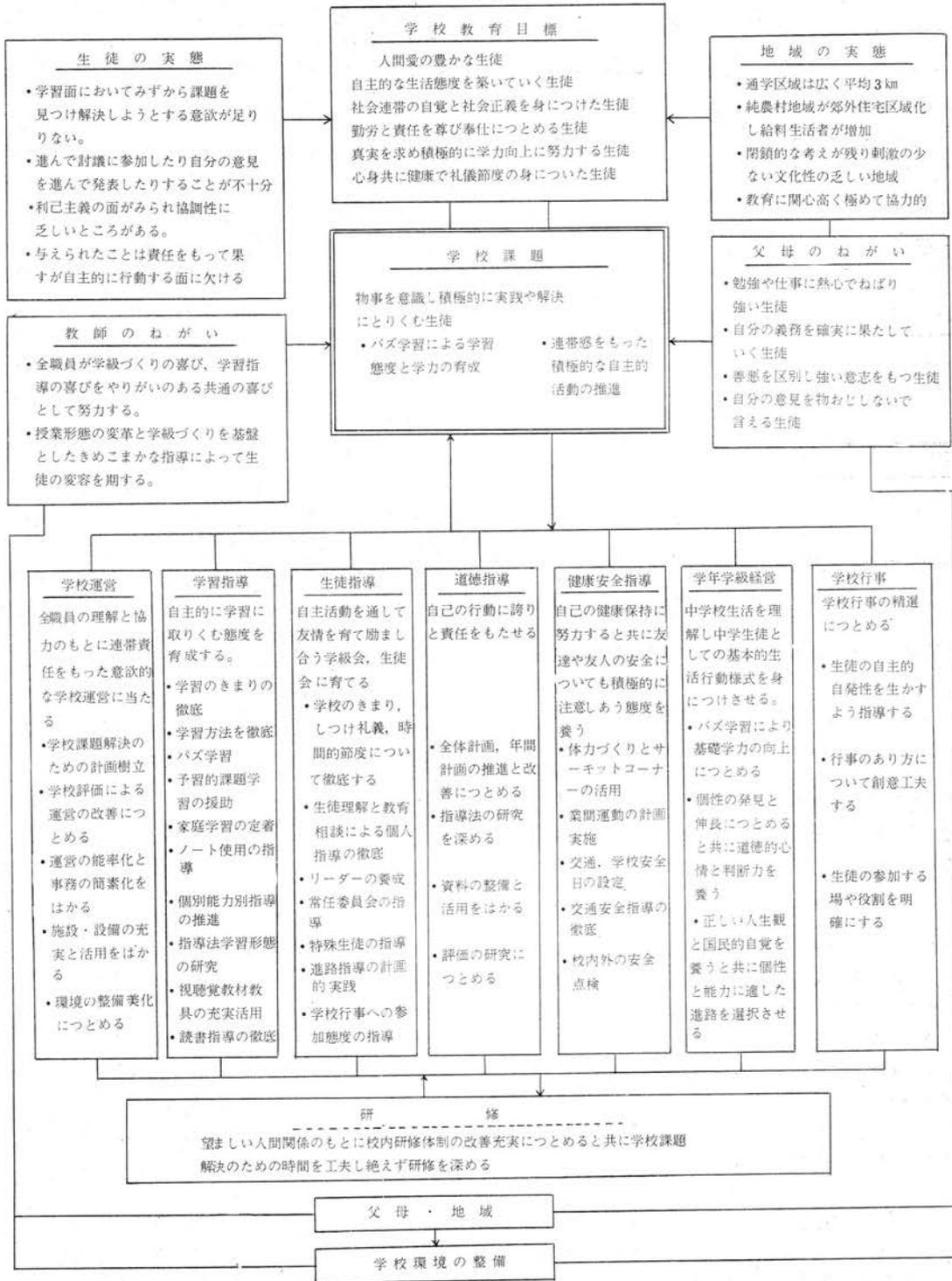
## 1 研究の歩み

- 第1年次 昭和45年度
- ① 岩見沢市学級経営指導研究の指定を受ける
  - ② 本校の生徒の実態を分析調査する
  - ③ 理論研究を進める

- 第2年次 昭和46年度
- ① 実質的に研究に取りくむ
  - ② バズ学習方式を採用、基本的な内容を理解し指導体制を確立するために復習バズをとり入れた。
  - ③ 新指導要領の移行期でもあり、教科課程の検討もふくめて研究
  - ④ 中間発表の形で研究会を開催（46.10.22）
  - ⑤ 学校評価を実施  
生徒の変容をたしかめる手立ても含め、本校の学校経営体制にメスを入れ、その改善を図る意味で実施
  - ⑥ 3年次への研究の手立てを検討

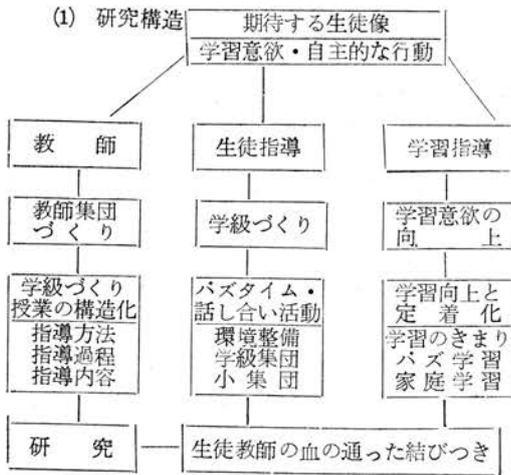
- 第3年次 昭和47年度
- ① 継続研究としてバズタイムの内容を更に深めその効率をあげること
  - ② バズを教科指導にとり入れ自ら学ぶ姿勢と教科指導の内容の高まりをはかる  
(基礎教科5教科を基本的小さえる)
  - ③ 研究の成果を校内発表の形で指導主事訪問に合わせて実施する  
(47.11月2日)
  - ④ 評価方法を研究する

# 学校課題の設定とその解決

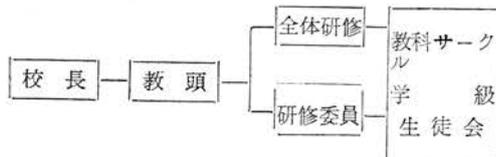


### 3 研究体制

#### (1) 研究構造



#### (2) 研究組織



企画運営……研修委員会 総体的な計画と推進については研修委員会があたる  
 実践指導……生徒指導部 学級づくりを基盤として推進するので指導部があたる  
 研究 教務部 学習の研究  
 諸資料の収集とまとめ  
 各種研修会への参加計画

以上本校の生徒の実態から考えて、課題を解決する手立てとしてバズ学習方式を取り入れ、学校生活の全般を通して指導の力点とした。

#### 4 一年を経緯しての考察

2年次の研究とは云え、この課題に取りくんでからまだ日が浅いので顕著な変容は勿論みることにはできない。また変容をたしかめるための科学的な評価資料も手がけていないので客観的な分析はできないし、変容を期待すること自体が早計かもしれない。

現段階でのたしかめは極めて主観的でも抽象的であり危険性があるが、我々の話し合いの中から生徒の日常生活の観察を通して考えられる点は

- ① 話し合うという基本的な姿勢ができてきた。
- ② 小集団を単位とする仲間の結びつきがみられ、学級集団としての運動的な動きが芽生えてきた
- ③ 問題意識をもつようになってきた…ということである

バズタイムを設定し開始した当初は生徒の一部には「こんなことをして何か利益になるのか」「むしろ自分で勉強の方がよい」「おもしろくない」…などといった雰囲気があり、リーダー的存在の中にかなりこの風潮があったことは否めない、学習ということを前向きに打ち出していく時、そこに集団や仲間としての意識が働かない場合は学力的に上位の生徒ほど自分のからに閉じこもりここに教師の指導性なり援助のあり方が大切になるわけだが我々は何度もそのような障害にぶつかりながら只今実施中なのである。

徐々に極めて遅々とはしているが、背を向けていた生徒たちが次第に前向きな取りくみの姿勢をもってきたことが感じられる。また、小集団を組織し、バズ学習（バズタイム）との組み合わせから少しずつ話し合いの姿勢や積極性がみられてきたし仲間意識が芽生えてきていると思われる。只、ここで大事なことは学習においてもその小集団だけがやればよいというのではなく学級全体が学習するのだという問題意識が共通の課題としてなければならない。

つまり集団的な主体はどこまでも学級全集団であつ小集団が主体ではないということであろう。

したがって小集団の内部に向って結集されていくという閉ざされた活動を基本とはせずにつねに学級全体へ向って問題を投げかけ活動を押し広げていくような開かれた集団でなければならないと思われ、次に今まで与えられた仕事だけに留まっていた活動が少しずつ積極的な盛り上がりを見せかけているし、また新しいものを手がけることに無気力であった姿勢が次第に主体的な動きを見せかけているように思われる。

### III 本校のバズ学習の実際

#### 1 バズ学習の受けとめ方とバズをとり入れた理由

バズ学習に関する様々な文献を参考にしながら本校としての態度を決定した。

「バズ学習は一斉学習の仲間であるつまり一斉学習の能率や効果を高めるための一方式であるといえる」…この定義から本校としても基本的に一斉学習の一形態として捉えている。

バズ学習だけが特別なことを狙っているものでもないし、またあまり力みすぎでは反って負担になり効を急いで失敗に終ることも考えられるので見通しをたてながらも地道に進めることにした。

教育の可能性は学級や学校という集団の中でこそ見出されるという考えに立ってみるとき俗に一斉学習という慢然とした体制や形態の中では大切な要素が見落されている。いわゆる学力と人間関係はそれぞれ別々

百倍されるという考え方である、したがって学力を高めることと仲よく協力しあうことは必ずしも同一の学習活動の中では同時に求められなかったきらいがある。

その点、バズ学習は、学習は学級集団で行なわれるという事実を踏まえる中で、認知目標と態度目標を同時に達成しようとする考え方であるところに本校としても着目したわけである。いわゆるバズ学習では生徒同志そして教師と生徒との人間関係を極めて大切にしているということであり、そこから様々なあつれきやまさつや対立を経ながらも人間性を高め同時に自ら学ぶ創造性ゆたかな生徒を育成するねらいがあるところに本校の生徒の実態から考えて、この方法を取り入れることが最良の方法であると判断したわけである。

## 2 バズ学習の設定

46年度は教員の異動によって理論研究も振り出しに戻った形になり、教師の共通理解が早急に得られない面もありバズとは何かというところから出発しなければならなかった。

理論的には理解できてもそれを実際にどう切り込んでいくことがよいのか、いろいろな疑問や迷いが交錯したものである。

とに角、やってみようということで7月より始めたのが放課後の復習バズであった、復習を中心に進める形態ではあるが、本校の生徒の実態も踏まえて先づ話し合わせる基本を身につけさせることであり、どんなことでも班を単位として話し合える仲間づくりからということでその名もバズタイムとした。時間的には25分間を設定し、1日の生活反省をも含めてとり扱うということであった。

25分間という短時間の中で多くを求めることは無理であり期待することはできないが少くとも学級の仲間づくりの基本的な姿勢や態度は培えるものと考えたわけである。

## 3 バズの内容

### ◎ バズタイムの視点として

- ① 4～6人の班をつくり班単位で話し合う  
—明るい人間関係の養成—
- ② 1日の生活を反省する  
—自己反省と共同評価—
- ③ 自分たちの問題を自分たちで考え解決する  
—自主的建設的態度の育成—
- ④ 協同学習の基礎を養おう  
—学習意欲と能力の向上—
- ⑤ 男女の正しい協力と理解を深める  
—男女の理解と社会性の向上—

### ◎ 具体的には

- ① 復習バズを中心に行なう
- ② 男女混合の班とする  
(異質の班構成であり班の間は等質である)
- ③ リーダーを各班におく
- ④ 班毎に話し合う題材は自由である
- ⑤ 学習を原則とするが生活上の問題でもよいし時によっては、学級会活動に切りかえてもよい
- ⑥ 話し合った概要はバズノートに記録し、家庭学習の指針にしたり、質問事項のまとめにする。

### ◎ 教師の指導態度として

- ① 教科の内容に触れぬことを原則とする
- ② 担当教科の質問であれば勿論応ずるが、その場合でも単なる個人の質問には応じないようにする
- ③ 直接の指導は内容に殆んどふれないで  
イ 話し合いがどのように進められているか  
ロ リーダーのリードはどうか  
ハ メンバーの参加態度はどうか  
ニ 他の分団との連携はどうか…をみる

…以上のような考え方でバズタイムを開始した。然し、様々な問題にぶつかった。小集団の形成にしてもリーダーとして適格な資質をもっているものが少なく形式的なものにならざるをえなかつきらいがある…

そうであるだけにバズの必要性が生まれたのだが…

話し合いの訓練ができていない生徒にとって当初は戸惑いをみせ何から手をつけたらよいのか、25分間を1日の反省と、行なうべき教科の選択に終ることもその班によってはしばしば起こったことではある。今にしてみれば幼稚ではあったが貴重な体験であったと思われる。

本年度は昨年の反省に基づき25分では短かいということで40分とした。教科の単位時間を45分とし、5分間の余剰をバズタイムに移行したわけである。

### ※ 一週間の計画

曜日	内 容	摘 要
月、火、木、金	バズタイム実施	リーダーの養成 班員の協力意欲と創意の涵養
土	テ ス ト	五教科(基本的問題)

## 4 バズタイムの実態

(1) バズタイムの運営(その1)…3年A組(担任 長谷川邦雄)

- ①開始 学級委員「これからバズ学習を始めます」
- ②バズ 各班長は班長(リーダー)が司会して運

営していく

- ・今日の反省(主に生活反省)
- ・今日の行なう教科の決定(生活反省で終る場合もあるし問題によっては学級会活動に切りかえることもありうる)
- ・教科の柱を話し合う。
- ・各班で自由にバズ学習を行なう。

対人法(二人バズ) その時の教科や単元の内容によって方法を決める  
輪番法(順バズ)  
自由会話法(自由バズ)

③ まとめ学級委員から「今日のバズ学習をまとめてください」班長が司会してまとめる

学級委員 「今日行なったことを発表してください」

生活反省  
バズの内容  
課題

判らなかったこと(後で教科担任に聞く)

④ 終了 学級委員「これで今日のバズ学習を終わります」

※バズノートは各班に与えバズの要点反省事項、感想、質問事項その他何でもよいから書くことになっており記入は輪番制になっている

※バズノートは翌朝担任の机の上に置き毎日担任が目を通すようにしている。

② バズタイムの運営(その2) …3年B組(担任石塚喜法)各班共教科を統一した場合(ある日のバズ風景)

① 開始 学級委員「今から英語の復習バズを始めます」

※あらかじめ教科委員と連絡をとり教科を決めておく

全員 「おねがいします」…座礼

② バズ(全体バズ)

英語教科委員 「今日の英語の大きな柱は何ですか1班言ってください」

1班 「gO+動名詞の使い方です」

教科委員「動名詞の文を言いたしてください」

イ 今日学習したところを Text+何ページを開いて読んでください。

ロ 各自のノートに赤鉛筆で記入してください

ハ 理解しにくいところは…やノートに抜き書きしてください。

各班「名詞の形で主語、目的語になること」…をまとめる。

教科委員…例文板書

「Reading English is difficult」

「They went shopping」

(この2項目になるのにずい分手間だった)

教科委員「では後で練習問題を出しますから、その前にまとめてください」

「各班で黒板に書く英作文をやってください」

「時間があったら班毎に問題を出して対人法でやってください」

…と指示し、時計が5分たったらやめるように云って自席にもどる。

※ここは復習の中核であるし、内容もかなり多いので、授業中に習ったとはいえ、そう簡単にはまとまらない。

「動名詞の用法を参考書でまとめましょう」

「大事なことが三つあります。それを話し合ってください」…というように指示して黒板に1,2,3と項目だけでも書いていくともっと整理できたと思われる。

※担任が感じたことについては終わったあとで助言をしたりバズ長会議などに或程度反映しておく

③ まとめ(評価)

教科委員が黒板に小テストの問題を示した。

イ 彼は川の近くにキャンプに行った。

ロ Riding a bicycle is easy for us

「いずれも班で話た合ってバズノートに書いてください」…とつけ加える

④ 終了 学級委員「これでバズ学習を終わります」

全員「ありがとうございました」

⑤ 短学活

1 今日の学習から課題の確認

2 班日記の発表、その他トピック的なテーマによる話し合い

3 伝達その他(各係や担任から)

## 5 教科学習のバズ

本年度から昨年の復習バズを足がかりとして、本格的に教科指導にバズをとり入れることにした。

昨年何回か研究授業をして校内的に検討したことであり、またバズタイムのお蔭で案多抵抗なく導入することができたが、まだ手がけた段階であり、解明すべき点が山積している。

本校としては先づ五教科(国社数理英)を基本的にバズ学習の対象として捉えてみた。そして基本的におさえていることは

①学習の流れの中に2及至3回のバズをとり入れる

②バズと教師の全体指導の関係を明確にする。

③バズが総てではないのでバズ学習に適する単元題材を選択する。

④課題の与え方を的確にするということである。

話し合う素地は昨年のバズタイムや学級会活動で一応出きているので教師のおろし方さえ的確であれば、かなり効果が期待できると思われるがいろいろな行事などがさくそうして我々の研修時間が満足にとれないことが一つの障害である7月から始めたばかりなので、走り始めたマラソンランナーの様にまだ気力に満ちた段階で

あるが、オーバーワークにならぬよう本校なりのマイペースで進めたいと思っている。  
本年度は10月を一応のめどに研究を進め11月初旬に道の指導主事を交えて校内研究会を開催し研究進程の成果やあやまりをチェックして更に推進の足がかりをつかみたいと考えている。

## 学 級 指 導 案

指導者 村屋日出夫

1 学年 学級 1年A組男子23名 女子18名  
計41名

2 題材名 私の学習法

3 題材設定の理由

中学校になると小学校時代とはことなり、教科担任制であり、また小学校時代になかった教科などもあり、学習内容も高度になる。そのためにいままでの学習とはずいぶん勝手が違い、生徒にもとまどいが見られ、学習上にも色々な悩みが生じてくる傾向にある。そのことが原因で学校生活も消極的になり学習意欲も低下するきらいがあるので、自分の学習

### 5 指導過程

法に反省を加え、より効果的な方法を発見し、意欲的な学習態度を身につけさせる必要がある。

こうした観点から、効果的、能率的な学習法はどうあったらよいかを考えさせ、自分に適した方法を見いださせるためにこの題材を設定した。

### 4 指導目標

- 1 先輩や級友などの学習のしかたのすぐれた点を学びとらせ、自分に適した学習法を考えさせる。
- 2 学習上に必要な態度や必がまえについて理解させる。

過程	主な内容	形態	生徒の活動	留意点
…前活動	各自の家庭学習の状況を作文させておく	個人	ノートに(抽象的にならないように)具体的に自分の学習状況をかいておく	
資料提示	各自(2~3名)の家庭学習の状況を発表させる	一斉	自分の家庭学習の状況を発表する	級友と自分の家庭学習の状況を比較しながら聞くように心がける
討議	アンケートの結果を発表する(家庭学習の重要性を強調)家庭学習が思うようにできない理由について考えさせる	一斉 個人	家庭学習の重要性を確認する 自分の家庭学習上の問題点を追求する	家庭学習の重要性に気づき、自分の家庭学習を反省し改善する意欲をもたせる
資料提示	家庭学習上の問題点を自分なりに解決した体験などを話し合い、よりよい方法の発見につとめさせる	バズ	班長が司会し、問題点を集約する	各班の意見に耳を傾け、質問事項をメモする
確認	各班の意見に対して質疑応答する	個人	自分の体験や望ましい方法を考えノートにまとめる	自分の家庭学習の方法を改善する手がかりを見いださせる。
次時予告	先輩や同級生の体験を提示する	バズ	班長が司会し、体験や望ましい方法を話し合い班の意見を集約する	
	学習上の諸問題を心にためず積極的に教師や級友に相談することが大切であることに気づかせる。また自分の学習法に反省を加え、自分に、適した方法を身につけさせる	一斉	各班の発表に対して質問、意見をのべる(班対個人) 各班の意見や資料を参考にして自分に適した家庭学習の方法を再度考える	
	職場を知る	一斉	確認のためノートする	個別相談により解決する

- 6 評価 1 全員がバズ学習に積極的に参加したか 2 家庭学習を阻害している原因をきびしく追求し、積極的に解決する方法を考えていたか 3 自分に適した学習法を見いだす手がかりをつかんだか

## (2) 国語科学習指導案

日時 昭和46年10月22日

生徒 3年A組 男19 女21 計40名

指導者 中村伸幸

『源氏物語』と『枕草子』 5

つれつれ草 5

いずれの書を読むとても 1

### 1 単元名 古典に学ぶ

### 2 単元の目標と計画

- ① 単元の目標
- 辞書や参考書を利用して、古典や古典について解説した文章を読み、古典を正しく理解するようにする。
  - 昔のすぐれた作品に接し、昔の人のすぐれた文章表現の特徴を理解し、進んで古典に親しもうとする態度を養う。
  - 解説的な文章を正しく速く読んで、要旨を正確にとらえ、まとまった意見や感想を持つようにする。

#### ② 指導計画 13時間

古典に親しむ (本時 2/2)

### 3 題材 古典に親しむ

#### ① 指導計画

(1) 古典に対する読書経験を中心に話し合う。単元を概観して、学習目標や内容を理解する。

(2) 「古典に親しむ」を学習する。 1  
全文を通読して、段落の要旨をまとめ、相互の関係を理解する。

- ・古典とは何か
- ・古典の価値
- ・古典と現代文の違い
- ・古典の読み方

#### ② 本時の計画

目標 古典を学ぶことの意義・方法について理解する。

- ・読解力の向上をはかる。

### 4 指導過程

過程	主な内容	形態	生徒の活動	留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時学習の中心を明確にさせる</li> <li>○「古典に親しむ」の全文を通読して段落にわけさせる。</li> </ul>	一斉 個人	教科書で確かめる。 段落に分けながら、どういうことがらが書かれているか考える。	
解決努力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大意をとらえさせる</li> <li>・古典とはなにか</li> <li>・古典を親しく読むことでわたしたちはどうなるのか</li> <li>・古典がけっしてやさしいものではない第1の理由</li> <li>・どんな読み方で古典を読むのがよいのか</li> </ul>	一斉 バズ 個人 個人	発表する。 「永久の生命力を持つ」とはどういうことか話し合う。	指示語の対象、接続語の働きに注意させる。
定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のまとめをさせる。</li> <li>○板書事項をノートさせる</li> </ul>	バズ 一斉	「古典の語るままに理解する」とはどうことか話し合う。 要点を確認しながらノートする。	解説文の文型に注意させる。
次時予告	○『源氏物語』と『枕草子』		語句、史句背景などを調べておく	一は一である 一とは一のことである

- 5 評価 1 文章の要旨を正確に理解することができたか。 2 古典の性格やそれを学ぶ意義、古典に接する態度について理解したか。

## 復習バズのねらいと運営

静岡県掛川市立三笠中学校

海野英太郎

### 1. はじめに

本校をとりまく地域は、第3回の集会でも発表しましたが、農業戸数が全体の47%を占めるという数字の示すように、農業中心の地域であります。農村特有の封鎖性がまだばばをきかせているというので、生徒の実態としては、温和で従順である反面、気力に乏しく、根性に欠ける傾向が今だに抜けきれない。

こうした中で、昭和45年度から、本年まで続けられている研修のテーマを、自主性を育てる、というものを選んで、研修を積み重ねてきた。

#### 昭和45年度

「進んで活動する生徒にするには、どのような指導をしたらよいか。」

#### 昭和46年度

「ひとりひとりをのばすバズ学習の実践」

- ・学級づくりをどうすすめるか。
- ・教科の中でどうバズを活用するか。
- ・復習バズをどのようにすすめるか。

#### 昭和47年度

「ひとりひとりを伸ばす学習の実践」

- ・学習集団としての学級づくりをどうすすめるか。
- ・バズを生かした授業の創造。
- ・効果ある復習バズをどう育てるか。

バズ学習と1年生から取り組んだ生徒も、もう今年は3年生となった。本校におけるバズ学習の歴史も3年の歳月を重ねたのである。

本年、他校から転校してきた2年生は、班日誌に、次のように印象を書いていた。

「三笠中でやっているバズ学習方法は、前にいた学校でも同じようなことはやっていました。でも、三笠中のように、どの授業にも取り入れて真剣にやっていませんでした。

帰りの時にやっている、復習バズというのは、この前はじめてやってみて、とても勉強になると思いました。やっていなかったら、家で復習をしているの人のほかは、一日にやったことは覚えなくなってしまいます。だから、学習しているうえで、復習バズはとても大事なことなので、中学生としてぜったい必要だと思います。」

バズ学習が、本校に根を張り、その芽をぐんぐんと伸ばしてきているように感ずるのは、私ひとりではないと思う。

## 2. 復習バズのねらい

昭和46年度より、名古屋大学の塩田芳久先生の御指導を受け、引き続き本年もお教えを受けてきている。塩田先生の御指導の中で得た「復習バズのねらい」はこんなことだと解釈し受けとめている。

### 復習バズのねらい

- (1) 家庭家習の調整
- (2) きょう習ったことの確認
- (3) 学習態度の育成

去る7月12日（水）に校内研修会をおこない、わざわざ名古屋から塩田先生をおまねきして、御指導を受けたときも、特に、ねらいの中でも「学習態度の育成」という面の重要さを強調されていたように思った。

態度目標は、学習でこそおこなわれるべきである。今日は、この授業に対して、こんな態度で望んでやろう。という、構えをもって授業に接するのと、ただ漫然と望むのとでは、効果の異なることは明確なことだと思う。このことが、即ち自主性を育てることと結びつくものではないかということをお教えられたように感ずる。

### 2年担任の教師の受けとめ方

#### <復習バズのねらい>

復習を学校で行なうことの利点として「より早い時期にくり返し復習できる。」ことと、「小集団でやれる。」ということですが、この利点をふまえて、より効果を上げるためには、復習バズのねらいを教師も生徒もともに明確にしておかなければならない。

さて、学級での復習バズのねらいを何にするか。ということですが、小さなねらいから進めようと思い、「きょう学習したことの確認」を中心にすえて、進めることにした。

### 1年担任の教師の受けとめ方

#### <復習バズのねらい>

1Cでは1年生という段階で、お互いに名前も生活環境、考え方も知らない同志が多いことや、宿題だけが家庭学習ではないと知りながらも、実際には、自主的な学習をやっている者が少ないという実状から、この復習バズのねらいを次のようにおさえない。

- ① 今日習ったことの中から、わからないこと、疑問として残ったことを聞くということを窓口で教えあうという行動を通して人間関係を深める
- ② 個々の自主的な学習態度を育てる。

### 3年担任の教師の受けとめ方

#### <復習バズの（教師のおさえ）ねらい>

形式的ではないバス。内容がその日の復習ということにこだわらず、学習における個人対集団、集団対個人の動き（学習内容の効率化だけでなく、内面的なつながりとか、個人対集団、個人対個人の有機的なつながり）を重視したい。

等々、学級担任として、「何のために復習バスをやるか」ということに対する受けとめ方は、学年により、個々の教師によってもいろいろな取り組みをしている。日常の学校生活の中で、ゆとりがない言いながらも、日課の中に、20分～30分の復習バズの時間をとり入れていることについては、そこに何らかの意義を見出し、生徒にとっても貴重な時間とならなければならぬと思う。

現在までの実践の中で、生徒の声として、「何のために復習バスをやるか」ということが、くりかえし話し合われてきた。より効果的なものにするための道はまだまだ続いている。

### 3. 復習バズの運営

#### (1) 班づくりを通して(1年C組の実践例)

##### ① 生活に重点をおいた第一回班づくり

入学後、とりあえず座席は出席番号順としておいたが、3日後「いつまでこの席でいるだ。早く班を作って、清掃や当番の仕事など班でやりたい。」との要求が出された。そこで全体討議の末

班長を決め、班長が班員を決める  
班の数は 9班  
男女でできるだけ等分されるようにする } ということとで

初めての班が作られた。この班で、新しい友と協力しながら班の仕事をしていく中で、お互いをよく知り、集団の力というものを知ってもらいたいと願った。

##### 4.11 9班

「清掃の時に、先生がほめてくれた。男女協力してやったので、他の班よりも早くきれいにできた。班をつくってよかったと思う。」

##### 4.13 3班

今日は、わたしたちの班が当番でした。みんな張りきっていました。ご用を聞きに行く順番だとか、お茶、牛乳を運ぶことなど決めた今日のわたしたちの班は、まとまりのある班だったと思う。まとまりのあったのは、当番だったからだと思います。当番の仕事を協力したからです。

生徒は、日直の仕事を通して、清掃を通して、あるいは、ほんの小さなことでも1つの活動を通して班のまとまり、班という集団の力を意識していくものだと思う。しかし、その活動をただそのまま続けていくだけでは、マンネリ化し、集団の力という意識も低く、「もっと協力しよう」「がんばろう」などという抽象的な反省が班日誌に見られるようになる。

「一体、協力ってなんだろう。どんなことをすることだ」と投げかけ、「昼食時、12時29分には席につこう。こんな簡単なことに心が合わせられなくて、協力、

協力と大きさに言うまい。」と提案した。

班日誌には、抽象論でなく、「こうしよう。」という自分の考えを書くように注意していったところ、いろいろな提案が出されたが、具体化したのは、まず次の3つであった。

- ・静かにする時の合図を作ろう
- ・班長会議を定期的を開こう
- ・清掃の点検をしよう

特に、3つ目の清掃に関しては、校内の清掃コンクールに合わせ、学級内で盛り上がり、整美係が中心となって、各班ごと点検項目を決めた。

##### 5.15

今週は、清掃コンクールなので、みんなしっかりやった。  
わたしたちのやった西ろうかは、とてもきかないので、みんな協力し合って、きれいにやった。もしも、それが×だったら、へんだなあと思うぐらいです。それと数学のテストの点もよくなってきた。組も班も、落ちついてきたので、だんだんよいことが出てきた。

清掃の点検評価とともに、日直の評価もするようになった。評価されることにより、班活動の結果がより具体的となり、班ごとに努力のあとが見られた。

「よい班とは、悪い班とは」ということで話し合いをもった。各班の実状のわかってきた5月初めである話し合いに出た大まかなものは次のとおりである。

##### よい班とは

- ・協力して助けあう班  
その人の立場になる。親切に教える。  
清掃やバズがしっかりできる。  
能率よく仕事ができる。時間どおりできる。  
話し合える。気軽に聞ける。楽しい。
- ・班のめあてがしっかり守れる班
- ・進歩のある班
- ・一番よい班にしようと努力している班
- ・くふうのある班 他

悪い班とは

- ・自分勝手をしてバラバラな行動をとる
- ・1人の人ばかり仕事をする
- ・班の仕事がはかどらない
- ・実行できない。
- ・真剣に相談にのってやらない

これらの話し合いのあと、すぐ次のような文が班日誌にのせられた。問題点を自分たちで見つけていったのである。

#### 5.8 5班 正次

ぼくたちの班は、みんな助け合っていない。だから、班でまとまったことを言いなさいと言われた時にこまってしまう。でも班長は、自分の意見を言ってごまかしてしまう。いけないと思う。それは、班長だけの意見であって、班の人の意見にはならない。もしも班長だけの意見では、ほかの人たちのいい意見がぬけてしまう。だから、みんなで意見を出さないといけない。

#### 5.9 6班 栄理子

班で発表する時、必ずいつも班長と熊蔵君がぼくが出ると言い合いになる。だから、だいたい時は、先生におこられたり、6班だけ仕事がおそくなることがたびたびある。ちゃんと順番を決めておけば、決してこんなことはおこらないのに。

よい班とは、という話し合い後、どの班が1番よいだろうかと班の評価をすることになった。評価の内容としては、先きより行なわれていた日直の評価も含めて次のような項目とした。

1. 班のめあて
2. 班日誌
3. 生活
4. 小テストの班平均

帰りの会で各班ごと反省し、○×で記入していった。班のめあてが具体性を欠く場合や、毎日点検できないような場合に問題が出てきたが、点検をはじめると共により具体的な内容へと変化していった。しかし、生活面の点検には、まだ問題のある点が残っ

ている。

#### 5.12 2班 浩子

小黒板に記入する班のようすなど○×で表わした表を見ると、私たちの班が一番だ。班を作ってよかったなと思った。先生は「2班をおいこせ」って言ったけど、最後まで他の班に負けないうにがんばるよ。

こうして、班の評価をし、更に平均点競争を増していったところ、班の団結力がより高まっていった班と逆に班内にもめごとの絶えない、ままとりの悪い班がはっきりしてきた。

帰りのバズでは、はじめのうち生活の指導に重点をおいていたため、生活バズを組むことが多かったが、学級・班が落ちついてくるにつれ、徐々に「今日の学習の復習を班でやろう」と移していった。しかし、明示のしかたが悪かったため、ただ復習しさえすればよいということで、班員の好み、興味でその日のバズ教科が選ばれてしまったり、バズにならない内容を選ぶ班などが続出してしまった。ままとりの悪い班では、バズにおいてもままとりが悪い。

#### 5.16 7班 房子

バズの時は、自分たちが何をやるか言ってくれないのに、わたしが一人で決めてやろうとすると、また「そんなのやるのか、ほかのにしようやい」などと文句をつける。

小学校時代から、ひねくれ者でおとっていたY君を、何とかしたい。もともとはひねくれていたのではないみんながそうしたんだと思うという班長房子の願いも空しく、この班が班がえの直接の原因となった。

#### ② 学習の向上をめざして第2回班づくり 6/19

問題を残して第1回の班は解散した。第2回の班編成は、第1回の時とはほぼ同じであったが、班長が班員を選ぶ時、はじめ副班長になれる異性を選ぶこと、かち合った場合は、本人の意志で決めること、あとで全体を見渡してかえることもあるという内容がつけ加えられた。

新しい班で、班長をはじめ全員で一番の班をめざしてファイトをもやした。帰りに残って学習する班もでてきた。

(2) 復習バズの3か月(2年C組の実践例)

復習バズの運営については、本年度の出発も、各学年・各学級ともに独自の運営をもって、そのクラスの特徴に応じた方法でおこなわれてきた。

復習バズも一年生の

復習バズも一年生のときの経験の上にはじめたので、各クラスでの方法もことなり、そのため、4月の当初「復習バズ」をどのようにやっていくかを生徒に話し合わせた。その結果、班ごとに教科をきめ、班長がバズ長になり、各班ごと独自の方法で復習した学習委員長である学級代表は「はじめ」「おわり」の指示をするだけ。

しかし、その後の話し合いの結果、今までの反省として

- ① 教科委員の活躍の場がない。
- ② 学級同一教科でないので、となりの話し合いがじゃまになる。
- ③ 復習をやっているという感じがしない。
- ④ 4人グループでは、疑問点の解決もできない場合があったり、全体バズの必要も感ずる。

の4点があげられ、

以上のような理由から、学級同一教科の復習に移り現在に至っている。

(3) 現在の復習バズの方法

A 班づくり

- ・編成
  - ・男女混合・異質
  - ・班員4~5名
- ・編成方法
  - ・学習意欲・活動意欲をもちあげる組みあわせが必要である。
- ・期間
  - ・2か月をもって移動させる。

B 復習バズの方法(20分間)

- ・時間割は、土曜日に発表
- ・1日1教科、学級同一で

<進め方>

- 1) 学級代表(委員長)あいさつと、教科の指示
- 2) 教科の学習委員による進行
  - ・個人で学習の要点確認
- 3) 班バズ
  - ・班長がバズ長となる
  - ・復習と疑問点のほり出し
  - ・話し合いから、解決へ
- 4) 全体バズ
  - ・疑問点の解決へ
- 5) 小テスト
- 6) 閉会のあいさつ(委員長)

(4) 復習バズの流れ(3年A組の実践例)

教科委員 今から数学の復習バズを始めます  
きょうやった柱はなんですか

- |    |   |              |
|----|---|--------------|
| 2班 | { | 笹本 きょう       |
|    |   | 内山 逆         |
|    |   | 笹本 三平方の逆     |
|    |   | 内山 三角形の求め方   |
|    |   | 杉村 どういう三角形か  |
|    |   | 笹本 三角形の形の求め方 |

教 委 発表してください。1班2班

1 班 三角形の断定

2 班 三平方の逆

教 委 2つでだけれど、どちらですか。

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| { | 逆をやったもんでできる                    |
|   | つながっている                        |
|   | 杉村 判定というのは、あとじゃあない?<br>どっちにする? |

教 委 2班

2班(内山) 三平方の定理をやったもんで、断定ができたのだと思う。

教 委 わからないところを班でやってください。

内山←→笹本中心 女子のぞきこむ

内山のノート この部分で「聞 いてみるか」と いっている	$3 \cdot 5 \cdot 5$ $3^2 < 5^2 + 5^2$ $3^2 = 9$ 鋭角三角形 $5^2 + 5^2 = 25 + 25 = 50$
---------------------------------------	--

教 委 質問ありませんか。2班

内 山  $3 \cdot 5 \cdot 5$ の場合、先生は断定するのに、そのままやったが、計算するとしたら、途中の計算はどうなるのか。

教 委 わかった班言ってください。3班

3 班  $5 \cdot 5$ で、二等辺三角形。計算しなくても鋭角三角形とわかる。

教 委 それは2班の答えではない。4班はどうですか。

4 班  $5^2 = 25$                        $5^2 < 3^2 + 5^2$   
 $3^2 + 5^2 = 9 + 25 = 34$     鋭角二等辺三角形

2 班 3をCとしては、だめなのか

{ 3は最大じゃあないではないか } にぎやか  
最大なものといえば5だから

教 委 今の質問についてどうですか。5班

5 班 質問の意味がよくわからない。3をCとしても答は同じだと思う。

内 山  $4 \cdot 4 \cdot 7$ や ルート2・ルート2・2では等しくない辺をCとしているから $3 \cdot 5 \cdot 5$ でも3をCとしてはいけないのか。

教 委 11班どうですか。

1 1 班 わかりません。

教 委 それでは、教科委員の考えを言います。  
最大辺をCとするから、3は最大ではなく5が最大辺となります。これ以上どうしても知りたい人は、鈴木先生のところまで行ってください。

鈴木先生 なぜ、最大辺でなければいけない？内山の  
ように3をとってもいいかも知れんぞ。

教 委 これで数学の復習バズを終わります。

#### 4, 問題点を残して

1 Cの復習バズは、まだまだ問題だらけであるお  
くれている子のひとりS子は「今日はバズない、あ  
あうれい。」と叫ぶ。なぜかと問うと「ためにな  
るにゃ、なるけえが、班のしゅうが、へんなこと言  
うもん。」人間関係を深めることをうたいながら遅  
れている子にとっては、教えてもらってわかった時  
よい点をとった時の喜びよりも、つらい何かがある  
のだ。問題は深い。

どのようにしたら教科委員を、復習バズに生かせる  
か、バズの進め方にむだな時間はないか。各班ごと  
に各教科をリードする責任者のような者を作った方が  
よいか、等、考えなければならない点が多い。

1年生担任の女教師は、上述のように問題点をなげ  
かけている。

1日6時限の授業を受け、やれやれと言う間もなく  
「復習バズの時間」が待っている。考え方によれば、  
その時間を遊ばせてやったら、その方が効果的だと言  
う論理も成り立つかも知れない。

だが、やはり、それ以上の効果をあげようと、私  
たち教師は、まだまだ悩みの消えぬ日が続くことであ  
ろう。

# 全員発言による全員全力学習

高知県安芸郡奈半利中学校

1. 研究経過・現在の実践内容
2. 入学当初の指導について（1学年）
3. 学級における班活動はいかにあるべきか。（2学年）
4. 班日誌を通してのホーム指導（3学年）

## 1 研究経過

正常な授業が出来ないほど荒れていた学校をなんとか正常な授業ができる学校にしようというので、バズ学習方式を取り入れ、職場が一致してその実践を行うようになって5年が経過した。

昭和42, 3年, 学習, 生活とも, 絶対落伍者を出さない方針で, 復習バズを中心に, 一日の学習内容の重点を理解・暗記・ドリルと教科委員を中心に指導し, その結果, 学習する雰囲気も表れてきた。

昭和44年度以降, 復習バズの方法の徹底, バズを教科へ取り入れる, 教科委員, 班長等のリーダー指導, 生活バズの重視 — の4つを重点として指導にあたった。

その結果, 生徒の問題行動も殆ど無くなり, 学習生活とも整然と行われ, 正常な学校に立ち直っていたが, 昭和46年12月, 2学期末の職場の実践反省の中で, 「われわれのやっているバズは, 生徒が学校の主人公として, 学習, 生活とも, 生き生きした生徒集団を育てている事になっているのかどうか」という疑問が出され, 「学習の主体は生徒である。学習はおれたちのものだ。」「バズで狙っている人間関係 — 班, ホームの解放 — とはどういうこと

なのか。」等に焦点がしばられ, 「生きたバズ。」の追究が以後の課題となり, 「全員発言による全員全力学習。」をテーマとして, 取り組みが行われ, 現在に至っている。

## (2) 現在の実践内容（全員発言による全員全力学習）

### 1. 教師の指導態度

- (イ) 教材研究を充分行い, 指導重点を明らかにする。
- (ロ) 全員発言の学習が進められるような一般的なパターンを創造する。(発言, 発表がなければ学習が進められない型)
- (ハ) ロングバズ, ショートバズの使い分け, 話し合いの課題をはっきりさせる。
- (ニ) 教師は結論を急がない。班や個人の発表を多く, その中より結論を生み出させる。
- (ホ) 次時の課題(重点)をはっきり与える(家庭学習と関連)
- (ヘ) 教科委員と密接な連絡, 指導を行い, 教科委員の活動の場を広げる。

(b) 班長会等を組織し、学習に対する班の問題点や長所を点検、質の向上をはかる。

(c) 落ちこぼれの恐れのある生徒や班に対する指導と、班内、班間の批判激励活動をしなくむ。

### 2. 班長の仕事と任務

(a) 学習バズの話し合いを能率的にリードし、話し合いの結論を出す。

ロングバズー(5~6分集団思考)

ショートバズ(20秒~1分)

簡単な事柄

(a) 発言がかたよらないように、全員が発言出来るために発言者や発言順をきめる。

(恥しい、自信が無い。~勇気と自信と喜びを。)

(b) 発言権を取る。(大きな仕事の一つ。)

(c) 発言権を取った他班の発言がモタモタしたら発言権を奪い取る。

(d) 他班の発言、発表に対し、すぐ反応する。  
「はい、そうです。その通りです。」

「○班は……と発表しましたが、わたしの班では……と思います。その理由は」等々。

(e) 遅れている生徒を班員と協力して引き上げる。

(f) 班競争によるテスト等の平均点をあげるための指導、世話をする。

(g) 班の学習点検(課題、提出物その他)

(h) 班の仕事を責任をもってやる。

(i) ホーム目標を追求する中心になる。

(j) 班の人間関係、団結を高める中心になる。

(k) 他の班の長所に学ぶ。

### 3. 班員の仕事・任務

(a) 1日の学習で最低2回以上は発表する。

(b) 班長に協力し、班の仕事、班日誌の記入等を行なう。

(c) 班内の自己批判、相互批判を行い、個々の向上と班の質を高め、班から落伍者を出さない。

### 4. 教科委員の仕事・任務

教科委員は、教科に責任を持ち、復習、予習を十分に行い、指導力を十分持つ。

(a) 始業時(前時の重点の要約を行う。)

・教科委員が重点と、その内容を説明する。

・教科委員が重点を述べ、その内容は発言権をとった班に発表させる。

・教科委員が重点に従って簡単な練習、ドリル的なものをさせる。

以上のいずれかを行う。

(b) 本時の学習の課題を確認する。教材内容により、教師の助言のもとに学習を進める場合もある。

(c) 自習学習を進める。

・あらかじめ指示された場合は、それに従って進める。

・指示のない場合

本時の柱立て→個人、班で学習→発表→理解できたこととできない事を整理する。

(d) 壁掲示(1週間の学習内容の重点の要約と作問)

水曜日作成→土曜日説明→月曜日にテスト

### 5. 生活バズ

・復習バズ終了後、全員発言学習についての1日の努力目標を班毎で話し合い、その内容をホームへ発表し、それに対し他の班より批判・評価活動を積極的に行う。

・班日誌(後述)を重視して指導し、討議の場を作る。

以上が、本校の研究経過並びに実践の概要である。実践の概要でもわかるように、われわれは、子どもの成長発達には、学習生活を一体にとらえる立場をとる。一体ということは→学習⇔生活→ということである。

全員発言という学習時における子どもの態度なり、人間関係が、班、学級の人間関係を根本的に変革しつつあるというのが、現状である。

以下、各学年の段階に応じ、その実践の概要を述べて大方のご批判を仰ぎたい。

## 2 入学期におけるバズ学習の指導（1年）

### ① 生徒の現状

本年の入学生は2校1分校から93名である。小学校時代には、小集団学習指導を受けてきたと聞いていたが、入学式当時のようすから、①落ち着きがなく私語が多い。②特に女子のザワザワが目立つ。③リーダーになる人物がいない。④明るいが幼稚な面がある、など、今までの入学生と特に違わないが、以上のことが、教師集団の一致した感想であった。

Aは、「中学生になったの決意」でこう書いている。

「略……小学校のとき、ぼくは発表を余りしませんでした。中学生になったので発表したいと思います。中学校にはバズ学習というものがあるので早く慣れてがんばりたいと思います。先生もくわしく説明して下さい。……」

この作文でもわかるように、期待と不安、あせりや不安定な状態であった。

### ② 指導目標決定

生徒たちの現状分析をもとに、学年団として次のような目標を設定した。

- ① 中学生活に早く慣れる。（バズ学習中心に）
- ② 生活基準（生徒会で決定したもの）を守る。
- ③ 生きたバズ学習を進める。
  - ・解放された（差別のない）班づくり
  - ・班での協力（自己批判，相互批判，遅れた者の引き上げ。）
  - ・全員発言で活発な学習
  - ・教科委員の指導（慣れる，責任・リーダー。）

### ③ 具体的な取り組み

- ① 班編成…最初は教師が，次から生徒たちで
- ② 週日程…全校朝会（月・土）学年集会（水）  
1週間のまとめ（水・午後教科委員一壁掲示）  
ロングホーム（月・7時限）全校クラブ（火・7時限）  
まとめ発表……豆テスト（土・帰りのホーム）
- ③ 1日の流れ…朝のホーム（10分，学習，生活目標決定，出欠確認，連絡など）  
帰りのホーム（30分，復習バズ，生活バズ，連絡

など）

- ④ 代表委員（男女各1名）の仕事
  - ・号令，出欠確認記入，学年集会計画，ホーム，全体のまとめ，代表委員会参加等
- ⑤ 教科委員の仕事（各教科1名）
  - ・本時のまとめノートへ記入・復習バズの指導（まとめ，作問，答合わせ）
  - ・前時の重点の確認と本時の授業内容の確認・1週間のまとめ・自習時の指導
  - ・各教科の先生との連絡  
（明日の予定・宿題など背面黒板に記入）
- ⑥ 日直（全員輪番）の仕事
  - ・朝と帰りのホームの司会・日直日誌反省記入・黒板消し戸じまり機の整頓
- ⑦ 班長（各班1名）の仕事
  - ・班の仕事（学習，美化，新聞……）に責任を持つ，班員の世話（落伍者）
  - ・全員発言の世話
- ⑧ 復習バズ（1日1教科約20分）
  - ・全員が全力でとりくむ。・生徒が自分たちでやる。・バズノートを全員持ち各教科の重点 目標反省 バズの問題例，解答を記入する。
- ⑨ 生活（反省）バズ（班で5分話し合う発表5分）
  - ・班ノートを班日直が記入（司会班長）  
目標反省，発言回数，問題点など発表

※ 以上はすべて模造紙へ書かせ，教室へ掲示し，全員に判るようにしてある。

### ④ ある1日の生活

- ☆ 8.10 予鈴なる（生徒教室へ入り，昨日の反省に基き，本日の学習，生活目標決定の話し合いをする。司会日直，代表委員出欠確認し氏名を記入）
  - ・職朝を終え，教師入室 目標確認 連絡1時間目の準備指示 生徒準備する。
- ☆ 8.25 チャイム（ホーム終り）教科委員，宿題の間と発表する生徒名を黒板へ

書く。

☆ 8.30 チャイム（1時間目数学始まる。）  
教科委員前へ、代表委員「姿勢、礼」の号令。  
「はじめましょう。」教委「きのうの重点はP  
67の10, 1の加法の符号の扱い方です。同  
符号のときは……判りましたか。」（質問あれ  
ば討議する。）  
「前に名前の出ている人はやって下さい。」

「答合わせをします。C君問を読んで答を言っ  
て下さい。」

C「の(-4) + (-5) + (-7) = -16です。  
合っていますか。」

「はい」……（質問が出ると教科委員が教える。  
それでも不明のときは「3分間班で話し合っ  
て下さい。」とベルタイマーをまわす。3分間終  
了のベル。「3班言って下さい。」「……とな  
ります。」「判りません。」「他の班で説明で  
きる人。」「ありません。」「先生説明して下  
さい。」……ようやく教師の出番となる。教  
師説明後「今のところを2分間隣接バズで確認  
しなさい。」「5班発表しなさい。」

5班「……です。」 —— (略) ——

教師「今日の重点は①-②-③。宿題はP78  
の間, 3.4教科委員は後の黒板へ書いておくこ  
と。2時限目の準備をすること。終り。」

「姿勢、礼」終りましょう。」

（気のきいた生徒は、1時間目の重点をバズノ  
ートに休み時間に記入する。）

☆ 6時限目終了・掃除10分（この間に教科委  
員は今日の重点を黒板に、例題を小黒板に書く。）  
・放送（5分）代委「放送の聞ける姿勢になっ  
て下さい。」（全員姿勢を正し、目を閉じる。  
放送部前へ出て内容をまとめ発表）……質問補  
足……聞き方の評価

☆ 復習バズ（司会日直……教科委員重点発表例  
題の答合わせ……全員バズノートへ記入する。）

☆ 生活バズ（日直「今から5分で反省して下さ  
い。」「1班から……」「学習目標は守れまし

た。生活目標はBさんが……忘れ物はDが……  
発言回数は32回、放送の聞き方◎掃除は全員  
……」7班まで続く。

日直反省のまとめを発表、終ると各班が忘れ物、  
発言回数、テスト平均点など表へ記入する。教師  
「今日の生活のまとめ、注意点、その他連絡  
「挨拶」で終り。「日直」戸じまり、机の整頓  
（代委）出欠数記入

#### ⑤ 家庭学習の指導

「全員発言」による生きたバズ学習の基礎と  
なる家庭学習2時間（生活基準）を定着させる  
ため、家庭学習のたすけ（全校で1部、1年で  
1部）を配布し、記録表に記入することにして  
いる。（月2回点検）

まとめ

	2時間	1.5時間	1時間	30分	20分	0分
5/8~14日	2	4	10	9	1	0
5/14~28日	4	5	7	9	1	0
6/1~6/17	3	6	7	8	2	0

連絡帳（月2回発行）を通じて

「2時間勉強はがんばってやっております。」  
「最低毎日30分はやるようになりました。」  
「家庭学習計画表も自分から進んでやれるよう  
になり、なんとかかやっています。」など、父母  
の報告が聞けるようになり、このことが発言回  
数最高1日60回、最低17回となってきたと  
考えられる。

#### ⑥ 成果と教訓

1. バズ学習形式に慣れ、学習態度もやや落着  
いてきた。
2. 差別的言動が少なくなった。
3. 自主学習が出来、発表力、批判力もついで  
きた。
4. 学級全体の団結が強まり、援助もできだ  
した等評価できる反面、2.3年と比べると、
  1. 学習態度、私語、姿勢等
  2. 能率的なバズ

3. 班競争（発言回数，豆テストの平均点による遅れた生徒への援助批判）
4. 場面に応じた集中力（全力の持続性）の不足など克服すべき点も沢山今後に残されている。

〔7〕 生徒の中間総括文から

「2班としては，初め発言できなかったが，後になって，だんだん発言回数が多くなってきた。バズの時，線や字を書いている人があります。だから，休み時間を利用してやっていくつもりです。」

（班長 T）

「バズの話し合いのリードというのは，わたしたちの班はバズがうまくいってなかったのだから班長の役目が果せなかったけれども，バズがうまくいきだし，わたしもバズのリードをするようになりました。……発言回数も多くなってきました。……わたしたちの班を1Bの中で1番いい班にするために，私語や手遊びをなくして行きたいと思う。（班長K）

「わからない人に少しずつ教えてやり発言をふやすようにしている。始業時には例を出したりして重点を説明できた。本時の重点は先生が言ってくれるので，それをもとにして書いている。……なるだけ自分が間違わないようにしている。成果は前よりは自分皆の手が上がりだし，質問しても答えられるようになったことです。」（教学教科委員M）

〔8〕 今後の取り組み

経験の浅い1年担任集団（1～4年目）はこの4ヶ月，全校教員の援助を受けながら，十数回の意志統一を行ない「バズ学習形式を覚えさせる，慣れさせる，意義を判らせる」ことを到達目標としてやってきた。

どうやらその目標は不十分ながら達成できたと考えている。しかし，克服すべき，もっと伸ばすべきことは山積している。

常に教育の基本を見失わず，教師集団，生徒集団，父母集団の連携を深めながら，未来を荷う子ども集団作りに励みたいと思っている。

父母や，生徒から，「先生らあは団結しちよる，自分らあは要求行動もなかなかやるけど，先徒の

教育や親の要求もどんどん取り上げてやってくれるよ。」と評価される教師集団を目指して今後も努力していく。

③ 学級における班活動はいかにあるべきか

（2学年）

「学年目標」

○創意工夫をモットーとし，自主的に物事を解決する態度，力を持つ。

○常にクラス学年全体の立場に立って考え，自己批判，相互批判を行ない向上しよう。

「努力点」

○全員全力学習を行ない家庭学習を習慣づける。

○全員発言を行ない，教科委員の指導と，それを支えるクラス全員の努力

○批判は常に暖かさときびしきを持つ。

以上の目標に立って，具体的にどうとり組んだか，次の項目について報告する。

㊦ 班の編成について

□ 班活動について

㊧ 点検と相互批判

四 班競争—全員発言表，テスト一覧表

㊨ 生活や学習へのとり組み

㊩ 学年集会

〔1〕 班編成について

学級で，学校目標，学年目標を受けてクラス目標についての討議がなされる中で，1年で築いた成果の上に立って，班学級の中で，互いに協力し，団結し，全力でバズ学習の向上にあたるという意志統一を行ない，さらにその活動を具体化するために班編成をどうするか，班の任務をどのように組み立てるかという点でとりかかった。

具体的には，班編成委員会を作り，原案を作製，全体会で討議，承認，決定という方向をとる。

班編成委員会は，議長，学級委員，各班長で構成，班は学級生徒数26名で6班編成と

し、4名班が5、6名班が1で構成。班の名称とその役割（後述）

班編成の経過は、学年当初、第1回の編成委員は、目標を受けて各教科委員、班長を軸とし、班長は、それぞれ班員の指導と活動を保障する任務を持って、学級の体制を確立することを目標として編成にとりくんだ。

この中で、問題点として出てきたことは、1年から2年への学級編成で新しいメンバーになったため、班員間の人間関係（1年当時の仲良しグループ）についての配慮という点から、特に相互批判のない状態から、学習時の雑談、班内のなれ合いなどが起り、班日誌で、私語、手遊び、意見が出ない、などが出され、班内での底辺の要求がくみ上げられない、班の活動が形式化するなどの問題が起り、たて直しが必要になった。

1ヶ月後、班長の指導、班員の団結をどのようにするかという点で、班長会を持ったが、班替えをするということで問題が解決するという観点（構成員の組み替え—既存の人間関係をバラバラにする）から全体会に提起し、討議不足のまま編成替えを決定した。

ここに、班編成の問題点は不明確なまま、当初の目標を再確認するという具体的なとりくみなしの編成委員会が開かれたことにより、無作為の編成となり、その後班活動の面で、班内での協力関係が見られず、援助を必要とする者が発言しないという状態になった。

編成後十数日の学級会で、ある班から、「わたしたちはいつもボロボロ班である。しかし、生活面ではいろいろ対策を立て実行したため向上したが、学習面で、どんなに努力しても、教え合い協力できない。」という問題が提起された。そこで、学級全体でこの問題を解決する方向で討議がなされ、さらに班長会では、教え合いができない、班の平均点が悪い、発言ができない等の問題把握と、学校全体でとりくんでいる全員全力学習、全員発言にどうとりくむかという点で討議がなされ、問題提起以外の班からも同様の問題が出された。とくに、学習面で遅れたなかまをどのように包んでい

くかという点で話し合わされ、班編成を再度行うことに決定した。

編成委員会では、前日の班長会を受けて、目標達成のため全員発言にどうとり組むかで班での助け合い学習をどうするかという点で話しがなされた。学習面で援助を要するなかまを、M君、Y君、T君、Oさんと具体的にあげ、さらに、一人一人の特徴も含めて人間関係の面からも追求しながら、誰に誰のグループが任務を持って当るという方面で、ややもすれば多数決で解決しようとする傾向を排除しながら、2時間余の討議の末、原案を作製した。

その後、まだ個々の班で、数多くの問題を含みながらも、次のような班日誌の傾向が見られるようになってきている。「S君のことについて班会を開き、S君は今までわからないところを聞かなかったが、わからない事は聞くという決意をさせた。でも、班員がS君の前や横に座るのがいやだと思っていたのでは、S君には聞くのがつらかっただろうし、女子が5人男子が1人なんだから、もう1人男子がいて、わからない所を聞いてあげればよいのではないだろうかと思う。わたしたちも努力して、男子と同じぐらい、S君の気持を理解してあげたい。」

教師としては、班日誌の記録の中で問題点は何かということを見つけ、その問題点を班に返す作業と、やはり、生徒自身の自覚的な意見を尊重する立場で、ややもすれば、誤った方向での討議が進められる場面も数多く見られることに対し、あくまで生徒自身が問題を自覚するまで待つことと、班の一部に問題を投げかけ、その生徒が自覚する中で班や学級に対し働きかけ、闘う姿勢を重視して行かなくてはならない。

## (2) 班活動について

4月当初、6班を次のようにきめ、それぞれの班員が自主的に意見を出し、班長を中心に仕事の内容を確認した。

(1) 生活班…服装の点検、生活基準に照らした行動の点検

- (ロ) 美化班…学級の美化，掃除の点検，評価，道具の整頓，花の世話，落書き点検
- (ハ) 体育（レク）班…学級のレクの計画，実施
- (ニ) 学習班…学習態度の指導，次の学習，テストの予告，家庭学習，宿題の調査，テストの平均点
- (ホ) 報道班…学級新聞の定期発行（月3回）情宣掲示，放送の聞き方確認
- (ヘ) 会計班…会計処理，貯金の世話，画用紙の一括購入など

(3) 点検と相互批判，班競争について

報道班を例にとれば，月3回の新聞発行がなされ，現在第10号を発行しているが，毎回その内容や形式がよくなってきている。これはその班員の能力とも考えられるが，実は第1号からの内容を批判し援助し，次回の発行を確実にせよとの他班からの要求活動がその要因と考えられている。

また，班競争については，現在各クラスで，全員発言を目標として，班毎の発言回数点検表とテスト平均一覧表が利用されている。

発言回数点検表は発言をしぶり恥かしがる生徒に発言の機会を与えなれさせるのに大きな力となっている。それも，班員の支持のもとに発言させることを狙いとしている。

これにより各班の自発的発言が増加した現在では，回数よりも内容，質の向上を目指す段階に来たことを生徒自身が気がついている。また各教科のテスト平均一覧表は，教師が実施したテストも生徒が作製実施したテストも全く同じように取り扱っており，各班が平均点を出し学習班がまとめて記録する。

この狙いは成績の優劣を競うのではなくて，他の班との比較により，自班の長短を知り，班内の遅れている者を援助しその成績を引き上げることにより援助する側も向上することを狙いとしている。生徒たちは自分の成績にこだわらず班内に出し班長は公表する。「自分たちの班はいつも最低だ。これはK君がいるせいだ。……」こんな意見が班日誌に出てくる。教師は援助の重要性和班の高まりの必要性を助言する。単に点取り虫的競争ではなくて，卒直な

成績公表の競争が，班クラスの団結向上に役立っていることは大いに喜ぶべきことだと思う。

(4) 学習生活へのとりくみ

全員発言を狙いとする学習を指導して以来，生徒たちは学習を自分たちのものとしてとらえ以前に比べて学習が生きてきた。

教師に指名されて，いやいやながら返答するのではなくて，進んで発言するようになれば意欲的な学習になる。そのことが生活面での行動に結びつき，是非を判断し，自律的に行動する生徒のふえてきたことは指導の成果であると思う。

(5) 学年集会について

班や学級の活動がクラス全体の中で確認され，さらにそのことが学年全体として，学年目標とてらしてどうであるかを確める場として学年集会が持たれている。

毎週水曜日に学級委員が中心となって運営される。討議される内容は各クラスの週目標や当面している問題を学年全体としてどうとらえるかということを中心に置いているが，現在までは集会の持ち方が単調で内容をもっと考えてみたらどうかという意見が出されてその検討を始めている。また集会での発表者は固定せずその日の日直が行なうこととし，集団の中で，自分の意見も含めて口頭で発表する能力と態度を養わない，学級における全員発言というものと一致さす方向を狙ってとりくんでいる。

学年の問題を学年集団の中でとらえ，解決していこうという意識が生徒の中に広がり，これを成功さす意味においても学年集会の持つ意義は大きいと考えている。

#### 4 班日誌を通じてのホーム指導（3年）

##### ① 学校目標を生徒のものにするための学年

###### ホーム目標

最終学年を迎えて、生徒一人一人が2年間のバズ学習の経験を基礎に、豊かで創造力がたくましく、団結した学級集団・学年集団を作りあげるために、十分な時間とホーム討議を重ねて次のような学年、ホーム目標を設定した。

「バズ学習を通して人間関係を深め、自分の進路を早く確定し達成するために全力で努力しよう。」

この目標が単なるスローガンではなく、生徒自身の血となり肉となるための具体的な取り組み方として、次の努力目標が考え出された。

##### ① 全員発言による全力学習で各教科ともに取り組む。

(イ) 2時間以上の家庭学習で予習、復習をし学習を自分たちのものにしよう。

(ロ) 発言、発表の態度や発言内容、質問の質を高めるために集中力のある学習態勢を作る。

##### ② きびしさと暖かさと励げましのある班ホーム作りに取り組む。

(イ) 自己批判、相互批判を中心として、班、ホームから落ちこぼれない仲間態勢を作る。

(ロ) 差別や暴力は、たとえ小さなことでも見のがさず、ゆるさない。

これらのことが毎日の学校生活で、生徒たちの中に、どのように展開され、仲間どうしがどう評価し認めあい成長しているかということを教師の立場で把握し指導するための資料として、また生徒どうしがきびしい自己批判 相互批判をする手がかかりとして、班日誌を活用することにした。

##### ② ホーム班の解放をめざす班日誌（全員発言学習を高めるために）

生徒全員の瞳が輝き、ホーム全体が「発言したくてたまらない。」「学習は自分たちのものだ。」「自分たちで積極的に進めるものだ」という自覚と積

極性、仲間意識を養うために班日誌は不可欠のものである。

班日誌を通して仲間と仲間、生徒と教師の生きた人間関係がつくられる。（教師の班日誌に対する意見の記入）いわば班日誌は班、ホームの生きた集団を形成するためのパイプ役をしている。このような役割を持っている班日誌指導の観点について箇条書的にあげてみる。

① 学習の主人公は生徒である。集団思考をもととした全員発言学習を自主的、積極的に行い、全員全力で学習と取り組み、仲間どうし信頼しあい保障しあいながら学習内容を高めるてだて

② 学習、生活ともに絶対に落伍者を出さない班、ホーム作りをはかる。

③ 班の向上が個人の向上、個人の向上が班、ホームの向上と不可欠であることを事実を通して認識させ、厳しい自己批判、相互批判と励まし等によって人間関係を向上させ、学力の向上をはかる。

④ 「正しい人間関係とは何か。」ということを追究し、「生きたバズ学習」を進めていくてだて

⑤ 個人、班として学校生活での取り組みを具体的におさえ、その問題点や成果を絶えず個人、班、ホームに明らかにしながら成長をはかる。

⑥ 個人のかくれた能力、すばらしい思考、発想等を引き出し評価する。

⑦ 暴力、差別を許さない平等で何んでも自由にものが言える生き生きした解放されたホーム、班作りをはかる。

⑧ ホーム、班目標を朝、帰りの生活バズの中で追究し、その達成に取り組む。

##### ③ 具体的な班日誌指導

1. 班員に順番に書かす。

2. 日誌の内容については、全員発言、班の人間関係の高まりはどうなっているか、生活や学習でどのような成果や問題があるかなど、

具体的に事実をあげながら、自分の意見や感想をおりまぜて書けるよう指導する。

3. 朝の15分のホームの時、班で内容を確認した後、ホーム主任に提出する。班の課題は帰りのホームで討議し、方針、対策をたてて処理する。
4. ホーム主任は感想、意見を書き添え、週1、2回くらい班日誌をプリントし、各班の成果と問題点を明らかにし、班またはホーム討議の資料とし、班、ホームの向上に努める。

#### ④ 成果と問題点

##### 1. 成果

- ① 学習が積極的になり、全員思考、全員発言の学習が自分たちのものとして、生き生きとできるようになった。
- ② 家庭学習で予習が十分にできていないと全員発言学習はできないという自覚ができてき、家庭学習を積極的に行うようになった。
- ③ かなり内容のある班日誌を大部分の生徒が2～3ページぐらい書けるようになった。
- ④ 班、班員の進歩した点や問題点が適確につかめるようになってきた。
- ⑤ 学習の遅れている生徒に対して、班としてのでだてができた。
- ⑥ 班内での批判活動、班と班との批判を通して班、ホーム全体の人間関係が高まってきた。
- ⑦ 遅れている生徒の発言やテストの点数などで、班として評価し、認め励ましてやることにより「班の何物に自分はならないぞ !!」という自覚と学習や生活に対する意欲をもち積極的になってきた。
- ⑧ 班日誌が完全に生徒たちのものになり、生徒自身書く喜びを味わうようになってきた。
- ⑨ 班日誌が班、ホームの成長の記録として定着した。

##### 2. 問題点

- ① 書く内容が抽象的で自分の意見、感想などまだ不十分な生徒
- ② 自己成長、変革のために、自分の立場で深く

視点を十分に把握していない生徒。

- ③ 仲間の批判を受けとめ、自分が決意し方針を出しても三日坊主に終る傾向のある生徒。

#### ⑤ 資料(班日誌)生徒の生きた姿を

1. 数学の時間は発言がなかった。発言権をとろうとしたが取れなかった。これは声を出して目立つようにしなかったからだと思う。学習はまじめにできていた。英語の時、本田君が自分から発言したことは良かったと思う。結果はまちがっていたが、それでも自発的に発言したことは本田自身の進歩だと思う。しかし、全体として発言数が少ないという事は班長の責任もあると思うので、もっと早く発言権を取るようになります。

班全体が少しぎわついているような気がする。班員どうして注意しあうことはあるが、たまには聞いてくれない時がある。でもそれはたまにあってほとんどの時は聞いてくれるので、これも少し進歩したのではないかと思う。(中略)下村は発言の面でもまだ積極性がないが、近頃は班の話し合いにも参加できたようで、これからは発言もできるようになるだろう。本田は今日の英語のテストで百点だったが、これはやればできる事を証明したもので、それだけの力はあると思う。わたしたちの班は近頃他の事でも班のまとまりができてきているので、発言もまもなく多くなるだろうと思うし、多くしなければいけないと思う。

(4月26日 3A)

2. 最初発言は1日1回がやっとでしたが、現在では多い時には1日5回以上もできるようになりました。その原因は最初は家庭学習などが不十分だったので、発言の機会があっても発言出来なかったが、現在では家庭学習も十分にできているので発言も積極的にできだしている。

全員発言を始めて向上した点は、①学習に集中できて発言も内容の高い発言ができるようになった。②答えでまちがっていたら恥しいという気持ちがあったが、今はもうなくなった。③発言することによって自分のわからなかった所などがわかりだしたので勉強が面白くなってきた。ぼくの意見としては、全員発言は絶対に必要であると思った。それは、自分のわからない所を友だち、先生に聞くとすぐわかりだした。それからというもの、豆テストで最初あまりいかなかったのが、今ではかなりできるようになり、向上している。バズ学習による全員発言をするために班になっているので、班内での協力、教え合いなどができているからだと思います。今は個人が向上し、班が向上し、ホームが向上したと思う。

このことから、ぼくたちはさらにバズ学習と取り組み、力をつけるためにどんどん発言して活発な学習活動を続けていきたいと思います。

(6月12日 3B 野口 貞幸)

3. 今週は4班にとってとても良い週でした。今までの努力が少しずつ実ってきて、色々な進歩があらわれてきました。

4月に班を結成してからずっと今まで長い間ぼくたちの班の問題点であった「女子は積極的でない。」ということも今までの努力のかがあって、ついにそのことから脱出する事ができました。4班の女子といえば、積極性がないとか、発言が少いなどという事がすぐ頭に浮んできていたと思いますが それは、ほんのこの間までのことで、今ではもうホームの女子の中では目立つ存在にあると思います。

ここまでするには他の班員やホームの皆の批判や励まし、協力があったからで、それ以上に自分たちで努力したからだだと思います。何事も最後までやる気になってやればできる。

こうして日誌でそれを評価したり、ホームで皆が評価してくれることも女子にとっては大きな自信になることだと思います。(中略)益岡

も進歩してきたと思います。

ぼくが発言するように指名すると、何の抵抗も無くオーケーして発言できるようになったし、時には「ぼくが発言するから発言権を取って。」とか言うことがあってぼくも驚いている。女子が進歩したことに刺戟されて益岡も頑張りだしただろう。(後略)

(6月25日 3A 班日誌)

# 第4回バズ学習研究集会

## 学級会活動とその運営

〈班日記と共に〉

高知県室戸市立吉良川中学校

### 1 本校の実態

#### (イ) 地域

人情淳朴で勤儉をもって、広くその住民性を評価されてきた土地柄である。古い殻の中に清新の気を合わせ持つ町民性であるが、この安定した本町と隣りあわせの同和部落は対称的に不安定である。後に平地なく、前に広がる海は、近年次第に不況に追われ、他の地域でも大同小異だろうが、吉良川における一般部落と同和部落との格差は大きい。

#### (ロ) 学校

生徒数215(54)、要保護生徒22(19)、準保護生徒10(9)、( )は同和部落。我が校が県下の厄介者の代名詞のように見なされているのは、まことに残念である。進学率にしても、生活態度にしても、決して市内の他校に劣るものでなく、生徒の大多数は堅実そのものである。それは、毎年学校目標の設定に当たり、礼儀、掃除態度よしの評価が出るのはヤセ我慢ばかりではないと思う。やはり大多数の子供達は昔からの町民性を引継いできていることを感じる。唯一部に不安定な者が残ることも確かで、その姿は10年にもなろうとしているのに、いまだにすっきりした解決に到っていない。この解決には学校教育の中だけでは、どうにもならない問題が残されている。一部のそれらの生徒の家庭のほとんどが欠損家庭であり、周囲から再差別されている家庭である。周囲から白い目で見られ、生まれ落ちたままの姿で、基本的な生活態度も与えられないままの多感な子供が、自分の権利のみに目を向けたときの姿

はおよそ想像されるわけである。学校教育の中で、その数を増さないよう努力するのに懸命といったところで、彼等の周囲には家庭的な愛情に欠け、地域の支えもないことは確かだ。家庭に自分の占める位置がなく、せめて若いエネルギーを発散さそうとすれば、周囲から白眼視され、彼等の安住の場所は学校である。学校とは自分達のエネルギーを、時には不満をブチマケる場所である。こんな彼等を学校から追い出したところで問題解決にはならないのである。

### 2 研究の流れ

46年度は本校にとって記念すべき年であった。新校舎の建築も終り、来年度からは移転する運びになった。旧校舎も4月には解体し姿を消すわけである。26年間、吉良川町の教育を支えてきた殿堂である。しかし、その間の半分の年月は問題をかかえた月日であり、なおその少なくとも半分の年月は苦悩に満ちた明け暮れであった。暴力が巢食い『地獄の鐘』が鳴っていた時代である。先任の血のにじむ努力と、生徒・父兄の悲願が徐々に実を結び、やっと正常校への光明を見出す今日を迎えることの出来たことをせめても旧校舎への償いしたい気持である。問題行動の起る原因は多岐にわたるも公教育で受持つ領域は、子供に学力をつけることに帰する。お客様として見捨てる授業からは問題行動は消えない。又、教師の力にも限度があるし、生徒は多数の仲間と共に生きていることを思えば自分を取り巻く仲間から受ける影響を教

育の場に活用することは時には教師以上の力も期待できる。この観点から、本校のとりあげた班による小集団指導が生まれた。45年度からバズ形式による復習学習をとりあげ全員参加出来る学習に取り組んでおり、本年度はその形式を一般授業へも持ちこむとともに、東部中学校から学んで帰った班日記による生活指導、学級集団作りを組み合わせることとなった。従来本校には個人ノートの指導があったが、東部中学校で見た班日記には、全教師がこれにどうして気づかざったろと共鳴したものである。しかし今の本校の実体から取り組む危険も感じたが、目をつむって生徒の中へ投げこんでみたわけである。

### 3 班日記の実施へ

我々が学んだ春日井市立東部中学校では、班日記を書く意味について

- 個人の問題を全体の問題としてとらえて行く。
- 書くことによって問題を客観的にとらえて行く。
- 目標の達成、学習活動促進のために役立つ。
- 教師が気づき得ない生徒の心や行動を知りまた生徒相互の理解が深まる。
- 個人、班、学級の成長過程が記録されて行く。
- 教師と生徒の心をつなぐパイプの役割をする。
- 生徒の生活の中に思想が育って行く。

先方にとっては貴重な資料である 班日記をむりに数冊借りて帰えり、それぞれむさぼり読んだ。そして実施にふみ切った主な理由としては

- 東部中の班日記を書く意味と 生徒の班日記の内容が かなり結びついている。
- 個人ノートの指導では、教師と1人の生徒との対話に終わってしまう。
- 個人ノートでは ややもするとつげ口や 何とかしてもらいたいといった消極的な面

が多く、自分達で克服していこうという積極性に乏しい。

- 生活バズのきっかけとして使える。
- 班活動 学級活動における人間関係を高める手だてとすることができる。
- 班会で発言しない子供も書くことができる。

以上いくつかあげたが、一方の心配として

- 生徒の負担、教師の負担がふえる。
  - 内容によっては返って問題をひきおこし暴力ざたまでに発展するのではないか。
  - したがって 暴力を恐れ 形だけで 素通りして深まらないのではないか。
- などと いろいろ考えられたが とにかく生徒になげかけてみよう。ということで実施に踏み切った。

### 4 班日記の歩みの中から (46年度)

(1) 1年生の班日記より

※ 班日記で生きる ※

(9月9日) K子

個人反省：私は近頃班活動がいやになった。二学期になると人が変わるからなじめないのかなと思う。学習時間けんかが多いのも、一人一人の性格がわかっていないからだと思う。私はよく考えて少しでも良くしていきたいと思う。

M君へ：なにかと言うとSさんに「勉強せえ」「こんなことがわからんか」と言っていることを耳にします。自分もそんなに言われたら良い気持はしないでしょう。ものを言う時にはよく考えて言うように、でもSさんに教えてやることだと思う。これからも続けてやって下さい。(以下略)

(10月4日) M男

個人反省：近頃また前みたいに人にいやがらせをするようになった。自分でも悪いと思っていながらやってしまう。こんなことをしてはどこえいってもきられる。今後絶対にやめたい。

班員へ：みんな僕をさげようとしている。

どんな時でも、のけものにしようとする。SさんとKさんに聞きますが、これから僕がきちんとやれば、仲間に入れてもらえますか。人に相手にされないくらい悲しく、くやしいことはない。Sさんは、僕と何かやるとものすごく嫌がる。KさんもSさんと大体同じだ。それからO君に聞きますが、分裂をされて理由を聞かないのはそれがわかっているからです。だから僕は協力しているのです。ぶじゃくするような言い方はやめて下さい。皆んな僕と仲良くして下さい。僕をみすてないで下さい。そして三班を良くしていきましょう。おねがいします。

評：大変よい反省だ。口だけでなしに態度で示そう。君の努力をみんなに理解してもらってがんばって下さい。よくかいたぞ！

“一人一人をみんなで生かそう。一人一人がみんなと生きよう”という学校目標の考え方にたって班で話し合いを広めて行こう！  
/ 苦しい時には前進している！

※ 班日記は結ぶ ※

(Sさん)

今日は何と良い日だったろう。ホームの時間、皆にせめられているKさん、そりゃ悪い事もあるかも知れない、でもそんなに皆んなでよってたかっていじめるようなことは断呼として私は反対する。理科のテストの時、いけないこととはいえ本を見ていましたが、3年間余り勉強していないKさんに何がわかるというんですか。ホームの時泣いているKさんがふびんでした。私も泣きたいような気持ちでした。それで私はついK子さんといっしょに自分も勉強をしました。その後のさわやかな気持ち、何んとも言えませんでした。帰りはほんとうにはればれとしました。

評：よくやってくれました。それをあなただけでなく、他の人にもそれぞれできるように働きかけて下さい。あなたの行為は生涯Kさんの胸に焼きついて消えないでしょう。

(Nさん)

Kさん、あなたは今の班の方が少しましでしょう。でも私達はあなたを助けなければい

けなくなるでしょう。どっちにしろ皆は皆で助け合わなければいけないと思うのです。それは普段男子があなたをからかったりした時私達は笑っていました。そんなこと関係ないと思うのですが、私も小学校5年生の時、あなたよりひどくいじめられ、毎日泣いて帰った日が多いくらいあなたの経験を知っています。嫌われて、男子にてがわれて、でも私は泣く時どうしたらいじめられなくなるだろうと思って泣きました。初めはあなたのように男子を追っかけまわしていましたが、皆は私が怒っているのに笑って喜んでいました。そして6年生になった時、一人になりたいと先生に言いに行きました。そして余り人と話さず、2日目は皆私のことをかまいません。それから私はからかわれるのは皆と私が相手になるから、そしていじめられるのは皆より大げさに言うからだと思いました。すぐ怒ったんじゃ男子の追っかけっこのお遊びになるだけ、あなたも男子をどなりながら追いかけてなくても自分で考え、帰りのホームでまとめて言いなさい。からかう人も相手にしないでやめるかもよ。

評：あなたはそういう事に気付くのですから大したものですね。班員でどうしたらKさんが皆にいじめられないようになるか、又班活動がうまく行くか話し合ってください。

(甲) 2年生の班日記より

※ からみ班日記 ※

(6月23日)

俺が外出しても、妨害しても、班長が注意しない。そんなことで班長がつとまるか、それに女子の無駄話が多い。女子は自分のことを棚に上げて、俺の悪いことばかり言う。また男子は掃除をしないと言うが、女子はどんなにまじめにやっているのか。授業中に大きな声を出すのは、班長と女子に腹が立つ。まづ班長だ。男のくせに弱々して、もっとぴしっとすれば良いのに、もっと注意しなけりゃ皆は良くならないし、勉強も身に入らない。注意したらおこると言うが、勉強に関係のな

いことを言うたら注意せえ (S夫)

(6月24日) T男

外出者が自分が何をしているのか、それが良いことか悪いことかを知って書いているのだろうか。それを承知で外出するとはもっての外だ。外出先は知る限りほとんど隣りの組で、物を借りに行くのだ。2~3回ともなるといくらなんでも自分のしていることがわかりそうなものだ。

(6月26日) H子

班長は無駄話をしてもし注意しない。外出しても注意しない。私が「おこり」と言っても「言うたって聞かん」と言う。そんなこと言わないで注意してみて、それでも聞かなかったら意地でも聞かすようにしたら。前にもS君が書いていたが、もっとびしっとしろと言いたくなる。S君だって案外注意してもらいたいと思っているんじゃないかしら。だから頼れるびしっとした班長になって下さい。

(6月29日)

俺はあんまり言えないけど、思っていることを言わせてもらう。本当はもっと注意してもらいたい。だけど班長が、それは言うのをやめよう。俺の思っていることは、注意してもらって良い班にしてもらえたら……。俺がこわいならこわいでえい。腕づくでダメなら口があるじゃないか。口でこいや。(S夫)

(6月30日) T男

今月、気のついたことは 始めのうちは外出が多かったが 下旬頃から急に静かになった。静かといっても大きい声は日に一度はするようだ。今日は珍らしく掃除を良くやれた。今日は珍らしくSはまっ先に廊下をふいていた。これが続けば1人2人と増えて行って不参加者はいなくなるだろう。むりなようにも思う。そこを何とか続けさしたい。皆は班長班長といっているが、班長だけが注意すべきものか。

(7月2日)

やっぱり新しい班はいいね。Y君は俺がわからない時は教えてくれるし、Y君はやさしい。外出や無駄話をしたら注意してくれるし、俺の求めていたのはY君かも (S夫)

※ 反省班日記 ※

(12月18日) M男

オレたちの組では、班日記を帰りのホームで読んでいる。聞いてみると、班のいいことやわりいことを書いている。ほかの班の人たちのをさんこうにしてかかなければならないと思っているが、文をようつくらんに、ようかかんがやけんど、やってやれないことはない。やらずにできるわけがないと思ってかいてみる。オレの班はむだ話が多い。むだ話はオレとKがしている。それでものたりない時は北から西からもいっしょにしている。いけないことだと思うがようやめない。すると思う気はあるけど、友だちが朝はさむいので朝のふきそうじはいや。勉強はどの時間も前をうつしている。社会の時間はうつしているときとうつしてない時がある。勉強している時、オレらがしずかな時にほかの人がむだ話をしたらやかましくてはらが立つ。オレがした時もほかの人がはらがたつと思う。オレらは前をうつしているだけだが、ほかのものは前もかいて、あたまにもはめる。やかましいことをすこしずつなおしていきたいと思う。家でも勉強するときもあるが、勉強をするといったら英語の本文をうつすだけだ。ほかのものもすると思っているが、ほかの勉強はむつかしく、かんがえなければならないからいやなんだ。きまつの時家で勉強していたらと思った。

(12月20日) S子

今学期最後の班日記です。だから反省をします。この学期はなんとなく過ごして来たようで、忙がしすぎたようではっきりわかりません。しかし、忙がしい忙がしいと思ったことは確かです。いろいろな大会、運動会、文化祭、修学旅行と、この4ヶ月足らずの間に大きな行事が四つも五つもおしよせて来ました。私が今迄に初めて経験した忙がしさです。

みんなもそうだったと思います。しかし、それだからと言って、壁掲示やその他の班の仕事ができなかった理由にはなりません。壁掲示はどうでしょうか。この学期何枚できた

でしょうか。私は今のやり方ではどうも壁掲示は週一枚はできないと思う。たとえば委員長か誰かに壁掲示の責任を持たせ、絶対に水曜日なら水曜日に作らなければいけないように決めて、もし正当な理由もないのに作らないなら全体討議にして話し合うようにしたらと思う。けれど、こういう私も全体討議で手を上げて意見をいうことはできません。みんな恥かしいと思っているようです。3学期には全体討議でみんなが発表できるようにならなければいけないと思う。そうじはこの頃みんなが参加できだした。しかし協力し合っ手ぎわよくというところまではいっていない。バズ学習も良くなってきた。数学の時は特にできている。復習学習もまあまあだ。この班日記もとうとう毎日1ページ書くことを守りとおすことができた。それも全員が喜ぶべきことだと思う。

(イ) 3年生の班日記より

※ 班日記は呼びかける ※

(12月5日) M子

10日ほど前、A夫君の個人ノートを先生が読んでくれた。それにはびっくりするほどの決意がかかっていた。みんなもそれにはびっくりしただろう。でも一週間もたたないうちにもとにもどったようだと思う。おとこの国語の時間に呼びに行くと「やってもなんちゃあならん」とか「わからん」とか言っていた。それに新しい班になってから掃除に全然参加しない。前の班もこうだったのだろうか。あの個人ノートを書いた時は参加していたのだろうか。またA夫君は新しい班になってから班の仕事の分担をした時、自分からずっと一ヶ月間予定調べをやると言った。三人ともそれに賛成して発表した。しかし次の日にまじめに書いていない。書かないかんと言うと、少し書いたが、ややこしいと言ってすぐやめてしまった。A夫君が個人ノートを書いた時は、本当に決意していたのだろうか。どうしてこんなに早くそれができなくなるのか。A夫君は弱虫だと思う。予定調べにして

も調べて来て書くにも10分位で済む。その上自分からやるというおいて、昨日からおとといA夫君は音楽室でピアノをひいていた。そうじをしいという「ひやいわあ」といってピアノをひいている。私は思うのだが、ピアノをひくよりもみんなで力を合わせて、そうじをした方が暖くなると思う。A夫君はあまり掃除をしないから、それを知らないのだと思う。それに掃除や復習学習などに積極的に参加することから、みんなとの協力もしあうことができ、よいクラスができるのではないだろうか。

— 中 略 —

A夫君、苦しんでいるのは君だけではない。勉強も少しずつ、1日に30分位でもやっていると気が少しでも晴れると思う。そうじもできるだけ参加して、みんなと仲良くしていくことが大切だと思う。K夫君、授業中発表する時もっとはっきりと思っていることをパッと言ったらどうですか。言おうかやめようかと思っていると、なんだかはがいたらしくなる。違っていたらそれだけ覚えるのだし、ごそごそしていて徳になることもない。そしていやなものはいや、よいものはよいと、はっきりしたらよいと思う。この間A夫君が腕ずもうしようと言った時、しぶり、しぶりやっていたが、やりたくなかったらいやと言ったらよいと思う。K夫君も勉強したいという気持はあると思います。遊ぶのにひきずりこまれずに、勉強する方にひきずりこんであげるよう努力したらよいと思う。

※ 班日記を考える ※

(7月15日) H雄

昨日で期末テストが終った。まだ返してもらっていないテストもあるが、僕のテストの結果は思っていたよりできていいきもちだった。それから日記について悪口を書く。僕だけの意見ですが、班日記を書いても、ろくに意見もないし、討議もしないのに、こんなのを続けていても意味がないのではないのでしょうか。もうこんな日記はやめてほしい。僕の態度が変わってきたのも、この班日記が

始まってからだと思う。でも、吉良川中の先生はこんな班日記がいいものだと思っているのでしょうか、この班日記がいいものなら、すべてのものがいいものになるはずです。よその学校のしていたことをまねていても、みんなが認めるものでしょうか。一部の人だけが認めても、班の誰かが認めなければ、班日記とはいえません。すべての班員が参加できるならそれでもいいと思いますが、どこかに認めない人がいるはずだと思う。こんな班日記なら班日記とは言えないだろう。

僕はこの頃掃除には全然参加できていない。その理由は言うのはよしておこう。そして、学習態度も前にくらべて随分悪くなり、今では、学習に全然参加していない。これも言うのはまたとしておく。班員の人が怒るから、今日僕は、帰りのホームの時席をたって図書室、音楽室へと逃げた。逃げた原因は女子の班員にある。毎日の勉強がなんだ、ホームがなんだと毎日思う。

僕は今までにこればあ長い文を書いたことがない。これで終りたいと思いますが、班日記の件について、よその学校がいいと認めたものをまねしたのですか？ それなら、よそのやっていないことを僕たちで決めて、それを高めていきたいと僕は思います。僕は班日記については大反対、こんなのはやめろ、班日記追放

(注)この頃、班日記に対する不満、しんどさはHのみならず多くのものに潜在していたと思うが、廃止、改善をはっきり打ち出したのは、彼が最初であり、班日記の意義、在り方を再考さす上で又とない機会と考え、ホームで全員に投げかけることにした。

まず、日記に書かれた彼の疑問点を分析、感想、意見を書いてやった上、班会で読ませ、ホーム全体へ提案さそうとした。ところが、彼にとっては面白くなく、外へ飛び出す結果となった。班員や多くの仲間の力で、彼を教室へ呼びもどした後、班日記と彼の一連の行動について、班、全体での討議がなされた。以下は班日記に書きとめ発表された主な意見の一部である。

(班日記の意義と在り方について)

- 班日記について今まで何の疑問も抵抗も感じなかったことについて、自分でも意義のある班日記でなかったような気がする。それを今から考えてみたいが、やはり、班日記は続けるべきだと思う。H君の気持も全然わからないでもない。
- 班日記についてはこれからも続けていったら良いと思う。それは、私の班でも掃除に参加してくれなかった人も参加してくれるようになった。これも班日記を続けていくおかげだと思う。また、悪い点は班日記にかいたりして、これからもなおしていくべきだと思う。そして、みんなの心が通じ合うのではないだろうか。
- 班日記はみんなの意見をきくため、クラスのため、吉良川中のためにかかすことのできないものだと思う。たとえ東部中からまねをしたといっても、班日記はみんなの意見や班の問題点のあつまる場所である。そして公開して、意見、問題点の最大の解決場所であるから班日記を続けていくべきである。

(Hの所属する班の結論)

- 班日記は、その日に書いた人だけで、みんなが考えなかった。今までの私達は反省すべきだと思う。でも、班日記は何でも書いて、みんなの気持がわかるのは良いことではないだろうか、その内容を班のみんなが意見を出し、全体討議しなければ、自分に関係のないことだといって聞きのがすのはいけないことだと思う。
- 班日記はもちろん討議が必要だと思う。それが十分でないのは誰の責任とも言えない。個人個人の責任なので、自主的に参加し、他の人の意見をきいて、自分の悪いことも少しずつでもなおしていこう。

(Hの行動について)

- 班日記を書くのがいやなのは君だけじゃないので、なんぼいやでも今日みたいにはぶれてほしくない。
- 班に協力してやって下さい。Mさんが自分の責任のように思っています。H君は他

の人に迷惑をかけても良いのでしょうか。

私達の班はそうではないと思います。

- 個人の問題でなく、班員の問題だと思う。もちろん、そのためには個人個人の自覚があってこそ班が成り立つが、個人を生かすには班員の協力がいると思う。わざわざ班学習している意味がない。

(⇒) 班日記の指導の中から

- (前略) 二学期には、パターンのマナーを防ぐため、批評らんに色々工夫をこらしたが、時間不足と学習不足から満足なものは得られなかったが、各班より重点目標の1～6がでたし、各班員も班日記で何かをつかんだような気がする。自分のホームでは、班作り、学習作りにこの班日記が果たした役割は大きいと自負している。これからの課題は班作り、学級作りをより確かなものとすると同時に、討論作りに、わくを広げたいと自分自身に口約束している昨今である。 1年担任 A

- 班日記が実施されだしたが6月の末。最初ほとんど毎日言い上げ、軽蔑悪口雑言の書きなぐり、全くウンザリすることの連続だがこれでいいんだ。これでいいんだ、いつの日か誰かが何かに気付き変わるだろう。今はこれでいいんだと希望的観測を持ったりした。しかし毎日が勝負だ次の日迄おいておくことができない仕事なのだが……。それから数ヶ月、子供達は変わったのか、考えてみれば気の長い話だ。 1年担任 B

- (前略) 個人ノート、班日記、面接などの結びつきこそ、不安定な個々への精神衛生的処方であり、個々を集団への導入であり、ひいては個人、集団の思想化へともつながって行く牛歩路とも考えている。ともかく、書かれだしたら(権威とは無縁の仲間から)、聞き出し(多少ふざげきみだが)、書きだし(反発もあろうが)、そしてひいては行動的(全くの自主性から

は未だ遠くても)になって来るものではないだろうかと理論めいた感情が毎日の班日記の中から読みとれるようだ。

2年担任 C

- 班日記指導の中で一番訴えたいのはSさんの人間的な成長である。私は彼女を1・2年と持ち上がりで教えているが、これほど変わった人は珍しいと言っても過言ではない。1年の時は、成績は大変よく、指導力もあると思われた生徒であったが、自分の殻にとじこもり、自己中心的な言動が多かった。班学習 班活動の取りくみなども、現在のそれとは比べものにならない。そのSさんが2年になってから積極的に班のこと、学級のこと、学校のことと目をむけ考えるようになって来た。(中略)

この班日記については、書かせるための時間の問題、また後の処理の問題と、いろいろあるが、子どもたちが、自分のまわりをとりまく問題にめざめ、対処していく態度を養うのには、非常に効果があると思う。

2年担任 D

- 班日記を書き、それを班会で討議することだけで全て問題が解決し、生徒が成長するように思われるかもしれないが、班日記以外に色々な要素 クラスの集団、親子の対話、家庭訪問、教師の援助……が働いて生徒は成長していくものです。(中略)でも班の団結を強め、生徒の変化への動機をつくり、その向上を定着させるのに班日記は一定の力を示していると思う。班やクラスの向上のために1～2時間考えながら書いた日記を基にして班討議にはそれなりの深み、きびしさがあり、互いに班員を理解しあうものと言えます。

3年担任 E

- Hの班日記に対する訴えは、学級に大きな反響を呼び、無意識に書き、討議にしても不十分だったことについて 反省の機会をもたらした。また、同時に彼自身の行動

についても、批判が加えられ、彼の再出発の日ともなったと考える。3年担任 F

(ホ) 精神健康検査の概観

生活の深層を認識できて初めてその指導、組織化が期待出来るものではないだろうか。子供を知ろうとして実施したのが本検査である。たまたま本校では小集団による協力関係を指向して「バズ学習」を研究しているがそれにしても、その少数の中で「阻害感」が介在するとしたら、その集団は、ただの集まりに過ぎないのではあるまいか。二年生に精神健康検査を実施したのにもやはり理由があり、「2年生の生活を最重視して取り組みたい。」は端的に言って、問題点が一番多いとみてのものであり、その健康度は外観するだけ、或いは感じたもので、生徒観は適切でなかった。1人ひとりの生徒を、全員が「知る」、これが生徒への当り方を一つにする事につながろうし、それが問題行動の多い職場での教員の姿勢でもなければならなかった。

2年生の精神健康度の検査の成績は、偏差値に換算出来ない者が多く、このプロフィールを信頼出来るものか疑った。総体的に女子に問題が多く、長所もさることながら短所がかなり問題となっている。ただ短所の中で情緒不安定がそれほど問題になっていないのはどういうわけか。情緒不安定な者は少なく、他は無関心を装っていたのではないだろうかと思われる。2Aについては最近の状態をどう見ることが出来るか、班日記の関連もふまえて第2回を実施してみたが、その分布の偏りは殆んどなく、ダイアグラムの面積も小さく、全体的に落ち着きがみられていることになると思う。殊に「对人的親和度」についてみると、感情的で自己統制がうまくいかない生徒が激減している点、注目される所である。全体を通して言える事は「良い生徒」「大人しい生徒」と目されていた生徒が混乱した学級に諦め、ないしは無感応な生活をしていた点がかがえ、今後注意していくべきではないだろうか。その点、2年の場合は、

話し合う場が出来、隣の意見に耳を傾けるバズの初期の目的、基礎が出来たとみるべきではないだろうか。班日記の成長と比較する事が望ましいと思う。

(ハ) 班日記に対する生徒の意向

班日記開始日 —— 46年6月19日  
 第一回アンケート —— 46年7月8日  
 第二回アンケート —— 46年1月14日

項目	班日記はいやだ	班日記は良いことだ	復習学習が活発になった	班日記はかくのがしんどい	生活バズでケンカがふえて来た	生活バズの内容がよくなった	班内の友達との対話がふえた	班日記は今のようで良い	班日記はもっとときびしくかく	
第一回	406 ②	342	222	9.1	47.9	1.91	17.0	—	57.5	22.7
第二回	224 ②	41.1	36.0	16.8	37.7	3.7	24.1	74.2	74.2	13.7

5 47年度の取り組み

(イ) 目標と実施方法

A 班日記のねらい。

- 班に生き班を高めて行く。
- 仲間の気持を知り、仲間と共に考える。
- 一人の狭い考えをやめて全体的視野で。
- 班へクラスへ建設的な意見を出す。
- 自主的な学級作りのパイプにしよう。

B 班日記をかく諸注意

- 全員が必ずかく。
- 不真面目な態度でかくことは仲間をうらぎることになる。
- 事実だけでなく自分の考え、対策を。
- 「Aさん」「Bさん」でなく個人指名で。

- 私的な感情でなく、班、学級の関連で。
- 自分の行動や態度に対する反省を。
- 班活動で得たり、苦勞した経験を。

### C 班日記の方法

班内輪番制で、家に持ち帰り、書いて来て朝のホームルームで提出、主任教師は帰りのホームルーム迄に読み、評記入の上帰りのホームルームで各班へ返し、生活パス、学級討議にかける。以上を正常ルートとしている。

### D 班日記の活用

#### ○ 班会発表

ホーム主任の評を得た班日記は、帰りのホームルームで返され、次の当番が班会で読み上げ、生活パスが展開される。

#### ○ 学級会発表

ホーム主任の指示のあったもの、学級全体に関連のある班日記は、全体会へ読み上げて全体討議に引きつがれる。

#### ○ 学級新聞発表

当初は主任の意図的な配慮として、参考的な内容のものを学級新聞の原稿にまわしていたが、本年度の傾向として、各学級ともに、班日記を一編は生徒自身の選択で選んでいる現状で、学級交流、校内交流の役割を各学級新聞が果している。

### (四) 47年度の班日記から

#### 1年A組 U 枝

今の班は明るくておもしろい。でも、ただおもしろいだけでなく、決まるところはちゃんとときまつたほうが気持がいい。でも、今の班は少々友達だし、ちょっとH同志だし、同じ部で練習しているので話がのるらしく、なかなかやかましい（なるべく話しかけないようにしたい）前の班で私も班長だったからTちゃんの気持よくわかる。いざとなると何でも「ハイ、班長」だったら腹が立つ、だから1人1人が班長になって平等に仕事をすべきだ。でも全部じゃない、班にはやはり

リーダーが必要だから、そこのところはよく理解してもらいたい。私達も全部班長まかせでなく、復習学習の順もちゃんと決めてやりたい。なるべく………じゃなくて、がんばって協力するからTちゃんしっかりね。

#### 1年B組 V 恵

私はだいぶ前にN君のことをこの日記に書きました。だから、また書くのはなんだか悪いようですが、N君が少しもよくなるないので、また書きます。前にも書いたように、N君は、数学の時間はとても静かです。そのくせ、国語などの時間になると、きまってるさくなります。なぜそんなにちがうんでしょうか？ やっぱ先生が変わるからでしょうか、

でも、私はそんなことはうるさくなる理由にならないと思います。N君も数学がまじめにやれるんだったら、国語や他の授業もまじめにやれると思います。いくら先生が変わっても、N君さえやる気があれば、どうってことはないと思います。N君は、自分から勉強ができないようにしているようです。だって、毎時間のようにノートを忘れてきます。ノートがなければ、黒板に書いてくれたことも書けません。そうすれば、みんなより、それだけひまになります。その時間が退屈だから、へんなことを言ったりしているのではないかと思います。だから毎時間ちゃんとノートを持って来て、みんなといっしょにノートをしたらいいと思います。

それから、たいがいの人が、N君が変なことを言って笑わせると、すぐ調子にのって笑います。だから、N君がまた言うんだと思います。N君も気をつけなければいけないけれど、まわりの人も、もっと気をつけなければいけないのではないかと思います。

#### — 班員の意見 —

今まで何度となくN君のことがでました。N君は反省したその次の日は、まじめにしています。それからは、またいつもの調子にもどっています。N君が、なぜみんなの勉強のじゃまをするのかわかりません。一度徹底的に、クラス全体で話しあってみたらいい

と思います。(当日話し合う)

### 3年A組 S 吉

僕は今まで「ウソ」をついていたかもしれない、何度も無駄話をやめる、まじめにすると班員に言ったことだろう。僕がそんな事を言ったと思うとものすごくはずかしい。でも約束するよ。今まで僕のためにつくしてくれた Hさん、Uさん、T君、ほんとうにごめん。僕は最後まで君たちの言うことを聞いてやる事ができなかった。ほんとうにごめん。でももう約束するよ。どんなに僕の事を思ってくれたか その君たちの気持は忘れない。ありがとう。君達は最後まで僕を大事にしてくれた。新しい班になっても無駄話はしないだろう。掃除はみんなといっしょにするだろう。そして勉強もまじめにするだろう。

それから みんなといっしょのことをやるだろう。これが僕のできるすべてだろう。そしてまた、9班の人達が僕におしえようとしたことを僕一人でやりとおす。またやりとおさなければならないと思う。いやでも、なぜなら いままで僕といっしょになった班の人達にせめてものつぐないをしなくてはならないから。ありがとう 今まで僕を大事にしてくれた人達。これも Hさん、Uさん、T君のおかげかもしれない。なぜこんな事を思うんだろう。今日の僕はすこしおかし、ふつうの時はこんな事は思わないのに、なぜだろう。………ありがとう班員の皆さん!

### 3年B組 E 子

毎日毎日書いている班日記。もうだれが書いても同じようなことばかり書いてある。

「無駄話が多かった。掃除ができた、できない。」など。もうそろそろ、新しい、一歩前進したことを考え、書き、実行する時に来たのではないだろうか。それが何なのか私にはわからない。今、この班日記を書こうと思って、前の人の書いたのを見て思ったことであるが、私たちには、こんな班日記に書く問題は少なすぎると思う。問題が少ないということは、進歩していないということではないだ

ろか。毎週日曜日の午後 NHKで「中学生日記」という番組がある。それは、ある中学校の一年生のことが描きだされているが、あれほど問題の多いクラスは少ないだろう。テレビだからわざと問題を作っているのだろう。しかしもし問題が起きて、あの人たちくらいに、みんなが真剣に、問題は問題だと思い、それを解決する努力をすれば、どんなにかクラスが良くなることだろう。テレビのようにとは言わないが、みんなもっと問題だと思う気持が必要だと思う。

## 6 おわりに

- (1) 心からの対話がなければ、問題ははみ出していく。
- (2) 学習保証のない呼びかけには問題児は耳をかさない。
- (3) 精神的な結びのない班学習は形式的。
- (4) たゆみない呼びかけが 問題児を呼び起こす。
- (5) 認められ、からみに入った時 問題児が目覚め 動きだす。
- (6) 訴へることで自然と自身の行動もひきしまってくる。
- (7) がっちり組んだ班の結びが学級を民主的、自主的に前進させよう。

以上、班日記とともにの学習設計を思考し学級経営を押し進めているもので、遅々たる歩みだが「からみ」から「結び」へ「結び」から「前進」・「建設」への階段を登りかけたものと考えています。

## 第4回バズ学習全国研究集会

# 学級会活動とその運営

(学級集団づくりをどうすすめていくか。)

広島県豊田郡木江町立木江中学校 道 先 春 彦

### 1. 学級の性格

3年A組、男子13名、女子16名、計29名。彼らは2年時において、特殊学級(8名)を入れて3学級であったのを特殊学級を廃止して新しく2学級に編成がえして発足した学級である。

学級担任として共に生活する中で感じたことは、男女の仲が大変悪いこと、掃除など奉仕活動をいやがること、時間が守られないこと……など、全ての問題を利己的に処理し、クラス(みんな)の立場を全く無視してしまっていることである。ある生徒に「どうして掃除をサボっている人に注意してやらないの」と尋ねると、「どうせいらてもきいてくれないもん」というあきらめムードである。授業中にわからないところを話しあわせてもお互いに協力してやろうという気配は少しもみられない。「あっしには、かかわり合いのないことでござんす。」といった態度である。

そこで、この個々ばらばらな学級集団に揺さぶりをかけ、自分と学級集団のかかわり合いを認識せざるを得ない場づくりに取り組むことにした。

### 2. 班編成

この場づくりのためには学級を小集団に分ける必要がある。そこで、クラスを5つの班に編成することにした。

班編成にあたっては、男女混合であることを要求するだけで自由に班をつくらせた。この一つの条件に対する抵抗が大きく、なかなか話しあいがつかない。そこで先ず「くじ引き」で決めて、その後で変わりたい人はお互いの話しあいで変わることにした。

このようにして一応班は出来たが班内での座席の位置が決まり落ち着くまでに1週間以上もかかった。と同時に当番活動を通して女生徒から苦情がではじめた。「男子はサボって仕事をしない。はじめから男女一緒に当番をさせるのは無理である。はじめの内は男女別々に当番をさせ、男子がある程度自主的に出来るようになった段階で男女一緒にさせるべきである。」…等々、班内の矛盾・ゴタゴタが現われはじめた。

男女のかかわり合いを班内にもってきた意図もこのゴタゴタをおこすためにあったのであるが…。

### 3. 班競争

この班内の矛盾・ゴタゴタを班と班との矛盾・ゴタゴタに結びつけ、生徒の目を他の班へ、学級集団そのものへと向けさせるように班競争をとり入れた。競争をしくむのに、学級で目標を決め点検することにした。

目標を決めるにあたっては

(1) だれでも努力によって、達成できるもの。

(2) 結果が容易に把握出来るもの。

この二点をふまえて、次のように決定した。

○目標（点検項目）

- (1) 遅刻をしない。
- (2) チャイムが鳴ったら早く席につく。
- (3) 始業前に教科書を机の上に出しておく。
- (4) 約束の時間内で掃除をする。
- (5) 掃除は協力してやる。

○評価の基準（各項目5点満点）

- (1) 1名遅刻のとき2点、2名以上は0点
- (2)(3)1名できないと3点、2名以上は0点
- (4) 時間内にできなければ0点
- (5) 1名サボると3点、2名以上は0点

#### 4. 評価のしかた

班競争は、ただ競争させ、順位をつけて終わるのでは意味がない。生徒の意欲をかきたて、進んで競争に向かわせるように仕向けなければならぬ。そのため、一番悪い班を1つだけ明らかにし、つとめて「ボロ班」「ビリ班」というように感情的な評価を投げかけるようにした。

評価のしかたは廊下の掃除当番になった班から2名出て、その2名が点検項目にもとづいて行ない、その結果をもって短学活でビリ班とその決定理由を発表することにした。

#### 5. 歩み

班競争をはじめて最初ビリ班になったのは1班だった。その日の反省会は感情的になって不平不満をいうだけで終わった。

「どうしてわたしら悪いこともしないのに反省しなければならないの？」(K女)、「3班は授業中は話（マイナス発言）ばかりしているのに、わたしたちの班の方が静かで良かった」(S男)とか、「今度週番になったときは3班（週番班）をドベ班にし

てやる。」(K女、S男)といったとんでもない発言が出てくる始末だった。授業中騒がしいことも短学活で取りあげるようにすればどうかと提案すると、「どうせやってもだめだ。」(S男、K女)と受けつけてくれない。

最後まで反省らしい言葉は一つも聞かれなかったが、自分達の班を自覚し、他の班の存在を意識しはじめたのは事実である。

三日後の4月21日の班日誌には次のように書いている。

今まで僕たちは自己主義で協力がなかったのですが、これからはお互いに協力し助けあっていきい。そしてどの班よりも仲のいい班にする。

先生へ——ドベ班になった時に先生がいるのはかまわないが班の反省にはあまり口をだしてほしくない。なぜかという、班の反省でこれが一番いいことだと思っても先生が口を出すと反省にはならないと思う。

班で反省したことを翌日の目標にし、それでもだめだったらまた反省する。そうすることによって班全体が進歩していくと思うから……。

4月26日——今までは協力がなかったが少しでも協力しようという気持ちがでてきた。これからも協力してもっと良くしたい。この班で守る目標を話しあった。

- (1) 協力する。
- (2) 男女仲良くする。
- (3) 一つでも悪いことがあったらどうしてそうなるのかをみんなで話し合う。

最初はビリ班になったら15分間班会議を開いて反省することになっていたが、「ドベ班になってもいいわい。」(S男)という声が出るようになってビリ班になったらその翌日の給食当番をするという事になった。更に、1週間でビリ班になった

回数の多かった班が給食時のエプロンを洗うということも決まった。

#### 〈5班の班日誌から〉

5月17日——最近ドベ班の回数が多く、給食当番をやらされるので学校生活が面白くない。

折角男子が真面目になってきたのに、いつもこんなふうだと男子はグレて全然何もしなくなってしまふ。私達のこともしは考えてほしい。

5月18日——男子は自分達の責任なのに少しも反省しない。男子はまったくいうことをきいてくれないし、もう男子のことについては責任をとりかねる。

このときの5班は遅刻は多いし、掃除の協力はダメ……と、いろいろ問題をかかえた班であった。班長のK女はじめ女子はこうはいながらも実によく取り組んでくれた。そのかいあって、少しずつ男子もK女の情熱に応えるような様子が見えた。班がえの日の日誌に「S君も遅刻しないようになってうれしい。」とK女は書いている。

5月19日——今まで私達は注意するばかりで何も具体的な取り組みをしていなかった、今度からはどうしたらよくなるかをもう少し考えていきたい。

S君(遅刻が多い)はみんなを誘ってくることにした。O君が引き受けてくれる。

5班のようにハンディをもった班ができたこともあって、評価の仕方を少しかえてみた。いままでの管理的評価につけ加えて、指導的評価をとり入れることにした。

#### ○どんな取り組み方をしたか。

- 取り組みがよければ +10点
- 少し取り組んでいれば +5点

#### ○週番に命令権を与える。

- 同じことで2回注意されたら -5点

- 一日に5回以上注意されたら -5点

#### ○週番班の逆点検

- 視点——(1)仕事を正確に果たしたか。
- (2)公正であったか。

不信任動議成立の場合 -10点

(班1票、2対2のとき不成立)

#### ○優秀班とビリ班の両方を決定する。

#### 〈短学活の記録〉

その日は5班と4班が同点でビリ班ということになった。

議長：あすの給食当番はどの班にしてもらいますか。

K男：5班は先週ビリ班になった回数が一番多かったのに、エプロンを洗ってないので明日は5班にしてもらったらいと思います。

議長：いまの意見についてどう思いますか。

I女：エプロンを洗ってなかったということこれとは関係ないと思います。それはきのう(月曜日)出すべきことです。

議長：ほかに意見ありませんか。(各班で自然にバズがはじまっている。)それではこれから3分ほど各班で話しあって下さい。

その時の5班の話し合いでは、エプロンを洗ってないから当然だというのはK女だけだったので、4班も一緒にすべきだとの結論になった。

あとは、その問題からはずれてビリ班になったことに怒りをもやしはじめた。総攻撃を受けたのはS男だった。

「S君は遅刻が多いがもっと自分から気をつけて遅刻しないでもらいたい。」(K女)、「どうして早く来ることが出来ないのですか。」(M女)、「毎日試験勉強をしているので朝どうしても遅くなる。」(S男)、「いままでも遅刻していたじゃないか。」(O男)、「夜になると目がさえてくるので早く寝

られないから…」(O男)、「それに給食当番もサボルことがある。もっとみんなに協力してほしい。」

(K女の声が荒々しくなってきた。)追求が厳しくなりかけたとき時間ぎれとなった。

議長: 1班から意見をいって下さい。

1班: エプロンを洗ってなかったという意見が出たが、Iさんのいう通りいまごろいうのはおかしい。だから2つの班で協力して明日の当番はやったらいいと思います。

(2班3班もだいたい同じ意見であった。)

4班: わたし達も一緒にやります。

5班: エプロンを洗わなかったのはわかったのですがすぐ洗いたいと思います。

その後で給食当番をさせることについての是非がでかけていたが、職員集合のベルで帰らざるを得なかったのは残念だった。

数日たった土曜日の放課後、5班の班長と1班の班長それにI女の三人がきて、D班になったら給食当番をさせるのはおかしいからやめてもらいたいという申し入れがあった。罰当番の形で仕事をさせるのは好ましくないということである。もっともな意見でこちらが反対する理由など一つもない。

月曜日の短学活でそのことが提案された。給食当番をさせることについての是非が論議されるものと思って期待していたが、彼女らの提案があっさり受け入れられて、かえって三人のいいかかったことはみんなに理解してもらえなかった。

翌日、T女は班日誌に次のように書いている。罰当番をとりやめてほしいといったが、きょう一日だけみても掃除にも授業にも協力がなかったように思う。……みんなはどのように考えているか書いてほしい。

#### 〈1班の班日誌から〉

6月14日——優秀班になれなかった原因は女子の協力がなかったということで、S君から注意された。せっかく男子が一生懸命やってくれているのにわるかったと思う。

S君は班がえて1班になった。この2・3日ずっと優秀班であったので自慢していた。この日はよっぽど腹がたつたらしい。

最近授業中も少しはバズができるようになってきた。

#### 〈短学活の記録(週番の逆点検)〉

議長 週番について何かありませんか。

O男 僕がチャイムが鳴っても席についてなくて減点されたが、あれは椅子に画紙があったのですから減点にすべきではないと思います。

週番 画紙を同じ班の人がわざと置いたのだから当然減点にすべきだと思います。

K女 他の班の人がおいたのであれば減点すべきでないかもしれないが、今日の場合は週番が正しかったと思います。

(O男あっさり認める。)

N男 1班の男子に対してはきつく注意(言葉使いがきつかった)して、4班の女子に対しては少し注意しただけで減点しなかった。

M男 3班も騒がしかったのに注意しなかった。1班と5班に対しては差別です。

週番 授業中は気づかないときもあるし、他の班も注意してあとから週番へ連絡してほしい。

S女 それも減点の対象になるのですか。

議長 どうしたらいいと思いますか。

S女 それをいれると、いい加減に注意しあっても減点にはすべきでないと思います。

議長 ほかに意見ありませんか。(ギャギャ……)

いまのSさんの意見とさっきのN君の意見について各班で話しあって下さい。……

結局、S女の意見通りになる。N男の意見に対しては騒がしいときはきつくなるのは仕方ないときもあるが、今後言葉使いには気をつけるということになった。

議長 週番が公正でなかったと思う班は挙手して下さい。(結果は2対2で不信任動議は成立しなかった。)

#### 〈各班の取り組みから〉

- 取合いがうまくいかないから席がえをする。この前は席がえのことで意見が一致しなかったが、これからはもっとみんなが勉強できるような席順にしたい。
  - N君は当分漢字ノートを提出していない。今後はやってきていない人がいたら班全体が残って全員済んだら帰るようにする。
  - 授業中に教え合う。
  - 今日から試験勉強にとりかかる。みんなでやってくることを決める。  
(みんなの目標—50点以上とる。)
- K男—数学(問題のポイント、方程式)  
A女—国語(プリント、漢字2ページ)
- わからないところがあれば明日学校でみんなに聞く。
  - 勉強をしていなかった人には、放課後みんなで教える。

以上各班の取り組みから主なものをピックアップしてみたが、指導的評価を試みるようになって各班での取り組みも少しずつではあるが進んできている。

しかし、評価するときに取り組みとその結果を混同したりして、短学活がなかなか進行せず、い

たずらに時間がかかることが多くなった。そのせいもあってか、点数制に非難の声が出はじめた。

6月28日の3班の日誌から—先生は点数をつけて僕達を良くしようとしているのですか。僕達は点数、点数ばかりで他の班に憎しみみたいなのをもっています。これが班というものですか。僕達は憎しみをもちたくありませんからやめてもらいたい。先生は強制的に点数制にして僕達をしめつけている。これでは僕達に進歩はないと思います」

そろそろ「ぶちこわし」をしてもいい頃だと思ったので、翌日の短学活でこのことをとりあげた。3班から先に意見を聞くと「点数制はやめにするもし今よりだめになるようだったらまた考えるという条件付きのものだった。他の班の意見も大同小異であったので7月から点数競争はやめることになった。

今後は彼らの主体的な取り組みを期待してしばらく様子を見たい。

7月1日校内話し方大会が生徒会行事として催された。3Aから各班を代表して5人の生徒が意見を述べた。次の文はその内の一つである。

## 協力について

3年A組 5班代表 ○ ○ ○ ○

ぼく達の学級は現在班活動を行なっている。もっとも自主的に始めたものではありませんが協力性を高めるためとにかく取り組んでみたのです。

この3ヶ月間いろいろなことを行なってきました。学級内の行事はすべて班ごとに取り組みました。たとえば、学活なども計画表にもとづいて、班ごとにとりくめるものは班で計画をねり、そのときの責任班のもとで実施してきました。

また、私達の学級は班どおしの点数競争を行なっています。この点数競争とは競争する目標と評価の方法を決め、それに従って点数をつけて一日で一番点数の多い班を優秀班と決め、その反対に一番点数の少ない班をドベ班と決めるのです。こんなことをして、どんな効果が得られるかという競争することによって一種の対抗心がおこりドベ班になりたくないという気持ちが出てくるのです。そのため班活動を行なう前よりもずいぶん遅刻もへり、そうじ中も熱心になりました。

今度は、学習面について話したいと思います。僕達の学級の授業態度はあまり良くありません。ワイワイ、ガヤガヤとっても騒がしいのです。そこで、僕は週番に注意された班はその日の得点から減点することにしました。これもあまり良い方法とはいえませんが前よりは注意されるごとに大分静かになった。

でももっと肝じんなことは、静かになるということよりも全員が同じように内容を理解することだと思います。だから授業中はなるべく班内でおしえあい、納得いくまで話し合うことが必要です。しかし、このことはまだ僕達の学級ではあまり活発ではありません。

————— 中 略 —————

以上班活動のことについて述べてきましたが、みなさんも学級をもっと有意義なものにするために班活動をはじめてみて下さい。

班は騒がしいからだめだと思っている人は最初からあきらめないで積極的にとりくんでみたらどうでしょうか。きっと最後には班活動を行なって良かった、*！班とはすばらしいものだ、！*と考え直すことができると思います。 (おわり)

# 創造力を高めるバズ学習

—— 人間性育成の場としてのクラブ指導 ——

兵庫県尼崎市日新中学校

飛 永 照

## 1. 課外クラブ（野球部）とバズ学習

本年度から必修クラブが実施されるようになったが、従来から実施してきたクラブ活動（野球部）におけるバズ学習の実際をとりあげ今後における必修クラブの発展を考えたい。

### (1) 野球部の実態

- |     |   |                           |
|-----|---|---------------------------|
| 3年生 | } | 8名中で体力中位が2名、それ以下が6名。      |
|     |   | 学力が中の上位者が2名、それ以下が6名。      |
| 2年生 | } | 11名中で体力上位と中の上が9名、それ以下が2名。 |
|     |   | 学力が上位と中の上が8名、それ以下が3名。     |
| 1年生 | } | 10名中で体力上位と中の上が6名、それ以下が4名。 |
|     |   | 学力が上位と中の上が7名、それ以下が3名。     |

3年生は、体力も学力共に力が弱く、スポーツをするには恵まれていない集団であった。

### (2) バズ学習をとり入れた理由

バズ学習方式を採用して、思考や練習過程

において相互作用の関係を強調し表面化させ個人から全体へ、そして個人への望ましい人間関係を育成し、各自の自主性を伸ばし育てる事が最も必要であると痛感したのである。

教師は指導の基本的な態度として「手は離しても、目は離さない」との態度で臨み、クラブの目標から練習計画の総べてまで、生徒の計画を尊重して実行させる事にしたが、それはあくまで全員が練習に参加し、おちこぼれない状態を維持する事が教師と生徒間の約束事であった。

### (3) バズ学習の実際

ア クラブの目的、基本的態度の理解

① 野球を練習して何を学ぶか→心身をきたえるが、特に忍耐強い人間となるため。

② 上級生は→心から尊敬される先輩になろう。

③ 下級生は→真面目であることに誇りを持つ。

④ 3年生は全員が選手であり補欠はなし。

各生徒が、独立したポジションを分担し、

対人法（1対1）で鍛え合う姿には劣等感や差別感は全くなく「下手でも熱心である」態度目標こそ尊ばれる習慣が形成された。

#### イ バズ学習の実際

2年生で抜群の技能があっても選手にはなれず、3年生で極端に運動神経が鈍い生徒でも代表となるからには、さぞかしのんびりとした練習風景であろうと想像されるが、実際は全く逆であり、各グループで火を吐く練習を自分達で定めて実行していた。

教師は、困難な問題の相談役であるに過ぎない。3塁手と遊撃手、1塁手と2塁手、投手と捕手、レフトとセンターとライトのトリオの組合せも生徒達の計画であり「ここは俺の責任あるポジションだ」の誇りと自覚からであろうか、まことにすさまじいまでの号令となり、注意となりアドバイスが飛び交っている。

「出来ない処は、出来るようになろう」とする努力が、難しい事をあくまで追求する姿に、指導者が心を打たれる事が度々であった。きびしいアドバイスの追求に、よく耐えている姿が可愛相な位であるが、好意を持って聞ける心の中が出来てきた事が人間関係の高まりを見せた。

また、上級生の、ひたむきな練習に、下級生は感動し、上級生と下級生の間に和と尊敬と思いやりの心情が生れた。集団意識や集団の良さも自覚され、そこから責任感、連帯感、協力、意欲、自主性等の社会性も芽生えた。それはやがて教科学習までに及び、学級委員に選出され情緒も安定し見違えがえる程の人間

的な成長が切磋琢磨によって生れたのである。

#### ウ リーダーとメンバー

生徒の自主的な活動を促す場合に特に大切な事は、リーダーの存在であろう。リーダーは小先生であってはいけないといわれるが、チームの人間関係の中心であり、リーダーシップが有るか無いか、即ち素養、力量、統率力の有無がチームの浮沈の鍵であるといえよう。

話し合いの方向や発言者の順序等を指示出来る能力も必要であるが、人間的に公平さ、親切さ、思いやり等の条件が特に必要である。リーダーを指導することは特に大切であるが、リーダーと並行してメンバーの指導を忘れてはならない。各班のリーダーは交替制であって特別の能力はなくてもよいが、クラブ全体のキャプテンの場合は、発言の指示能力の他に技術的長所と精神的長所が認められ人間的に安定しているという事が重要であろう。

特に体育クラブの場合には、練習は身体的にも精神的にもすべて苦痛が伴う事が多い事から、自ら先頭に立ち他をリードする必要が生じてくる。そこでキャプテンの権限を重視して皆が協力する体制を作ってやる事が、指導者にとっては考えられる。又他の部員に増して常に接触指導し、厳しい生活態度を要求しなければならない。

教師の指示の有無にかかわらず自発的に、帰宅後のシャドーピッチングやバットの素振り、スチールの体重の移動等も全員が共通理解のもとに課題としてお互いに復習をした事であるが、これらは皆リーダーの指導力の

賜である。毎学期に2週間の早朝学習会を設定して3年生が2年生と1年生に親切に教科学習のアドバイスを行ない、学校を2日以上欠席するクラブ員の教科学習ノートを交替で整理して家庭へ届ける。春の楽しい野外活動はんごうすいさん等のリクリエーションの計画と指導もリーダーの功績であった。

#### エ 考案した新しい方法(戦法)

練習試合後の反省は、次の練習試合の準備過程としてとらえ、多面的な意見の交換は、あくまで自分の考えをもって話し合い、他人の意見を大切に、個人→集団→個人の型で学習し、反対意見はあくまでも破壊ではなく建設を前提としてよりよい方法を導き出す為の対立や葛藤が多く出された。

今回の試合の実験を目標として練習課題の内容を的確に能率的に把握し徹底してその事を行なう習慣形成が各生徒の意欲につながっている。戦法もシグナルも、自分達で考案し実際に実施するのであり、試合後に出現する反省は山積する状態となる。

#### (新しく考案した特殊な守備の事例)

① 捕手のシグナルで、投手の1球毎に全野手は打球される方向へ体重をかける。

② 1塁手の守備位置は2塁手と同じ深さに守る。ランナーが1、2塁の時は、ベース斜後方10mに守備し投→捕→1塁手→右翼手とシグナル交換の直後にベースインして捕手からの送球でタッチプレーを行なう。

③ 2塁手  
┌ランナー2塁の時は、ベース  
└右後方2mに位置して投手の  
牽制球を常に捕球する状態を

保つ。タッチは総べて突きタッチとする。

④ 3塁手の手備位置は3塁ベース斜前方6mにする。

⑤ 外野手の定位置後方からの本塁送球は総べて投手がカットする。

⑥ バント守備は、総べて投手にまかせる。  
(新しく考案した特殊な攻撃の事例)

① 全員ゴロ打ちと、バウンド打ち以外は行なわない。

② バンド戦法は全く使用しない。

③ ランナー出塁後の攻撃は、90%をヒットエンドランで行なう。年間に1回も監督が個人ノックをせず、生徒がグループで練習をして、年間3回の大会に1回は優勝又は準優勝し、陸上駅伝大会も毎年優勝。

練習方法は、個→集団→個(グループは、1人対1人の対人法が最も多く、次に4人1組織のバズ形式)である。

#### (4) 校風への影響と野球部

試合後は、勝敗よりも、自分のプレーは守備と攻撃に、十分な効果を発揮する事が出来たかどうか、反省の材料として成長をはかっている。

ア 試合中は相手チームを全く野次らないうで味方チームを励ます声援の方法で行なうのが伝統とされつつある。声援や応援とは味方を励ます事であって、決して相手をやじる事ではないという事が身についてきた。

イ 朝登校後は直ちにグラウンド及び続きの運動場、外庭、中庭、校門の水撒き。朝から新鮮な清らかな感じを出している。その

事が発端となり、各クラブが、又各教室でも日番の清掃活動につながり「ゴミ一つない学校」の標語が生徒会活動の運動のきっかけをつくったのである。

ウ 礼儀と言葉づかいが正しく節度がある。職員室等の部屋への出入の際は「失礼します」の挨拶が全校生徒へ侵透し、クラブ未加入の生徒さえ当然として挨拶と会釈を行なう。来校の方々や、校内ですれちがった際にも極めて自然に「今日は」の挨拶が出るのも又地域内に於いて、目上の方々等への挨拶が好感を持たれて居り、生徒自身が喜びを感得している。

教科学習も、バズ形式を採用するのが増加し、全校クラブ等殆んどがバズ学習形式をとり、集団を通して個人を高め、望ましい個人の影響で集団が高まり、生き生きとした学校生活が築かれながら発展している。

以上課外クラブについて考察してきたが、これと必修クラブとの関連について本校の現状を述べたい。

## 2. 必修クラブと本校のとりくみ

必修クラブ即ち全校クラブの目標は、教師と生徒および生徒相互の人間的な理解を基盤とする教育活動であり、望ましい集団活動をして豊かな充実した学校生活を経験させる為の教育活動である。究極的には、人格の調和的な発達をはかり、健全な社会生活を営む上に必要な資質の基礎を養う事である。

本校においては、46年度の2学期から試行的に全校クラブを実施し本年度の出発に備えて研究をした。しかし施設、予算、時間設定に関して他教科との関係、本時間に対する認識等完全に解決されたとは言いえない。

実施に当たり、生徒及び教師の希望を調査しく生徒……60%が体育部希望。教師……70%が文化部希望>調整をして生徒60%を体育部へ入部させ、雨天にも活動できるカリキュラムを作成して発足したのである。

新しく本年度から各部平均予算額5,000円程度が市教委から配当され、不足分は各教科の備品等を使用して実施している。実行委員会が中心となり、活動時間は本質的に授業時間の中の1時間として充実した教育活動を展開しようと共通理解を深め確認して実行している。

各部の展開の仕方としては、その殆んどがバズ学習方法を採用して、教師と生徒が話し合い研究し年間計画を立て進行している。特に運動場を使用する体育部では、狭い校庭を多くの生徒が利用出来る為にと、新しいルールを考え、新しいゲームが出来る球技も生れている。(バスケットとハンドボールとの組み合わせ等)。

必修クラブには、現在残された問題がいろいろとあるが、指導の一つの方法として、バズ学習を十分に生かして、今後一層の努力をし、できるだけ望ましい方向に前進したい。

以上

# 第4回 バズ学習全国研究集会

主題 創造力を高めるバズ学習

副題 学習指導の原理から考察した  
クラブ活動における創造性の育成

学校名 広島県賀茂郡黒瀬町立黒瀬中学校

氏名 荒石久子

なぜクラブ活動が必修として設定されたの  
だろう。

[I] 従前の教育を広い立場でふりかえってみ  
ることにしよう。

① 生徒自から学ぼうとする欲求を満足さ  
せていなかった。

そうした中での知識は生命と結びつか  
ない。

② 概念を劃一的、同形的、単調、無味な  
方法によって指導したため生徒ひとりひ  
とりの独自の生きかた直接経験を無視し  
ていた。

③ 性急で無雑作に、広く、浅く、知識を  
与えた、そこには落着きと透徹性をも  
って知識を自己の生命に同化させるもの  
はなかった。

本校においては、

過去7年間自主協同性を伸ばす学習に  
取りくんでみて

④ 問題に対する敏感さ(問題の発見)が  
ない。

⑤ 思考に新しさがなく。

異質の導入は出来ても再組織して新し  
い見方、考え方が出来にくい。

⑥ びったりしたもの(優雅さ)が取り入  
れにくい。

⑦ 不適応児がいる⑤、⑥の項目(創造性)  
ばかりに傾注していると、初期の段階の  
習得をさせる段階を忘れがちである。も  
っともこのことは創造性の育成に当然含  
まれることである。

ある日生徒にこんな調査を行ったこと  
がある、一日で一番楽しい時間はいつか  
と、たずねると最も多かったのはクラブ  
活動、2位は昼食時間、3位が休憩時間  
と答えている。

もっとも楽しい時間として活躍する姿  
を分析してみると、

知る

・自分から動き新しい考えをつけ加  
えていく。

・いろいろな動きから、よい動きの  
知識を深めていく。

見つける、

・うまくいかない所をみつけ出し、  
直し方を工夫している。  
・友達の動きを見て、よい動きを取  
り入れていく。

試みる、

・新しい考えをもって自分にあった  
動きをみつけていく。  
・身につけた考えや動きを、くらし  
の中に取り入れていく。

こうした活動は生徒自身興味をもち自分  
自身何か学び取ろうとする強烈な欲望と体  
験とによって新しい動きのイメージにと変  
容していく、その体験の中で、一貫する不  
変な基礎的、根本的な真理と秩序とを発見  
し、本質の把握にと成功する。

このクラブ活動こそ古き教育の改造者と  
して新しく設置されたのだと思う。

またこの学習方法こそすべての学習指導  
の原理であると思う。

[II] 学習指導原理

① 学習の仕方を学習させるという原理  
(問題解決)

現代の各種文化内容はきわめて高度に  
発展分化し、ますます複雑な度を加えこ  
れに応じて社会生活の内容や組織もまた  
ますます混乱しつつある。このため生徒達は  
よりよく生きるための学習をしなくては  
ならない、科学や技術の進歩の速さに歩  
調を合わせながら種々の社会問題や文化  
的遅滞を乗り越えさせなければならない。

以前は学習内容が単純素朴であったた  
め一定の修業年限をもって学習させ、切  
実緊要な問題はなおざりにされていた。  
彼等が最大の関心と興味をもつ問題につ  
いて解こうとする自由と機会もろばわれ  
ていた、だから生徒は倦怠と嫌悪、不満  
と反抗、無関心と無気力とを感じた、そ  
こには独力で問題解決するなにもものな

い、そこで新しい学習指導の原理は彼等が最大の興味と関心を抱く問題を彼等に見つけさせ解決させなくてはならない。この原理に従うものはクラブ活動である。

クラブ活動の出発は当然不可能 → 可能に、不完全 → 完全にするように問題の発見からはじめなくてはならない。そのためには

- 強いモヤモヤを起こさせる場をつくる。
    - ・ 友達のプレーをみる。
    - ・ 何人かのプレーをみせどの動きがよいかと誘う。
  - 新鮮な教材課題をぶっつける。
    - ・ 自分より少し上手な相手と代ってみる。
- 未知のものに対して大きな感動や疑問を生ずる。
- ひとりひとりの問題をみんなの問題に高める。

- ・ コートを書いてやったらどうかするとワクの外に出さないようにするためにはどうするか、新しい疑問を感じ、またいままではよく出来ていたのにと矛盾も感じてくる。……と問題発見をさせ、つぎに問題解決へと迫らなくてはならない。そのためには、生徒自らがそれぞれ抱く目的や問題に照らして、それらに必要な資料、手段、方法、経験等を各自独自の個性と得意な能力とに応じて互いに分担協同して、蒐集しあるいは分解し、統一しながら、それぞれ生徒が抱く目的の実現に必要な知識を必要に応じて習得させることである。

例えばルールがわからない、ルール集をみるよう指示をす

る → 読み合ってみる → ことばが分らない → パレー等の過去の経験に移して考える。あるいはテニス部であるものに聞いてみる。そしてみんなの結集によって習得していく。

このように相互の意見、反省、をもとに目的実現の方法と態度、力を身につけさせる。

教師もともに学びある時は共感を示し生徒が切実に求めるものを与えてやる。教師の指導、助言、指示はそのまゝ生徒の自発や自学にと結びつく。

そこで生徒の習う一つ一つのことが真に彼等の魂に浸み入ってその血や肉となるのである。習う一つ一つのことを確実にわがものにしていく、このように如何にして目的に達するか、それに必要な方法はどんなにしてえられるかという問題解決の仕方を究極の目的にする生徒の学習は喜びと落ち着きと自信とに満ちている。そこでは、新しいものと古いものとを強固なバンドが結合している。

## ② 直観と体験の原理（見つける）

先にも述べたように学習に新しさがなく同々めぐりして進展しなかったのはなぜであろうか。

例えば、合理的な動きを理解しようと思って、「友達の動きをみてよい動きにしよう。」このとき、友達と自分の動きのちがいが、直観的にわかることがたいせつである。いいかえれば異質がわかることである。そのためには相手を見る力を養うことがたいせつである。例えば、

ストロークは、足の動き、リズムは、…と自分の動きとの関係で見つけ出すことを忘れていた。感性の受容性あるいは感性的な知覚の練習のみに片寄って雑多様な感覚印象に秩序と統一とを附与しこれを確実明瞭な知識にまで高めることがたいせつなのである。

だから、生徒の印象、経験は支離滅裂なものになって同々めぐりをし同じ次元で発展し創造への橋わたしにはならない。

直観とは、

- 不確な場における予感の成立
- 言語化しない信念と理解
- 環境の諸現象についての映像的な認知表象

このように直観そのもののうちに講成的、基本的作用、すなわち思惟作用が含まれているので直観を陶冶することは先にも述べたように感覚印象を自分の思考体制の中に組み込んで、自分の見方、考え方を再構成するところまでもちこまなくてはならない。例えば良いストロークの使い方は、足さばきが良くなってはならない。

このことを心理学者シュブランガーは「自己から抜け出て再び自己のうちに取り入れ拡大し獲得すること」としている。これを助成する作用を学習指導の原理としている。この根本の力は理解で、いかに生徒に理解させていくかは、体験あるいは直観である。

何をどのように直観さすか、

- 直観はその場、その時にいちばん必要なものでなくてはならない。  
(解決の方向に思考を発展させる可能性のあるもの)
- 自分はこうしよう、こうしたいという願望を含めたもの、
- 心の中のものをすべて出してイメージのとおり動いてみる、そこで、イメージと動きの異なりをみつける。

- 自分の過去のものを総動員する。
- 類似的なものにおきかえてみる。

例えば太陽……スタート。

このとき、太陽……日光浴、まっかといった因果的、接近的関係のものにはおきかえない。

クラブの時間にはつねにこのようにしたいといった願望をもたせ、体を動かして訓練をし、そしてそれをお互にもちよることにした。このように、直観出来たということは抑制をうけないで一つの過程をきびしく追求することで自発性を保存している。ここに生徒自身の体験を学習の出発点としなくてはならない。

### ③ 表現の原理 (バズ学習)

直接の原理に対して迂回的、間接的である。

表現は発展、深化、拡大、明瞭化、させるものでなくてはならない。

そしてそれらは人間本来の生きかたであって、私とあなた、私と彼と相手によびかけ相手の応答、共鳴、批判を求めずにはいられないのである。そしてそのために必要な力と素質とは人間に与えられている、自分は自分の呼びかけに対して相手はどんなに応答、反応、批判するかを予想し、又理解しつつ自分の呼び掛けを相手に正しく印象づけようと努力する、このような構造をもつ表現を学習原理として活用すれば体験や体験の直観と同じように生徒の理解と発展をよりかたためより確実にすることができる。

ふつう表現といえば「不安、喜び、怒り、不平、不満、同情等」のものとは異なるもので、この区別は私達ははっきりしておかなくてはならない。心理学者、リットはこれをあえて区別するため発展を象徴運動と呼んでいる。

私達はバズをさせます、すると参観者はよくものを言いますねとおっしゃる。

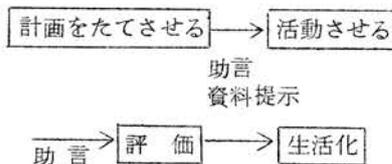
発言させておけば自主性、自発性が育てられたかのごとく錯覚をおこす。

おしゃべりだけに終って、たいせつなこと、彼等がいかに成長したかということは、問題にされていない、これでは彼等の自発性、自主性が陶冶されたことは考えられない。ここで先にも述べたように新しさがなく、同々めぐりをする、こんな学習では力がつかない、たしかそうだと思う。いくらクラブ活動は生徒の自発活動であるからとても同じであって、そこには思考体制が異質の導入（他の人の意見等）によって再構成され新しい見方、考え方、感じ方表現が自他ともに納得し認められたものでなくてはならない。やがて構想の段階にそれは発展する。

これらはあらゆる多くの機会に訓練しなくてはならないそのためには、適切な助言

- ① よいところをみつけて励ます。
- ② ここは少し直せば………」
- ③ 特に問題になる点について学習させる」
- ④ 「……でない場合は」観点を交える。
- ⑤ 「……どこからそんな考えになったか」
- ⑥ ○○と比べてみせる。

などのことを時に応じて行った。絶対に「まずいね」「だめだね」などの言動はつゝしまなくてはならない、表現意欲を減退させず、オーバーかもしれないが、これ一つだけを教師が守っていけば表現力は減退しないと私は思っている。表現力を高める指導の過程 — 教師



とくに話し合いは多くの機会にもたせ、ただしこの話し合いは彼等の要求に

応じて自然発生的に設け、声援を送るようなことから始め → 他人のフォームを矯正してあげよう → ……計画、自分の願望に対しては → と反省する中で話し合いを進展さすようにつとめている。

しかし旧態依然として再生産的に考え技術の注入にのみに陥っていると、新しいワザにぶつかった時にはたしてそれを受けることが出来解決できるであろうか。

この姿は人間本来の固有の姿ではなく人間の体験や生命ではない。

このような生命体験を表示するためには努力、精進なくては獲得できない。

なんら手もとに既成完結したものはない、それらを彼等がみつけるために、

- ① 熟慮反省
  - ② 他人の意見を参照
  - ③ 参考文献による
- 種々の工夫と努力をかさねる。

この苦闘のものがきこそ偉大な発展を示し普遍的なものになる → (構想段階) 表現において直観による体験は客観化、深化、拡大化を受けながら高次の体験となるこの意味では逆に表現こそまさに体験す直観の改造者、創造者、完成者であるというべきである。

体験の直観と直観作用とは互いに円環を描きつつ同一自分のうちに廻転浸透している。

直観で体験したものは集団とのかかわりあいの中で自問され、修正され、付加され、補強されてやがて法則化し普遍的なものへと発展する、ここで当然集団づくりに傾注しなくてはならない。

#### ④ 社会化の原理と個性化の原理

個性の発展はどんな条件と内容とを必要とするか。

個性や個人差を伸ばそうとする学習は社会性を助長せねばならない、逆に社会性を発展させようとすれば自然個性や個人差を予想しこれに立脚した指導でなくてはならない。

その社会性を助長するにはただの集まりであっては社会性は育たない、よい社会とは、能力、素質、興味、関心、発達段階等が比較的同じくする集りで、お互いに与え、与えられるという授受の関係を形成し、このような集団で個性と個人差とは伸ばされなくてはならない。

この原理に従えばクラブ活動は同好の集まりで、上級生、下級生という中で、ひとりの生徒は、同一の問題についてそれぞれ異なる観点と異なる方法とによって解決し努力する。そこで種々の見方と方法とを会得する。これがまさに個性と社会性、個人差と普遍性の関連と相互援助を生み出す学習形態である。

このことによりクラブのグループ作りも強い興味、関心を示すように配慮する必要があると思う。

そこで本校においてのグループ作りは

- 技能の同じ程度のものをグループにする、そこには同じ程度の問題をもつ。
- その中でも異質な考えをもつもので構成する。

例えば、部活動のサッカー、野球、庭球というように。

- 性格も考慮に入れる。

このように学年を異にする生徒達は、まことにうるわしく、相互援助、相互の尊重、責任感等が養われる。

生徒の反省にもグループ作りをして大変楽しくなったといている、またクラブ教師との親近感は一層強くなった。

以上学習指導の原理の上に立って新しいクラブをどう創造さすかを考えてきた。しかしこの中には諸々の問題をかゝっている。まず週一時間でクラブ活動の目標にある興味関心の追求が出来るのであろうか、追求ということになれば当然部活動にまで発展させるのが望ましい。

ただしこれには現段階では困難な点がある、がいつかの日にはこの夢が実現す

るよう努力しなくてはならない、そしてこの問題への追求はすべて教科でおこなわれている研究の成果であって、いま一歩ふみ込んだのに過ぎない。これからもよき創造者として直観、表現、集団作りにメスを入れなくてはと念じている。

S 47、7、20

## 第4回バズ学習研究会

# 態度的目標について評価の基準 測定方法の確立をはかるために

長崎市立磨屋小学校

(江口勝介)

### 1 はじめに

教育は人間が人間になる過程であるといわれている。教育の本質に迫るにはいろいろな教育の方法があろうが、バズ学習がめざす究極の目的も、そこにたどりつくことに変わりはない。バズ学習の姿として、認知的目標と態度的目標とが同時に学習の場において達成されていくことが教育の本来の姿に近づく道につながると考える。

しかしながら、日々の学習指導の中に見られる目標達成についての認識においては、ややもすると認知的目標の達成の比率が大であり、極言すれば、認知的目標達成のみが教育の姿であるかのような錯覚さえ起こす教育の現場である。

われわれは、教育が人間を価値あらしめるよう成長させるものであるという原点にかえて、そこから出発しなければならないとし、バズ学習がねらう同時達成の原則にしたがって、人間を価値あらしめる認知的目標と態度的目標の同時達成について、評価の面から研究にとりくみ、その中で、態度的な面の評価の試みを、評価の基準、測定方法の確立をはかるという面から具体化を図ってきた。

態度的な面の評価は困難とされているが、われわれは、教育がなされる場所必ず評価がなければならず、教育が態度的目標を有する限り何とかしてその評価のあり方を究明する必要があると考える。

研究の内容としては、集団構造の面を、集団と

してのグループあるいは学級全体のあり方を評価していくという立場から、態度的目標についての評価の基準、測定方法を、個人を中心としたグループのせまり方から評価していく立場で研究をすすめてきたのである。

### 2 評価についての基本的な考え

われわれは、教育実践の場で、評価という言葉は常に用い、実際に行ってきたが、評価の意義についての明確な理解なしに用いることが多いのではなからうか。それであるから、われわれは、まず、評価の意義を次のようにまとめた。即ち、教育評価とは、教育において、立案された計画に基づいて指導されていく過程において生ずる児童の学習や、また教育計画など、教育に関する事象が有している価値を、教育の目的や要求や価値観に照らして測り、判断することである。

そこで、本校がとりくんでいるバズ学習の中で以上述べた基本線にしたがって、バズ学習によって達成されるべき目標を念頭において、評価の基準、測定方法を研究していくことである。何らかの評価用具を作成することにより評価としバズ学習の望ましい姿へ到達できる足がかりとしたい。

### 3 具体的な研究方法

われわれは評価の研究にあたり、

(1) 評価の観点をどのようなものにするか。(評

価目標の決定と具体的分析)

- (2) バズ学習の場で評価しやすいようにするにはどうしたらよいか。(評価場面・機会の選定)
- (3) 指導の中で生かしやすい評価用具(評価用具の作成)
- (4) 結果をどうまとめ、指導の中にどう生かすか。(処理と解釈と活用)

という4つのことを評価の研究の手順としてとりかかると。さらに作成されるべき評価用具は、できうるかぎり妥当性を持ち、かつ信頼性があるものにしようという考えである。

そこで、具体的には、次の4つのことがらを中心に研究にとりこんできた。

- (1) 集団状況の成長度を評価すること。
- (2) 集団の中における個人の姿を評価すること。
- (3) 即時評価(認知的・態度的目標の両方をふくめた評価)
- (4) 児童による自己評価

次に、これら4つの研究について順を追って述べることにする。

### (1) 集団状況の成長度を評価すること

#### ① 評価目標の分析・評価基準の決定

われわれは、バズ学習を実践する中においてグループの行動、様子をより科学的に観察することが必要である。われわれは、グループがよいふんいきで、より創造的に活動し、グループの成員がそれぞれ自分を活かしながらいま活動しているかどうかをとらえたいと考えた。

そこで、まず、集団観察の方法を確立するにあたり、観察の観点を決定することからはじめた。最初、12の観点をひろいあげることができた。

しかし、さらに考察を深めた結果、次の7つに観点をしぼることになった。すなわち、集団活動の印象、集団のまとまり、集団活動の組織化、成員の相互関係、リーダーのリードの仕方、教師に対する反応、他集団への態度、の7つである。はじめは、これら7つの観点で、よい・ふつう・わるいの3段階でチェックしようと試みたが、観pointsの具体的内容がわからぬままにチェックするのは正確さの上で問題があると考え、観点を5つの段階に分け、その内容もあらわして評価用具をつく

った。それが表①②の集団観察チェックリストである。

#### ② 評価の方法と場

評価の方法は、観察者が評価の基準の5段階を十分把握し、あるいは、観pointsの表を手引きとしながら、チェックリスト(表②)に○をつけていく方法で、ここで大切なことは、評価の基準になる7項目のそれぞれの5段階を観察者は頭の中に正確にきざんでおくことである。それは、正確な観察を可能にするためである。

観察場面は、バズ場面、とくにグループ単位のバズ場面である。(これはバズ学習ということを中心においての限定であり、他に遊びの場、掃除の場、係り活動の場などにも利用できるものと考えられる。)

### (2) 集団の中における個人の姿を評価すること

#### ① 評価目標の分析と評価基準の決定

バズ学習をすすめる上で、態度的目標は、指導過程の中で指導がなされているのであるから、評価も何らかの方法でなされなければならない。われわれは、態度的目標について評価することにより、バズ学習の実践がよりよく行われ、人間関係がどれだけ向上したかを知るために、この研究を深めた。

われわれは、評価基準を決定するに先だち、評価目標の分析を行う。本校においてめざす児童像は、自主性・創造性・協調性をもった児童像であるから、この3つの柱をもちこんだ評価目標を分析する。それも態度的目標の評価に限定した。評価目標の分析は、指導案の立案の際に授業という具体的事象をもとに、態度的目標にもとづいた評価目標を定めていった。この分析は、態度的目標(指導目標)なしではできないことであり、われわれはまず、この態度的目標を3つの柱をもとに指導目標という見地から分析してつくりあげた。それも各学年により到達度に差があることを授業を通して知り、低・中・高学年と、発達段階に合った態度的目標(指導目標)をつくった。すなわち、

- (イ) 低学年——相手の話を考えながらよく聞いてなかよく話し合い、深めて学習する。

(ロ) 中学年——相手の考えや意見をよく聞いて自分の考えを深め、相手の立場をよく理解し協同して学習をすすめる。

(ハ) 高学年——全員参加による課題解決をめざし、協同して学習をすすめる。

われわれは、授業の際、これらそれぞれの態度的目標を評価目標として、これらの目標を5段階に尺度化してチェックを試みる。しかし、チェックする段階において1つの観点の内容が多すぎて観察者が正確にチェックできないことがわかった。

そこで、これらの目標を分析した結果、聞く・話す・考える・という3つの領域から評価目標をとらえることにする。さらに、聞く・話す・考える、をそれぞれA、内容的なもの、I、態度的なものにわけて、それぞれの評価目標を分析し決定する。この評価目標をさらに5段階に分析し、5の段階を評価目標として、観察の観点とする。こうしてできあがったのが表③④⑤の個人観察チェックリストである。

## ② 評価の方法と場

観察者は、個人観察カード(表⑤)によりグループ単位の個人のチェックができるようにする。その場合、①で述べた評価の観点を観察者自身十分理解しておくことが必要で、もしそれができなければ、評価の観点を表をもとにチェックしていくことが、客観性・妥当性をめざすうえからも大切である。

評価の場は、授業の中のバズ場面である。1時間の授業の中で、バズ場面は、そう多くあるものではなく、また、バズの時間も数分というのが普通であるから、短時間の限られた中で多くのグループ内の個人個人をチェックしていくことは無理である。そこで、前もって、授業に入る前に、どのグループを、どのバズ場面でチェックするかをきめて観察にあたるのが望ましい。

## (3) 即時評価

即時評価を、授業の流れの中において行なうことにより、児童の学習成立を確かめて意識づけ、さらに学習内容の定着度を高めること、また児童の学習意欲・つまづきを知り、その時間における個別指導のチャンスを得ることにより、児童の学習意欲を高め、より高率の高い指導を行うこと、さらに、教師

自身の指導の反省にも役立てることを即時評価ではねらっている。

### ① 評価基準の決定

即時評価の評価目標は、その時間内の認知的目標と態度的目標のいずれか、あるいは両方を、その時間の指導の目あてと関連して定める。それであるから、即時評価の場合、評価の基準となるものは、教科・教材内容によって違ってくるし一律に定めることはできず、大まかに、態度的なものと認知的なもの両面から評価基準を定めることを原則とし、あとは、日々の指導計画にしたがって評価基準を教師自身が時間単位で定めることになる。これらのことを考慮に入れながら作成したのが表⑥である。

### ② 評価の方法と場

次に評価の方法であるが、時間ごとに評価の基準を定めておいて、1時間の授業の中のどの場面で評価するかを定めて授業にのぞみ、評価の場で児童の挙手により、あるいは観察によりチェックリストに記入していく。即時評価をするにあたっての教師の考え方であるが、とくに態度的な面の評価であるが、態度的目標の指導が、指導過程においてなされるなら、当然、態度的な面の評価が必要であり、評価は授業の一部であるのであるから指導過程にもりこまれなくてはならないという考えを、とくに即時評価にあたっては強め実践することが重要である。そして、チェックを終えたら、結果を児童にも公表し児童の努力のあとを教師と児童共々にたたえ合い、至らない面は指導していくというようにする。

## (4) 自己評価

自己評価により児童は自ら学習状態や態度などを反省することができる。これは、今日の学習場面においては最も有効な評価であるとされている。

それによって、児童は自らの目的追求の意欲を得、自己改造に結びつくからである。だから、自己評価の場合、結果よりもむしろ過程において目的追求の姿勢をもたせることが自己評価のねらいとするところである。

### ① 評価基準の決定

自己評価においては、原則として、評価の基準

は、児童自身に定めさせる。それは幼稚な内容であっても、児童に身近な目標であり、目標追求の具体的な内容にもつながるからである。ただし基準を定めるにあたり、バズ場面の話し合いのめあてと限定し、態度的目標についての意図も含むような方向づけをする。そこで、低学年では、今のところ教師が基準を決めているが、できれば教師と児童との話し合いによって、さらには児童自身によってというような方向に進むようにしている。中・高学年では、グループ単位で話し合いによって定め、流動的なものとしている。すなわち、あるグループで定めためあてが達成されると、あらたなより高次の基準を定めるということである。

それであるから、できあがった評価基準は、低学年を除いて、学年により、学級により、さらにはグループにより、その実態に応じて異なるものとなっている。

#### ○ 即時評価の評価基準の一例

##### (第3学年)

- A グループのめあて——なっとくのいくまで聞き、よく発表する。
- B グループのめあて——グループを助け、人に親切で、よく手をあげる。

##### (第5学年)

- A グループのめあて——人にわかりやすく意見を述べ、人からの質問・確認などによってさらに自分の考えを深める。
- B グループのめあて——ふだん勉強の仲間に入らない人に自信をつけてやる。

#### ② 評価の方法と場

自己評価は児童自から評価していくものであるから評価しやすいことが前提であり、チェックリストの形をとる。このチェックリストの形式も、低・中・高学年それぞれの発表段階に適合したものになるよう3つの形式にした。

これらは、個人の態度の変化を見るものであるから個人別につくり、さらに、それをグループご

とにまとめ、自己評価をしながら相互評価もできるようにする。こうして評価されたようすは学級全体に公表されることにより努力をうながすものであるから、学級全体をグループごとに集計して学級全体のようすがわかるような(表⑧)にまとめるようにする。

次に評価の場であるが、評価の場をそのつどもつということが原則ではあるが、実際上は無理がいく。自己評価はしやすいこととあわせて評価の場も持ちやすいようにすることが必要である。

そこで1時間のまとめのあとすぐするか、それが無理な場合には、一日の授業がおわったあと、すぐに5分～10分の自己評価の時間をもって行うようにする。

## 4 結果と考察

われわれは、授業を通して、以上述べた4つの評価用具で評価を試みてきたが、その結果、次のことがらをそれぞれの評価用具について知ることができた。

### (1) 集団観察チェックリスト

#### ① 長所

- ア、グループのふん囲気、生活の様子などが吟味される。
- イ、得られた結果を他の評価物と比較検討ができ、その場合、集団の動きや発展や児童の態度などがとらえられる。
- ウ、個人観察チェックリストの得点と関連が深いので、両面からグループをとらえられる。

#### ② 短所

- ア、短時間内に多くのグループの評価がむずかしい。
- イ、授業しながら観察評価するには無理があり、他の観察者を必要とする。
- ウ、観察の観点をしっかりおさえて観察しなければ、正確さがなくなる。

### (2) 個人観察チェックリスト

#### ① 長所

- ア、集団における個人の態度的目標へのせまり方の様子を具体的に把握できる。

イ、集団観察チェックリストと関係づけて、集団と個人の成長の様子を見ることができる。  
ウ、個人を通してグループの様子も知ることができる。

## ② 短所

ア、短時間で多くの児童の観察評価ができない。  
イ、担任が観察する場合、先入観が入りがちであるから、評価基準をしっかりとっておさえて評価することが大切である。

ウ、観察にさいして、観点の理解が不十分なために、観察がなめらかに行かず、時間がかかり、その時間だけ他の児童の指導がおろそかになることがあるので、観察者の上達と、指導過程における評価の位置づけを明確にする。

## (3) 即時評価

### ① 長所

ア、その場で指導に役立てられる。  
イ、指導目標を意識して指導ができる。  
ウ、児童の学習成立を確かめ意識づけ、さらに学習内容の定着度を高めることができる。

### ② 短所

ア、評価基準を計画的に指導目標との関連において決めなければ無意味な評価となる。

イ、時間内に評価の位置づけを明確にしなければ、評価の機会をもつことができなくなる。

## (4) 自己評価

### ① 長所

ア、児童の目的追求活動の力となる。  
イ、児童自ら自分の学習の反省ができ学習への意識づけが強まる。  
ウ、評価の基準が身近かで具体的であるから実践とつながりやすい。  
エ、評価の基準を児童の実態に即して高めていくことができる。

### ② 短所

ア、点があまくなる傾向がある。  
イ、マンネリズムに陥りがちである。

われわれは、これまで、4つの観察法の作成と内容の吟味ということを中心に研究を進めてきたが、これらの観察法には多くの問題点がのこされ

ている。

先づ、これらの観察法のそれぞれの特性を生かして、他の評価法なども組み合わせて、児童の実態把握がよりよくできるような方法を考えなければならない。

次に、評価は学習指導の一部といわれながら、指導の方に重点がおかれがちである。評価しにくい用具にもその理由の1つはあると考える。そこで、できうるかぎり容易に観察評価されるような用具や内容へと改善していかねばならない。

第三に、われわれが研究してきた評価は、態度的目標の中における、主に対人的な態度面の評価方法である。そこで今後は、教科にたちむかう態度や課題にたちむかう態度の面の評価の方法についての研究も深めなければならない。

第四に、この研究では、観察評価した結果の処理、解釈、さらにはそれを学習にどう生かすかの研究にとりくむまでにはいたらなかった。これも今後の研究課題である。

最後に、これら4つの評価用具によって観察評価した結果は資料としてのこし、さらに継続的に観察評価を行っていくことにより、今後の学習指導に役立てる必要がある。

## 5 おわりに

望ましい学習集団への高まりを態度的目標の追求の面からしぼって評価しようという試みは簡単にできるものではない。われわれは、この研究を通して4つの評価用具を作成したのであるが、それらを実践の場につけて日も浅く、用具そのものについても、作成の過程では吟味に吟味をかさねてつくり上げたにもかかわらず問題点が残っている。

今後、われわれは、この4つの評価用具の研究によって生じた問題点を実践を通して解明し、さらに処理の仕方、活用の仕方、指導への役立たせ方などに検討を加え、よりよい評価基準、測定方法として改善していき、バズ学習が望ましい姿で実践化されるよう役立てていきたい。

表① 集団観察チェックリストの観察の観点

項目	段階	観 点
一、 集団活動の 印象	5 4 3 2 1	5 全員が活発に活動に参加し、楽しそうにいきいきと動いた。 4 大部分の者は、活発に活動に参加したが、やや積極的な協力に欠けていた。 3 成員が仕事にとりかかったが、形式的でただ与えられた仕事を消極的に行なった。 2 大部分の者は、かつてに活動し、ごくわずかの者のみが仕事を遂行した。 1 集団としてまとまらず、混乱して無秩序であり、ばらばらにやってなことをした。
二、 集団のま とまり	5 4 3 2 1	5 孤立児はまったくなく、すべての子どもが喜んで集団活動に参加していた。 互いによく相手を認め合っていた。 4 孤立児はまったくないが、時に積極性のみられない、つまり消極的に協力する者がいた。 3 集団が二つぐらいに分裂したり、特別な子どもと対立することもあった。 2 集団活動に無関心な孤立児がいた。それに注意する子もいなかった。 1 集団から排斥された孤立児がいたり、対立がたえなかった。他の成員の地位を下げようとした。
三、 集団活動 の組織化	5 4 3 2 1	5 全員が集団の目標を自主的積極的にたて、また、その目標を理解し、責任の分担を明らかにした。 4 全員が集団の目標を理解していたが、責任の分担がはっきりしていなかった。 3 集団の目標や、責任の分担について一部を除いて、多くの者があいまいな状態にあって消極的に動いていた。 2 一部には、目標や責任が理解されていたが、多くは無関心、争い・かつてな行動ばかりしていた。 1 目標もはっきり全員に意識されず、組織化もされず、逆に緊張や争いが見られた。
四、 成員の相 互関係	5 4 3 2 1	5 全員が互いに助け合い協力しあっていた。 4 大部分の者が助け合い協力しあっていたが、ごく少数の者の間に対立や競争がみられた。 3 約半数は協力し、相互に扶助し合っていたが、他は対立、競争、無関心が見られた。 2 わずかの者を除いて、互いに対立したり、競争を示したり、また相手に無関心であった。 1 だれもが相手に無関心であったり、競争心ばかり示し、ばらばらであった。
五、 リーダー の仕方	5 4 3 2 1	5 リーダーは自分の意見を主張せず、メンバーの意志を尊重し、よいふん囲気の達成につとめ、メンバーはリーダーに協力した。 4 リーダーは、たいていメンバーの意志を尊重したが、時に自己主張をはげしくすることもあった。 3 リーダーは、成員をほめたり、おだてたりして、リードしたが、時にみずからの役割にさからい、教師やその他の有力者にたよろうとした。時に成員からからかわれたり、ひやかされたりした。 2 リーダーはやや支配的、専制的で、おどかし、非難、罰などを用いて成員を支配しようとした。 1 リーダーはまったく支配的・専制的で、時には暴力を用いた。

項目	段階	観	点
六 教 師 に 対 す る 反 応	5	教師が注目すると全員親しみをこめた表情をしたり、話しかけをしてきた。	
	4	二・三の者が教師に恐れや極端な服従的態度を示したが、多くは親しみをこめた表情を示した。	
	3	心からの親しみというより、へつらったり、表面的な愛想をふるまう傾向が強かった。	
	2	教師に対してほとんど無関心であり、閉鎖的であり、中にはこそこそかくれようとする者もいた。	
	1	教師に対して全員が閉鎖的であり、反目的であった。	
七 他 集 団 へ の 態 度	5	他集団の成員ともきわめて積極的に交わり、協力的、相互扶助的であった。	
	4	他集団からの交渉があれば、協力や手助けをした。積極的でなかった。	
	3	他集団との交渉はまったく形式的なものであった。	
	2	他集団に対しては、その活動にまったく無感心であった。	
	1	他集団の成員とは対立的、閉鎖的、反目的であった。	

表② 集団観察チェックリスト

磨屋小学校 学年 組 人員 男 名・女 名 計 名

日時 月 日 校時 教科等 指導教師 観察者

	1. 集団活動の印象	2. 集団のまとめ	3. 集団活動の組織化	4. 成員の相互関係	5. リーダーのリードの仕方	6. 教師に対する反応	7. 他集団への態度	得点	備・問題とした子どもの活動状況考・その他
1	5 4 3 2 1 	5 4 3 2 1 	5 4 3 2 1 						
2	5 4 3 2 1 	5 4 3 2 1 	5 4 3 2 1 						
9	5 4 3 2 1 	5 4 3 2 1 	5 4 3 2 1 						
10	5 4 3 2 1 	5 4 3 2 1 	5 4 3 2 1 						

実施のしかた 1. 観察者は、観察の観点（別紙プリント）を熟知した上で観察にのぞむ。

2. 観察場面をきめてチェックしていく。

3. 得点の欄に各班の合計を記入する。

4. 各欄のあいているところに、特別目立つことがあれば記入する。

例 4成員の相互関係

⑤ 4 3 2 1

| | | | |

それぞれよく仕事をやっていた。

個人観察チェックリスト

表③ 指導目標及び評価目標

学年	指導目標	領域	評価目標
低	相手の話をよく聞いてなかによく話し合い、深めて学習する。	聞く	ア イ 話の内容を正しく聞きとり、要点をつかむ。 正しい姿勢で話し手を見ながら話のおしまいで聞く。
		話す	ア イ 大事なことをおとさず順序よく話す。 進んで自分の考えを自然な態度ではっきり話す。
		考える	ア イ 内容にそって、およその見通しをたてることができる。 相手の考えをうなづきながら聞き、自分の考えと比較する。
中	相手の考えや意見をよく聞いて自分の考えを深め、相手の立場をよく理解し、協同して学習を進める。	聞く	ア イ 相手の考えの要点を正確にとらえて聞く。 自分の考えと比較整理しながら聞き、わからないところは質問する。
		話す	ア イ 主題にそった内容を順序よくまとめて話す。 相手の立場も考え、自分の考えもはっきりさせて、わかるように話す。
		考える	ア イ 相手の考えのよさをとり入れ、自分の考えとてらしあわせて考えをさらに深める。 協力しながら、グループ全員の考えが深められるようにする。
高	全員参加による課題解決を目指し協同して学習を進める。	聞く	ア イ それぞれの要点や問題点・共通点などを適確にとらえ、見通しをもって聞く。 自分の役割りを理解し、協力的に相手を受け入れながら聞く。
		話す	ア イ 要旨や要点の明瞭な問題解決へ迫る効果的な発言をする。 自他の役割りや立場を理解した話し方をし、級友の地位を高めようとする。
		考える	ア イ それぞれの考え方を理解し、対立・矛盾・不確かさをほり下げたり、秩序だてたりする。 自発的に個々の考えを拡げたり深めたりし、それをみんなのものにしようとする。

(ア・イ はそれぞれ内容および態度を示す)

表④ 個人観察の観点 (高学年用)

領域	段階	
聞く	ア	5 それぞれの要点や、その問題点、共通点などを適確にとらえ、見通しをもって聞く。 4 要点の要旨をとり違えないで、まとめながら聞く。 3 話の概略は聞きとるが、目的に応じた取捨選択が足りない。 2 要点や要旨をとり違えて、聞き落す。 1 まとまりのある聞き方ができず、話の再生が困難。
	イ	5 自分の役割りを理解し、協力的に相手を受け入れながら聞く。 4 自分の一方的な気持を押し、相手の話し易さを考えながら真摯に聞く。 3 聞くべきときは聞いているが、相手に対する配慮までは至らない。 2 終りまで十分聞かなかつり、話の腰を折ったりする。 1 無視・無関心・又は、相手によっては態度をくずす。
		5 要旨や要点の明瞭な、問題解決へ迫る効果的な発言をする。

話	ア	4 相違点や類似点を明確にして、まとまりのある発言をする。 3 平板な話し方で、強調点やまとまりが足りない。 2 要旨が不明確か、又は、結論づけが欠ける。 1 断片的、まとまりを欠く。
	イ	5 自他の役割りや立場を理解した話し方をし、級友の地位を高めようとする。 4 自分の発言回数や時間を整理し、相手の立場を考えて話す。 3 自分の考えや意見を自分のことばで、こだわりなく率直に話す。 2 進んで発言しようとしなないか、又は、自分だけ何回も発言する。 1 寡黙か又は、他を無視した話し方をする。
考	ア	5 それぞれの考え方を理解、対立、矛盾、不明確さをほりさげたり、秩序だてたりする。 4 問題解決に沿って、取捨選択したり、関係づけたりしようとする。 3 相手の考え方と対比して、自分の考え方を吟味する。 2 矛盾や問題点に気づかず、見通しをつけ得ない。 1 他の考え方をあまり理解できず、まとまりがない。
	イ	5 自発的に個々の考えをあげたり深めたりし、それをみんなのものにしようとする。 4 他の考えのよさを積極的に取り入れ、協同解決へ役立てようとする。 3 自他の考えの適否に関心を持ち、相互に確認し合うとする。 2 他の考えを無批判にとり入れるか、又は固執して他を受け入れない。 1 逃避したり、他を無視したりして考え合いから脱落する。

表⑤ 個人観察カード

年 組 班

月 日						
教 科						
領域		氏名				
聞 く	ア	5 4 3 2 1 				
	イ	5 4 3 2 1 				
話 す	ア	5 4 3 2 1 				
	イ	5 4 3 2 1 				
考 える	ア	5 4 3 2 1 				
	イ	5 4 3 2 1 				
総 合		5 4 3 2 1 				

※ 総合評定は次のようにしてする。 総 点 評定 総 点 評定

6~10	— 1	21~25	— 4
11~15	— 2	26~30	— 5
16~20	— 3		

表⑥ 即時評価 (教師用)

( 月 日 ~ 月 日 )

日 時	( )月	( )火	( )水	( )木	( )金	( )土
1	○	○	○	○	○	○
	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
2	○	○	○	○	○	○
	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
	○	○	○	○	○	○

表⑦ 自己評価 (中学年用)

氏名	月日(月)	月日(火)	月日(水)	月日(木)	月日(金)	月日(土)	週 の ま と め
	○△×	○△×	○△×	○△×	○△×	○△×	○△×
グループ							

表⑧ 自己評価集計表 (中学年用)

班	班のめあて	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
1													
2													
10													
全体													

(○目あてがよく守られた △ふつり ×目あてが守られなかった)

## 第4回バズ学習研究集会

# 子どもの主体性を開発するバズ学習

(バズ学習の基本性の追求と効果の拡張)

滋賀県神崎郡五個荘小学校

### 1. 本校バズ学習研究の希い

子どもの主体性、創造性を尊び、子ども自身の持ちまえを発揮させることを願って、人間と人間の接触交流を行いやがては心の琴線にふれる質の高い、効果的なバズ学習を行うことにある。

### 2. 磨き合う学習をめざして

子どもがたがいに磨き合うということは、わからないことを聞いたり、教えたりすることではない、ねばり強く、それぞれの意見をたしかめ合って、練り合っていく事にある。

集団思考は集団メンバー間の思考が、考えのくいちがいや矛盾を契機に、つぶし合ったり、補い合いながら集団討議される。その結果として、集団の課題は、正しく解決され、集団成員個人の思考は深まり、能力は高まると考える。まずそれには、集団討議のきわめてきめこまやかな基礎技術訓練が必要とされる。そこで、各学年に応じた態度目標をきめ、さらには、話す、聞く、考える、の観点から、より具体的に指導計画を立て、学習方法の見つける指導と合わせて考察し、実践するものである。

#### (1) バズへの参加

何んとしても、「話さない子」「話せない子」が「話す子」「話したい子」に育たなくてはならない。「話さない子」には、その子を取りまくムード、本人の気質、環境等々、原因があろうし、「話せない子」の原因には対人間関係や、話し合う内容がわからないこと、また、身体的、精神的能力的なものが考えられよう。「話せない子」「話さない子」に、そのなかまたちが、話せる様に応援し、話したことを認めてやれる人間関係づくりにまず専念することにある。

#### (2) バズ学習をささえる態度目標

学級のなどやかなムードの中に、話し方、聞き方、考え方の討議をすすめる上に基本的な技術訓練が要求される。各学年ごとに、話す、聞く、考える、の観点をきめて、より具体的に指導案を立て、学習方法訓練と合わせて考察し、実践するものである。

##### ア. 低学年

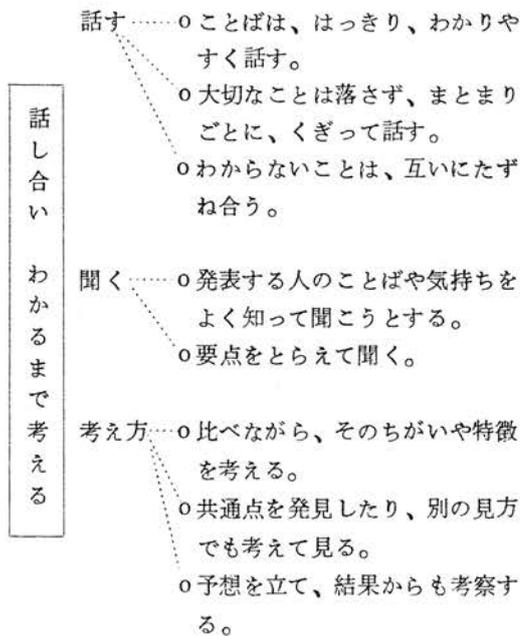
○楽しく話し合いに参加できる。

##### イ. 中学年

○話し合い、わかるまで考える。

##### ウ. 高学年

○話し合い、求めて考える。



さらに具体化して、バズ学習の学習方法を見つける指導の重点とし、尚この目あてを月別配当表に指導計画を立てる。

- |    |  |
|----|--|
| 話す | <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>4人が課題にそって、考えたことをしっかり話せる。</li> </ul> </li> <li>○個人                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手にわかってもらえるように工夫して話す。</li> <li>・大事なことを、ぬかさずに話す。</li> <li>・まちがえた時は、そこを正してから話す。</li> <li>・わからない時は、たずねたり、補ったりする。</li> </ul> </li> </ul> |
| 聞く | <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点をしっかりとらえて聞く。</li> <li>・相手の話しがはっきりしない時や、わからない時は、そこを指摘して、もう一度質問する。</li> <li>・上手な話し方をした時、正しく答えられた時はほめる。</li> </ul>  |

バズメンバー

- ・バズ長の指示に従い、きまりを守って話し合う。
- ・弱点はお互いが助け合い、いじめけなしたり、いやな思いをさせないように気をつける。

バズ長

- ・何を話し合うのか、何を考えるのかをはっきり指示する。
- ・終わりの合図をしっかりとって、まとめる工夫をする。

月別指導計画例

4月		
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ことばのはっきりした発表</li> <li>「意見をいいます」</li> <li>「考えを…」</li> <li>「つけたします」</li> <li>「それは～です」</li> <li>「おたずねします」</li> <li>「～は何ですか」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○だれかが話せばだまらせる習慣。</li> <li>○人の話の中から問題点を発見するよい聞き方指導。</li> <li>○グループの進歩表作り。</li> <li>○発表の少ない子の指導。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○わからないことをグループでためては、互いに話し合う</li> </ul>	

(3) バズ訓練

学習の深まりのために大事なことは、自分が考えていること、思っていることを、どう表現するかである。話し合いの方法や発表の仕方を訓練する事によって、自然と小集団の中で自分を知り、友だちと自分の関係を意識して、話し方、聞き方で得た方法を活用しようとするものである。

低学年の話し合いや、発表には、声の大きさ、正確な発音で言うことや、態度としては、聞く人の方を向いて話す、話す人を見ながら聞く等、基本的なバズセッションのための基礎的な訓練を重

ねる。この様に最初は子どもに形式を知らせ、次第に子どもの中から新しい形式が生み出し、高学年になるに従って、思考の深化を見るバズに発展させるものである。

- 「予習課題についての考えを話し合います～」
- 「意見を集めます～」
- 「質問をためます～」
- 「ちがいをを見つけ合います～」
- 「考えをまとめます～」
- 「たしかめ合います～」

この様にしてバズリーダーは話し合う話題を示し、バズメンバーは互いに協力して話し合いに参加しなければならない。教師は主として学習内容にかかわる発問と、主として学習方法にかかわる発問や指示が、集団思考を深める手だてとして必要である。

#### (4) 学習方法を見つける指導

本校は学習計画によって学習課題が設定され、次時の学習課題解決にそなえて、予習課題を子どもと共に考え、意欲的に目あてをもった学習を、より計画的に、自分の考えを整理しながら、個人学習をするものである。そのためには、学習の方向づけとしての学習方法を身につけていなければならない。学校での学習にも同様である。

#### 一 3年生（算教科）

- ①読む ②調べる ③大じなこと ④みつけたこと
- ⑤わからないこと ⑥図を書く ⑦考えを文に書く

今までの問題と比べたり、資料を使ったりして図式化し、わかったことや、わからないことをはっきりさせ、みつけたことはノートに書き、発表できる様にしておく。習った例を見て、自分でたしかめる。ノートの使い方を工夫し、大じなことには赤線を引く。又その単元を通して、先行知識の想起の方向づけを行ない（学習する観点はその単元を学習しようとする態度となる）、課題解決の視点を、子どもと共に方向づけるものである。

例えば

- 何かを見つけてからとこう
- 何に目をつけたらとけるか、考えてからとく

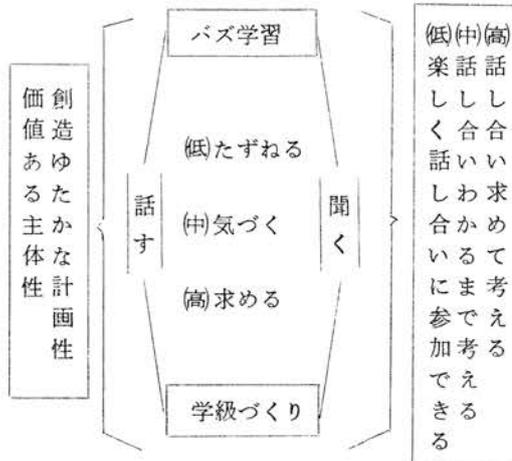
- 角や辺に目をつけて考えよう
- くり上がり（くり下がり）に気をつけてする
- かさなりに目をつけて考えよう
- 変わり方のちがいを比べながら考えよう
- 長さ（重さ）に目をつけて解こう

等々、

以上教材や学習課題の内容に応じて、異なるものであり、固定するものではない。

### 3. 話し合い求めて考える

#### (1) 主体的学習をめざして磨かれた子ども



#### (2) 態度目標と認知目標

態度目標の基本としての柱は、低学年では、授業の中で楽しいと感じ、学習に参加する姿勢を示した時、又感じられた時、これが「求めて考える」という、思考への芽ばえを示しているものと考える。さらにひとりひとりが「たずねる」という態度が育った時、やがて主体的に話そうとする学習態度への変容が期待できるものと考えている。

活動的な中学年では、助け合い、教え合って、気づきながら、「わかるまで考える」という学習に対する積極的な姿勢を目標としたものである。

さらに高学年では、五個荘教育の目指す「話し合い求めて考える」望ましい態度の形成をはかることにおいたのである。

そこで主体的学習に到達するそれぞれの段階における協力学習を推進し、効果的なバズ学習の研究に努力するものであるが、それには学級内の人間関係を改善したりして、学習参加が積極的になるようもり上げたり、生きた個人学習のための学習方法を深めたり、さらには学習の場の構成等の研究を進めた。

しかし学習への参加と学習の成果とは必ずしも並行するものではなく、そこで学習の認知目標と、態度目標とに分けて、あらためて両者が相互に促進し合って同時に達成できるように設定したのである。

それらをより効果的に達成するためには、その教材に対する児童の学習経験を整理し、組織的に構成する。態度目標は2面から考え、1つは教材独自の意欲的なもの(A)と、学習全体の場に共通するもの(B)をもうけた。即ち1時間の学習を進めるための課題を、いくつかの分析課題に分け、その分析課題の1つ1つを見つめる態度要素の結集したものである。分析課題をそれぞれ解決していく事により(態度要素の働きかけとで)新しい概念新しい課題理解を生むことになる。この様にして両者が(態度目標と認知目標)同時に効果的に達成するものである。

### (3) 明日の学習に生かされる課題作り

#### ア. 予習課題

予習課題をさせる事は、これまでの学習で得た学力を駆使して、新しい教材に意欲的にくいついていくわけであるから、従ってこれまでに修得した学習のレディネスは、予習する事によって、さらに動的に高められるものと考えられる。故に今までの宿題的な考え方は、おのずから異なるものであることは、いうまでもない。そして、わかったことや、わからないことが明らかになることによって、その解決が自らの課題意識として強く意識され、そこに必然的に自主学習への動機づけがなされてくる。本校では予習課題によって、動的レディネスを高め、問題意識を明確にすることをねらいとしている。

#### イ. 課題づくりの柱

- (ア) 予習課題が、中心課題に生かされること。
- (イ) 全員が動的レディネスを高めることができること。
- (ウ) 理解要素が考えられ、子どもの思考に適すること。

#### ウ. 学習課題の設定

学習課題は、その教材の指導目標、指導内容、指導計画、子どもの既習事項を総合的に検討していくつかの課題を設定する。低学年ほど具体的に高学年になる程、数理的内容の面が濃い課題となる。子どもが問題を意識し、学習活動を開始するには、課題と事象、即ち子どもに具体的に示す事がらと、子どもの先行経験の想起にある。学習課題をいかにして子どものものにするかが問題である。そこで1時間の学習の中で中心となる課題とその前後の分析課題を考え、その課題は、子どもがいかなる先行知識(理解要素)と、どんな観点で(態度要素)解決しようとするのかを考え、予習課題を生み出し、意欲的にとりくむものである。

#### エ. 分析課題

いくつかの学習課題が設定されると、問題の意味や、目的を正しく理解し、課題意識が高まり、目的にしたがって解決の方法を考えることになる。そこで1つの課題を組織的にいくつかの分析課題を作って、その個々の分析課題から何を理解させればよいのかを考え、そのための必要要素を考察する。その時、もちろん、児童の既習知識や学習態度の要素は、欠く事は出来ない。そうして1時間の授業区分(かまえ、かくにん、バズ、まとめ、準備)の中に位置づけるのである。

#### オ. 理解要素と態度要素

提示された課題をいくつかの段階に分析した分析課題と関係のある知識や経験の想起がなければ解決は生まれるものではない。そこで教師は、子どもの実態を出来るだけ確実にキャッチし、分析課題の目的に合うように、系統的に配列したものを理解要素(既習知識や経験)という。もちろん理解要素を使って分析課題を理解しようとするの

であるから、その都度態度要素の働きが、おのずから生じるものである。バズ中における学習のねばりや、対人態度も含まれる。この様にして、個々の分析課題が、教師と児童、児童と児童の相互作用によって、解決の道をたどるのである。

#### カ. 分析課題理解と認知目標

各々解決された分析課題の課題理解は、授業のはじめから順に新しい概念を生み、身につけていくことになる。そしてその積み重ねが、本時の認知目標へと到達する。さらに次時の課題解決へと発展することとなる。このことはいうまでもなくバズ学習における思考過程の構造化である。

#### (2) バズの位置とバズ要因

課題があり、予習によって中心課題にせまろうとする時、子どもの思考活動を活発にするには、授業の中で、どこにどのようなバズをさせればよいかを明確に指導者としての計画を立案することが大切である。本時の授業の流れを、分析課題から考える時、子どものもつ理解要素と、態度要素から、こんな形のバズが必要であるという、バズ要因が生まれるものである。(本校の学習の流れの中で言うバズは、授業の中心的存在をなすバズを示すものである) 課題意識が共通化し、集団思考による必要があると思われる場を、あらかじめ予想し計画を立て、場に応じて行うものである。

### 4. バズ学習の学習構造

#### (1) バズ学習の基本形態

##### ○かまえの段階

- 予習課題から、個人学習の結果を話し合い、本時の課題に対する考え方、視点を明確にする。
- 教師の援助としては、常に自分の考え方と比較させ、相手の発表や話を聞くような「発問の工夫」をする。
- 個人学習の診断の意味からバズによって学習結果の話し合いをさせる。

##### ○かくにんの段階

- 本時の学習課題を把握し、解決方法について個人思考をする。
- 個人思考のたしかめや、深めるバズをする。
- 教師の援助としては、常に考える足場を明確にしてやることである。

##### ○バズの段階(中心の)

- 個人思考で理解、発見したことがらをグループごとに課題に対して話し合い共同思考をする。
- 教師の援助としては、要点をおさえ、観点をきめて話し合うことや、考え方ははっきりして、発表すること、仲間で補足したり、修正したりしかたをわからせる。

##### ○まとめの段階

- 理解したことをもとにして、さらに応用や適用をはかる。
- 教師の援助としては、理解したものにさらに追求しようという場面の設定をすること、必ず、次の学習への足場をつくる。

##### ○準備の段階

- 本時の学習の結果や、学習計画にもとづき次時の学習課題を知り、予習課題を設定して、その学習に対する方法の分析をする。バズにより個人学習ができるように話し合いを深める。
- 教師の援助としては、予習課題の学習についての方法、内容理解、思考過程を明確にすること等について、助言し全員が了承したかどうかを知る。



## 5. バズ学習の基本性の追求と効果の拡張

昭和47年度は、さらにバズ学習について研究し追求しようとするものであり、バズの原点にもどり、さらに基本的な考えに立って、子どもの思考活動を、何をどの様にさせ、どう高めていくかをしっかり見つけ、さらには、子どもの思考要素の関係づけを考え、磨き合い、ねり合っているとするものである。もちろん、研究教科も広げて国語科、算数科、理科の3研究委員会を組織し、今までの算数科で研究したバズ学習を基に、実践するものである。

### (1) 国語科

#### ア. 研究主題

読み深めの過程におけるバズ学習

#### イ. 研究重点

子どもの実態をみつけ、教材を検討し、バズを効果的に使うことにより、ひとりひとりの子どもの読みを深めていく。

#### ウ. 課題にとりくむ視点とバズ要因

- ・指導計画から生み出す課題分析を、子ども自らのものとしてどの様に意識づけるか。
- ・子どもの興味や関心、先行知識や資料の活用等を、課題解決の場にせまるための方向づけをして、どのように指導するか。
- ・課題解決のためのバズ要因をよく考え、深めるためのバズを、どこでどんなにさせるか。

### (2) 算数科

#### ア. 研究主題

思考を深めるバズ学習

#### イ. 研究重点

数学的な物の見方や考え方を育てるためには、思考要素を確実につかませ、さらに関係思考を深める理解要素の活用と、態度要素による課題への主体的な思考へ深める。

#### ウ. 課題解決の視点とバズ要因

- ・課題即ち中心課題と予習課題は、先行知識想起(理解要素)を意欲的にし、学習の場でどう活用し、どんな時に変容し、概念化されるか。

- ・課題思考の要素の把握のさせ方と、態度要素即ち関係づけて考える方向づけ等、思考を深めるバズのさせ方はどうするか。

### (3) 理科

#### ア. 研究主題

科学的思考を育てるバズ学習

#### イ. 指導の重点

子ども達自身が、自らいただいた「疑問や矛盾」を自らの力で解決していく、課題のとりくみと、バズとによって、科学的な物の見方や考え方を育てたい。

#### ウ. 指導過程

① 予習課題 → ② 問題把握 → ③ 予想 → ④ 仮説

⑤ 実験・観察 → ⑦ 考察 → ⑧ 発展  
(次時予習課題)

#### エ. 課題意識の高め方とバズ要因

- ・どの子ども課題解決の意図をもち、意欲的にとりくめる予習課題について
- ・バズの視点をきめて、予想や実証、準備や方法について、ねり合い、科学的思考を深める場の設定はどうするか。
- ・実験、観察の結果を考察し、本時の学習の反省から、次時の予習課題への動機づけや関連をどのようにさせるか。

## 6. 今後のバズ学習

昨年までは、算数科の指導の中で、バズ学習をとり入れ、学習態度の形成(話し合い求めて考える)を目ざした。さらに本年度は、研究教科の場をひろげ、3教科でとりくむ事になった。課題、児童の既習事項、そして態度の3つの柱をより深め、より広げるために、バズの根源をさぐり基本性の追求をめざして研究を進めていくつもりである。今、教育器機利用の問題が、教育関係各方面に問題になっているが、本校では、OHPの利用のみを焦点に、課題提示や、児童の作品そのままを学習の広場に出し、思考を深めたり、バズ活動をより活発にする手だてとして、研究を進めようとしている。今後は、あらゆる教育活動の中へバズが浸透できるよう研究に努力するものである。

主題 未来対応力をめざすバズ学習

善通寺市立筆岡小学校

— 初めに —

未来対応をめざす経営目標の確立こそ躍動する学校が生まれる。このための経営のコア……それを、わたしたちは、「対話のある学校」とした。子どもの未来対応力……自己統合力、意志伝達力、自己啓発力……こんな力をつけるためにバズをとり入れた。

自己統合力

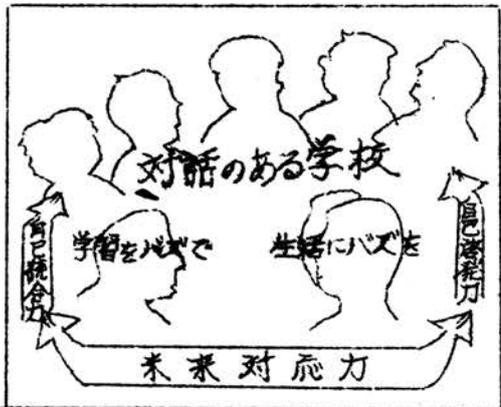
それは、衝動的に行動しやすい子どもたちに強い意志力によって正しい行動へと自制できる力。

意志伝達力

それは、すぐれた創意、深い愛情などを、うまく表現することによって相手を説得する力。

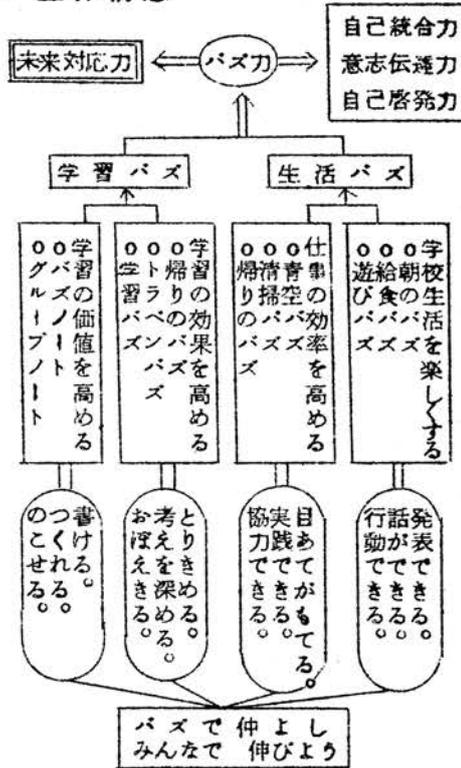
自己啓発力

それは、自分の考えと他人の意見との交流によって、自らの考えを深め広めて自己変革する力。

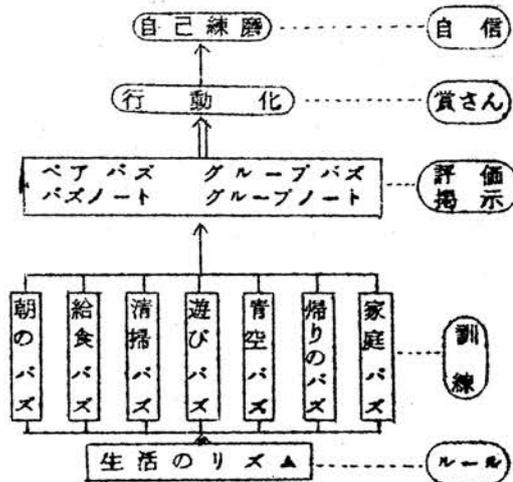


「何でも言える」「だれでも話しかけてくれる」……子どもたちが、一個の社会人として学校生活を営み、よりよき人間関係を保ちつつ成長を遂げて行くためには、どの子どももグループに所属しているという安心感と、グループの一員として働く場面が与えられることが、個性の完成に如何に必要なことかは音りまでもないと思う。「対話」それは、教育経営のあらゆる場面における基調として学校の躍動を期したい。

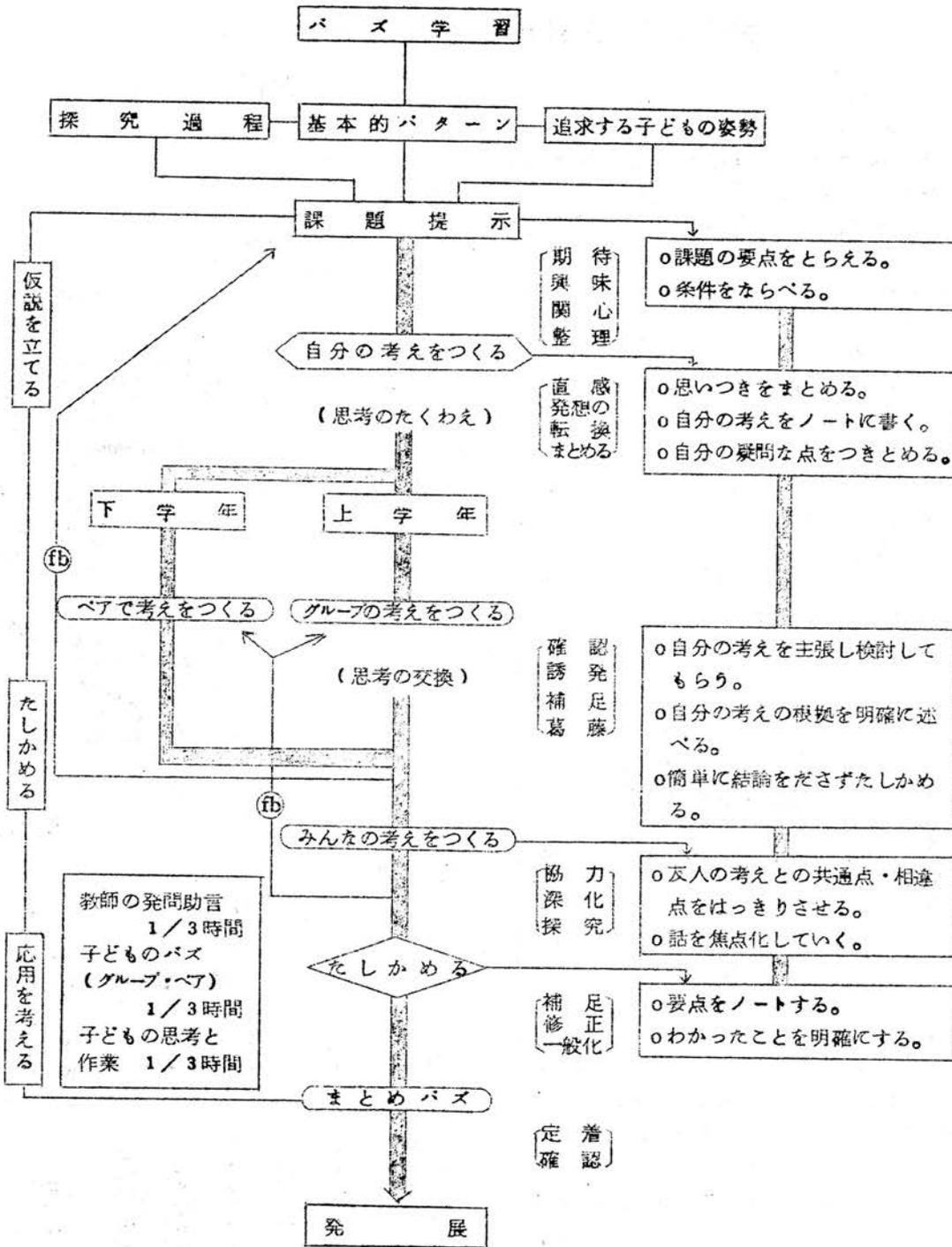
1. 全体構想



2. 生活バズ

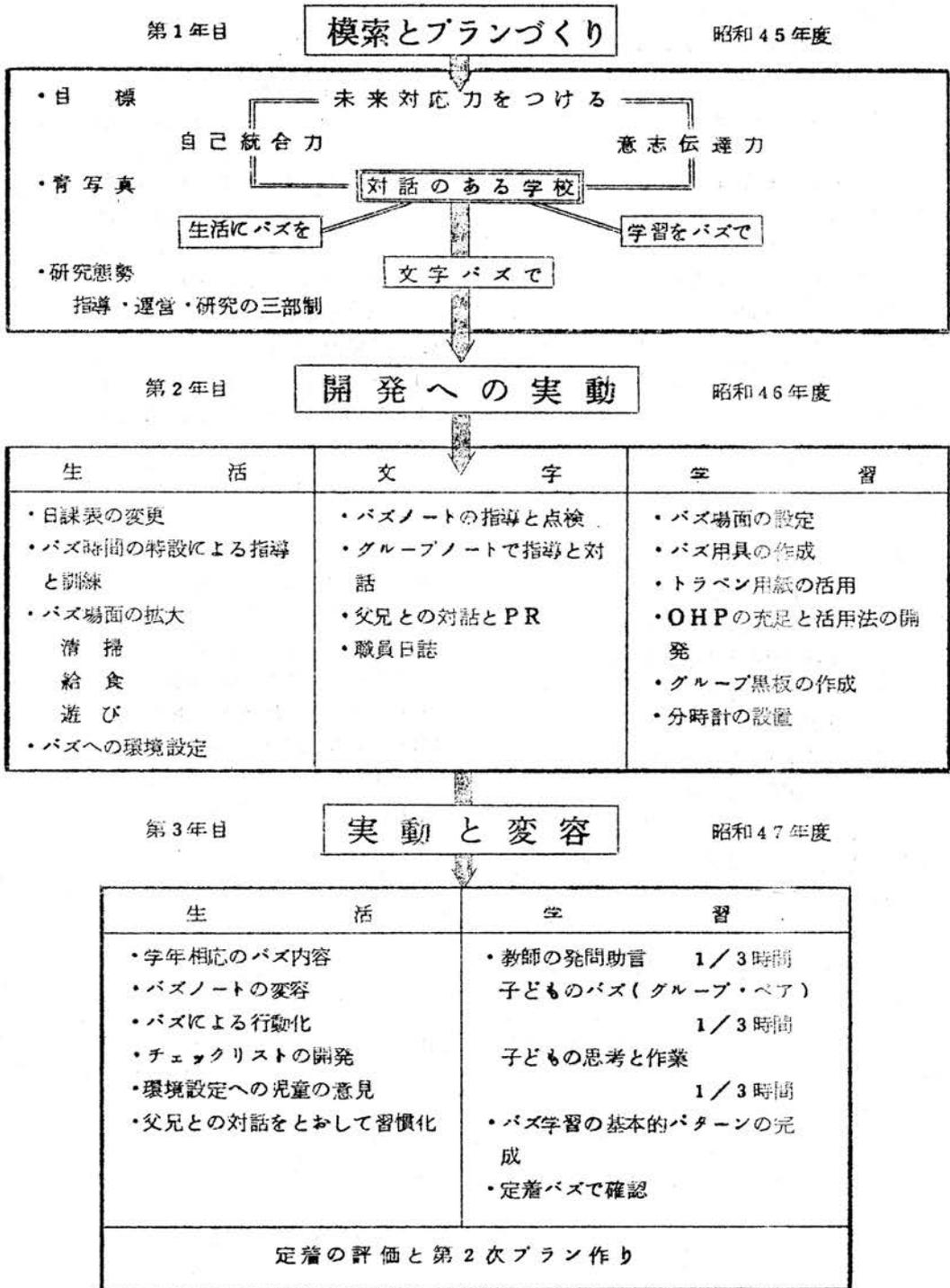


### 3. 学習バズ



4. 発展のスケジュール

3 か年計画



## 5. 具体化のための重点課題

### (1) 朝のバズ

#### ① ねらい

相手の話したことに応答できる。

#### ② ねらい達成のために積みあげたもの。

ア 相手の話をよく聞く。

イ 相手にわかるように話す。

ウ うなずきながら聞ける。

エ 自分の考えが言える。

オ 話題の転換ができる。

#### ③ システム

8:15 8:18 8:28 8:35

朝礼	バズ		朝の会				
放送 による 朝礼	グループ バズ	全体 バズ	歌	健康 観察	お知 らせ	調 査	先生 の話

### (2) 清掃バズ

#### ① ねらい

言ったことは する。

#### ② ねらい達成のために積みあげたもの

ア めあてを見つけることができる。

イ 自分の分担がきちんとできる。

ウ 自分でやくそくしたことは 必ずする。

エ できないときは「助けて」と言える。

オ おそい人を 助けられる。

カ いっしょうけんめいやったことが喜べる。

キ 奉仕の気持ちを育てる。

#### ③ システム

1:13 1:15 1:16 1:24 1:27 1:30

レコード	オルゴール		レコード	オルゴール	
準 備	め あ 確 認	始 め の バ ズ	清 掃	三作 分業 前終 予了 告	・・・終 ちあ反わ エす省り アの計 ク計画 バズ

### (3) 学習バズ

#### ① ねらい

どの子も学習に参加できる。

#### ② ねらい達成のために積みあげたもの

ア わかるまで聞ける。

イ 自分の考えが持てる。

ウ 自分の考えが言える。

エ つけたしができる。

オ バズができる。

カ バズに参加した喜びが味わえる。

### (4) バズノート

#### ① ねらい

話ができるように書く。

#### ② ねらい達成のために積みあげたもの

ア 話したいことが書ける。

イ 話すことをそのまま書く。

ウ 話せるように材料を集める。

エ 広い視野で素材を求められる。

オ 見つけた話題をすぐノートできる。

カ 毎日書ける。

## 6. バズの効果

(1) どの子の意見も聞けるようになった。

(2) 物事を注意してみるようになった。

(3) 自分の考えが まとめて書けるようになった。

(4) みんなの前ではずかしがらずに話せるようになった。

(5) 全体の前で司会ができるようになった。

(6) 人の行動をみて自分と比べるようになった。

(7) どの子もバズに参加できるようになった。

(8) リーダーとして行動できる力が向上した。

(9) 批判はしてもあたたかみがある。

(10) 先生がいなくてもバズができるようになった。

(11) 自分の言ったことを実践しようと努めていた。

(12) 集団で協力して発表するようになった。

(13) グループ活動に参加し、特に底辺の子が教  
われた。

(14) 友だちをよく理解し、人間関係が向上した。

## 7. 問題点

(1) ノートのしかたに くふうが足りない者がいる。

(2) 先生から言われると発表をするが 進んで  
発表できない者がいる。

(3) 口では言えても 行動になるとむずかしい。

(4) 深く じっくりと落ち着いて考える態度が  
足りない。

## 8. 今後の課題

(1) 生活バズが行動力に高まったか。

(2) 学習バズが やらされバズから脱皮したか。

## 第4回バズ学習全国研究集会

### 日記バズを核とした生活指導

広島県竹原市立忠海東小学校  
(藤村 旭)

#### 〔1〕はじめに

一般に教育には、二つの働きがある。一つは、知識や技能を習得する「陶冶」の働きであり、一つは、人格を形成する「訓育」の働きである。あらゆる教育活動は、この二つの働きが、同時的に行なわれなくてはならない。

バズは、この「陶冶」と「訓育」の統一への焦点であり、「陶冶」の面は、主として、バズ課題の系統的配列、編成の上に支えられ、「訓育」を主要に行なう面では、学級集団の質の高さによって左右されると言える。

バズを、いかに全員のものとし、いかに、子どもをハッスルさせていくかを考えていくことが「教育の科学」であるとするならば従来行なわれてきた断片的ツメコミ的なバラバラの知識でなく知的興味を掘りおこすに足る、系統的に筋道をたてられた、優れた、豊かな教材を用いることは勿論子どもが、真に、主体的に学習にとり組むよう育てられなければならない。すなわち、集団思考の組織化としてのバズを展開していくことで、子どもたちが、主体となり、互に、思考しあい、論争しあい、評価しあう流れとして位置づけられ展開されるべきである。

そのため、子どもの身近な日々の問題を課題として取りくむことから、バズへの興味を起こさせバズ訓練を通して、更に「教科」領域にたかめ、児童の充実した相互作用を通して、全人的な子どもとして伸ばしていく。

すなわち、学力を伸ばす指導と、人間関係をた

かめる指導を総合し、指導の全体的な成果を目指す指導体制としていく。

#### 〔2〕研究のねらい

人間は言葉においてのみ人間であると言われ、言葉は精神の鼓動であるとも言われる。

この言葉について考えてみると「話しことば」は、相手が補って聞いてくれたり、文形式がととのっていない場合が多いので思考ができにくいという面がある。この反面、書くということは、書かすことによつて思考ができてくる。また、その書いたことを内面から手がけていくようにすると本校の実践している日記指導は「人間的にふとらす指導」となると考えた。書く日記とバズの接点を内面化への手がかりとして「日記バズ」を次のようにとらえた。

- ①個人日記には、子どもの社会や自然のことがらや現象があふれている。
- ②個人日記は、自分が見たり、考えたり、感じたりなどの自己感覚だけでとらえたものにとどまらがちとなる。「日記バズ」をとりいれることによつて感覚を拡大、強化、補い合うことができる。
- ③書かれたものから意味や価値のあるものを各自の力で学びとり、その学びとつたものを互いに他人にもわけあい、この学びとつたことの実現の過程に「日記バズ」を位置づけることができる。

### [3] 実 践

#### バズ使用前

本校では、バズ使用前、日記を書かせる目あてを次のように、とらえていた。

#### 事 例 1

ひとりひとりの子どもの心理と生活を知る。

- きょう、Aさんと、Aさんの家で、勉強をしました。1時間しました。初めは、算数の予習をしました。あとは、国語の本読みをしましたAさんと、「また、あしたしよう。」と言って帰りました。
- 国語辞典で、親友というのを調べました。もう、ひとつ心友というのがのっていました。それには、心を許しあつた友だちと書いてありました。考えたら、私は、悲しいこと、くやしいことを、すぐ、うちあけられる友だちだと思います。私も、こんな友だちがほしいです。
- 私は、望みをかなえてくれる班が、一番ほしい。それは、なやみがいくらでもいえる。そのなやみを、みんなで解決する。だから、望みをかなえてくれる班がほしい。

#### 事 例 2

教師にまつわる権威をこわし、人間として信頼しあえるようにする。

- 先生、体育の時間に、なぜ、男子の組だけかえて、女子はかえなかつたのですか。不公平です。理由があつてのことでしょうから、私が「なぜ、きてくれないのですか。」と聞いた時、答えてくれればよかつたのに、ひきようです。
- きょう、先生が、パツパときめてしまい、自分で「ちよつと、待つてください。」とも言わないので、のみこまれてしまいました。私は、いやだ。
- 体育の時、先生は、アカの女子を体育そうこに入れて、出られなくしてしまいました。ぼくは、その時、「今は、遊ぶときではないのでやめてください。」と思った。

#### 事 例 3

生活に対して、目をひらかせるために課題をだす。

- 班学習について替ってください。

きょう、班学習の時、4年の復習をした。

何のためにしたか。それは、友だちのため、自分のため。A君、B君、Cさんが「すい直・平行」の意味がわからないのが、わかつたし、私も、前、やつた所で、すい直の意味がはつきりわからなかつたが、よくわかるようになった。A君たちのおかげで、わからなかつた所が、よくわかるようになった。ありがとう。

A君は、わかつてきたせいか、とても、楽しそうにやつていた。A君が、一番よく質問した。そのせいもあると思う。Dさんや、私も楽しくなる。でも、B君はひとつも質問をしない。だから、Dさんが、わかりやすく説明する。B君は説明していることを、しっかり聞いている。その時のB君は、目も輝いている。B君もよくわかつたといっている。

-----後略-----

#### 事 例 4

作者をとりまく学級・学校、地域の人々の間に、共有の価値ある作品として生かす。

- きょう、私は、こういうことに気づきましたそれは、人のいうことに気づきました。それは、人のいうことをいう前に、自分を考えてみるということです。人のことばかりで、自分のことをたなにあげている人が、私のクラスの中にいると思います。私も、その中のひとりです。たとえば、人のことばかりいっていると、解決できるけんかも、解決しなくなります。だから、まず「自分」そして「ひと」と考えるようにします。

朝の会で話しあう。――→同じようなことはないか。――→まず、人の意見を聞こう。

まず自分の意見をいおう。

#### 事 例 5

本人の意図しなかつたところに、生かすべき価値をみつけてやる。

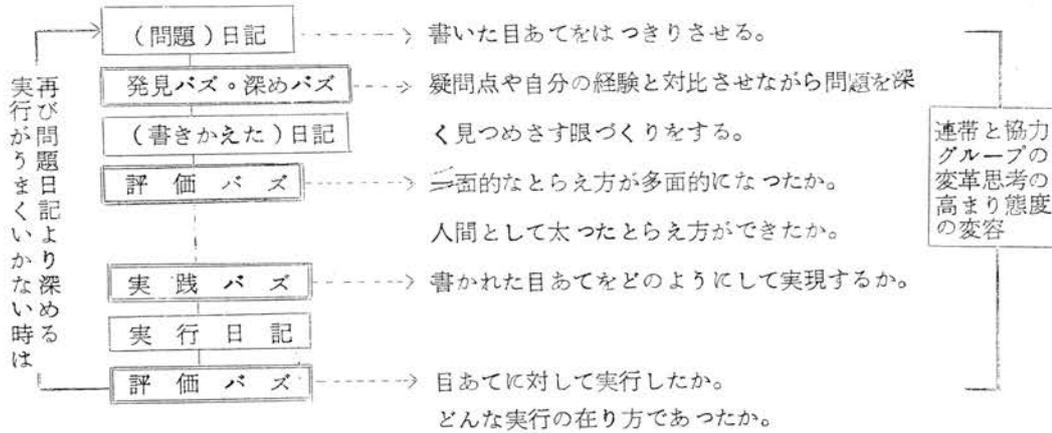
きょう、私たちが、理科室で笛の練習をして

いるとA君とB君が、笑わせてじやまをします。私たちは、となりの部屋へ行こうとしました。笑うのは、自分もそれを認めているということだと思い、全員で、がんばりました。私たちが、笑わないのでA君が、「かえ

らんか。」といつていきました。これからもまじめにやれば、じやまもできなくなることをおぼえておきます。

クラスのきまり→あい言葉→まじめにじやまなし。

日記バズの過程（モデルケース）



問題日記が提出され、課題が与えられて、（発見されて）、児童の一連の活動のなかで思考の高まりや、態度の変容が、期待される。課題が設定されると、各自が発想し、その発想に対して、いろいろの吟味が加えられ、分析的に追求していく過程が、思考をねる過程であり、創造力を高める過程となる。

事例 6

日記バズ

Aさんの願い

きょう、私が、朝ごはんを食べるとき、おかあさんに、「はやく、ごはんを食べなさいぐずぐずしなさんな。」と、注意された。私には、このようなことが、一週間に2・3回あります。そんな日は、どうも、心がすつきりしません。おかあさんは、よく、しかると思います。

発見バズ・深めバズ

P Aさんは、何時頃、起きたのですか。  
A 7時過ぎ。

P ごはんは、何時頃、食べたのですか。  
A 7時30分頃です。  
P もつと、早く、起きられないの、私は6時30分頃ですが、Aさんは、何時に寝るのですか。  
A 9時頃 寝るんよ。  
P そんなら、私と同じ頃じゃね。  
P うちの、もつと遅い、10時頃、でも朝はゆうゆうよ。  
P Aさんのおかあさんは、やさしそうなのに、よく、叱ってんねえ。  
P 妹は、どうしょってじゃつたん。  
A 妹は、もう食べていた。  
T おかあさんは、会社に行っておられるね、会社は何時から  
A 8時です。  
P そんなら、7時30分頃食べよつたらしかられるんよね。  
P そう、そう、あたりまえよ、うちでもそんな時は、Aさんと同じやけえ。  
P おかあさんは、何時頃、起きてん。

- A さあ6時半ごろじゃろうよ。  
 P おかあさんの気持ちになつてみたらよいと思う。  
 P そうだ、そうだ、さんせい。  
 T どうしたら、おかあさんの気持ちになれるかね。  
 P それは、おかあさんのことを、よく見るとよい。Aさんは、朝、何時に起きてかも、はつきり知つてないんじゃないから。  
 (他の者、うたずく)

- P長Aさん、それで、納得できますか。  
 A はい、おかあさんの朝のようすを書いてみます。あすは、おかあさんといつしよに起こしてもらおう。

評価バズ

- P長Aさん、おかあさんの朝の生活を見て、どんなに思いましたか。  
 A おかあさんは、大変だなあと思いました私が、おかあさんだったら、やつぱりしかります。  
 T Aさんのおかあさんへの見方が変わったね。

後略

発展した日記

おとうさんは、6時に起きて、ごはんを6時40分頃までに食べて、7時に会社へ行きます。8時に行く時もあるそうです。  
 私や妹は、7時頃起きて、7時15分~7時30分頃までに食べて、H集合場所に行きます。

実践バズ

- P長Aさんは、おかあさんに、協力したいと言っていますが、どんな、協力を考えているのですか。また、みんなも、考えてみてあげたり、自分の家での協力のことも考えてください。

- A 私は、食事の手伝いをしたのですか。  
 D どんな手伝い?  
 D Aさんは、起きられないんじゃない。  
 A ちょっと自信はないけど。  
 D 私は、あすから、茶わんを運んだりしよ

う、Aさんはどう。

- A そうね、それなら、7時に起きてもできるしね。  
 P でも、こういうことは、家の人みんなで話し合つてきめるほうがよいと思いますそれは、ひとりだけ、実行しようと思つても、うまくいかないし。  
 P長私も、さんせい。家の人と話し合つてきめたらいい、それは、私たちも、家庭科で習つた家の仕事を、生活設計に書いて来ることにしたら、どうですか。  
 (みんな、さんせい)  
 T 家の人、みんなの生活設計をすると、実行しやすいと思うけど。  
 D わかつています。家庭科で習つたから。

実行日記I

私は、もう少し早く起きて、食事の茶わんを運んだり、おぜんの上の用意をして手伝います。おとうさんとは、ちよつとむりだけど、おかあさんと話しながら食事をします。妹は庭をはきます。そのために、家庭科で習つた生活設計表をつくりました。

※Aの生活設計表

	6時	7時	8時
父	起床	食事要求	自会 自社
母	起床	食(しく 享た)	自会 自社
私	起なと 床わび	手 伝い	自学 由校
妹	起なと 床わび	庭 はき	自学 自校

朝のごはんの時要求して夜のごはんの時話し合います。

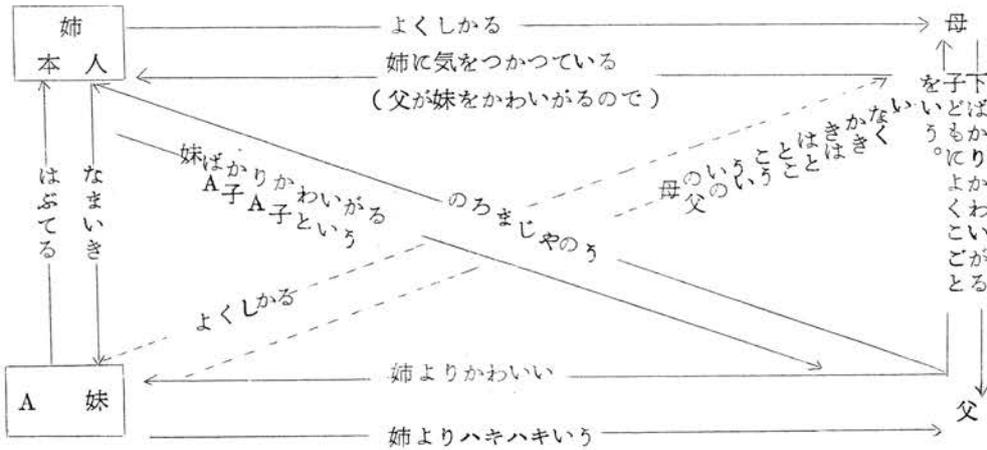
実行日記II

私は、このごろ、ずっと、生活設計表のよう実行しています。朝、おかあさんは「よくやつてくれるわ」と、いうので、はりきっていますが、妹が、机の上をかたずけていると、よく、しているねえ、あんた、おねえち

やんだから、きれいにしなさい。」と、いわれるのが、いやです。私は、妹が、とくだと思います。おとうさんは、私をぐずだといいます。

この日記より、Aの不満が、家庭内にあると判断して、家庭訪問を行い、解決方法を見出すべくとり組んだ。

Fさんのむしやくしや



### 家庭バズ

20坪の教室の中でバズをとりあげるだけでなく、教師も参加し、A子に、家庭バズを実践するよう要請し、そのなかで、次図のようなことが明らかになった。

なお、このとり組みから、親の持つ子どもへの意識が見なおされ、A子の家庭に、正しい家庭教育への方向づけがなされていた。

- 親は自分の生活のなかに、子どもをひき入れてしまおうと思う。強い権力とか気持ちみたいなものをもっていた。
- 子どもを、ロボットのように思い、私の言うことで、ロボットがいつも動いていくという錯覚をしていた。
- 早く起きなさい、ごはんを食べなさい。ぐずぐずしなさんな、忘れものは、ハンカチは-----と、こんなことを言うことが、教育だと思っていた。
- 親は、自分の気持ちで、子どもをかわいかつたり、怒つたりすることが多い。
- 子どもの不満から始まって、親としての自分の生活態度に気がついた。
- こういふ、話し合いを重ねて、理解あい、お互いが導教しあう家庭がつけられなくてはならない。

### 親子バズ

- おかあさんはいけんよ、自分のたいぎい時は私に用事をさせるじやろ。勝手じやねえ。
- それは、どんな時
- きよう、ちやわん洗わしたろうよ。
- アイロンをかけていたのたのんだんよ。
- 私も勉強しなければいけんに。
- 勉強する時間じやなかつたでしょう。それにおかあさんも仕事をしていたんだから、手伝ってくれてもよかるうよ。
- 私は、遊び時間じやつたんよ
- それは、わかっていたんだけど、ちよつとたのんだんよ。そんなにきめたとおりにやっていないでしょう。
- そういうもね。遊びたいがね。
- その気持ちもわかるけど、かあさんも、つかれていたからね。あんたも、つかれている時はたのむこともあるでしょう。
- そういえば、そうね。じやあかあさんは頼む時理由をいって、私がそれを納得したら

手伝うことにしたいけど、どう。

○じゃあ、おかあさんも理由をいうから頼むね。

**姉妹バズ**

○ほしいとやるといったのにシールくれまいよ。

○そんなこというたおぼえないのに、いうたんなら気がかわつたんよ。

○ええよ。ええよ。教科書やぶつてやるけ(とめていると泣きだす。)

○おねえちゃんにいうたる。

○どうして泣かしたん。

○教科書やぶくいうたんよ。

○泣かすのわるかるうよ。

(いっしょに勉強していると、互いにノートに○したり×したりする。)

一何日かたつて一

一方がノートのへりにわるさを書いたのでもた、話し合う。

○どして書いたん

○前にやつたらうよ

○このようにしつこくやらないということを引きめようよ。

○どうしたらええ。

○机の前にはつておこうよ。

○守ろうね。

**<親の感想>**

親と子のバズをして、子どもに不満を言わせてみると、子どもは自分の思うようにならないことが不満だと考えている。私たちは親として子どもと話し合いをしてみたら、子どもにも、わかってもらえたと思います。

家庭の中で、自分の意見もいい、人の意見も聞くということが一番大切であり、不満の解決方法ではないでしょうか。子どもとのバズで私たち親子は、解決への道を開きました。

これからは、自分の意見は何でも言えるように子どもと約束をしました。

親の意見も子どもに十分わかるように親も努力していこうと思います。

このような、日記バズは、班バズでノートづくりに発展し、次のようなノートが生まれつつある。

**例 算数ノート**

月日	予習したこと	月日	学校での学習
問題の心	平均点のだし方	問題の心	
自分の考え	1 ○+□+△=( ) 2 ( )÷3 まとめ (○+□+△)÷3=平均点	学と級めのま	
解決例(6)	$3 \times 4 = 12$ $88 - 12 = 76$ A・76点 $88 + 3 = 91$ $91 \times 4 = 364$ $88 \times 5 = 440$ $440 - 364 = 76$ A・76点	解決	
質問	① $(81 \times 2 + 91) \div 3$ ② $(81 + 91) \div 2$ なぜ②のやり方ではいけないのか		

学校での学習を中心に復習し、よくわかつたところは赤丸をする。よくわからぬところは青丸をして、班学習の時や授業の質問バズの時に解決する。

<p>る。 習の中心をはつきりさせ る。</p>	<p>学習の中心</p>
<p>疑問点もかく する。</p>	<p>自分の考え</p>
<p>とを書く。 で自分になりなかつたこと</p>	<p>学校</p>

物語文や説明文

14	11	4	
6	7	11	4
塩	各	赤銅色	海のただ中
分	自	色	
り	み	赤黒い色	海のまん中
塩のかたま	んな	茶色かかった黒色	海のまつただ中
塩	ひとりひとりに		
け			
<p>海水の塩分がこびりつく。 各自にくぼる 男の子 赤銅色の洋ふくを着ている ただ一せきの船が行く 海のただ中を</p>			
			例文

語句調べ

終わりに

- 1) 多数の児童が日記を通して、生活の中の問題を発見し、その解決にあたらうとする態度がでてきた。
- 2) 多面的な見方や考え方ができるようになった。
- 3) 日記を書くことを苦にする子が、ほとんどいなくなった。
- 4) バズをいろんな場で使おうとする意欲がみられる。

以上のように、日記バズを通して身につけつつある問題発見、解決への態度を児童の全生活への意欲づくりのひとつの基盤にすべくバズを深めていきたい。また、仲よしのまとまりやすい集団を学級のだれとでも連帯を基底とする集団の姿に高めていきたいと願っている。

## 第4回バズ学習研究集会

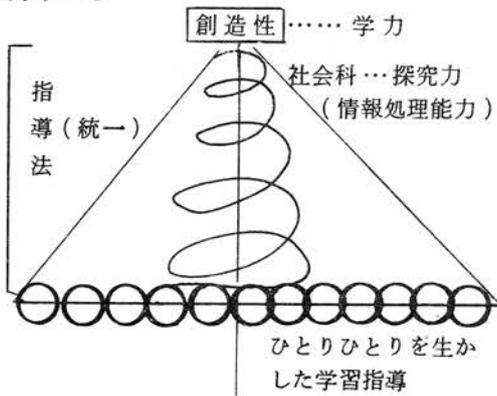
### 社会的探究力をつけるためのバズ学習のあり方

姫路市立安室小学校 吉田 武男

#### (1) はじめに

教育の中で今問題にすべきは、この急速な社会の進歩の中でいったいどんな力を児童につければいいのか。換言すると、現在の学力とはいったい何かということと、人間を尊重するという立場よりひとりひとりの児童を一斉学習の中でどのように生かしているかということである。

図示すると



この縦と横の考えをどう調和させるかということより学習指導法が考えられると思う。

そこで探究力という点とバズ学習という点より考

えてみたい。

#### (2) 社会的探究力とは

社会的な探究力とは、社会的事象に対して主体的に取り組み、社会の本質をねばり強く探究している力をいうのであって、換言すると情報爆発の社会の中で情報を分析し、選択し、生産していく能力と態度を身につけていくことである。

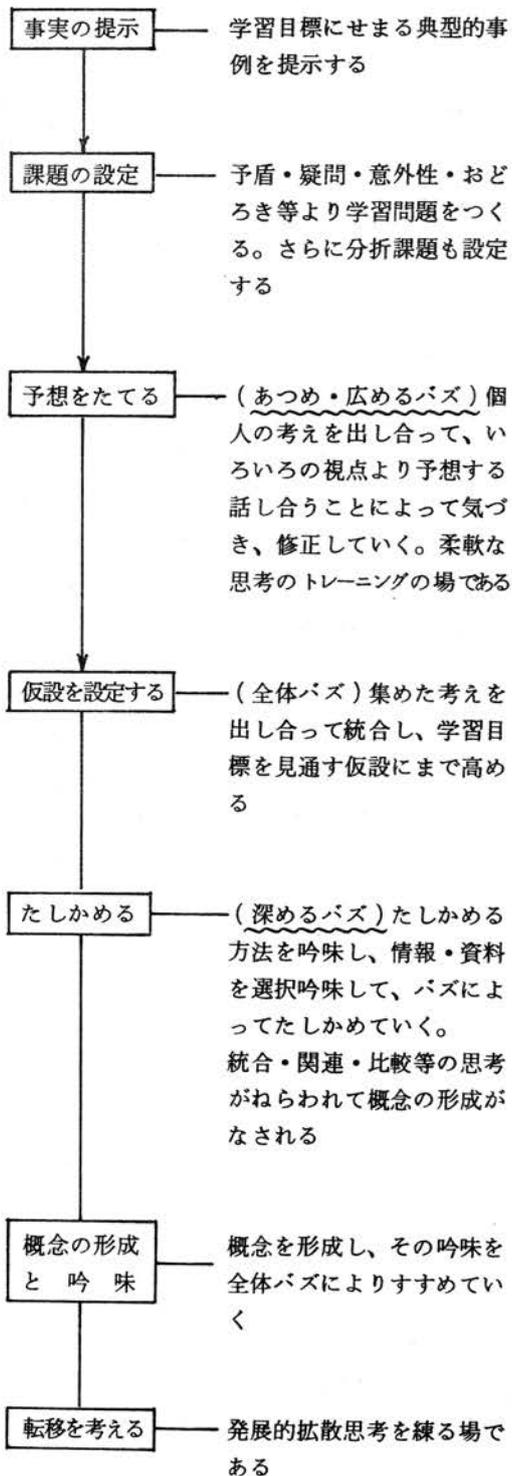
このような力や態度をひとりひとりにつけようとするならば、どうしても考えなければならないことは、どのような学習過程を組むかということと、ひとりひとりをどのように学習に参加させるかということである。

#### (3) 学習過程のモデルケース

— 思考場面の設定と小集団バズの位置づけ —  
バズを形より考えるとグループバズと全体バズがあると思うが、ここでは4名より6名を主体と

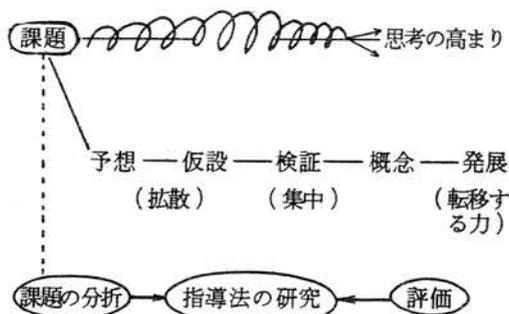
するグループバズについて、学習過程の中に位置づけて考えてみたい。

モデルケースをあげると



以上が位置づけの原型であるが、もちろん学年により、教材により、児童の意識の流れによって変えられなければならない。広めあつめるバズは3分～5分程度で深めるバズは10分～20分程度することによって個人の考えが集団によって高められると考える。

(らせん型発展)



#### (4) ひとりひとりを生かす手だて

(1) ノートの形式をきめ有効に活用する。

個人思考→集団思考→個人の考えの確度が原則であるので、個人の考えをはっきりする段階がたいせつである。それをもとにして出し合っバズをする。

ノ ー ト 例	学習課題・( )
	自分の考え・( )
	つけたし・( )
	まとめ・ <input style="width: 100px; height: 15px;" type="text"/>

(2) グループの編成は次の点に留意する。

- \* 性格
  - \* 交友関係
  - \* 学習成績
- 原則として大体  
1か月ぐらいで  
編成がえをする。

(◎は今後の課題としている)

(3) 話し合いの訓練

(5) 実践例

1. 4年 社会「江戸時代の交通」のあらまし

本時の目標： 旅人がいろいろな苦勞をしたのに、川に橋がかけられなかったのは技術の低さや、江戸を守ろうとする幕府の考えのためであることを理解させる。

(ステップ)

事実の提示

1. 二枚の資料とスライド(大井川のわたしのようすと今の大井川)を提示しイメージの具体化をはかり、昔の旅の困難性を認識させることによって、問題構成をはかった。(比較手法)全体

問題をつかむ

2. 「なぜ、大井川に橋がかけられなかったのだろう」をノートに書かせ、確認した。

予想する。

3. このステップに「集めるバス」(広げるバス)を位置づけた。児童ひとりひとりができるだけ多くの視点より考え、思考を広めることを意図した。

個人思考→集団思考→個人思考

↓

(ノート) (グループバス) 全体バス

ノートより児童の考えをみると

- \* 橋がないと敵が江戸をせめにくい
- \* 敵が川をわたっている間に江戸の方からせめられる
- \* あやしい者がいたらそこで調べられる。将軍が安全だ
- \* 敵を川でとめられる。だからわざとかけないのだと思う

仮設に高める

- \* 関所とよくにていると思う
- \* 機械がすすんでいないので工事がしにくい
- \* 流れが急すぎ、工事が危いのだ
- \* お金もたくさんかかるし、お金がなかったと思う
- \* 工事の材料にもこまったと思う
- \* 人足のもうけがなくなる

予期していた以上に多くの予想がでた。この中にはその価値から考えると、極めて低いものも含まれているが、このステップのねらい、すなわちできるだけ視点を広げ多面的に思考するという観点から考えると、ひとつひとつ意味があり大切にあつかわなければならぬと思う。適切な思考場面の設定とともにこうした構えが児童の考えようとする意欲や話そうとする意欲を喚起するものと考える。

検証する。

4. 「いろいろな意見がでたが、このうち大事なものはどれだろう」という発問により仮設へと高めていった

全体

(仮設)

技術が低いこともあるが、幕府が江戸を守るためにわざと橋をかけなかったことが中心にちがいない

5. たてた仮設を検証する段階である。資料(三条大橋・日本橋・京都・江戸間のおもな川のわたり方のようすを示したもの)を用意し、深めるバスを位置づけ、考えの深まりを意図した。

グループバス

さらにそこで話し合われた内容を全体バズによって概念へとまとめていった。

- \* 江戸時代にも大きな橋がかかっている
- \* 技術が低いからかけられなかったといたのは、まちがいだ
- \* でもやっぱり今とくらべると技術が低い。全然関係がないとはいえないと思う
- \* 江戸に近い川には橋がない。京都の方にはある
- \* 江戸に近い方は、ほとんどわたして橋がない
- \* ああ、そうや、江戸に近い川には橋がないでしょう。これは江戸が守りやすいように幕府がそうしたんだ
- \* 関所も江戸をとりまくようにおいてあった。そのこととよくにている（他の児童もうなづく、関連した意見が数名より出される）

概念をつかむ

これらの発言と児童の反応より、一応目標にせまり得たものと判断し、板書によりまとめて終った。平板な授業で指導技術のまずさばかり目立ったが、一応つぎの二点だけはよかったと思っている。

- ◎ 学習の遅れがちな子が、何らかのかたちでグループ活動に参加できたこと。
- ◎ 児童のたてた仮設と資料の具体的事実が児童たちによって関連づけられ、思考が深まっていったこと。

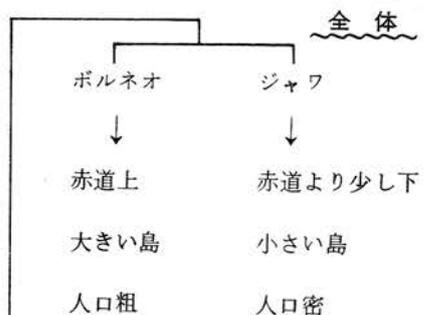
## 実践例

### 2. 6年 社会「熱帯の暮らし」のあらまし

本時の目標： ボルネオに比べてジャワの人口密度が高いのは、自然条件のちがいでなく、住民の力による産業の発展があるのたろうという仮設をたて、検証計画をたてさせる。

(ステップ)

- 事実の提示
1. 人口分布図を提示し、地図からジャワとボルネオのちがいを読みとらせることによって問題構成をはかった。



二者を比較することによって問題が必然的に生じてきた。

問題を  
つかむ

予想  
する。

2. 「ジャワはボルネオに比べ人口密度が高いのはなぜだろう」
3. このステップにあつめるバズ（広げるバズ）を位置づけた。

\* 個人で思考させ、各自ノートに書かせ（児童のノートより）

H ◦ 住みやすい地形だから

• ボルネオはジャングルが多いけど、ジャワは少ないのたろう

• ボルネオは赤道の上にあるけど

↓  
仮設に  
高める

・ジャワは少し下にある

M ・産業が発達している (米 さとうきび だいず ゴム)

・赤道からはなれている

・ジャングルが少ない

・ジャワ島は交通機関がある

・開発がすすんでいる

↓  
\* それをもとに集団 (4人グループ) で思考させて、できるだけ多くのわけをみつけさせことを意図した。

このバズによって自分が気づかなかった新しい視点を見出せるほかに、個人がぼつんと考えていたことが理由づけされたり、他人の意見と自分の意見が関連づけされたりして、個人の思考が波紋がひろがるようにひろがっていると思う。

↓  
\* グループバズのあとの話しあい (個人の考えの確立)

- ・しのぎやすい気候 住みやすい地形
- ・開発されていて交通が便利
- ・産業が発達している
- ・オランダの植民地であった

だ  
ら  
う

意見を出す時に既習事項、地球儀・地図帳などのその根拠をつけて発表できた。

↓  
\* ここで発表された事項を板書し、自然的条件にわけて予想された各項目を整理した。

4. 「いろいろ出たが、いちばん大きなわけはなんだろう。これをみて考えて下さい」と、予想を仮設に高める資料として地勢図と気候図を提示し、考えさせた。

全体

\* (地勢図を人口分布図にかさねる)

↓  
\* ・地勢図を見たところでは、どちらも山があるし、川もあってそうちがわないみたい

↓  
\* ・ジャングルがひらかれているということは、開発されているということと通じる

↓  
\* (O.H.Pにより、先にパルクパパンをうつしジャワを予想させてから、ジャワをかさねる)

↓  
\* ・予想とちがって高温で変化のないのは同じ、むしろジャワの方がいく分高めである

↓  
\* ・降水量が少ないのはあっているところもあった。乾季がある

↓  
\* ・乾季があるということから、その時期に樹木がかれてしまう。それでジャングルがないという意見が出て、やゝ低迷

↓  
\* 東京の夏の気温 } で、木が枯  
冬の降水量 } れてしまう  
} だろうか。

↓  
\* ジャングルがないのは、自然だけの原因でなくて人の力もある。

↓  
\* (まちがいがわかって、次の仮設がすんなりと出た)

\* 文にまとめてみよう。

(仮  
設)

自然条件のちがいでなく、  
古くから開発されて産業が進ん  
でいるからだろう

- 歴 史……植民地図
- 産 業……土地利用図・産業図  
輸出入のグラフや表
- 交 通 図
- ジャワに関する写真・文・  
新聞記事

検証計  
画をた  
てる。

5. 「たしかめるには何を使って調べるとよいだろう」と発問してグループ毎に資料の選択の方法を吟味させ、検証計画をたてさせた。